

Sterling Selling and Fulfillment Foundation



統合在庫管理 構成ガイド

リリース 9.1

Sterling Selling and Fulfillment Foundation



統合在庫管理 構成ガイド

リリース 9.1

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、343 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Sterling Selling and Fulfillment Foundation バージョン 9.1、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Sterling Selling and Fulfillment Foundation
Global Inventory Visibility Configuration
Guide
Release 9.1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.2

© Copyright IBM Corporation 1999, 2011.

目次

第 1 章 統合在庫管理の概要	1
ビジネス・モデル	1
複数事業部制コーポレーション	2
サード・パーティー物流管理	2
マーケットプレイス	2
統合在庫管理構成	3
統合在庫管理: 在庫ルール	3
統合在庫管理: 在庫のタイプと検討事項	3
統合在庫管理: 分配ルール	3
統合在庫管理: リソースのキャパシティー	4
第 2 章 Applications Manager のナビゲート	5
Applications Manager の始動	5
Applications Manager のレイアウト	5
アプリケーション・ルールのサイド・パネル	7
作業領域	14
Applications Manager で使用可能なアクション	18
Applications Manager のルックアップ機能の使用	19
アプリケーションに関連付けられた伝票種別の表示	19
Applications Manager にログインしているユーザーの表示	21
リストおよびリスト・フィルタリングの使用	21
日時エントリー	22
コンテキスト・ヘルプの使用	23
エラーのトラブルシューティング	23
特殊文字の使用	23
第 3 章 在庫ルールの構成	25
ATP ルールの定義	27
ATP ルールの作成	27
ATP ルールの変更	30
ATP ルールの削除	31
デフォルトの ATP ルールおよびデフォルトのリード日数の設定	31
モニター・ルールの定義	31
イベント・ベースの ATP モニター・ルール	32
アクション・ベースの ATP モニター・ルール	35
手持ち在庫のモニター・ルール	38
製品クラスの定義	40
製品クラスの作成	40
製品クラスの変更	40
製品クラスの削除	41
在庫の理由の定義	41
在庫の理由の作成	41
在庫の理由の変更	42
在庫の理由の削除	42
IBA ルールの定義	42
IBA ルールの設定	42

条件の詳細の作成	44
条件の詳細の変更	45
条件の詳細の削除	45
IBA 順序ヘッダーの詳細の作成	46
「IBA 順序ヘッダーの詳細」の変更	47
IBA 順序ヘッダーの詳細の削除	47
追加の在庫ルールの定義	47

第 4 章 在庫のタイプの構成と検討事項	51
在庫の検討事項の定義	51
在庫供給タイプの定義	52
在庫供給タイプの作成	52
在庫供給タイプの変更	54
在庫供給タイプの削除	54
在庫需要タイプの定義	54
在庫需要タイプの作成	54
在庫需要タイプの変更	56
在庫需要タイプの削除	56
在庫状況のセーフティー要因	56

第 5 章 コスト要因グループの構成	59
在庫のコスト要因グループの定義	59
コスト要因グループへのコスト要因の関連付け	60

第 6 章 アイテム固有の分配グループの構成	63
分配グループの作成	63
ノード/外部組織の分配グループへの追加	64
分配グループのノード/外部組織の変更	65
分配グループのノード/外部組織の削除	65
拡張分配の詳細の分配グループへの追加 (下位互換性の場合のみ)	65
拡張分配の詳細の削除	67
分配グループの削除	67

第 7 章 在庫ノード・タイプ・ルールの構成	69
在庫ノード・タイプ・ルールの作成	69
在庫ノード・タイプ・ルールの変更	70
在庫ノード・タイプ・ルールの削除	70

第 8 章 リソースのキャパシティーの構成	71
キャパシティー・ルールの定義	71
リソース・プールの地域使用の定義	72
スロット・グループの定義	73
スロット・グループの作成	74
スロット・グループの変更	76
スロット・グループの削除	77
リソース・プールの定義	78
リソース・プールの作成と変更	78

リソース・プールの削除 86

第 9 章 付加価値サービスの構成 87

付加価値サービス: アクティビティの定義 87
 アクティビティ・コードの作成 87
 アクティビティ・コードの変更 88
 アクティビティ・コードの削除 89
 作業オーダーのキャンセル理由の定義 89
 作業オーダーのキャンセル理由の作成 89
 既存の作業オーダーのキャンセル理由から新規作
 業オーダーのキャンセル理由の作成 91
 作業オーダー・キャンセル理由の変更 91
 作業オーダーのキャンセル理由の削除 92
 割り当ての考慮事項の定義 92
 作業オーダー割り当ての考慮事項の作成 93
 作業オーダー割り当ての考慮事項の変更 94
 作業オーダー割り当ての考慮事項の削除 95
 付加価値サービスの変更ルールの定義 95
 付加価値サービスの変更ルールの設定 95
 付加価値サービスのプロセス・タイプの詳細の定義 98
 付加価値サービスのプロセス・タイプの詳細 99
 付加価値サービス・プロセス・モデルの定義 100
 付加価値サービスのプロセス・モデル: パイプ
 ラインの決定 101
 付加価値サービスのプロセス・モデル: ハブ・ル
 ル 101
 付加価値サービスのプロセス・モデル: パイプ
 ライン 101
 付加価値サービスのプロセス・モデル: トランザ
 クション 103
 付加価値サービスのプロセス・モデル: ステータ
 ス 105
 付加価値サービスのプロセス・モデル: 条件 107
 付加価値サービスのプロセス・モデル: アクショ
 ン 108
 付加価値サービスのプロセス・モデル: サービス
 定義 110
 パージ条件の定義 111
 パージ条件の設定 111

第 10 章 棚卸の構成 115

棚卸プログラムの定義 115
 棚卸プログラムの作成 115
 棚卸プログラムの変更 119
 棚卸プログラムの削除 119
 棚卸の地域使用の表示 119
 企業棚卸要請のキャンセル理由の定義 121
 企業棚卸要請のキャンセル理由の作成 121
 既存の企業棚卸要請のキャンセル理由から新規企
 業棚卸要請のキャンセル理由の作成 122
 企業棚卸要請のキャンセル理由の変更 123
 企業棚卸要請のキャンセル理由の削除 123
 企業棚卸要請のパージ条件の定義 123
 企業棚卸要請のパージ条件の設定 124

第 11 章 ノード在庫との同期化 127

ノードからの在庫ピクチャーのロード 127
 LoadInventoryMismatch サービス 128
 LoadInventoryMismatch サービスの構成 129
 在庫テーブルの同期化 131
 SyncLoadedInventory サービス 131
 CollectInventoryMismatch サービスの構成 131
 同期化処理の実行 133
 一時テーブルのパージ 133

**第 12 章 時間トリガー・トランザクシ
 ヨン参照 135**

時間トリガー・トランザクション参照 135
 時間トリガー・トランザクションの実行 136
 時間トリガー・トランザクションをスケジュール
 する前に完了しておくステップ 136
 エージェントと JMS サーバーの間の通信の構成 137
 前提条件 137
 初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成 138
 トランザクション情報の定義 139
 ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクシ
 ヨン 140
 非同期要求プロセッサ 140
 大/小文字を区別しないデータ・ローダー 142
 集合・混載ステータスの変更 143
 出荷ステータスの変更 145
 配達計画の終了 146
 集合・混載を閉じる 148
 積荷目録を閉じる (Close Manifest) 149
 オーダーを閉じる 152
 受入の完了 154
 出荷を閉じる (Close Shipment) 155
 出荷統計の収集 157
 追加在庫の統合 159
 出荷に統合 160
 カタログ・インデックスの作成 (Create Catalog
 Index) 163
 連鎖オーダーの作成 (Create Chained Order) 168
 派生オーダーの作成 (Create Derived Order) 169
 オーダー・インボイスの作成 171
 出荷インボイスの作成 173
 ESP 評価者 174
 アイテム・ベースの割り当て 176
 集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマ
 ーク 180
 在庫の照合 182
 支払集金 183
 支払実行 186
 在庫一致の公示 188
 オーダー保留タイプの処理 190
 保留作業オーダー・タイプの処理 192
 交渉の発行結果 193
 リリース 195
 出荷のルーティング 197
 スケジュール 199
 インボイスの送付 203
 アイテム変更の送信 205

顧客変更の送信	207
オーダーの送信	208
リリースの送信	210
オーダー開始交渉	211
コロニー・マップの同期化	212
ベスト・マッチ地域の更新	214
所有権転送サマリーの読み込み	216
時間トリガー・ページ・トランザクション	217
ページ方法	218
ページ・トランザクション・ログ・ファイルの構成	218
使用可能なページ	218
タスク・キューの同期プログラムの時間トリガー・トランザクション	309
集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム	309
オーダー配達タスク・キュー同期プログラム	311
オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム	312

オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム	313
見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム	314
モニター	315
在庫状況モニター	315
例外モニター	317
在庫モニター	319
交渉モニター	320
強化したオーダー・モニター	322
強化した見積モニター	325
強化した返品モニター	327
リアルタイム在庫状況モニター	330
出荷モニター	338
作業オーダー・モニター	340

特記事項 343

索引 347

第 1 章 統合在庫管理の概要

本書は、Applications Manager で IBM® Sterling Global Inventory Visibility ビジネス・アプリケーションを構成するルールおよびセットアップ構成に焦点を合わせています。本書は、IBM Sterling Selling and Fulfillment Foundation 環境のセットアップに Applications Manager を使用する、ハブ管理者とエンタープライズ管理者の両方を対象読者としています。さらにビジネス・アナリストも、ビジネス慣行が Sterling Selling and Fulfillment Foundation に関係している場合は、その計画に本書を使用してください。プログラマーは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の拡張に関する情報について、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* トランザクションの拡張」を参照してください。システム・インテグレーターは、外部アプリケーションと Sterling Selling and Fulfillment Foundation との統合に関する情報について、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 統合ガイド」を参照してください。

本書は、読者が「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 製品概念の手引き」を読み、そこに詳述されている概念およびビジネス機能を理解していることを前提としています。

Applications Manager は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation を実装するために必要なすべてのルールとセットアップ構成の集合であり、各ビジネス・アプリケーションに対して個別に構成を実行できる仕方で編成されています。以下のビジネス・アプリケーションは、Applications Manager 内で構成できます。

- IBM Sterling Distributed Order Management
- Sterling Global Inventory Visibility
- カタログ管理
- IBM Sterling Logistics Management
- IBM Sterling Supply Collaboration
- IBM Sterling Reverse Logistics
- IBM Sterling Warehouse Management System
- IBM Sterling Application Platform

ビジネス・モデル

Sterling Selling and Fulfillment Foundation 全体を使用できる環境を包含する単一のビジネス・モデルはありません。したがって、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 環境を構成する単一の方法はありません。

例えば、会社が複数事業部制コーポレーション、サード・パーティーの物流管理企業、またはマーケットプレイス・ビジネス企業と見なされているとしましょう。これらの各ビジネス・モデルは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 構成に対して異なる概念アプローチを必要とします。

複数事業部制コーポレーション

複数事業部制コーポレーション・モデルは、主要な焦点が購入と販売のアクティビティを管理することであるビジネス・コーポレーションです。標準的な複数事業部制コーポレーションには、バイヤー、セラー、またはその両方が可能です。これはさらに、小売店、製造業者、またはその両方も可能です。複数事業部制コーポレーションがどのような形式を取るとしても、それは通常、消費者、小売店、販売業者、および相手先商標製造業者などの、さまざまなタイプの顧客との複数のチャネルを持ちます。

複数事業部制コーポレーション・モデルでは、各事業部は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation でエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、事業部別のトランザクションの分離と、企業レベルでのグローバルな可視性の両方が可能になります。各エンタープライズは、固有のビジネス・ルール、ワークフロー、およびトランザクション処理を構成します。

サード・パーティー物流管理

従来のサード・パーティー物流管理会社は、倉庫保管、輸送、および委託製造などの幅広いアウトソーシング・サービスを提供します。

大規模な会社では、そのサプライ・チェーンのリアルタイム管理によって、競争上の優位性を得ることができます。この利点には、コストの削減や顧客サービスの向上が含まれます。さらに、Web ストア、ハンドヘルド・デバイス、および店舗内キオスクなどの新たな販売チャネルにより、企業がその顧客に到達する新しい方法が備えられています。このすべての結果により、フルフィルメント・プロセスの複雑さは増大しました。

サード・パーティー物流管理モデルでは、各クライアントをエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、サード・パーティーの物流管理ハブは、ハブ環境内のすべてのトランザクションの可視性を持つことができますが、エンタープライズとしてセットアップされているクライアントは、それ自身のトランザクションに対してのみ可視性を持ちます。これによりサード・パーティーの物流管理ビジネスは、固有のトランザクション処理をそのクライアントに提供することができます。

マーケットプレイス

マーケットプレイスは、バイヤーとセラーを結び付けるオンラインの仲介です。マーケットプレイスは、多くのセラーからの提供アイテムを集約したり、交換またはオークションでバイヤーとセラーをマッチングさせることで、非効率を削減します。バイヤーは、これにより購入コストを引き下げ、新規のセラーに到達するために役立つことができます。セラーは、これによりセールス・コストを引き下げ、新規顧客へのアクセスを取得できます。これは中央ロケーション、つまりハブであり、そこでは信頼された仲介者がプロシージャーとテクノロジーの両方を統合して、コストを引き下げ、バイヤーとセラーのトランザクションの効率を強化します。

マーケットプレイス・モデルでは、各マーケットをエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、各マーケットはその独自の製品またはサービスの取り扱いにおいて固有であることができます。

統合在庫管理構成

Sterling Global Inventory Visibility アプリケーションは、システム全体の在庫とキャパシティーの在庫状況を定義するために使用される、共通コンポーネントの集合です。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、在庫とは、それに照らして供給と需要の検査を行うことができる物理アイテムと定義されます。例えば、冷蔵庫と皿洗い機は、在庫アイテムと見なされます。

キャパシティーは、配達サービス・アイテムおよび提供サービス・アイテムを実行する、物理ロケーションのリソース状況を定義します。例えば、冷蔵庫の配達も配達サービス・アイテムと見なし、皿洗い機の設置は提供サービス・アイテムと見なすことができます。

Applications Manager では、統合在庫管理構成グループを使用して、ビジネス・アプリケーションの在庫ルール、在庫タイプ、分配ルール、およびリソースのキャパシティーを確立することができます。

統合在庫管理: 在庫ルール

在庫ビジネス・ルールは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation において在庫の取り扱いに関連付けられている、以下を含むルールと共通コードのセットアップに使用されます。

- 納期回答 (ATP) ルール
- ATP モニター・ルール
- 製品クラス
- 在庫の理由

在庫ルールについて詳しくは、25 ページの『第 3 章 在庫ルールの構成』を参照してください。

統合在庫管理: 在庫のタイプと検討事項

「在庫のタイプと検討事項」は、特定の需要タイプの在庫状況を判別するために使用される、供給と需要タイプの関連付けを示すために使用されます。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation で使用する、新しい供給と需要タイプを作成することもできます。「在庫のタイプと検討事項」について詳しくは、51 ページの『在庫の検討事項の定義』を参照してください。

統合在庫管理: 分配ルール

分配ルールは、アイテム・ソーシングを決定するときに使用できる、一連のノード/外部組織を作成するために使用されます。分配グループ内の出荷ノード決定プロセスを確立する分配ルールを定義できます。これらのルールは、優先順位に基づいてグループ内からアイテムのソーシング元とするデフォルト・ノードを決定します。1 ソース・ノードまたはソース・ノード全体での、個別のアイテム向けのルールを作成できます。分配ルールについて詳しくは、63 ページの『第 6 章 アイテム固有の分配グループの構成』を参照してください。

統合在庫管理: リソースのキャパシティー

リソースのキャパシティーは、配達サービス・アイテムおよび提供サービス・アイテムの在庫状況を判別するコンポーネントを定義するために使用されます。リソースのキャパシティーの在庫状況を使用すれば、特定のタイム・スロットおよび地理的地域の、定義された単位の配達サービスまたは提供サービス (あるいはその両方) の予定を決定できます。リソースのキャパシティーについて詳しくは、71 ページの『第 8 章 リソースのキャパシティーの構成』を参照してください。

第 2 章 Applications Manager のナビゲート

Applications Manager の始動

このタスクについて

Applications Manager にアクセスするには、以下の手順を実行します。

手順

1. ブラウザーで、`http://<hostname>:<portname>/smcfs/console/start.jsp`を参照します。

ここで、

- `hostname` は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がインストールされているコンピューターのコンピューター名または IP アドレスです。
- `portnumber` は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がインストールされているコンピューターのリスニング・ポートです。

ブラウザーで「サインイン」ウィンドウが表示されます。

2. ログイン ID とパスワードを入力して「サインイン」ボタンを選択します。コンソールのホーム・ページが表示されます。
3. メニュー・バーから「構成」>「コンフィギュレーターの起動」を選択します。

Applications Manager が新しいウィンドウに表示されます。

また、エンタープライズを管理するエンタープライズ・ユーザーは、

`http://<Sterling Selling and Fulfillment Foundation installation server>/smcfs/console/login.jsp`からも Applications Manager をアクセスできます。

Applications Manager と System Management Console のモニターが両方同時に開いている状態で、いずれか一方のアプリケーションのダイアログ・ウィンドウが開いていると、もう一方のアプリケーションはそのダイアログ・ウィンドウが閉じるまでユーザー入力に応答しません。これは、Java プラットフォームのバグに起因するものです。

Applications Manager のレイアウト

Applications Manager は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のさまざまな面を構成するために使用できるグラフィカル・ユーザー・インターフェースです。さまざまな構成は、Applications Manager メニュー・バーからアクセスできる、アプリケーションと呼ばれる論理グループによって定義されます。

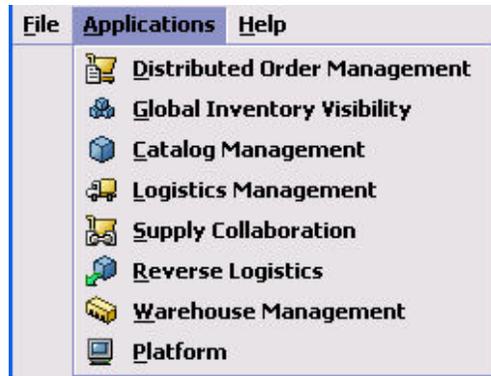


図1. アプリケーション・メニュー

各アプリケーションは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の特定の面に焦点を合わせており、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が実世界のビジネス設定で機能するために必要なすべてのルール、共通コード、および設定が含まれています。

以下のアプリケーションは、このバージョンの Sterling Selling and Fulfillment Foundation で構成できます。

- 分散オーダー管理
- 統合在庫管理
- カタログ管理
- 物流管理
- 供給コラボレーション
- 返品物流
- 倉庫管理
- アプリケーション・プラットフォーム

構成するアプリケーションを選択すると、Applications Manager は、選択したアプリケーションに使用できるすべての構成ルールと、それらのルールを構成できる作業領域が含まれているサイド・パネルを表示します。

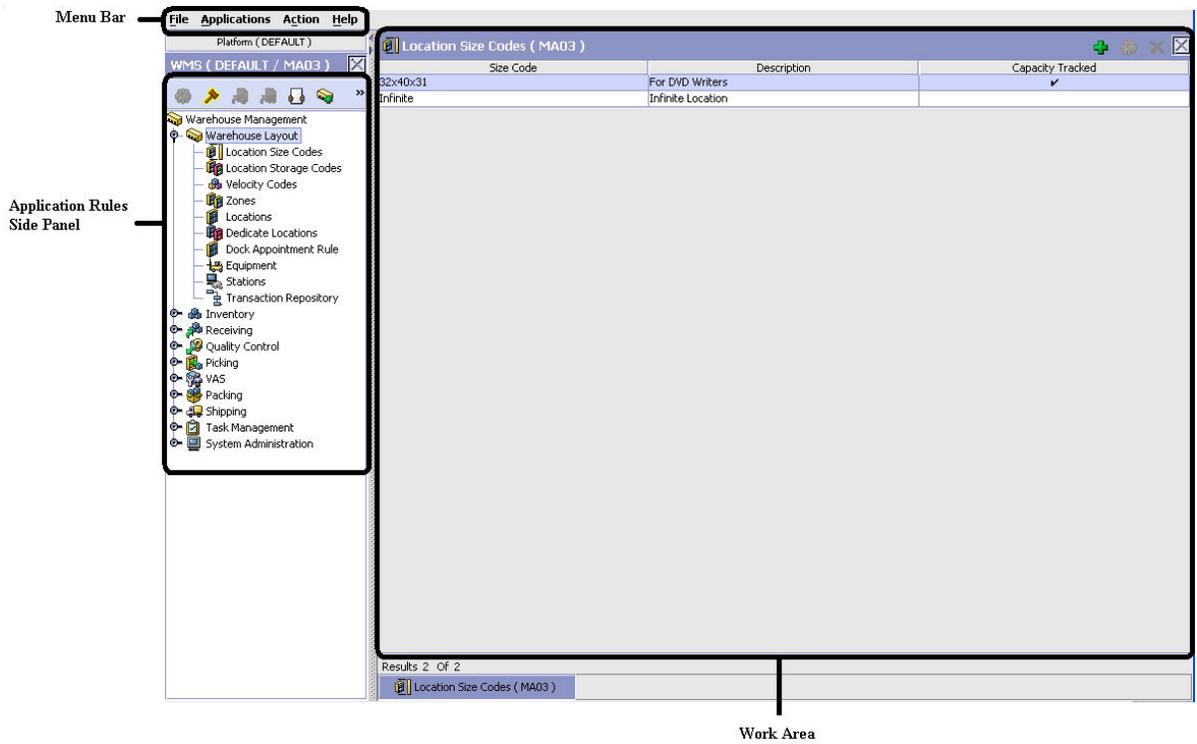


図 2. Applications Manager の標準インターフェース

アプリケーション・ルールのサイド・パネル

アプリケーション・ルールのサイド・パネルは、アプリケーション内で使用されるプロセスに固有の要素を、階層ツリーで表示します。

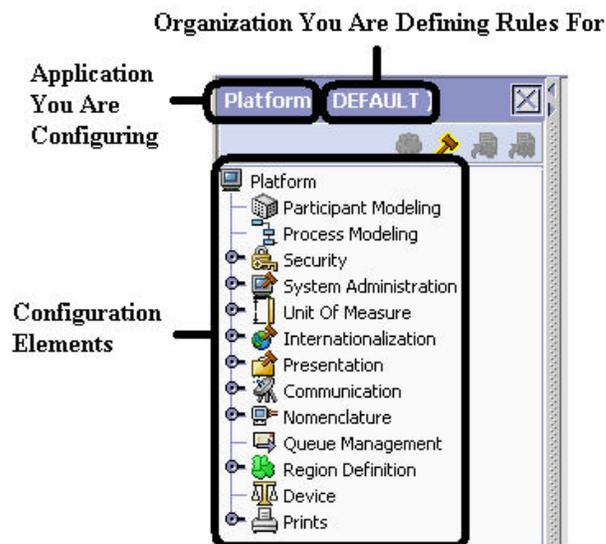


図 3. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの例

また、アプリケーション・ルール・サイド・パネルには、ルールを構成する対象となる組織と、もしあれば、別の組織から継承したルールも示されます。

アプリケーション・ルール・サイド・パネルは、構成画面へのアクセス、継承の決定、および別の組織のルールのロードに使用できます。

構成画面へのアクセス

アプリケーション・ルール・サイド・パネルの主な目的は、アプリケーションの個々の構成画面にアクセスするためのインターフェースを備えることです。構成画面にアクセスするには、アプリケーション・ツリーを表示して、該当する構成要素をダブルクリックすると、要素の構成画面が作業域に表示されます。

継承の決定

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、エンタープライズが作成されると、既存のエンタープライズの構成ルールのすべてまたは一部を継承できます。この継承は、構成グループ・レベルで実行されます。構成グループとは、類似の構成要素を分類したものです。例えば、アイテムを扱うルールと構成を、ある構成グループにまとめてグループ化し、組織を扱うすべてのルールと構成を、別の構成グループにグループ化します。

管理者組織は、システム内で定義されているすべての組織に対して設定されます。管理者組織のみが、特定の組織に対して定義されているルールを変更できます。特定の組織が複数の組織を管理する場合、アプリケーション・ツリー内にある管理対象の組織のルールをロードできます。別の組織のルールのロードについては、13 ページの『別の組織のルールをロード』を参照してください。

構成グループは、組織レベルに関連付けられます。組織レベルは、構成グループの継承方法と、それを保守できる組織を決定します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation で定義されている組織レベルは、以下のとおりです。

- ハブ・レベル - ハブ組織に関連付けられる構成グループ。
- エンタープライズ・レベル - ハブ環境内の、個々のエンタープライズ組織に関連付けられる構成グループ。
- カタログ組織 - ハブ環境内の、カタログを保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 在庫組織 - ハブ環境内の、在庫を保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 価格設定組織 - ハブ環境内の、価格設定を保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 組織 - ハブ環境内の、いずれかの組織に関連付けられる構成グループ。

アプリケーション・マネージャーは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」で説明されているデータ・アクセス・ポリシーに基づく構成データと許可はロードしません。

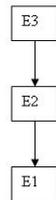
プロセス・モデルの拡張継承

エンタープライズは、他のエンタープライズから以下のエンティティの構成を継承できます。

- パイプライン
- 外部プログラム
- サービス
- アクション
- 条件
- ステータス
- トランザクション
- イベント

エンタープライズが他のエンタープライズからこれらのエンティティを継承する場合、現在のエンタープライズは、継承の階層内の (ハブを含む) 他のすべてのエンタープライズから継承される構成を表示できます。さらに、現在のエンタープライズは、ハブに対して定義されている構成を表示できます。

例えば、以下の継承の階層について考慮してみましょう。



この階層では、エンタープライズ E1 はエンタープライズ E2 から継承しており、エンタープライズ E2 はエンタープライズ E3 から継承しています。エンタープライズ E1 は、エンタープライズ E2 とエンタープライズ E3 に対して定義されている構成を表示できます。さらに、エンタープライズ E1 は、ハブに対して定義されている構成を表示できます。

組織レベルのルール

以下の表では、組織レベルで定義された構成グループを保守できる組織の判別に使われるルールについて、詳しく記述しています。さらにこの表は、組織の作成時に構成グループの継承方法を決定するルールを説明しています。

表 1. 組織レベルのルール

組織レベル	このレベルで変更可能な組織...	継承詳細
ハブ・レベル	ハブ組織のみが、ハブ・レベルで構成グループを変更できます。他のすべての組織は、読み取り専用アクセス権限を持ちます。	すべての組織はこの情報を共有します。

表 1. 組織レベルのルール (続き)

組織レベル	このレベルで変更可能な組織...	継承詳細
エンタープライズ・レベル	エンタープライズ組織のみが、エンタープライズ・レベルで構成グループを変更できます。 エンタープライズ構成を必要とするすべてのビジネス・トランザクションは、トランザクション・コンテキストにより設定されたエンタープライズからピックアップされます。例えば、オーダー・ドキュメントには固有のエンタープライズがあります。	エンタープライズはこの構成を別のエンタープライズから継承できます。さらに、この構成は構成グループ・レベルでオーバーライドできます。
カタログ組織	カタログ組織として指定された組織は、カタログ組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
在庫組織	在庫組織として指定された組織は、在庫組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
価格設定組織	価格設定組織として指定された組織は、価格設定組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
組織	役割 (セラー、バイヤーなど) が割り当てられている組織は、組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。

構成する組織と同じ在庫、キャパシティー、およびカタログ組織を持たないエンタープライズからは継承できません。

アプリケーション・ルールのサイド・パネル

アプリケーション・ルールのサイド・パネルには、継承されているルールがグレー化されて表示されます。

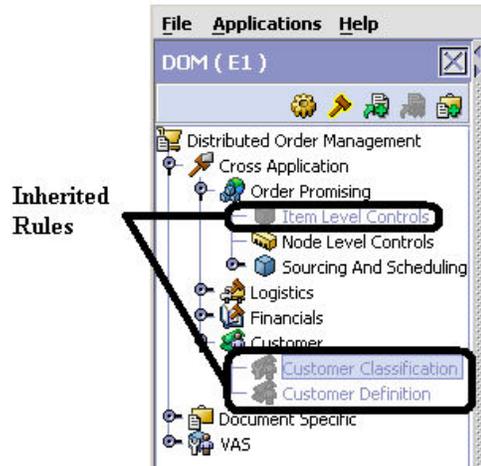


図4. アプリケーション・ルールサイド・パネルの継承済みルール

上記の表で記述されているように、ログインしている組織によっては、継承済みルールの一部をオーバーライドできる場合があります。ルールがオーバーライド可能な場合、ルールを強調表示すると、アプリケーション・ルールサイド・パネル内の「構成のオーバーライド」アイコンが使用可能になります。

Override Configuration Icon is Available



図5. 「構成のオーバーライド」アイコン

ルールのオーバーライドを選択した場合、オーバーライドするルールが関連付けられている構成グループ内の他のルールも、すべてオーバーライドされます。「構成のオーバーライド」アイコンを選択すると、「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、オーバーライドされるルールが表示されます。

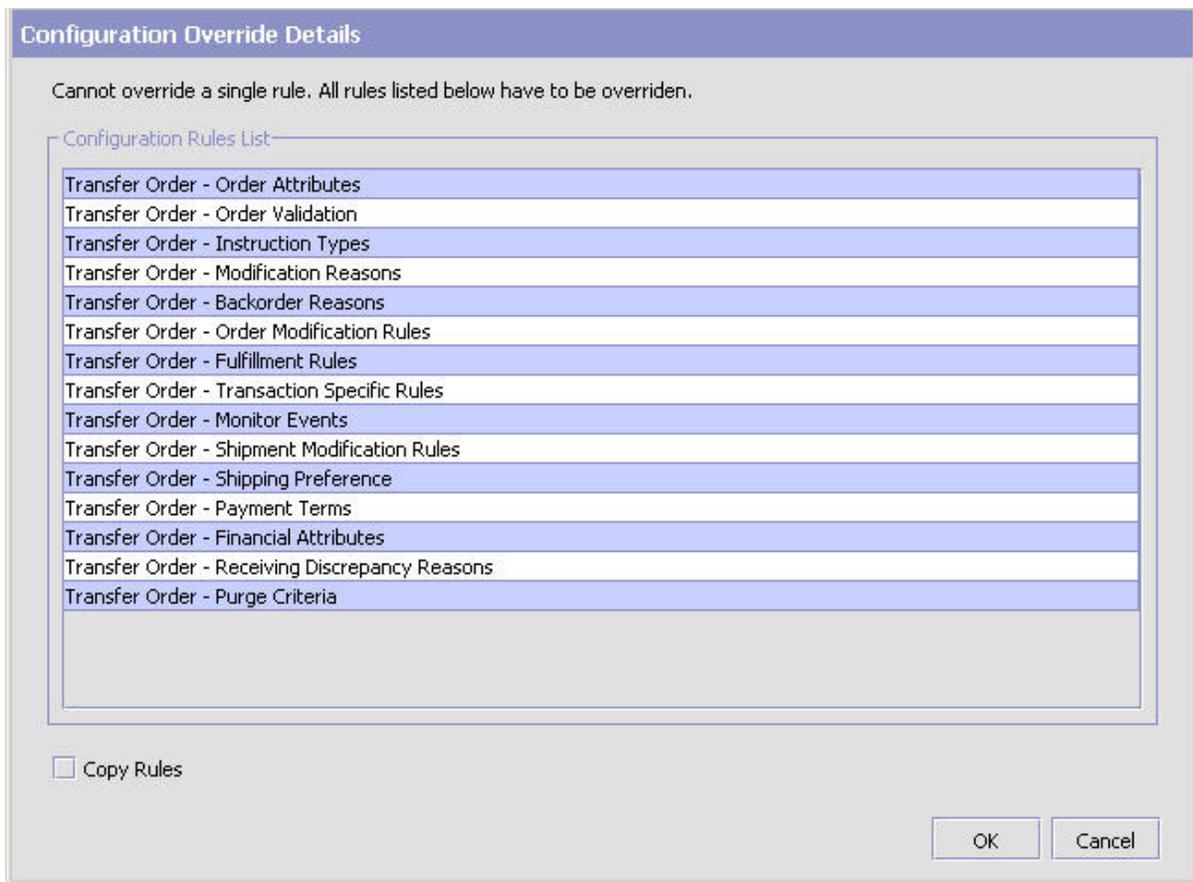


図6. 「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウの例

構成グループのオーバーライド

構成グループをオーバーライドし、次いで元のルールを「再継承」することを決めた場合は、「構成所有権を戻す」アイコンを選択できます。このアイコンは、オーバーライドされているルールのアプリケーション・ルール・サイド・パネルで使用できます。

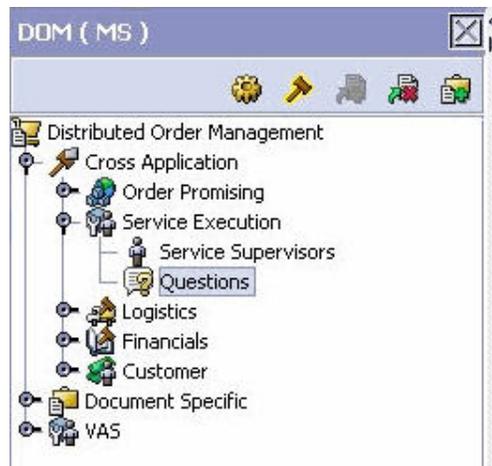


図7. 「構成所有権を戻す」アイコン

「構成所有権を戻す」アイコンを選択した場合、「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。このウィンドウに、再継承されるルールが示されます。

注: 「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウで「ルールの削除」フィールドを選択した場合、ルールの所有権をオリジナルの継承元の組織に戻し、そこから継承したすべてのルールを保持しないことになります。このフィールドを選択しなかった場合、ルールの所有権をオリジナルの継承元の組織に戻しますが、そこから継承したルールは保持することになります。

別の組織のルールをロード

このタスクについて

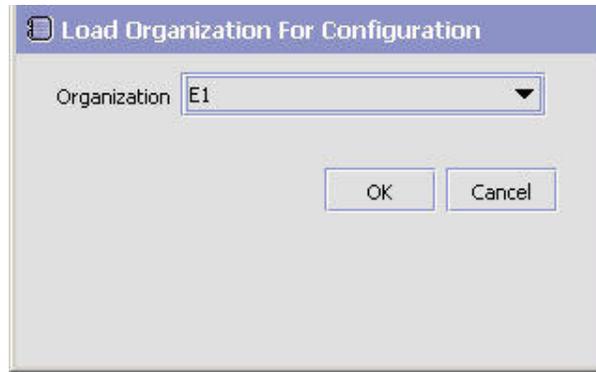
管理者組織は、システム内で定義されているすべての組織に対して設定されます。管理者組織のみが、特定の組織に対して定義されているルールを変更できます。特定の組織が複数の組織を管理する場合、アプリケーション・ツリー内にある管理対象の組織のルールをロードできます。管理可能な組織を判定するルールについては、9 ページの表 1 を参照してください。

アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから使用可能なルールは、選択した組織のタイプとそれが割り当てられている役割によって異なる場合があります。

別の組織のルールをロードするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 該当するアプリケーション・ルールサイド・パネルで、 を選択します。「構成する組織のロード」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



2. 「組織」で、処理対象の組織を選択します。
3. 「OK」を選択します。その組織のルールがアプリケーション・ルールサイド・パネルに表示されます。

タスクの結果

アプリケーション・ルールのサイド・パネルで、処理対象の組織が括弧の中に表示されます。

作業領域

作業領域は、さまざまな構成画面が表示されるメイン領域です。作業領域に表示される画面のメイン・タイプは、検索、リスト、詳細、およびドラッグ・アンド・ドロップのウィンドウです。

検索ウィンドウ

「検索」ウィンドウでは、フィルタリングされた検索を行うための手段を提供します。「検索」ウィンドウの上部パネルでは、検索するエンティティに適用可能な条件を提供し、検索を絞り込むことができます。検索を実行すると、下部パネルに検索結果がリストされます。

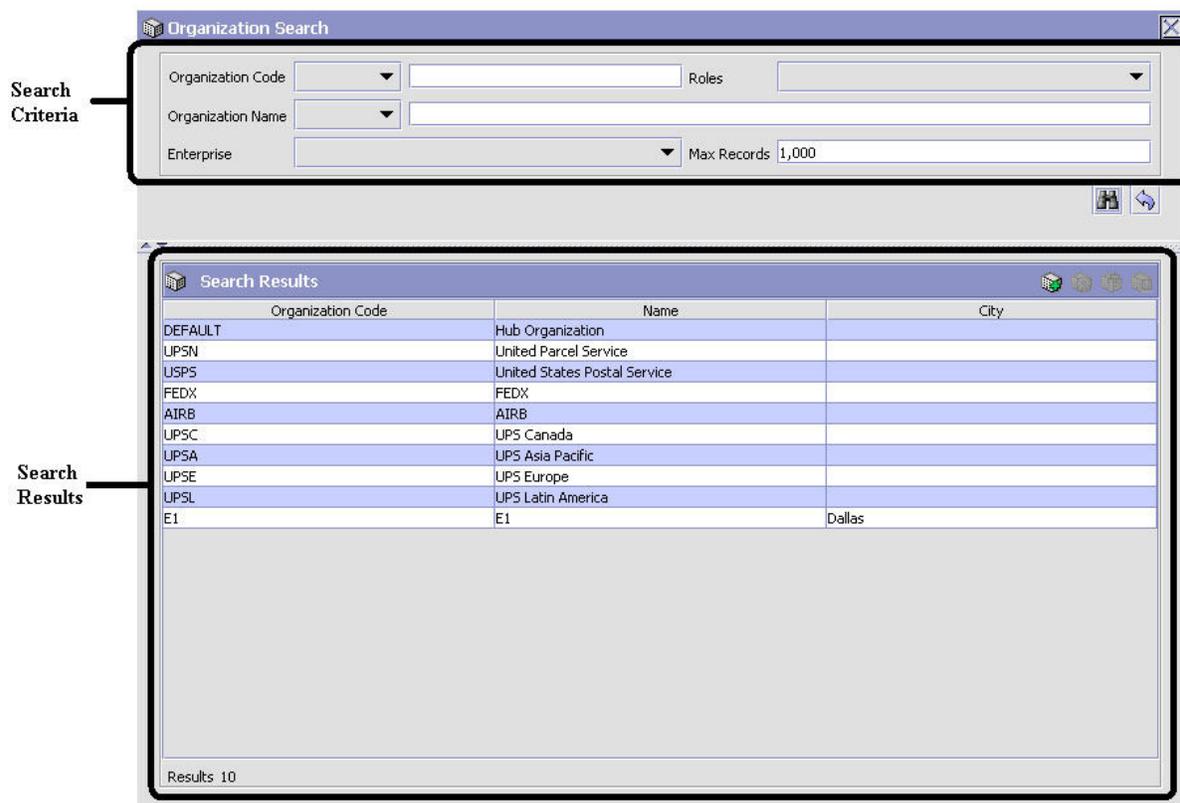


図 8. 「検索」ウィンドウ例

リスト・ウィンドウ

検索を必要としない特定のルールまたはコードを構成することを選択すると、Applications Manager は、前に構成済みのルールおよびコードの基本リスト・ウィンドウを表示する場合があります。

Dimension UOMs (DEFAULT)	
UOM Code	UOM Description
CM	Centimeter
FEET	Feet
IN	Inch
KM	Kilometer
METER	Meter
MILE	Mile

Results 6 Of 6

図9. リスト・ウィンドウの例

詳細ウィンドウ

詳細ウィンドウは、ほとんどの構成の実行に使用される、メイン・インターフェースです。詳細ウィンドウは、編集可能なフィールドとテーブル、エンティティのさまざまな特徴を構成するためのタブ、およびエンティティに対して実行可能な追加アクションを含むことができます。

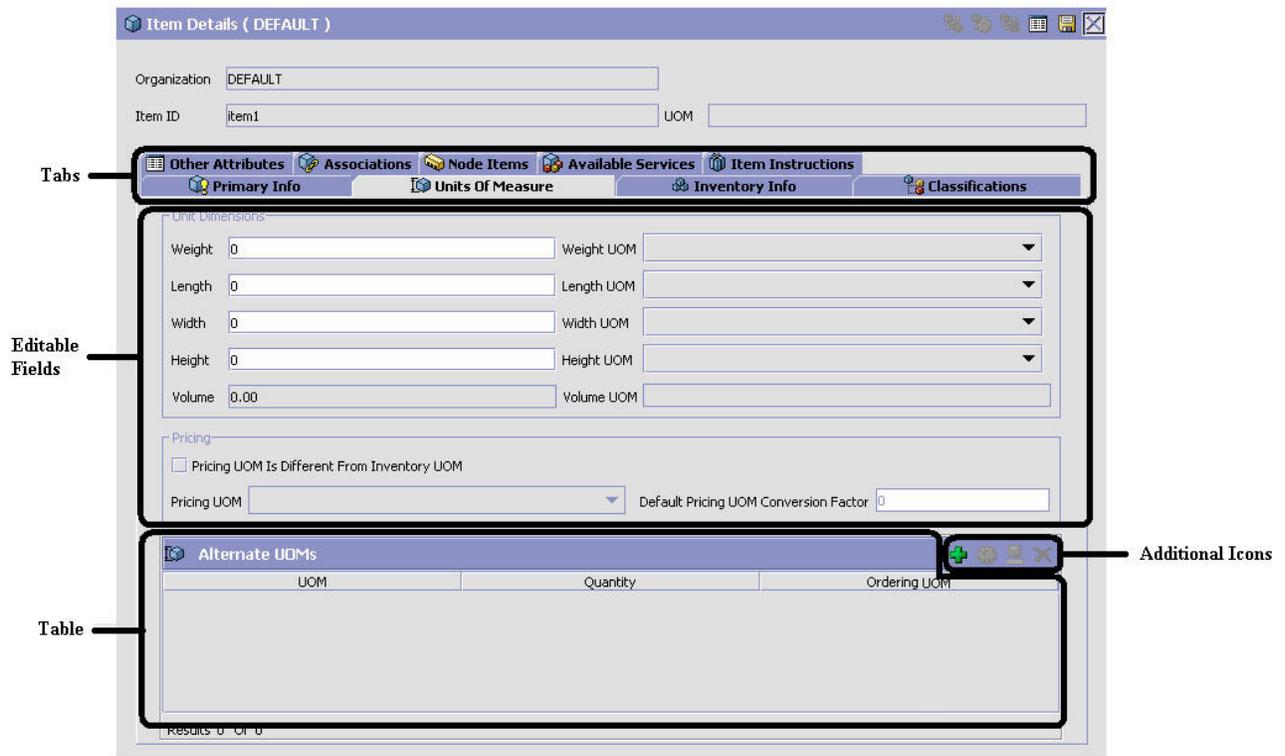
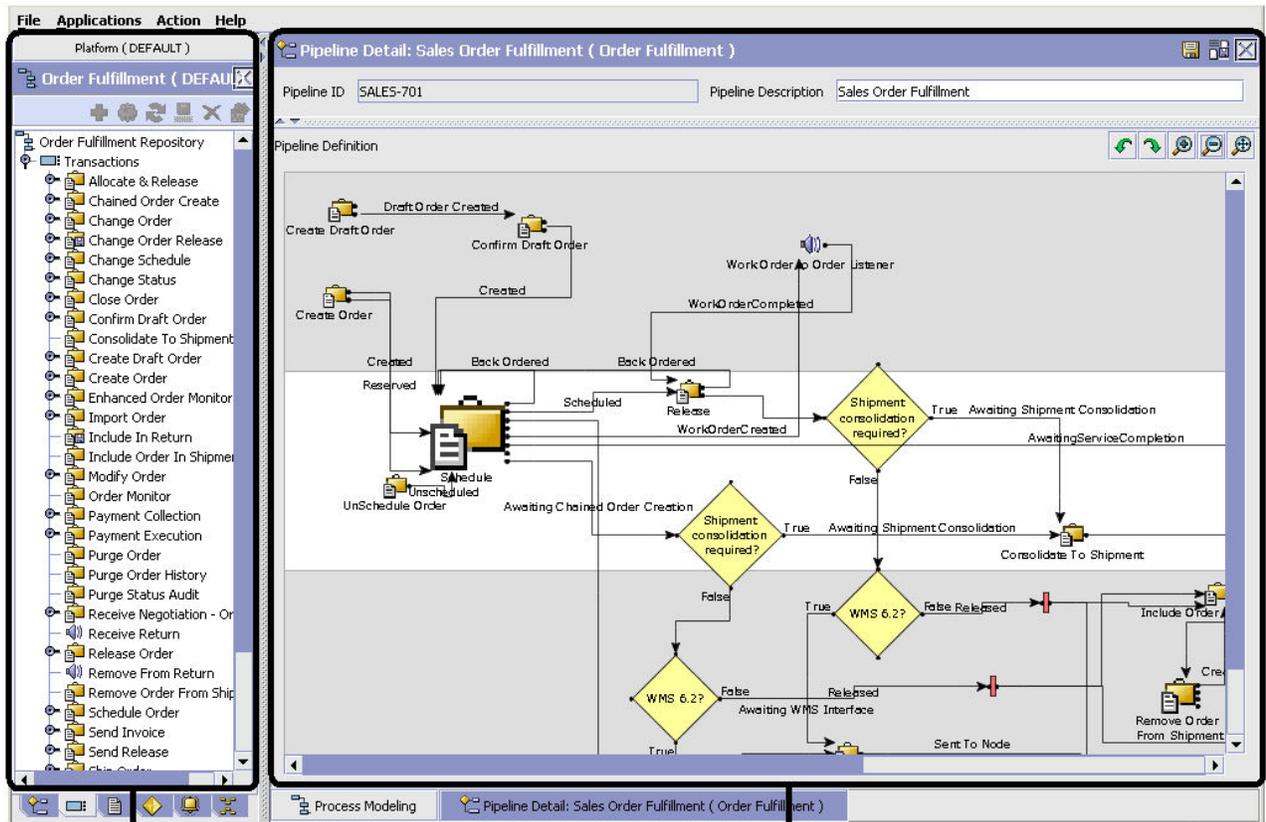


図 10. 詳細ウィンドウの例

ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウ

グラフィカルなドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウを使用して、パイプラインの作成、パイプラインの決定、イベント・ハンドラー、状況モニター・ルール、およびサービスを容易にできます。ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウは、パレットとグラフィカル作業領域から成ります。



Pallet

Graphical Work Area

図 11. ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウの例

これらのエンティティの構築を開始するには、トランザクションなどのコンポーネントをパレットから選択します。コンポーネントをグラフィカル作業領域にドラッグします。これでトランザクションが、それ自身のグラフィカル表現で表示されます。

1つのコンポーネントを別のコンポーネントに接続するには、コンポーネントの出力ポートから、別のコンポーネントの入力ポートまでマウスでドラッグして、接続ラインを形成する必要があります。コンポーネント間のリンクを、水平方向または垂直方向に設定することができます。

コンポーネントまたはリンクを削除するには、コンポーネントを右クリックして、「削除」を選択します。コンポーネントとリンクが構築されると、それらを任意の場所にドラッグして移動し、その位置に従って自動的にリンクを再描画することができます。Ctrl キーを押したままコンポーネントをドラッグすると、グラフィカル作業領域内でコンポーネントがコピーされます。

Applications Manager で使用可能なアクション

Applications Manager では、検索機能の使用、ログイン・ユーザーの表示、リストとリスト・フィルタリングの使用、コンテキスト・ヘルプの使用、エラーのトラブルシューティング、および特殊文字の使用が可能です。

Applications Manager のルックアップ機能の使用

Applications Manager 全体で、ルックアップ機能があるフィールドが多数あります。ルックアップ機能は、このフィールドに属する追加レコードの検索や作成を行うための機能です。例えば、「組織の詳細情報」画面の「主要情報」タブで、「ロケール」フィールドには、画面から新規ロケールを作成するためのルックアップ機能があります。「新規作成」ルックアップ・ボタンを選択すると、ユーザーが変更するロケールの詳細情報がポップアップ画面に表示されます。



図 12. ルックアップ・アイコンの例

ルックアップ・フィールドに表示される情報は、その特定フィールドに属するレコードの数により変わります。レコード数が 20 以下の場合、ルックアップは「新規作成」ボタンの付いたドロップダウン・リストとして表示されます。レコード数が 21 から 75 の場合、ルックアップは「検索」ボタンの付いたドロップダウン・リストとして表示されます。

レコード数が 75 より多い場合、ルックアップは「検索」ボタンの付いたテキスト・ボックスとして表示されます。値をテキスト・ボックスに入力するか、その値を「検索」ボタンを使用して検索できます。値を入力する場合、値は保存する際に妥当性検査されます。値がドロップダウン・リストとして表示される場合、必ず表示されるとおりに値を入力する必要があります。例えば通貨ルックアップの場合、通貨コードがテーブルに保存されるとしても、通貨の説明をテキスト・ボックスに入力する必要があります。ユーザーが誤った値を入力した場合、保存時にエラーが表示されます。

Applications Manager 内で特定のフィールドに対してルックアップを使用する場合、本書の対応するセクションを参照して、特定の情報をセットアップする必要があります。

アプリケーションに関連付けられた伝票種別の表示

分散オーダー管理、供給コラボレーション、返品物流、および物流管理の構成アプリケーションで、アプリケーションに関連付けられたすべての伝票種別を表示できます。販売オーダー、転送オーダー、マスター・オーダー、見積もり、および購入オーダーは、すべての伝票種別の例です。

アプリケーションの関連付けられた伝票種別を表示するには、該当するアプリケーションをメニューから開いて、 をアプリケーション・ルールのサイド・パネルから選択します。「関連付けられた伝票種別」ウィンドウでは、作業しているアプリケーションに関連付けられたすべての伝票種別のリストを表示します。

Document Type	Description
0004	Template Order
0006	Transfer Order
0001	Sales Order
0007	Master Order
0015	Quote

Results 5 of 5

図 13. 「関連付けられた伝票種別」ウィンドウ

伝票種別のアプリケーションへの追加

このタスクについて

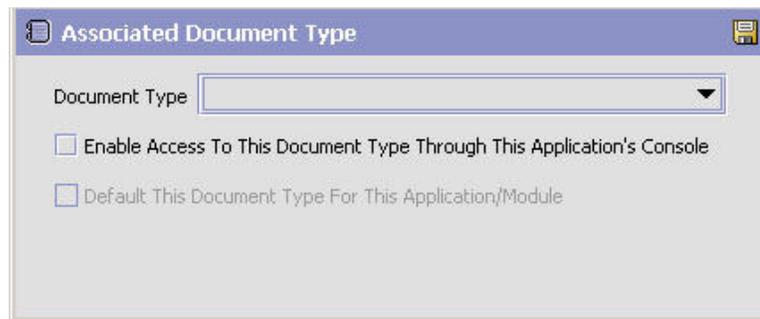
別のアプリケーションに関連付けられた伝票種別を、現在作業中のアプリケーションに追加することができます。

追加された伝票種別の関連する画面は、伝票種別を関連付けるアプリケーションに関係がない場合があります。

伝票種別をアプリケーションに追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「関連付けられた伝票種別」ウィンドウから、 を選択します。「関連付けられた伝票種別」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



2. 「伝票種別」から、アプリケーションに関連付ける伝票種別を選択します。

3. 「このアプリケーションのコンソールを使用してこのドキュメントへのアクセスを可能にする (Enable Access To This Document Through This Application's Console)」を選択します。
4.  を選択します。

Applications Manager にログインしているユーザーの表示 このタスクについて

Applications Manager およびそのロケールにログインしているユーザーを表示できます。この情報を表示するには、アプリケーションの右下隅にあるユーザー・アイコンおよびロケール・アイコンの上にマウスを移動して、ツールチップを表示します。

リストおよびリスト・フィルタリングの使用 このタスクについて

Applications Manager で任意のリストを表示するときに、条件の定義に基づいてリストの内容をフィルタリングすることができます。リストの列見出しを任意の位置で右クリックし、リストに関連付けられたテーブル・フィルター・エディターを使用して、フィルタリングを行うことができます。

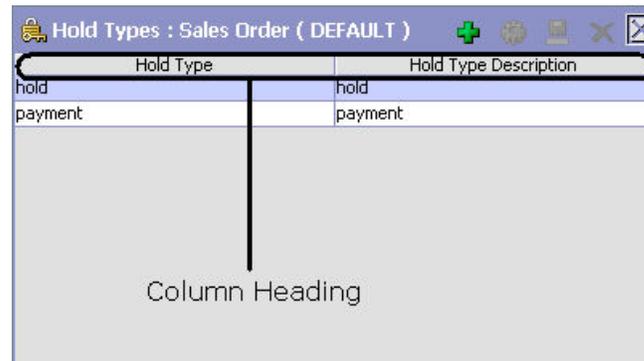


図 14. リストの列見出し

表 2. 「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウ

フィールド	説明
既存のレコードに適用	このボックスにチェック・マークを付けると、セット全体ではなく、事前にフィルタリングされた結果の新しいフィルター・セットを適用します。
最大レコード	フィルターから返されるレコードの最大数を指定します。デフォルトの数は 100 です。

表2. 「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
動的フィールド (Dynamic Fields)	<p>図 15 の「保留タイプ」や「保留タイプの説明」のフィールドは、表示しているリストに基づいて動的に読み込まれます。</p> <p>これらのフィールドは、テキスト・STRINGと「次と同じ」、「次から始まる」、または「次を含む」などの選択条件と組み合わせて検索することができます。</p>

「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウの例:

図 15. 保留タイプ: 販売オーダー

検索STRINGでは、大/小文字が区別されます。例えば、「Item」は「item」と同じ値を返しません。

日時エントリー

Applications Manager のすべての日付フィールドはカレンダー・アイコンを伴っており、これを使用してそのフィールドに関する日付を検索することができます。このアイコンをクリックすると、小さなカレンダーが表示されます。このカレンダーをナビゲートして目的の日付を指定することができます。例えば「カレンダーの作成」ウィンドウでは、「デフォルトの有効終了日」フィールドがカレンダー・アイコンを伴っており、このアイコンを使用して目的の出荷予定日を確認し、フィールドに入力することができます。

図 16. カレンダー・アイコンの例

Applications Manager のどの時刻情報も、入力することもできます。これを行うには、時刻フィールドをダブルクリックして、時刻を入力します。

Shift Name	Start Time	End Time
	<input type="text"/>	

図 17. 時刻フィールドの例

どの Applications Manager の場合も、時刻は 24 時間形式で入力する必要があります。

コンテキスト・ヘルプの使用

このタスクについて

「ヘルプ」ボタンをクリックして、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のコンテキスト・ヘルプにアクセスします。

エラーのトラブルシューティング

このタスクについて

Sterling Selling and Fulfillment Foundation で発生したエラーの説明と原因、およびトラブルシューティングするためのアクションについて表示することができます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のシステム・エラーの説明を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「ヘルプ」>「トラブルシューティング」を選択します。「エラー検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。エラー・コードのリストおよびその説明が表示されます。
3.  を選択して、エラーの原因およびトラブルシューティングするためのアクションを表示します。

特殊文字の使用

Applications Manager 全体で、データ入力の際に特殊文字の使用が必要なインスタンスがある可能性があります。Sterling Selling and Fulfillment Foundation での特殊文字の使用については、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation カスタマイズ 基本」を参照してください。

第 3 章 在庫ルール of 構成

在庫のビジネス・ルールは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation において、アイテムの在庫状況の計算と在庫の取り扱いに使用されるルールと共通コードの設定に使用されます。

アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから「在庫ルール」の枝を選択して、「在庫ルール」ウィンドウにアクセスできます。

表 3. 「在庫ルール」画面、ATP ルール

フィールド	
デフォルトの ATP ルール	ATP ルールが指定されない場合にカタログ・アイテムにデフォルト設定する ATP ルールを選択します。
リード日数	カタログで定義されていないアイテムにデフォルト設定するリード日数を入力します。アイテムがカタログに存在する場合、そのアイテムに指定されたリード日数が使用されます。リード日数は、出荷用アイテムの調達に必要な時間です。
ATP ルール	

表 3. 「在庫ルール」画面、ATP ルール (続き)

ATP ルール	ATP ルールの識別子。
ATP ルールの説明	ATP ルールの説明。

表 4. 「在庫ルール」画面、モニター・ルール

フィールド	
リアルタイム在庫状況モニターにアクティビティ・ベースのモードを使用する	アクティビティ・ベースのモードでリアルタイム在庫状況モニターを使用する場合、このチェック・ボックスを選択します。
ノード・レベルのモニターに使用する分配グループ	ドロップダウンから、ノード・レベルのモニターに使用する分配グループを選択します (該当する場合)。
在庫状況モニター/在庫モニターの再ログ記録の時間間隔 (時間)	在庫状況モニター/在庫モニターの再ログ記録の時間間隔を時間単位で入力します。
リアルタイム在庫状況モニターの出荷日を使用して在庫情報を計算する	リアルタイム在庫状況モニターで、在庫数量と対応する最大出荷日のマトリックスを計算して公開する場合、このチェック・ボックスを選択します。
最大出荷日時 (HH:MM)	最大出荷日時の時刻を時分単位で入力します。
最大出荷日時を相殺する日数	最大出荷日時を相殺する日数を入力します。
ATP モニター・ルール	
ATP モニター・ルール	ATP モニター・ルールの識別子。
ATP モニター・ルール名	ATP モニター・ルールの名前。
使用不可	このフィールドは、ATP モニター・ルールが使用不可かどうかを示します。
手持ち在庫のモニター・ルール	
製品 ID	このモニター・ルールのアイテム。
ノード	このモニター・ルールのノード。

表 5. 「在庫ルール」画面、製品クラス

フィールド	
製品クラス	製品クラス。
簡略説明	この製品クラスの簡略説明。

表 6. 「在庫ルール」画面、在庫の理由

フィールド	
在庫の理由	在庫の理由。
簡略説明	この在庫の理由の簡略説明。

「他のルール」タブについて詳しくは、47 ページの『追加の在庫ルールの定義』を参照してください。

ATP ルールの定義

納期回答 (ATP) ルールにより、現在および将来の需要のためのアイテムの在庫状況を判別できます。この判別によって在庫を最も有効に利用でき、より差し迫った需要を満たすためにアイテムを使用できる場合に、それを将来のオーダーのために取り置いておくことはなくなります。アイテムの在庫状況は、現在と将来の供給、リード日数、および ATP 構成に基づいています。リード日数は、ノードで出荷用のアイテムを調達するためにかかる時間です。処理時間は、サプライヤーからアイテムを受け入れ、出荷 (入庫処理) およびウェアハウスからの出荷 (出庫処理) の準備ができるまでにかかる時間を範囲とします。

ATP ルールにより、アイテムのオーダーを効率的に管理できます。現在および将来のオーダーにアイテムが使用できる時間についてのパラメーターを設定できます。期限切れ順先出し (FEFO) 在庫管理システムを用いることで、傷みやすいアイテムを、その有効期限が切れる十分前に販売および出荷することができ、先に期限切れとなる在庫を必ず先に消費することができます。

ATP ルールにより、現在と将来の顧客需要を満たし、ウェアハウス在庫とアイテムの処理時間をより効率的に管理することができます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、他のルールが定義されていない場合に使用される、DEFAULT と呼ばれるデフォルトの ATP ルールを提供しています。

注: ATP ルールの作成によりシステム全体に及ぶ影響を考慮して、IBM は以下のことを強く勧めています。

- ハブ組織の ATP ルールを構成する場合は、出荷時のデフォルト ATP ルールを変更しないでください。新規 ATP ルールのセットアップには、このルールをガイドラインとして使用してください。
- エンタープライズ組織用に ATP ルールを構成する場合は、ハブの出荷時のデフォルト ATP ルールを表示し、新規 ATP ルールの作成時にはそれをガイドラインとして使用してください。

ATP ルールの作成

このタスクについて

ATP ルールを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「ATP ルール」タブを選択します。
3.  を選択します。「ATP ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表7を参照してください。

5.  を選択します。

表7. 「ATP ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
ATP ルール	ATP ルールを入力します。
ATP ルール名	ATP ルールの名前を入力します。
ATP ルール情報	
期日経過供給日数	未受入の供給が ATP の計算で考慮されなくなるまでの日数を入力します。 例えば、期限を 2 日超過した供給のオーダーを履行しない場合、「期日経過供給日数」パラメーターに 2 と入力します。 注: IBM では、最初は「730」の値を使用することを推奨しています。システムの動作を評価して、必要に応じて値を上下に調整します。
期日経過需要日数	アイテムに対する需要が ATP の計算で考慮されなくなるまでの日数を入力します。 例えば、アイテムに対する需要が出荷指定日より長く遅延した場合、その需要を使用可能在庫に使用できる期間を制限できます。 このパラメーターで指定された日数以上期限から超過した需要は、需要に関する ATP 計算に含まれません。 注: IBM では、最初は「730」の値を使用することを推奨しています。システムの動作を評価して、必要に応じて値を上下に調整します。

表 7. 「ATP ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
フォワードの消費 (日数)	<p>現在の需要を満たすために将来の供給を消費できる日数を入力します。</p> <p>注: IBM では、最初は「730」の値を使用することを推奨しています。システムの動作を評価して、必要に応じて値を上下に調整します。</p> <p>注: タグ管理アイテムについては、需要を将来の在庫 (購入オーダー) と突き合わせる場合、現在のオーダーのスケジューリングの際に ForwardConsumptionDays が考慮されません。ただし、既存の供給および需要の再割り当てでは、ForwardConsumptionDays が考慮されます。これにより、他の既存需要の再割り当てで ForwardConsumptionDays までの将来の供給のみが考慮されるため、新規オーダー (上記の注を参照) がバックオーダーされることがあります。この状況を回避するには、可能であれば、ATP ルール内の ForwardConsumptionDays を、「要請した日を過ぎてオーダーを出荷/配達できる最大日数」ルールで指定された値に設定します。</p> <p>詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド』の「スケジューリング・ルールの詳細」の表にある「要請した日を過ぎてオーダーを出荷/配達できる最大日数」フィールドについての注を参照してください。</p>
後方消費 (日数)	<p>現在の需要に対して使用可能な供給をさかのぼってチェックする日数を入力します。</p> <p>需要は、同じ日に使用可能な供給に対して突き合わされます。その日のオーダーを満たすために十分な使用可能在庫がない場合、数日前に使用可能だった在庫を消費するよう設定できます。将来を調べる前にどれだけさかのぼって使用可能在庫をチェックするかを指定できます。</p> <p>注: IBM では、最初は「730」の値を使用することを推奨しています。システムの動作を評価して、必要に応じて値を上下に調整します。</p>
将来の在庫の処理時間 (日数)	<p>アイテムのインバウンドおよびアウトバウンドの処理にかかる日数を入力します。これには、贈答品包装、キット・アイテム、および特別配達といった特別サービスも含める必要があります。</p> <p>例えば、バラの受入に 1 日かかり、ピック、梱包、および出荷のためにウェアハウスで 2 日保管する場合、処理時間は 3 日になります。</p> <p>このパラメーターは、スケジュール時間トリガー・トランザクションによって、予定された供給に対してオーダーをスケジュールに入れることができるかどうかを判定するために使用されます。</p>

表7. 「ATP ルールの詳細」 ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
事前通知時間 (日数)	<p>ノードがオーダーの出荷を準備するために事前に通知する必要がある日数を入力します。</p> <p>リリース日は、事前通知時間に基づきます。これは、<リリース日> = <出荷指定日> - <事前通知時間> として計算されます。いずれかの明細に今日以前のリリース日がある場合、オーダーがリリースのためにピックアップされます。そのオーダーの中で、リリース日を満たす明細以前の出荷日がある他のすべての明細も、一括出荷されるようにスケジュールに入れられます。</p> <p>このパラメーターは、リリース時間トリガー・トランザクションによって、オーダーを出荷ノードに対していつリリースするかを判定するために使用されます。</p> <p>注: IBM では、このフィールドに「0」の値を使用することを推奨しています。</p>
累積時間 (日数)	<p>供給が将来の需要に対して使用可能だと見なされる日数を入力します。</p> <p>このパラメーターは、アイテムの現在使用可能な供給が将来のオーダー・フルフィルメントで考慮されるかどうかを決定します。このパラメーターは、「後方消費 (日数)」以下に設定する必要があります。</p> <p>例えば、購入オーダーが 11/1 に「手持ちあり」となり、このパラメーターが 10 日に設定されている場合、この購入オーダーによる在庫は 11/11 まで使用可能だと見なされます。</p> <p>注: IBM では、最初は「730」の値を使用することを推奨しています。システムの動作を評価して、必要に応じて値を上下に調整します。</p>

ATP ルールの変更 このタスクについて

ATP ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「ATP ルール」タブを選択します。
3. 該当する ATP ルールを選択して、 を選択します。「ATP ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、36 ページの表 9 を参照してください。
5.  を選択します。

ATP ルールの削除

このタスクについて

ATP ルールを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「ATP ルール」タブを選択します。
3. 該当する ATP ルールを選択して、 を選択します。

デフォルトの ATP ルールおよびデフォルトのリード日数の設定

このタスクについて

デフォルトの ATP ルールおよびデフォルトのリード日数を設定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「ATP ルール」タブを選択します。
3. ATP ルールが指定されていない場合にカタログ・アイテムのデフォルトとする ATP ルールを「デフォルトの ATP ルール」で選択します。カタログ・アイテムの ATP ルールの設定について詳しくは、「カタログ管理: 構成ガイド」を参照してください。
4. リード日数が指定されていない場合にカタログ・アイテムのデフォルトとするリード日数を「リード日数」に入力します。リード日数は、出荷用アイテムの調達に必要な時間です。カタログ・アイテムのリード日数の設定について詳しくは、「カタログ管理: 構成ガイド」を参照してください。
5.  を選択します。

モニター・ルールの定義

ATP モニター・ルールでは、アイテムの在庫状況を追跡したり、在庫が指定最小レベルを下回った場合に特定のアクションまたはイベントを実行したりするモニター・システムを定義できます。

「手持ち在庫のモニター・ルール」は、特定のアイテムとノードの組み合わせの在庫変更を追跡するためのモニター・システムを定義します。特定のノードのアイテムの在庫状況が、指定レベルを下回るかまたは上回るたびに、アクションが実行されます。

この画面で、以下の 3 つの異なるモニター・ルールを定義できます。

- イベント・ベースの ATP モニター・ルール。これはリアルタイム在庫状況モニターと対応します。

- アクション・ベースの ATP モニター・ルール。これは在庫状況モニターと対応します。
- 手持ち在庫のモニター・ルール。これは在庫モニターと対応し、アクション・ベースです。

イベント・ベースの ATP モニター・ルール

イベント・ベースの ATP モニター・ルールにより、在庫アイテムの在庫状況のモニターに使用されるパラメーターが決定されます。在庫数量が構成済みの各レベル間で変わる場合、リアルタイム在庫状況モニターは `REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE` イベントを出します。リアルタイム在庫状況モニターは、一般プロセス・タイプの下で検出および構成できる、時間トリガー・トランザクションです。

トランザクションの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。リアルタイム在庫状況モニターについて詳しくは、330 ページの『リアルタイム在庫状況モニター』を参照してください。

注: いくつかのアイテムが同じしきい値を使用する場合、IBM では、それらすべてのアイテムに対して同じモニター・ルールを使用することを推奨しています。

イベント・ベースの ATP モニター・ルールの作成手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「モニター・ルール」タブを選択します。
3. リアルタイム在庫状況モニターをアクティビティー・ベース・モードで実行できるようにする場合、「リアルタイム在庫状況モニターにアクティビティー・ベースのモードを使用する」をチェックします。これがチェックされている場合、すべてのアイテムのすべてのモニター・ルールに適用されます。
4. 使用する分配グループを指定する場合、「ノード・レベルのモニターに使用する分配グループ」ドロップダウン・メニューから分配グループを選択します。これがチェックされている場合、すべてのアイテムのすべてのモニター・ルールに適用されます。このオプションが空白の場合、組織のデフォルト分配グループが使用されます。
5. リアルタイム在庫状況モニターで、利用可能な数量と対応する最大出荷日とのマトリックスを計算および発行する場合、「リアルタイム在庫状況モニターの出荷日を使用して在庫情報を計算する」をチェックします。これがチェックされている場合、「最大出荷日時」フィールドに最大出荷日の時刻を指定し、「最大出荷日時を相殺する日数」フィールドに最大出荷日を相殺する日数を指定できます。
6.  を選択します。「ATP モニター・ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
7. 「イベント・ベースの ATP モニター・ルール」ラジオ・ボタンを選択します。
8. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、33 ページの表 8 を参照してください。

9.  を選択します。

注: ルールを作成した後、そのルールを有効にするには、アイテムに適用する必要があります。製品の在庫情報の定義について詳しくは、『カタログ管理: 構成ガイド』を参照してください。

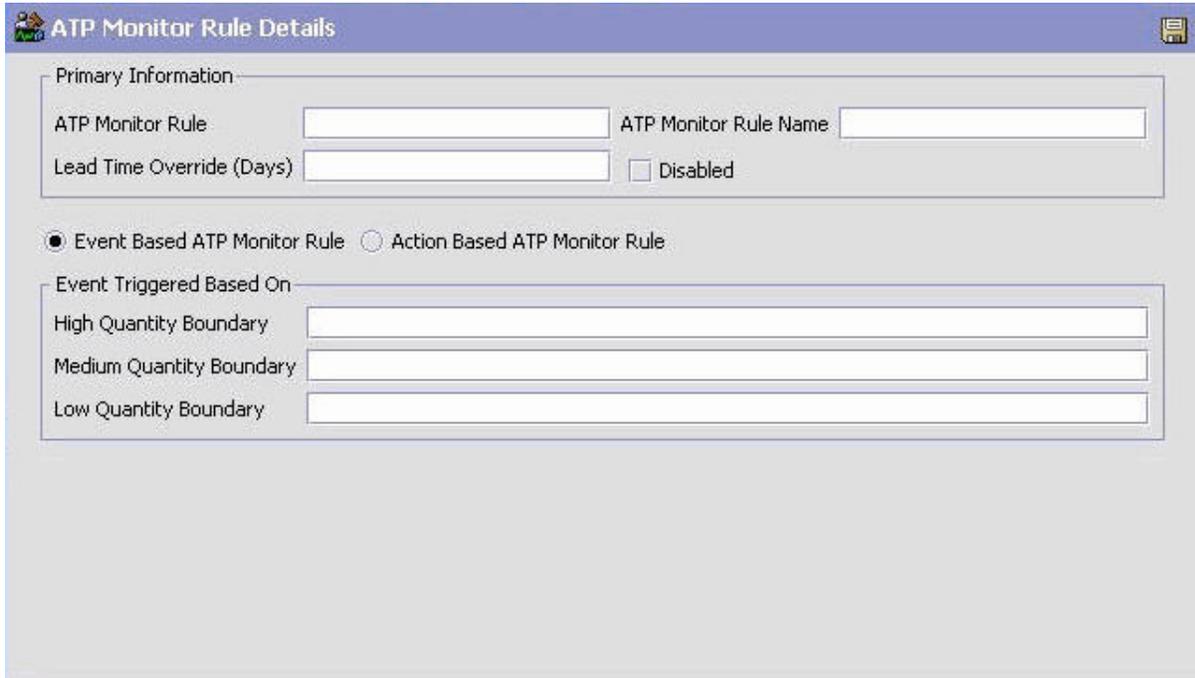


表 8. 「イベント・ベースの ATP モニター・ルールの詳細 (Event Based ATP Monitor Rule Details)」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
ATP モニター・ルール	ATP モニター・ルールを入力します。
ATP モニター・ルール名	ATP モニター・ルールの名前を入力します。
リード・タイム・オーバーライド (日数)	デフォルトでは、在庫アイテムは現在日付から現在日付プラス在庫アイテムのリード日数までモニターされます。 このフィールドが設定されている場合、在庫アイテムは現在日付から現在日付プラスリード・タイム・オーバーライド日数までモニターされます。
使用不可	このモニター・ルールを使用不可にする場合、これをチェックします。
イベントのトリガー基準	
高数量バウンダリー	在庫アイテムが高数量だと見なされる使用可能在庫レベルの下限を入力します。
中数量バウンダリー	在庫アイテムが中数量だと見なされる使用可能在庫レベルの下限を入力します。
低数量バウンダリー	在庫アイテムが低数量だと見なされる使用可能在庫レベルの下限を入力します。

イベント・ベースの ATP モニター・ルールの変更

このタスクについて

ATP モニター・ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「モニター・ルール」タブを選択します。
3. リアルタイム在庫状況モニターをアクティビティー・ベース・モードで実行できるようにする場合、「リアルタイム在庫状況モニターにアクティビティー・ベースのモードを使用する」をチェックします。これがチェックされている場合、すべてのアイテムのすべてのモニター・ルールに適用されます。
4. リアルタイム在庫状況モニターをノード・レベルで実行できるようにしたい場合は、「リアルタイム在庫状況モニターをノード・レベルで使用する (Use Real-Time Availability Monitor at Node Level)」にチェックを付けます。これがチェックされている場合、すべてのアイテムのすべてのモニター・ルールに適用されます。
5. 使用する分配グループを指定する場合は、「使用する分配グループ (Distribution Group to Use)」ドロップダウン・メニューから分配グループを選択します。これがチェックされている場合、すべてのアイテムのすべてのモニター・ルールに適用されます。
6. リアルタイム在庫状況モニターで、利用可能な数量と対応する最大出荷日とのマトリックスを計算および発行する場合、「リアルタイム在庫状況モニターの出荷日を使用して在庫情報を計算する」をチェックします。これがチェックされている場合、「最大出荷日時」フィールドに最大出荷日の時刻を指定し、「最大出荷日時を相殺する日数」フィールドに最大出荷日を相殺する日数を指定できます。
7. 該当する ATP モニター・ルールを選択して、 を選択します。「ATP モニター・ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
8. 「イベント・ベースの ATP モニター・ルール」ラジオ・ボタンを選択します。
9. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、33 ページの表 8 を参照してください。
10.  をクリックします。

イベント・ベースの ATP モニター・ルールの削除

このタスクについて

ATP モニター・ルールを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「モニター・ルール」タブを選択します。

3. 「イベント・ベースの ATP モニター・ルール」ラジオ・ボタンを選択します。
4. 該当する ATP モニター・ルールを選択して、 をクリックします。

アクション・ベースの ATP モニター・ルール

アイテムの在庫状況は、現在日付、ATP 時間フレーム内の後続日数、および ATP 時間フレーム外の後続日数に基づいて追跡できます。これにより、現在および将来の需要を満たすために、より正確に供給をオーダーできます。

トランザクションの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。在庫状況モニターについて詳しくは、315 ページの『在庫状況モニター』を参照してください。

アクション・ベース ATP モニターは、以下を実行します。

- モニター用にセットアップされているすべてのアイテムの在庫状況を検査します。
- モニターをリード日とポスト・リード日とに分割します。
- 計画された供給と実際の需要に基づいて、リード日数内およびそれを超えた場合の在庫状況について、ATP テーブルを確立および構築します。(使用可能な供給と需要に関する情報は、定義されているモニター期間の終了まで追加されます。)
- 指定された最小在庫レベルを下回るアイテムに対してアクションを実行します。例えば、アイテムの不足に関する E メールを購入管理者または倉庫管理者に送信して、追加の供給を注文することができます。

アクション・ベースの ATP モニター・ルールの作成

このタスクについて

アクション・ベースの ATP モニター・ルールを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「モニター・ルール」タブを選択します。
3.  をクリックします。「ATP モニター・ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「アクション・ベースの ATP モニター・ルール」ラジオ・ボタンを選択します。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、36 ページの表 9 を参照してください。
6.  をクリックします。

表9. 「アクション・ベースの ATP モニター・ルールの詳細 (Action Based ATP Monitor Rule Details)」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
ATP モニター・ルール	ATP モニター・ルールを入力します。
ATP モニター・ルール名	ATP モニター・ルールの名前を入力します。
リード・タイム・オーバーライド (日数)	デフォルトでは、在庫アイテムは現在日付から現在日付プラス在庫アイテムのリード日数までモニターされます。 このフィールドが設定されている場合、在庫アイテムは現在日付から現在日付プラスリード・タイム・オーバーライド日数までモニターされます。
使用不可	このモニター・ルールを使用不可にする場合、これをチェックします。
アクションのトリガー基準	
リード・タイム内	次のように計算されます。 今日 + リード日数 + 処理時間
高最小在庫数量 (High Minimum Available Quantity)	リード日数内の最小使用可能在庫レベルの数量を入力します。これは、リード日数内の毎日使用可能である必要のあるオーダー・アイテム数を定義します。在庫状況がこれより少なくなった場合、アクションが起動します。
高最小アクション (High Minimum Action)	使用可能在庫レベルが「高」で定義された最小値を下回った場合に起動する定義済みアクションを選択します。
中最低在庫数量 (Medium Minimum Available Quantity)	リード日数内の最小使用可能在庫レベルの数量 (「高」より小さい) を入力します。在庫状況がこれより少なくなった場合、優先順位の高いアクションが起動します。
中最低アクション (Medium Minimum Action)	使用可能在庫レベルが「中」で定義された最小値を下回った場合に起動する定義済みアクションを選択します。

表9. 「アクション・ベースの ATP モニター・ルールの詳細 (Action Based ATP Monitor Rule Details)」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
低最小在庫数量 (Low Minimum Available Quantity)	リード日数内の最小使用可能在庫レベルの数量 (「中」より小さい) を入力します。在庫状況がこれより少なくなった場合、優先順位の高いアクションが起動します。
低最小アクション (Low Minimum Action)	使用可能在庫レベルが「低」で定義された最小値を下回った場合に起動する定義済みアクションを選択します。
外部リード・タイム	リード日数の終わりから (今日 + 最大モニター日数) までとして計算されます。
高最小在庫数量 (High Minimum Available Quantity)	リード日数を過ぎた場合の最小使用可能在庫レベルの数量を入力します。これは、リード日数を過ぎた場合に毎日使用可能である必要のあるオーダー・アイテム数を定義します。在庫状況がこれより少なくなった場合、アクションが起動します。
高最小アクション (High Minimum Action)	使用可能在庫レベルが「高」で定義された最小値を下回った場合に起動する定義済みアクションを選択します。
中最低在庫数量 (Medium Minimum Available Quantity)	リード日数を過ぎた場合の最小使用可能在庫レベルの数量 (「高」より小さい) を入力します。在庫状況がこれより少なくなった場合、アクションが起動します。
中最低アクション (Medium Minimum Action)	使用可能在庫レベルが「中」で定義された最小値を下回った場合に起動する定義済みアクションを選択します。
低最小在庫数量 (Low Minimum Available Quantity)	リード日数を過ぎた場合の最小使用可能在庫レベルの数量 (「中」より小さい) を入力します。在庫状況がこれより少なくなった場合、アクションが起動します。
低最小アクション (Low Minimum Action)	使用可能在庫レベルが「低」で定義された最小値を下回った場合に起動する定義済みアクションを選択します。

ATP モニター・ルールの変更

このタスクについて

ATP モニター・ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「モニター・ルール」タブを選択します。
3. 該当する ATP モニター・ルールを選択して、 をクリックします。「ATP モニター・ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、36 ページの表 9 を参照してください。
5.  をクリックします。

ATP モニター・ルールの削除

このタスクについて

ATP モニター・ルールを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「ATP モニター・ルール」タブを選択します。
3. 該当する ATP モニター・ルールを選択して、 をクリックします。

手持ち在庫のモニター・ルール

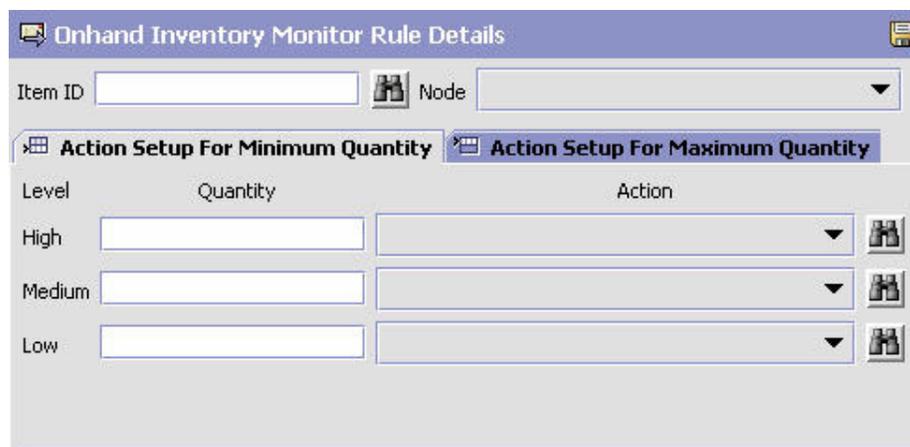
手持ち在庫のモニター・ルールは、在庫モニター時間トリガー・トランザクションを使用します。これは「一般」プロセス・タイプの下にあり、構成済みです。

トランザクションの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。在庫モニターについて詳しくは、319 ページの『在庫モニター』を参照してください。

手持ち在庫のモニター・ルールの作成

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「モニター・ルール」タブを選択します。
3. 「手持ち在庫のモニター・ルール」内部パネルで、 をクリックします。「手持ち在庫モニター・ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 10 を参照してください。
5.  をクリックします。



Level	Quantity	Action
High	<input type="text"/>	<input type="text"/>
Medium	<input type="text"/>	<input type="text"/>
Low	<input type="text"/>	<input type="text"/>

表 10. 「手持ち在庫モニター・ルールの詳細」 フィールド

フィールド	説明
アイテム ID	モニターする在庫アイテムの ID。
ノード	ドロップダウン・リストから、在庫アイテムを保管するノードを選択します。

表 10. 「手持ち在庫モニター・ルールの詳細」フィールド (続き)

フィールド	説明
最小数量でのアクションの設定	
高数量 (High Quantity)	この値を下回ったときに在庫モニターが関連付けられたアクションを起動する高数量。
中数量 (Medium Quantity)	この値を下回ったときに在庫モニターが関連付けられたアクションを起動する中数量。
低数量 (Low Quantity)	この値を下回ったときに在庫モニターが関連付けられたアクションを起動する低数量。
アクション	在庫数量が指定された数量を下回った場合に起動する定義済みアクションを選択します。
最大数量でのアクションの設定	
高数量 (High Quantity)	この値を上回ったときに在庫モニターが関連付けられたアクションを起動する高数量。
中数量 (Medium Quantity)	この値を上回ったときに在庫モニターが関連付けられたアクションを起動する中数量。
低数量 (Low Quantity)	この値を上回ったときに在庫モニターが関連付けられたアクションを起動する低数量。
アクション	在庫数量が指定された数量を上回った場合に起動する定義済みアクションを選択します。

手持ち在庫のモニター・ルールの変更

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「モニター・ルール」タブを選択します。
3. 「手持ち在庫のモニター・ルール」内部パネルで、該当するルールを選択し、 をクリックします。「手持ち在庫モニター・ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、38ページの表 10 を参照してください。
5.  をクリックします。

手持ち在庫のモニター・ルールの削除

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「モニター・ルール」タブを選択します。
3. 「手持ち在庫のモニター・ルール」内部パネルで、該当するルールを選択し、 をクリックします。

製品クラスの定義

「在庫コンソール」で製品クラスを示すときに使用される共通コードを定義できます。製品クラスとは、一級品、二級品、完成品など、アイテムの分類のことです。

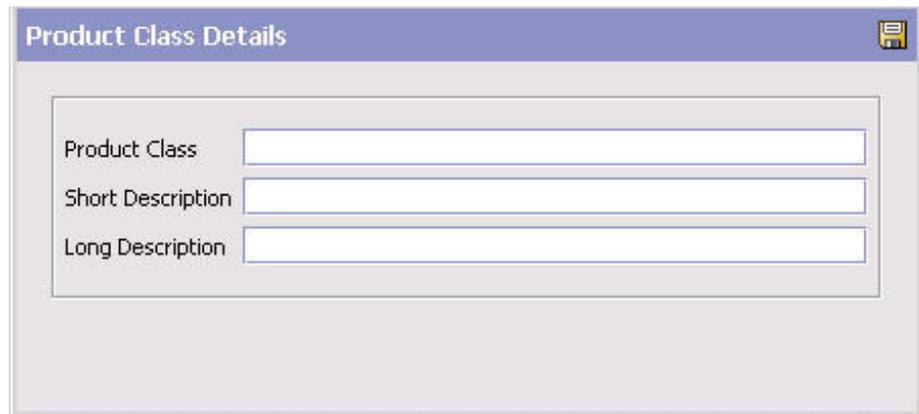
製品クラスの作成

このタスクについて

製品クラスを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「製品クラス」タブを選択します。
3.  を選択します。「製品クラスの詳細 (Product Class Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Product Class Details". It has a blue header bar with the title and a close button on the right. The main area contains three text input fields, each with a label to its left: "Product Class", "Short Description", and "Long Description".

4. 「製品クラス」に、製品クラスを入力します。
5. 「簡略説明」に、製品クラスの簡単な説明を入力します。
6. 「詳細説明」に、製品クラスの詳細な説明を入力します。
7.  を選択します。

製品クラスの変更

このタスクについて

製品クラスを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「製品クラス」タブを選択します。
3. 該当する製品クラスを選択して、 を選択します。「製品クラスの詳細 (Product Class Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

4. 「簡略説明」に、製品クラスの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、製品クラスの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

製品クラスの削除

このタスクについて

製品クラスを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「製品クラス」タブを選択します。
3. 該当する製品クラスを選択して、 を選択します。

在庫の理由の定義

在庫コンソールでは、変更の実行理由を識別するために使用する共通コードを定義できます。

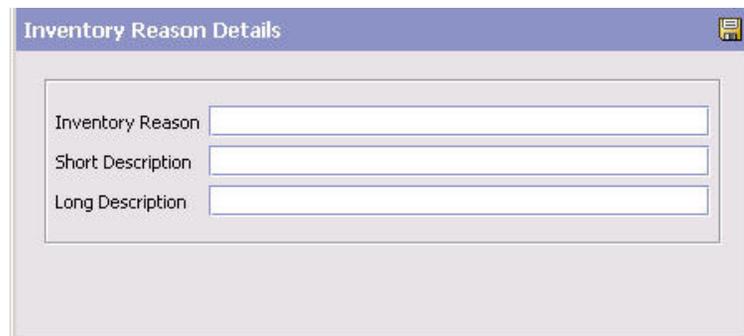
在庫の理由の作成

このタスクについて

在庫の理由を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「在庫の理由」タブを選択します。
3.  を選択します。「在庫の理由の詳細 (Inventory Reason Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



Inventory Reason Details	
Inventory Reason	<input type="text"/>
Short Description	<input type="text"/>
Long Description	<input type="text"/>

4. 「在庫の理由」に、在庫の理由を入力します。
5. 「簡略説明」に、在庫の理由の簡単な説明を入力します。
6. 「詳細説明」に、在庫の理由の詳細な説明を入力します。

7.  を選択します。

在庫の理由の変更

このタスクについて

在庫の理由を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「在庫の理由」タブを選択します。
3. 該当する在庫の理由を選択して、 を選択します。「在庫の理由の詳細 (Inventory Reason Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「簡略説明」に、在庫の理由の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、在庫の理由の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

在庫の理由の削除

このタスクについて

在庫の理由を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「在庫の理由」タブを選択します。
3. 該当する在庫の理由を選択して、 を選択します。

IBA ルールの定義

IBA を有効にし、IBA 需要タイプ、条件、およびシーケンスを構成することで、在庫組織のアイテム・ベースの割り当てルールを構成できます。

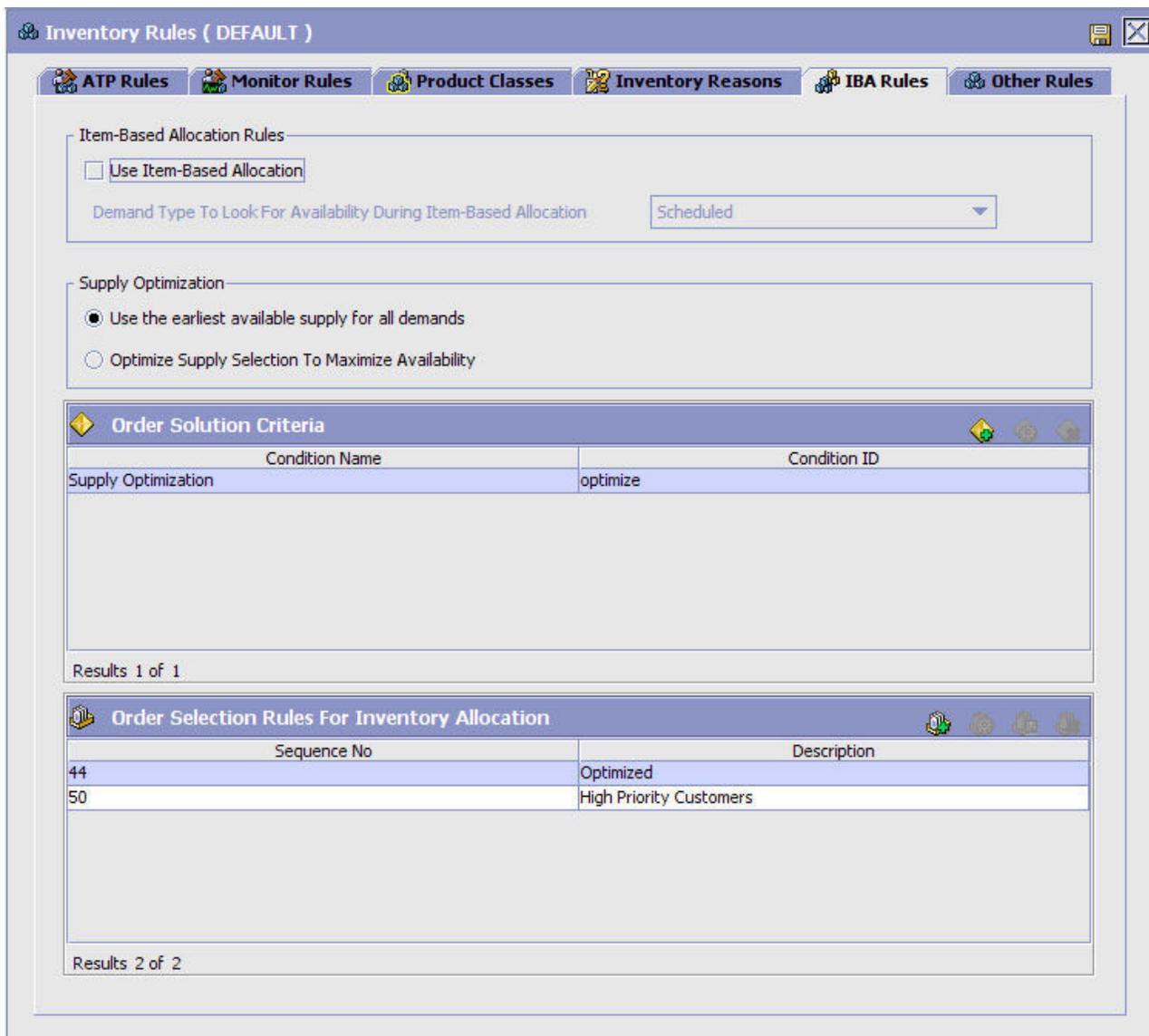
IBA ルールの設定

このタスクについて

IBA ルールを設定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「IBA ルール」タブを選択します。



3. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 11 を参照してください。

4.  を選択します。

表 11. IBA タブ

フィールド	説明
アイテム・ベースの割り当てを使用する	アイテム・ベースの割り当てを行うには、このボックスにチェック・マークを付けます。アイテム・ベースの割り当ては、「アイテム・ベースの割り当て許可」属性が有効となっているアイテムおよびノードに適用できます。アイテム・ベース割り当てについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き</i> 」を参照してください。
アイテム・ベース割り当て時に在庫を検索する需要タイプ	ドロップダウン・リストから、アイテム・ベース割り当て処理において在庫情報を取得するときに使用する需要タイプを選択します。

表 11. IBA タブ (続き)

フィールド	説明
供給の最適化	
すべての需要について、入荷が最も早い供給を使用する	先入れ先出し (FIFO) ルールを使用する場合は、このオプションを選択します。オーダー約束では手持ち在庫が先に考慮され、次にそれ以降の在庫が考慮されます。 現在の需要がまだ満たされない場合は、需要日以降に到着する在庫が考慮されます。
在庫を最大にするために供給の選択を最適化する	需要日に一番近い日に到着する在庫を使用する場合は、このオプションを選択します。つまり、需要日か、それ以前に到着する在庫が先に考慮されます。 現在の需要がまだ満たされない場合は、需要日以降に到着する在庫が考慮されます。
オーダー・ソリューション条件 (Order Solution Criteria)	
条件名	この優先順位の条件の名前。
条件 ID	この条件の ID。
在庫割り当てのオーダー選択ルール	
シーケンス番号	この IBA 優先順位のシーケンス番号。
説明	この IBA シーケンス・ルールの説明。

条件の詳細の作成

このタスクについて

IBA 条件の詳細を作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「IBA ルール」タブを選択します。
3. 「オーダー・ソリューション条件 (Order Solution Criteria)」パネルで、 を選択します。「条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、45 ページの表 12 を参照してください。
5.  を選択します。

表 12. 条件の詳細

フィールド	説明
条件名	この優先順位の条件の名前を入力します。
条件 ID	この条件の ID を入力します。
条件値	このフィールドには、一般条件ビルダーで入力した情報が表示されます。一般条件ビルダーを表示するには、  をクリックします。 「Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」には、条件ビルダーの属性に関する情報が記載されており、「カタログ管理: 構成ガイド」には、条件ビルダーの使用に関する情報が記載されています。

条件の詳細の変更

このタスクについて

条件の詳細を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「IBA ルール」タブを選択します。
3. 「オーダー・ソリューション条件 (Order Solution Criteria)」パネルで、条件名を選択して、 を選択します。
4. 詳細を編集して、 を選択します。

条件の詳細の削除

このタスクについて

IBA 条件の詳細を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「IBA ルール」タブを選択します。
3. 「オーダー・ソリューション条件 (Order Solution Criteria)」パネルで、条件名を選択して、 を選択します。

IBA 順序ヘッダーの詳細の作成 このタスクについて

IBA 順序ヘッダーの詳細を作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「IBA ルール」タブを選択します。
3. 「在庫割り当てのオーダー選択ルール」パネルで、 を選択します。「IBA 順序ヘッダーの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 13 を参照してください。
5.  を選択します。

タスクの結果



表 13. IBA 順序ヘッダーの詳細

フィールド	説明
シーケンス番号	この IBA 順序のシーケンス番号を入力します。連続していない番号を入力した場合は、その間のシーケンス番号を後で追加できます。
説明	この IBA 順序ルールの説明を入力します。
条件 ID	使用可能な条件 ID から選択します。

「IBA 順序ヘッダーの詳細」の変更 このタスクについて

IBA 順序ヘッダーの詳細を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「IBA ルール」タブを選択します。
3. 「在庫割り当てのオーダー選択ルール」パネルで「シーケンス番号」を選択して、 を選択します。
4. 順序ヘッダーを編集して、 を選択します。

IBA 順序ヘッダーの詳細の削除 このタスクについて

IBA 順序ヘッダーの詳細を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「IBA ルール」タブを選択します。
3. 「在庫割り当てのオーダー選択ルール」パネルで「シーケンス番号」を選択して、 を選択します。

追加の在庫ルールの定義

このタスクについて

Sterling Selling and Fulfillment Foundation の在庫処理機能に関する追加のルールを定義できます。

追加の在庫ルールをセットアップするには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「在庫ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「他のルール」タブを選択します。

Inventory Rules (DEFAULT)

ATP Rules Monitor Rules Product Classes Inventory Reasons IBA Rules Other Rules

Inventory Costing Rules

Inventory Costing Required

Costing Method

FIFO Average Cost

Other Rules

Validate Item During Inventory Adjustment Optimize supply on earliest ETA

Assume FEFO If A 'Ship-By Date' Is Not Provided Create Demand Details

Synchronize Expiration Date Across Inventory Reservations Based On The Reservation ID

Default Reservation Expiration Time (in Hours)

Backordered Inventory Rules

Put Inventory On Hold For Sourcing On Backorder From Node

Inventory Will Be On Hold For A Minimum Of Hours

After The Minimum Hold Time, The Node Will Be Eligible For Sourcing From The Next Planned Inventory Synchronization Time

Daily Inventory Synchronization Time

Use Future Supply For Nodes Where Inventory Is On Hold For Sourcing

- 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 14 を参照してください。
-  を選択します。

表 14. 「他のルール」タブ

フィールド	説明
在庫コスト計算ルール	
在庫コスト計算が必要	在庫コスト計算が必要な場合は、このフィールドを選択します。在庫コスト計算を使用する場合は、「コスト計算方法」を選択する必要があります。
コスト計算方法	
FIFO	先入れ先出し (FIFO) アルゴリズムを使用して在庫コストを計算する場合は、この在庫コスト計算方法を選択します。 このコスト計算方法を選択した場合は、「販売コスト・レベル」も指定する必要があります。
平均コスト	平均アイテム・コスト・アルゴリズムを使用して在庫コストを計算する場合は、この在庫コスト計算方法を選択します。このコスト計算方法を選択した場合は、「標準コスト計算ルール」も指定する必要があります。
他のルール	
在庫調整中にアイテムを検証する	在庫調整時にアイテムをカタログと照らし合わせて検証する場合は、このチェック・ボックスを選択します。
最短 ETA での提供を最適化	より早く入手可能な供給を優先する場合は、このチェック・ボックスを選択します (例えば ONHAND が PO 供給より優先されるなど)。

表 14. 「他のルール」 タブ (続き)

フィールド	説明
出荷期限が設定されていない場合は、FEFO (期限切れ順先出し) 方式を採用	<p>出荷日が設定されていないすべての生鮮食料品を期限切れ順先出し (FEFO) 方式で出荷するには、このチェック・ボックスを選択します。</p> <p>このチェック・ボックスを選択しない場合は、出荷日が設定されていないすべての生鮮食料品は FEFO 方式で出荷されません。</p>
需要詳細の作成	<p>需要が Sterling Selling and Fulfillment Foundation で作成されるたびに、在庫需要の詳細を記録できるようにするには、このチェック・ボックスを選択します。需要の詳細は在庫コンソールで表示できます。</p> <p>重要: 在庫が変化したときに EXTERNAL_DEMAND_CHANGE イベントまたは the DEMAND_CHANGE イベントが生成されるように構成している場合は、IBM ではこのチェック・ボックスを選択することをお勧めします。</p> <p>警告: このチェック・ボックスを選択した場合は、大量のデータが記録される可能性があるため、システム全体の総合的なパフォーマンスが低下することがあります。</p>
予約 ID に基づいて在庫予約全体で有効期限を同期	<p>予約 ID に基づいて在庫予約全体にわたって有効期限を同期させるには、このチェック・ボックスを選択します。</p>
予約が期限切れになるまでのデフォルト時間 (時間数)	<p>予約の有効時間を入力します (この時間を過ぎると予約が期限切れになります)。</p> <p>この設定が適用されるのは、作成時に有効期限が指定されなかった予約のみです。</p>
バックオーダー在庫ルール	
ノードからのバックオーダーのソーシングで在庫を保留する	<p>ノードにリリースされたアイテムがバックオーダーされたときに在庫をソーシングのために自動的に保留状態にするには、このフィールドを選択します。</p> <p>この機能の目的は、間違った在庫ピクチャーを提示しているノードに対して在庫がスケジュールされることを防止することです。ノードがソーシングのために保留状態になると、そのノードはスケジューリング・アルゴリズムの実行時に無視されません。</p>
最低 <時間数> 時間で在庫が保留になる	<p>「ノードからのバックオーダーのソーシングで在庫を保留する」オプションを選択した場合は、ノードがソーシングのために保留状態になる時間 (時間単位) を入力します。</p> <p>注: この最低時間が経過する前に、在庫ピクチャーの不一致を引き起こした問題が解決された場合は、アプリケーション・コンソールを通じて、そのノードをソーシングの保留状態から手動で解放できます。</p>

表 14. 「他のルール」タブ (続き)

フィールド	説明
最低保留時間が経過すると、ノードは次回の計画済み在庫同期時刻からソーシングできます / 日次在庫同期時刻	日次在庫同期を実行する時刻を入力します (自身の組織の時刻形式で)。最低保留時間だけ保留されたノードは、次回の日次在庫同期時刻に保留が解除されます。 注: 日次在庫同期時刻になる前に、在庫ピクチャーの不一致を引き起こした問題が解決された場合は、アプリケーション・コンソールを通じて、そのノードをソーシングの保留状態から手動で解放できます。
在庫がソーシングのために保留されているノードに将来の供給を使用する	在庫がソーシングのために保留されているノード用に将来の供給を使用できるようにするには、このオプションを選択します。

第 4 章 在庫のタイプの構成と検討事項

在庫の検討事項の定義

このタスクについて

特定の需要タイプの在庫状況を判断するために使用される供給および需要タイプの関連付けを識別できます。

例えば、「手持ち在庫」供給および「購入オーダー」供給に対して在庫状況をチェックするように「スケジュール済み」需要タイプを構成できます。また、「手持ち在庫」供給に対してのみ在庫状況をチェックするように「割り振り済み」需要タイプを構成することもできます。この構成では、スケジュール済み在庫需要は、物理的に利用可能な在庫と入荷予定の在庫の両方に対してチェックされますが、割り振り済み在庫需要は、物理的に利用可能な在庫に対してのみチェックされます。

注: 未割り当ての需要は、需要の所有者のデフォルトの分配ルールを使用して供給にマップされます。デフォルトの分配ルールを構成しない場合、API は「利用可能」という結果を返す可能性があります。これにより、オーダーは、実際には調達されない場合でも受け入れられることとなります。

注: 特定のノードで使用される供給タイプおよび需要タイプを検討する際は、「無限」としてマークされている出荷ノードの供給タイプは「手持ちあり」と見なされることに注意してください。したがって、「手持ちあり」供給タイプは、特定の需要タイプにマップされる必要があります。そうでないと、その需要タイプに対して在庫状況の計算が行われるとき、そのノードのオーダーはバックオーダーされます。

在庫の検討事項を定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫のタイプと検討事項」>「供給タイプ、需要タイプ、および検討事項」を選択します。作業領域に、「在庫のタイプと検討事項」ウィンドウが表示されます。
2. 「在庫の検討事項」タブを選択します。

Inventory Considerations Inventory Supply Types Inventory Demand Types

Inventory Considerations

Demand Types

	Allocated	Backorder	Demand to look for during release	Firm Forecast	Forecast	Forecast Negotiated	C
Firm Plan	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Held	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Intransit	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Onhand	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Planned Purchase Order	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Planned Transfer	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Plan Negotiated	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Purchase Order Backorder	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Purchase Order Placed	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Purchase Order Released	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Purchase Order Scheduled	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Purchase Order	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Work In Process	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Work Order Placed	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

Supply Types

- 「需要タイプ」列で、その需要タイプに対して在庫状況を確認する際に検討する供給タイプのチェック・ボックスを選択します。
-  を選択します。

在庫供給タイプの定義

Sterling Selling and Fulfillment Foundation で在庫を維持するときに使用される供給タイプのパラメーターを定義できます。

在庫供給タイプの作成

このタスクについて

在庫供給タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

- アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「在庫のタイプと検討事項」>「供給タイプ、需要タイプ、および検討事項」を選択します。作業領域に、「在庫のタイプと検討事項」ウィンドウが表示されます。
- 「在庫供給タイプ」タブを選択します。

3. 「在庫共有タイプ」の表から、 を選択します。「在庫供給タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 15 を参照してください。
5.  を選択します。

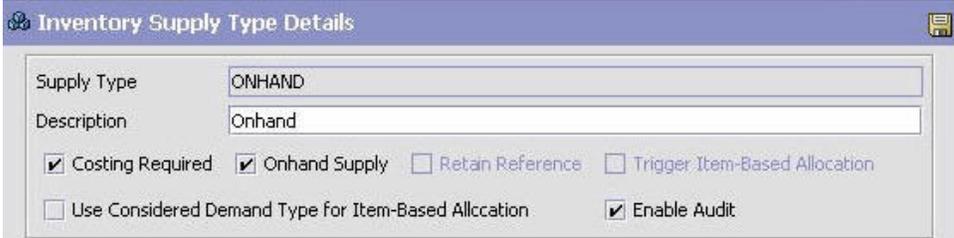


図 18. 在庫供給タイプの詳細

表 15. 「在庫供給タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
供給タイプ	新規供給タイプの名前を入力します。 重要: ここで入力する供給タイプは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation API との間でやり取りされるコードになります。これはまた、Sterling Selling and Fulfillment Foundation ユーザー・インターフェースの在庫コンソールで表示されるコードにもなります。
説明	新規供給タイプの短い説明を入力します。 重要: ここで入力する説明は、この供給タイプがアプリケーション・マネージャーにおいて表示される方法になります。
コスト算定が必要	この供給タイプの在庫でコスト計算データを生成する場合、このフィールドを選択します。
手持ちの供給	この供給タイプで、供給がノードで物理的に使用可能であることを示すには、このフィールドを選択します。 注: 「手持ち在庫」として識別された供給タイプのみが在庫監査で考慮されます。
参照保持	供給レコードとともに参照を記録するには、このフィールドを選択します。
アイテム・ベースの割り当てをトリガーする	この供給タイプで変更が発生したときにアイテム・ベースの割り当てをトリガーできるようにするには、このボックスをチェックします。これは、手持ちではない供給タイプにのみ適用されます。
アイテム・ベースの割り当てに、考慮された需要タイプを使用する	アイテム・ベースの割り当てで、この供給タイプを考慮する需要タイプの需要を考慮することを示すには、このボックスをチェックします。
監査の有効化	在庫監査のロギングを有効にするには、このボックスをチェックします。

在庫供給タイプの変更

このタスクについて

在庫供給タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫のタイプと検討事項」>「供給タイプ、需要タイプ、および検討事項」を選択します。作業領域に、「在庫のタイプと検討事項」ウィンドウが表示されます。
2. 「在庫供給タイプ」タブを選択します。
3. 「在庫供給タイプ」テーブルで該当する在庫供給タイプを見つけ、 を選択します。「在庫供給タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、53ページの表 15 を参照してください。
5.  を選択します。

在庫供給タイプの削除

このタスクについて

在庫供給タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫のタイプと検討事項」>「供給タイプ、需要タイプ、および検討事項」を選択します。作業領域に、「在庫のタイプと検討事項」ウィンドウが表示されます。
2. 「在庫供給タイプ」タブを選択します。
3. 「在庫供給タイプ」テーブルで該当する在庫供給タイプを見つけ、 を選択します。

在庫需要タイプの定義

Sterling Selling and Fulfillment Foundation で在庫を維持するときに使用される需要タイプのパラメーターを定義できます。

注: カスタム需要タイプを作成し、在庫コンソールに表示される在庫状況ピクチャーをそのカスタム需要タイプ用にしたい場合、ユーザー・インターフェースを拡張して、需要タイプを `getATP` API 呼び出しに受け渡す必要があります。

在庫需要タイプの作成

このタスクについて

在庫需要タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫のタイプと検討事項」>「供給タイプ、需要タイプ、および検討事項」を選択します。作業領域に、「在庫のタイプと検討事項」ウィンドウが表示されます。
2. 「在庫需要タイプ」タブを選択します。
3. 「在庫需要タイプ」の表から、 を選択します。「在庫需要タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 16 を参照してください。
5.  を選択します。

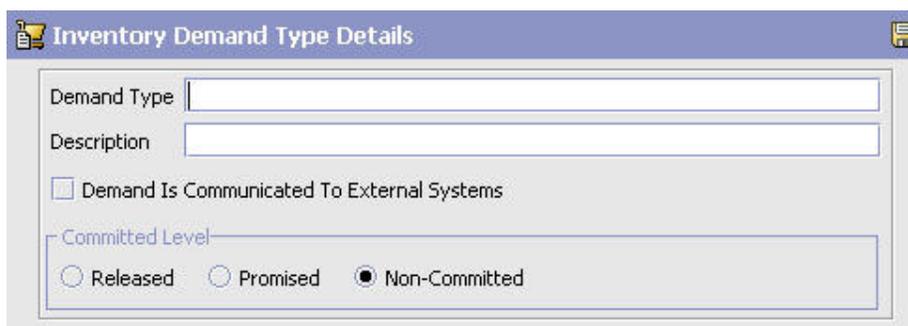


表 16. 「在庫需要タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
需要タイプ	<p>需要タイプの名前を入力します。</p> <p>重要: ここで入力する需要タイプは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation API との間でやり取りされるコードになります。これはまた、在庫コンソールで表示されるコードにもなります。</p>
説明	<p>需要タイプの短い説明を入力します。</p> <p>重要: ここで入力する説明は、この需要タイプがアプリケーション・マネージャーにおいて表示される方法になります。</p>
需要は外部システムに伝達される	<p>このタイプの需要が、在庫状況計算で使用するために外部システムに伝達されることを示すには、このフィールドを選択します。</p>
コミットしたレベル	
リリース済み	<p>この需要タイプが、既にスケジュールされリリースされた需要を表す場合、このオプションを選択します。</p>
約束	<p>この需要タイプが、オーダーなしに作成された予約を表す場合、このオプションを選択します。</p>
コミットされていない	<p>この需要タイプが、まだ予約されていないか特定のノードに割り当てられていない需要を表す場合、このオプションを選択します。</p>

在庫需要タイプの変更

このタスクについて

在庫需要タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫のタイプと検討事項」>「供給タイプ、需要タイプ、および検討事項」を選択します。作業領域に、「在庫のタイプと検討事項」ウィンドウが表示されます。
2. 「在庫需要タイプ」タブを選択します。
3. 「在庫需要タイプ」テーブルで該当する在庫需要タイプを見つけ、 を選択します。「在庫需要タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、55 ページの表 16 を参照してください。
5.  を選択します。

在庫需要タイプの削除

このタスクについて

在庫需要タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫のタイプと検討事項」>「供給タイプ、需要タイプ、および検討事項」を選択します。作業領域に、「在庫のタイプと検討事項」ウィンドウが表示されます。
2. 「在庫需要タイプ」タブを選択します。
3. 「在庫需要タイプ」テーブルで該当する在庫需要タイプを見つけ、 を選択します。

在庫状況のセーフティー要因

このタスクについて

Sterling Selling and Fulfillment Foundation を使用して、在庫状況のセーフティー要因を定義できます。これは、オーダー約束時に除外される現在および将来の在庫のパーセンテージを示します。

例えば、オーダー約束において計画済み購入オーダー の供給が輸送中 の供給より信頼性が低いとします。したがって、オーダー約束時に、輸送中 供給タイプを 10% 除外するのに対し、計画済み購入オーダー 供給タイプは 60% 除外した方がよいと判断する場合があります。

デフォルトでは、数量の少数部分は切り捨てられません。この機能をオフにするには、<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルの yfs.install.displaydoublequantity プロパティを変更します。

customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド」を参照してください。

動作は、次のようになります。

- プロパティを Y に設定すると、パーセンテージの適用後に数量の少数部分が使用されます。これがデフォルトの動作です。
- プロパティを N に設定すると、パーセンテージの適用後に数量の少数部分が切り捨てられて、最も近い整数となります。例えば、購入オーダーを数量 10 で発行する場合に、PO_PLACED 供給タイプの在庫状況のセーフティ要因率が 25% に設定されているとき、将来の需要を満たすために数量 7.5 ではなく 7 が使用可能となります。

在庫状況のセーフティ要因を変更、有効、または無効にするには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫のタイプと検討事項」>「在庫状況のセーフティ要因」を選択します。作業領域に、「在庫状況のセーフティ要因」ウィンドウが表示されます。フィールドの説明については、表 17 を参照してください。

Supply Type	Description	Apply Safety Factor	Safety Factor Percentage
FIRM_PLAN	Firm Plan	<input type="checkbox"/>	0
INTRANSIT	In Transit	<input type="checkbox"/>	0
PLANNED_PO	Planned Purchase Order	<input type="checkbox"/>	0
PLANNED_TRANSFER	Planned Transfer	<input type="checkbox"/>	0
PLAN_NEGOTIATED	Plan Negotiated	<input type="checkbox"/>	0
PO	Purchase Order	<input checked="" type="checkbox"/>	30
PO_BACKORDER	Purchase Order Backorder	<input type="checkbox"/>	0
PO_PLACED	Purchase Order Placed	<input checked="" type="checkbox"/>	15
PO_RELEASED	Purchase Order Released	<input checked="" type="checkbox"/>	0
PO_SCHEDULED	Purchase Order Scheduled	<input type="checkbox"/>	0
WIP	Work In Process	<input type="checkbox"/>	0
WO_PLACED	Work Order Placed	<input type="checkbox"/>	0

表 17. 「在庫状況のセーフティ要因」ウィンドウ

フィールド	説明
供給タイプ	供給タイプの名前。
説明	供給タイプの説明。

表 17. 「在庫状況のセーフティー要因」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
セーフティー要因の適用	<p>この供給タイプのオーダー約束時に指定したセーフティー要因率を除外する場合は、これにチェックを付けます。</p> <p>注: セーフティー要因が適用される場合、このフラグはノード・タイプおよびスケジューリング・ルールでもチェックされる必要があります。</p> <p>詳しくは、69 ページの『第 7 章 在庫ノード・タイプ・ルールの構成』、および「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 分散オーダー管理 構成ガイド」を参照してください。</p>
セーフティー要因率	この供給タイプのオーダー約束時に除外するパーセンテージ。

- 現在の在庫状況のセーフティー要因を変更するには、「現在の在庫状況のセーフティー要因」タブを選択します。将来の在庫状況のセーフティー要因を変更するには、「将来の在庫状況のセーフティー要因」タブを選択します。
- セーフティー要因率を変更するには、0 から 100 までの希望のパーセンテージをダブルクリックして新規値を入力します。

注: セーフティー要因率は、オーダー約束に**除外**するパーセンテージを示します。

- セーフティー要因を有効または無効にするには、該当する「セーフティー要因の適用」チェック・ボックスにチェックを付けるか外します。
-  をクリックします。

タスクの結果

個々のアイテムに指定されたセーフティー要因率または数量は、供給タイプで指定された値をオーバーライドします。アイテムの在庫情報の定義についての詳細は、「カタログ管理: 構成ガイド」を参照してください。

第 5 章 コスト要因グループの構成

在庫コスト計算の実行時に、派生コストを決定するためにコスト要因を在庫に適用できます。コスト要因は、ベンダー・プリファレンスやトランザクション・タイプなどに基づいて、それぞれのエンタープライズまたはセラー組織で異なる場合があります。特定の組織のニーズに適用される一連のコスト要因を表すコスト要因グループを定義します。

在庫コスト要因グループはエンタープライズ・レベルで定義します。一般に、各エンタープライズは、派生コストを決定するときに、以下の目的で使用されるコスト要因グループを指定する必要があります。

- 荷役コストの決定
- 標準コストの決定
- 仕掛品の取り扱い

さらにエンタープライズは、各セラー組織に対して、以下の目的で使用されるコスト要因グループも指定する必要があります。

- 荷役コストの決定
- 標準コストの決定

さらにエンタープライズは、各物理キット・コンポーネント・アイテムに対して、アイテム・レベルで仕掛品取り扱いに使用されるコスト要因グループも指定する必要があります。

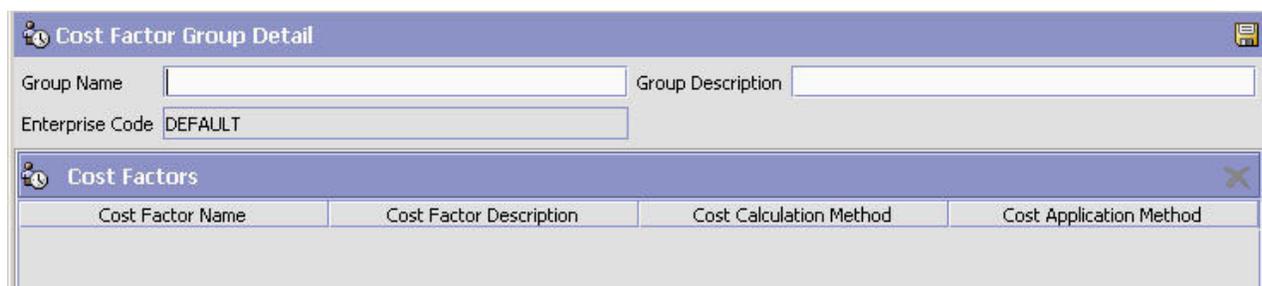
在庫のコスト要因グループの定義

このタスクについて

在庫のコスト要因グループを定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「コスト要因グループ」を選択します。作業領域に、「コスト要因グループ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「コスト要因グループの詳細」ウィンドウが表示されます。



Cost Factor Name	Cost Factor Description	Cost Calculation Method	Cost Application Method
------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

3. 「グループ名」に、コスト要因のこの特定のセットを参照するために使用する名前を入力します。
4. 「グループの説明」に、コスト要因のこのセットの簡単な説明を入力します。
5.  を選択します。
6. 新たに作成されたコスト要因グループ名が「コスト要因グループ」リスト・ウィンドウに表示されます。

コスト要因グループへのコスト要因の関連付け

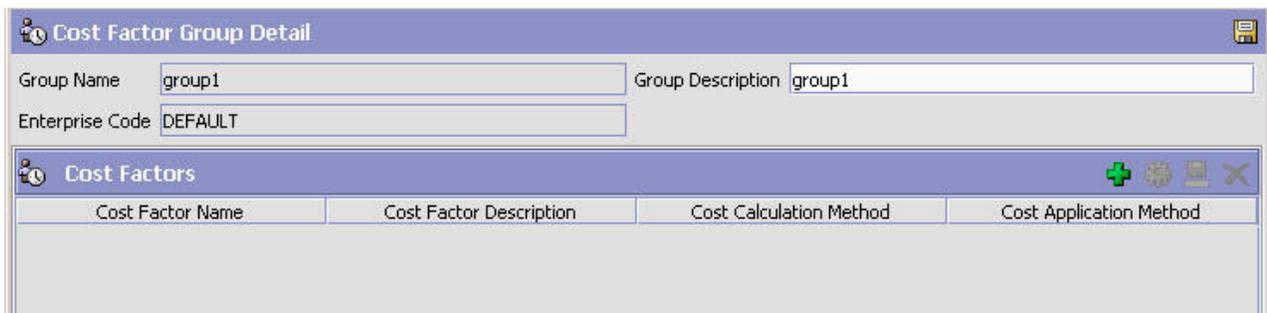
このタスクについて

コスト要因をコスト要因グループに関連付けるには、以下の手順を実行します。

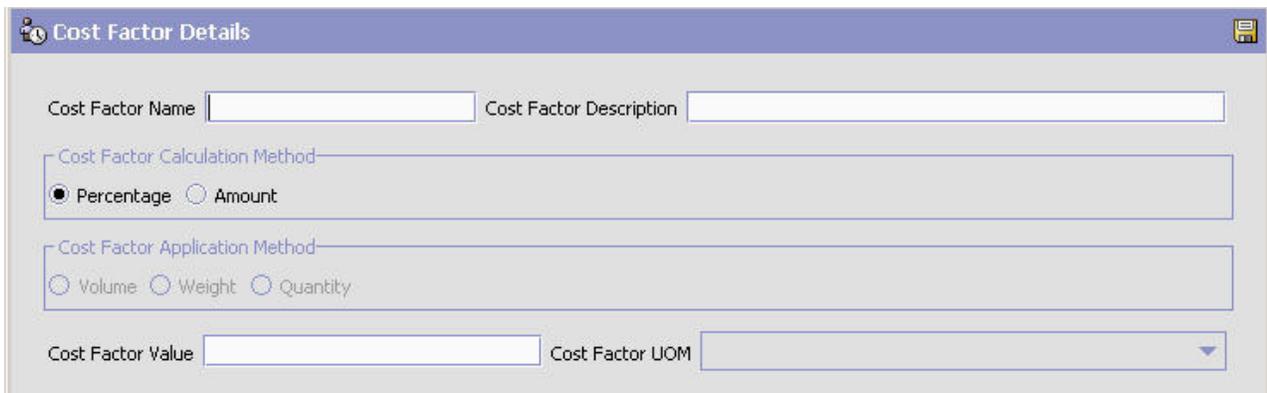
手順

1. 「コスト要因グループ」リスト・ウィンドウで、コスト要因を定義するコスト要因グループをダブルクリックします。

「コスト要因グループの詳細」ウィンドウが、「コスト要因」パネル内の「新規作成」アイコンが使用可能な状態で表示されます。



2.  を選択します。「コスト要因の詳細」ウィンドウが表示されます。



3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、61ページの表 18 を参照してください。
4.  を選択します。

表 18. 「コスト要因の詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
コスト要因名	このコスト要因の固有の名前を入力します。
コスト要因の説明	このコスト要因の要旨を入力します。
コスト要因値	コスト要因で使用される実際の値 (パーセンテージまたは金額) を指定します。
コスト要因計算方法	
パーセンテージ	このオプションは、このコスト要因を特定のパーセンテージを使用して計算する場合に選択します。
金額	このオプションは、このコスト要因を特定の金額を使用して計算する場合に選択します。 注: 物理キットの場合、これは親アイテムに適用されます。
コスト要因適用方法 (金額コスト要因計算方法の場合のみ)	
容積	このオプションは、金額コスト要因計算を在庫アイテムの容積をベースに行う場合に選択します。アイテムの容積は、高さ * 幅 * 長さとして計算されます。 次に、該当する単位を「コスト要因単位」ドロップダウン・リストから選択する必要があります。 注: 寸法単位を構成する場合、同等の容積単位を構成するようにしてください。同等の容積単位の定義について詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。
重量	このオプションは、金額コスト要因計算を在庫アイテムの重量をベースに行う場合に選択します。次に、該当する単位を「コスト要因単位」ドロップダウン・リストから選択する必要があります。
数量 (Quantity)	このオプションは、金額コスト要因計算を在庫アイテムの数量をベースに行う場合に選択します。次に、該当する単位を「コスト要因単位」ドロップダウン・リストから選択する必要があります。 注: 該当しない単位は、コスト要因計算時に無視されます。
コスト要因単位	選択したコスト要因適用方法に該当する単位を選択します。

第 6 章 アイテム固有の分配グループの構成

アイテム・ソーシングを決定するときに使用できる一連のノード/外部組織を作成できます。分配グループ内の出荷ノード決定プロセスを確立する分配ルールを定義できます。このルールは、優先順位に基づいてグループ内からアイテムのソーシング元とするデフォルト・ノードを決定します。1 ソース・ノードまたはソース・ノード全体での、個別のアイテム向けのルールを作成できます。

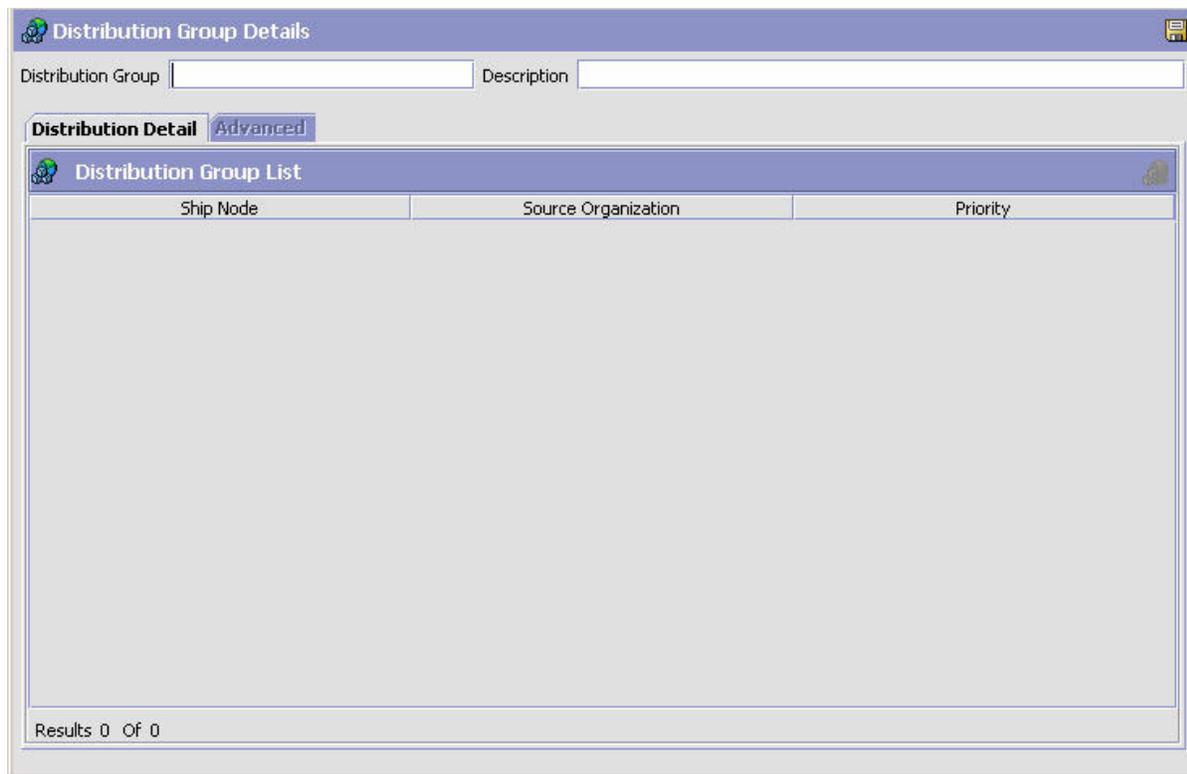
分配グループの作成

このタスクについて

分配グループを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品ソーシング分配グループ」を選択します。作業領域に、「製品ソーシング分配グループ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「分配グループの詳細 (Distribution Group Detail)」ウィンドウが表示されます。



Ship Node	Source Organization	Priority
-----------	---------------------	----------

3. 「分配グループ」に、分配グループの名前を入力します。
4. 「説明」に、分配ルールの簡単な説明を入力します。

5.  を選択します。

ノード/外部組織の分配グループへの追加 このタスクについて

分配グループにノード/外部組織を追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「分配グループの詳細」ウィンドウで、 を選択します。「分配の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
2. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 19 を参照してください。
3.  を選択します。

タスクの結果

分配グループにノードまたは外部組織を追加する場合は、「拡張」タブを使用しないでください。代わりにソーシング・ルールを使用してください。ソーシング・ルールの構成について詳しくは、*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 分散オーダー管理 構成ガイドを参照してください。

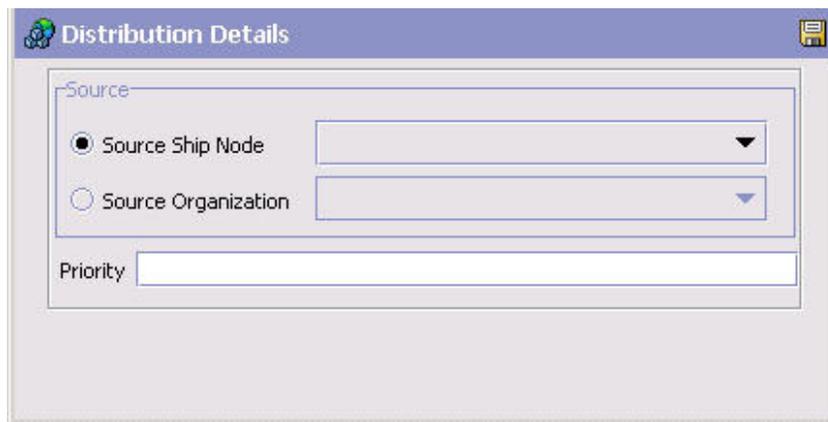


表 19. 「分配の詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
ソース	
ソース出荷ノード	分配グループに組織内のノードを追加する場合、「ソース出荷ノード」を選択し、該当するノードを選択します。
移動元組織	分配グループに外部組織を追加する場合、「移動元組織」を選択し、該当する組織を選択します。
優先順位	分配グループ内におけるノード/外部組織の優先順位を入力します。 注: 優先順位は分配グループ固有のものではないため、複数の分配グループで同じ優先順位を設定することができます。

分配グループのノード/外部組織の変更

このタスクについて

分配グループのノード/外部組織を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「分配ルールの詳細」ウィンドウで、「分配の詳細」タブを選択します。
2. 該当する分配の詳細を選択して、 を選択します。「分配の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、64 ページの表 19 を参照してください。
4.  を選択します。

分配グループのノード/外部組織の削除

このタスクについて

分配グループのノード/外部組織を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「分配ルールの詳細」ウィンドウで、「分配の詳細」タブを選択します。
2. 該当する分配の詳細を選択して、 を選択します。

拡張分配の詳細の分配グループへの追加 (下位互換性の場合のみ)

このタスクについて

ソーシング情報などの具体的な詳細を追加して、それらが有効となる日付の範囲を割り当てることができます。

注: IBM は、拡張分配グループではなく、ソーシング・ルールの使用を強く推奨します。この機能は、下位互換性目的としてのみ提供されています。

注: 拡張分配ルールを設定する場合は、「分配の詳細」タブ下にある基本分配ルールは使用しないでください。

分配ルールに拡張分配の詳細を追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「分配グループの詳細」ウィンドウで、「拡張」タブを選択します。
2. 分配テーブルで、 を選択します。「分配の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、66 ページの表 20 を参照してください。
4.  を選択します。

表 20. 「拡張分配の詳細 (Advanced Distribution Details)」 ウィンドウ

フィールド	説明
すべてのアイテム	分配ルールを、ルールの設定対象であるノード内にあるすべてのアイテムに適用する場合、このオプションを選択します。
このソースの特定のアイテムに適用 (Apply To Specific Item At This Source)	分配ルールを、ルールの設定を行っているノードまたは組織内にある特定のアイテムに適用する場合、このオプションを選択します。
主要情報	
製品 ID	「このソースの特定のアイテムに適用 (Apply To Specific Item At This Source)」を選択した場合、分配ルールを作成する対象のアイテム ID を入力します。
アクティブ	分配ルールがアクティブな場合は、「アクティブ」にチェック・マークを付けます。
出荷ノードでのアイテム名	「このソースの特定のアイテムに適用 (Apply To Specific Item At This Source)」を選択した場合、アイテムのノード名を入力します。在庫集約者用に作成された分配レコードが、在庫コンソールに表示されます。
優先順位	このノードにおけるアイテムおよび在庫スケジューリングの優先順位番号を入力します。優先度が最も高いのは 0 です。
有効開始日	分配の詳細が有効となる日付です。
有効終了日	分配の詳細が適用される最後の日付です。
ソース	
ソース出荷ノード	特定の出荷ノードを分配の詳細のソーシング元に設定する場合、「ソース出荷ノード」を選択し、該当するノードを選択します。
移動元組織	特定の組織を分配の詳細のソーシング元に設定する場合、「移動元組織」を選択し、該当する組織を選択します。

拡張分配の詳細の削除

このタスクについて

拡張分配の詳細を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「分配グループの詳細」ウィンドウで、「拡張」タブを選択します。
2. 分配テーブルで、該当する分配の詳細を選択して、 を選択します。

分配グループの削除

このタスクについて

分配グループを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品ソーシング分配グループ」を選択します。作業領域に、「製品ソーシング分配グループ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する分配ルールを選択して、 を選択します。

第 7 章 在庫ノード・タイプ・ルールの構成

ノード・タイプに基づく在庫ルールを作成できます。これらのルールは、ルールが適用されるノード・タイプに属するノードに適用されます。ノード・タイプの作成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

在庫ノード・タイプ・ルールの作成

このタスクについて

在庫ノード・タイプ・ルールを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ノード・タイプ・ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ノード・タイプ・ルール」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「在庫ノード・タイプ・ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 21 を参照してください。
4.  をクリックします。



表 21. 「在庫ノード・タイプ・ルールの詳細」ポップアップ

フィールド	説明
ノード・タイプ	このルールを使用するノード・タイプを選択します。ノード・タイプについて詳しくは、『 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド』を参照してください。
手持ちのセーフティー要因を手持ちの在庫状況に適用	このノード・タイプのノードで、手持ちのセーフティー要因を手持ちの在庫状況に適用する場合、このフラグをチェックします。 注: セーフティー要因を適用するには、供給タイプとスケジューリング・ルールでもこのフラグをチェックする必要があります。セーフティー要因について詳しくは、56 ページの『在庫状況のセーフティー要因』を参照してください。

表 21. 「在庫ノード・タイプ・ルールの詳細」ポップアップ (続き)

<p>将来のセーフティ要因を 将来の在庫状況に適用</p>	<p>このノード・タイプのノードで、将来のセーフティ要因を将来の在庫状況に適用する場合、このフラグをチェックします。 注: セーフティ要因を適用するには、供給タイプとスケジューリング・ルールでもこのフラグをチェックする必要があります。セーフティ要因について詳しくは、56 ページの『在庫状況のセーフティ要因』を参照してください。</p>
-----------------------------------	--

在庫ノード・タイプ・ルールの変更

このタスクについて

在庫ノード・タイプ・ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ノード・タイプ・ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ノード・タイプ・ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する在庫ノード・タイプ・ルールを選択して、 を選択します。「サービス・スロット・グループの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、69 ページの表 21 を参照してください。
4.  をクリックします。

在庫ノード・タイプ・ルールの削除

このタスクについて

在庫ノード・タイプ・ルールを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「在庫ノード・タイプ・ルール」を選択します。作業領域に、「在庫ノード・タイプ・ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する在庫ノード・タイプ・ルールを選択して、 を選択します。

第 8 章 リソースのキャパシティーの構成

リソースのキャパシティーのコンポーネントは、配達サービス・アイテムおよび提供サービス・アイテムの在庫状況を判別するために使用されます。リソースのキャパシティーの在庫状況を使用すれば、特定のタイム・スロットおよび地理的地域の、定義された単位の配達サービスまたは提供サービス（あるいはその両方）の予定を決定できます。

配達サービスおよび提供サービスの構成については、「カタログ管理: 構成ガイド」を参照してください。

キャパシティー・ルールの定義

このタスクについて

キャパシティー予約有効期限を設定し、複数のサービス・スロットにわたるリソースのキャパシティーの割り当てを許可するルールを定義できます。

キャパシティー・ルールを定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「リソースのキャパシティー」>「キャパシティー・ルール」を選択します。「キャパシティー・ルール」ウィンドウが表示されます。

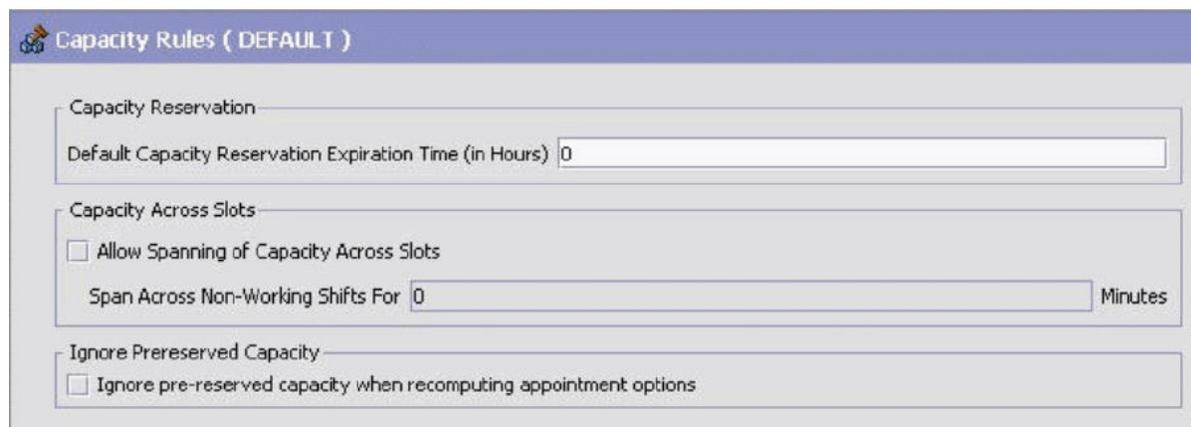


表 22. 「キャパシティー・ルール」ウィンドウ

フィールド	説明
キャパシティー予約	
キャパシティー予約が期限切れになるまでのデフォルト時間 (時間数)	キャパシティー予約が期限切れになるまでの時間数を入力します。有効期限時刻が過ぎると、予約はページの対象となります。
複数スロットにわたるキャパシティー	

表 22. 「キャパシティー・ルール」 ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
複数スロットにわたるキャパシティーの許可	複数のサービス・スロットにわたるサービス・リソース・キャパシティーの割り当てを許可するには、このボックスにチェックを付けます。 注: このオプションは、サービス・リソース・レベルでキャパシティーを管理し、階層ではないサービス・スロット・グループを持つリソース・プールでのみ使用可能です。
次の非就業シフトにわたる: <n> 分	シフトが、その隣接する非就業シフト (複数可) にわたることのできる分数を入力します。
事前予約キャパシティーを無視する	
予定オプションの再計算時に事前予約キャパシティーを無視する	キャパシティーの計算で事前予約キャパシティーを考慮しない場合は、このボックスにチェックを付けます。

2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、71 ページの表 22 を参照してください。
3.  を選択します。

リソース・プールの地域使用の定義

このタスクについて

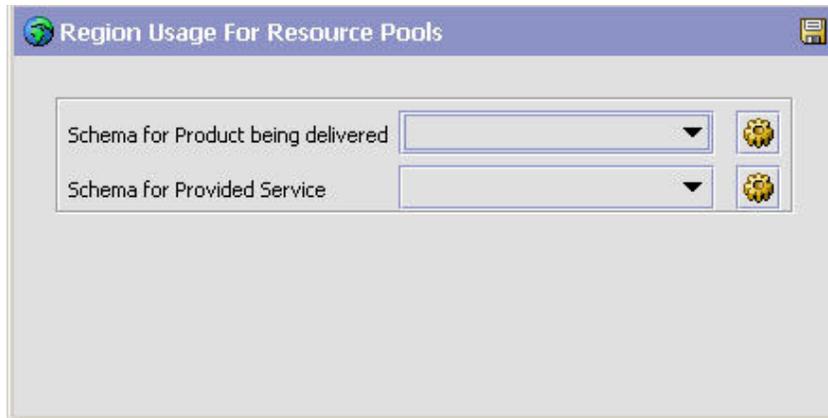
地域スキーマは、特定のジオグラフィーを定義する地域の完全階層セットです。地域は、特定の領域で構成されます。例えば、各都道府県や市区町村全体の地域を作成できます。地域スキーマの構成については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

配達サービス・リソース・プールおよび提供サービス・リソース・プールの構成に使用する地域スキーマを定義できます。リソース・プールについては、78 ページの『リソース・プールの定義』を参照してください。

リソース・プールの地域使用を定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「リソースのキャパシティー」>「リソース・プールの地域使用」を選択します。「リソース・プールの地域使用」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



2. 「配達する製品のスキーマ」から、配達サービス・リソース・プールの作成時に使用する地域スキーマを選択します。

既存のリソース・プールがあり、それらに地域を追加済みである場合、「配達する製品のスキーマ」は選択できません。

3. 「提供サービスのスキーマ」から、提供サービス・リソース・プールの作成時に使用する地域スキーマを選択します。

既存のリソース・プールがあり、それらに地域を追加済みである場合、「提供サービスのスキーマ」は選択できません。

4.  を選択します。

スロット・グループの定義

スロット・グループとは、サービス・スロットの集合のことです。サービス・スロットは、サービス・アイテム約束を行うことができる期間と定義されます。

複数のスロットやスロット・グループを定義することで、それぞれのリソース・プールについて異なる精度の予定をスケジューリングできます。例えば、4 時間の期間を約束するサービス・スロットで構成されるスロット・グループを、配達サービス・リソース・プールに関連付け、2 時間の期間を約束するサービス・スロットで構成されるスロット・グループを、提供サービス・リソース・プールに関連付けることができます。

スロット・グループ内のスロットは、さまざまなレベルの階層で定義できます。階層スロット・グループは、親スロットと続く子スロットで構成できます。例えば、終日スロットが親スロットと見なされる場合、終日スロット内の午前スロットおよび午後スロットは子スロットと見なされます。子スロットそのものは、多数の連続する子スロットに分岐させることができます。例えば、午前スロットは AM1 と AM2 に分割し、午後スロットは PM1 と PM2 に分割することができます。

スロット・グループ内では、キャパシティーがリソース・プール・レベルで維持されるときは、スロットがオーバーラップする可能性があります。例えば、親スロットが 08:00 から 18:00 までの範囲である場合、子スロットは 08:00 から 13:00 までと、12:00 から 18:00 までというようにできます。

リソース・プールに関連付けられたスロット・グループは、サービス・リソース・レベルでキャパシティーを維持し、階層内の同じレベルでのスロットのオーバーラップは許可しません。例えばスロット・グループは、親レベルで終日スロットを持ち、午前スロットと午後スロットを子スロットとして持つようにできます。

注: スロット・グループは、キャパシティー組織により定義され、キャパシティーを提供する組織によっては定義されません。

スロット・グループとリソース・プールとの関連付けについては、78 ページの『リソース・プールの定義』を参照してください。

スロット・グループの作成

このタスクについて

スロット・グループを作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「リソースのキャパシティー」>「スロット・グループ」を選択します。作業領域に、「サービス・スロット・グループ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「サービス・スロット・グループの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、75 ページの表 23 を参照してください。
4.  を選択します。

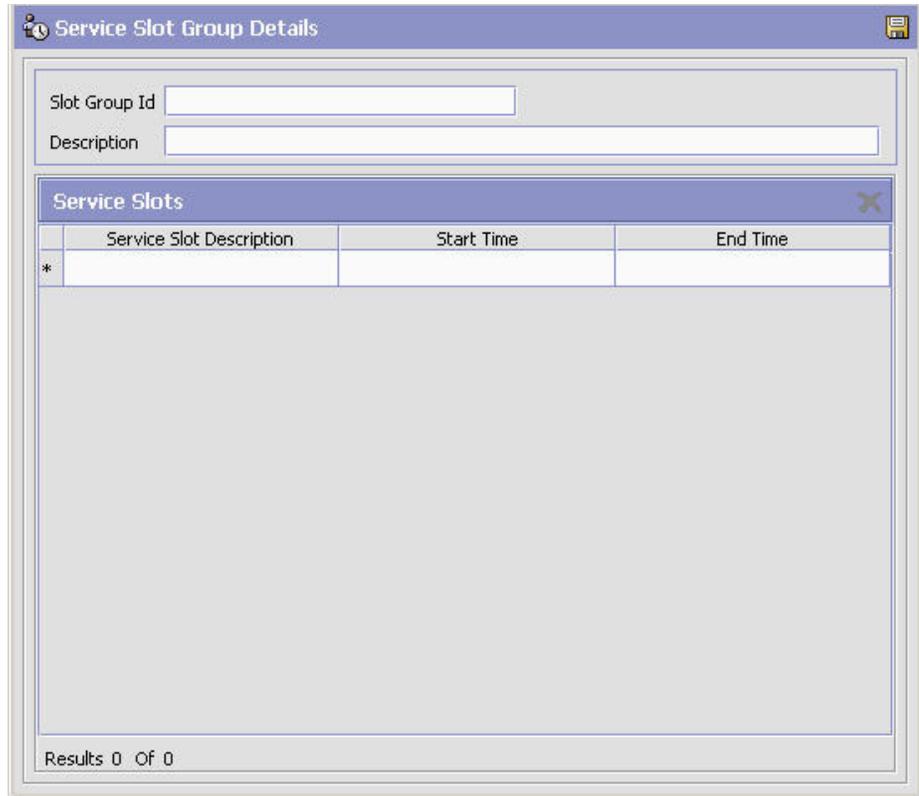


表 23. 「サービス・スロット・グループの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
スロット・グループ ID	スロット・グループの名前を入力します。
説明	スロット・グループの簡単な説明を入力します。
サービス・スロット	このスロット・グループのサービス・スロットのリストです。

階層サービス・スロットの作成

このタスクについて

階層サービス・スロットを作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルール・サイド・パネルのツリーから、「リソースのキャパシティー」>「スロット・グループ」を選択します。作業領域に、「サービス・スロット・グループ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するスロット・グループを見つけ、 を選択します。「サービス・スロット・グループの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 子スロットをその下に作成する必要があるサービス・スロットを選択します。
4.  を選択します。「サービス・スロットの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、76 ページの表 24 を参照してください。

6.  を選択します。

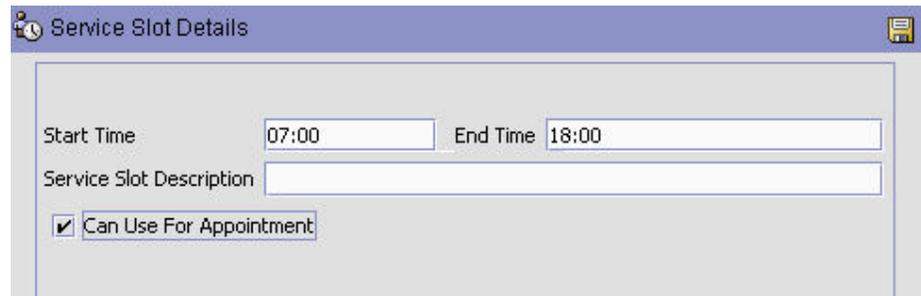


表 24. 「階層サービス・スロットの作成 (Creating Hierarchical Service Slots)」画面

フィールド	説明
サービス・スロットの説明	サービス・スロットの簡単な説明を入力します。
開始時刻	サービス・スロットの開始時刻を入力します。
終了時刻	サービス・スロットの終了時刻を入力します。
予定に使用可能	このスロットを予定の計画のために使用するには、このチェック・ボックスを選択します。 一部のビジネス・ケースでは、特定の親スロットは、その子スロットの最大使用可能キャパシティーを設定するためのみに使用され、実際には予定の計画のためには使用されません。これらのスロットは、その子スロットに対する過大約束を防止するように構成されています。したがって、ユーザーはスロットを予定の計画のために使用できるかどうかを構成する必要があります。スロットが予定の計画のために使用できないように構成されている場合は、予定の計画時にそのスロットは使用可能なオプションとして表示されます。したがって、この構成では、終日スロットが予定の計画のために使用できないように構成されている場合は、予定の計画時に午前と午後のスロットのみが使用可能として表示されます。

スロット・グループの変更 このタスクについて

スロット・グループを変更するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルール・サイド・パネルのツリーから、「リソースのキャパシティー」>「スロット・グループ」を選択します。作業領域に、「サービス・スロット・グループ」画面が表示されます。
2. 該当するスロット・グループを見つけ、 を選択します。「サービス・スロット・グループの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、75 ページの表 23 を参照してください。
4.  を選択します。

階層サービス・スロットの変更

このタスクについて

階層サービス・スロットを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「リソースのキャパシティー」>「スロット・グループ」を選択します。作業領域に、「サービス・スロット・グループ」画面が表示されます。
2. 該当するスロット・グループを選択して、 を選択します。「サービス・スロット・グループの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するスロットを選択して、 を選択します。「サービス・スロットの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、75ページの表 23 を参照してください。
5.  を選択します。

スロット・グループの削除

スロット・グループを削除する手順は、次のとおりです。

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「リソースのキャパシティー」>「スロット・グループ」を選択します。作業領域に、「サービス・スロット・グループ」画面が表示されます。
2. 該当するスロット・グループを見つけ、 を選択します。

階層サービス・スロットの削除

このタスクについて

階層サービス・スロットを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「リソースのキャパシティー」>「スロット・グループ」を選択します。作業領域に、「サービス・スロット・グループ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するスロット・グループを見つけ、 を選択します。
3. 該当するスロットを選択して、 を選択します。

子スロットのある親スロットは削除できません。したがって、子スロットを削除してから親スロットを削除する必要があります。

リソース・プールの定義

配達サービスおよび提供サービスは、定義済みのサービス・ノードによって提供されます。サービス・ノードは、複数の配達サービスおよび提供サービスを提供できます。リソース・プールでは、これらのサービスに利用可能なサービス・キャパシティーを地理的領域およびタイム・スロット別に定義することができます。リソース・プールは、配達サービスまたは提供サービスを実施するのに必要なリソースの集合です。リソース・プールは、キャパシティーを提供する組織によって定義されます。

注: エンタープライズ・ユーザーがリソース・プールまたは他のエンタープライズのキャパシティーにアクセスする場合、ユーザーは他のエンタープライズのキャパシティー組織にアクセスする必要があります。さらに、データ・アクセス・ポリシーを有効にする必要があります。

ノード・キャパシティー組織の構成については、*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド* を参照してください。

リソース・プールは、以下のコンポーネントで構成されます。

- サービス・スロット・グループ
- リソース・カレンダー
- 配達製品またはサービス・アイテム
- サービス対象地域
- 標準キャパシティー定義
- チーム・メンバー

リソース・プールの作成と変更

このタスクについて

リソース・プールを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「リソースのキャパシティー」>「リソース・プール」を選択します。作業領域に、「リソース・プールの検索」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「リソース・プールの作成」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、79 ページの表 25 を参照してください。

表 25. 「リソース・プールの作成」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
リソース・プール ID	表示するリソース・プール名を入力します。
キャパシティー組織	このリソース・プールでキャパシティーを維持する組織を選択します。
リソース・プールの説明	リソース・プールの短い説明を入力します。
サービス・スロット・グループ	サービス約束の決定に使用するサービス・スロット・グループを選択します。サービス・スロット・グループの構成について詳しくは、73 ページの『スロット・グループの定義』を参照してください。 重要: サービス・スロット・グループを変更する場合、キャパシティー・コンソールで元のスロット・グループのキャパシティーをリセットしてください。キャパシティーを利用不可にする必要があります。キャパシティー・コンソールの使用について詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Global Inventory Visibility User Guide』を参照してください。
地域スキーマ	このリソース・プールに関連付ける地域スキーマを選択します。
キャパシティーの情報がある	このリソース・プールをキャパシティーのソースとして考慮してよいことを示すには、これを選択します。これを選択しない場合、無限のキャパシティーが考慮されます。
キャパシティーをリソース・レベルで維持する	このリソース・プールに対してキャパシティーをリソース・レベルで維持することを示すために選択します。
アイテム・グループ	
提供サービス	リソース・プールを 1 つ以上の提供サービスに対して構成する場合、これを選択します。
配達サービス	リソース・プールを 1 つ以上の配達サービスに対して構成する場合、これを選択します。
キャパシティーの単位	このリソース・プールで使用するキャパシティーの単位を選択します。キャパシティーの単位の定義について詳しくは、「カタログ管理: 構成ガイド」を参照してください。

表 25. 「リソース・プールの作成」 ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
ノード	リソース・プールに関連付けるノードを選択します。

4.  を選択します。「リソース・プールの詳細」ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 26 を参照してください。
6.  を選択します。

図 19. リソース・プールの詳細

表 26. 「リソース・プールの詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
リソース・プール ID	表示するリソース・プール名。
ノード	リソース・プールに関連付けるノード。
キャパシティー組織	このリソース・プールでキャパシティーを維持する組織。
キャパシティーの単位	このリソース・プールで使用するキャパシティーの単位。
アイテム・グループ	このリソース・プールが配達サービス用か提供サービス用かを示します。
リソース・プールの説明	リソース・プールの短い説明を入力します。
サービス・スロット・グループ	サービス約束の決定に使用するサービス・スロット・グループを選択します。サービス・スロット・グループの構成については、73 ページの『スロット・グループの定義』を参照してください。

表 26. 「リソース・プールの詳細」 ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
管理者 ID	<p>ドロップダウン・リストから、管理者 ID を選択します。</p> <p>Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、サービス作業オーダーで使用する管理者を決定する際、ノードとセラー組織の組み合わせに対する管理者 ID を探し、次にリソース・プールの管理者を探し、どちらの管理者も見つからなかった場合はノードのデフォルト管理者を探します。</p> <p>管理者として選択できる新規ユーザーを追加するには、 をクリックします。構成しているノードのコンテキストにユーザーが追加されます。ユーザーの構成については、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド</i>」を参照してください。</p> <p>サービス管理者の構成については、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide</i>』を参照してください。</p>
キャパシティーの情報があ る	<p>このリソース・プールをキャパシティーのソースとして考慮してよいことを示すには、「キャパシティーの情報があ る」を選択します。</p>
キャパシティーをリソ ース・レベルで維持する	<p>このリソース・プールに対してキャパシティーをサービス・リソース・レベルで維持することを示すには、このフィールドを選択します。</p> <p>リソース・プールでキャパシティーを時間に基づく単位で測定する場合、キャパシティーはサービス・リソース・レベルでのみ維持できます。</p> <p>注: この機能は、将来のリリースのために指定されています。</p>
カレンダー	
ノードのカレンダーを使用	<p>このノードに対して「参加者モデリング」で定義された出荷カレンダーを使用してリソース状況を決定する場合、「ノードのカレンダーを使用」を選択します。カレンダーの構成とノードのカレンダーの定義については、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド</i>』を参照してください。</p>
カレンダーの選択	<p>ノードで定義された出荷カレンダーを別のカレンダーでオーバーライドしてリソース状況を決定する場合、「カレンダーの選択」を選択します。カレンダーの定義については、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド</i>』を参照してください。</p>
カレンダー	<p>「カレンダーの選択」を選択した場合、リソース状況を決定するために使用するカレンダーを選択します。ノードのカレンダーに加えてノードの主要エンタープライズのカレンダーがドロップダウン・リストに表示されます。</p>
サービス・スキル	
サービス・スキル ID	サービス・スキルの ID。
説明	サービス・スキルの説明。

表 26. 「リソース・プールの詳細」 ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
プロバイダーの連絡先住所	このリソース・プールを提供する組織の連絡先住所。
地域	
サービス固有の地域	「地域」の表から特定のサービス地域を定義できるようにするには、「サービス固有の地域」を選択します。
すべての地域にサービス提供	このリソース・プールで、地域使用で構成されているすべての地域にサービスを提供できることを示すには、「すべての地域にサービス提供」を選択します。
地域のみ	このリソース・プールで、指定された地域に対して選択された日のすべてのタイム・スロットにわたってサービスを提供する場合、「地域のみ」を選択します。 注: このラジオ・ボタンを選択した場合、「地域とスロット」ラジオ・ボタンを選択するには、このリソース・プールに関連付けられたすべての地域を削除する必要があります。
地域とスロット	このリソース・プールで、1 日のうち指定されたタイム・スロットでのみサービスを提供する場合、「地域とスロット」を選択します。 注: このラジオ・ボタンを選択した場合、「地域のみ」ラジオ・ボタンを選択するには、このリソース・プールに関連付けられたすべての地域を削除する必要があります。
地域	このリソース・プールによってサービスを提供される地域のリスト。 リソース・プールへの地域の追加について詳しくは、83 ページの『リソース・プールでサービスを提供される地域の追加』を参照してください。 リソース・プールからの地域の削除について詳しくは、84 ページの『リソース・プールからのサービス地域の削除』を参照してください。
リソース	
リソース ID	リソースの ID。
カレンダー ID	リソースで使用するカレンダーのカレンダー ID。
メモ	このリソースに関する追加メモ。
追加キャパシティー限度	
重量によるキャパシティー制限	キャパシティーを重量で制限する場合、このボックスをチェックします。 「重量単位」ドロップダウン・リストから、適切な単位を選択します。
容積によるキャパシティー制限	キャパシティーを容積で制限する場合、このボックスをチェックします。 「容積単位」ドロップダウン・リストから、適切な単位を選択します。

注: 同じ単位タイプに対して構成された追加キャパシティー制限は、変更できません。ただし、キャパシティー制限のうち 1 つが構成されていない場合のみ、変更が可能です。

注: 提供サービスについては、プロバイダー組織に属するノードのみが表示されます。配達サービスについては、プロバイダーのノードに属するかどうかにかかわらず、すべてのノードが表示されます。

サービス・スキルのリソース・プールへの追加

このタスクについて

複数のサービス・スキルをリソース・プールに追加できます。リソース・プールでは、指定されたサービス・スキルに対してのみサービスを実行できます。例えば、配管工のセットで構成されるリソース・プールは、複数の取り付けサービス (洗濯機の組み立ておよび冷蔵庫の組み立てなど) を提供できます。必要なサービス・スキルは、配管のスキルおよび電気のスキルのように、複数の取り付けスキルの場合があります。

サービス・スキルをリソース・プールに追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「リソース・プールの詳細」ウィンドウで、 をサービス・スキル表から選択します。「サービス・スキル・リスト (Service Skills List)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
2. 該当するサービス・スキルを選択して、 を選択します。サービス・スキルがサービス・スキル・テーブルに追加されます。

リソース・プールからのサービス・スキルの削除

このタスクについて

リソース・プールからサービス・スキルを削除するには、「リソース・プールの詳細」ウィンドウで該当するサービス・スキルをサービス・スキル・テーブルから選択して、 を選択します。

リソース・プールでサービスを提供される地域の追加

このタスクについて

リソース・プールがサービスする地理的領域のセットを定義する地域を関連付けることができます。また、リソース・プールが特定の地域にサービスする曜日および時刻の指定、ならびに地域がリソース・プールの基本地域かどうかを指定できます。地域に基本地域としてマークが付いていなければ、基本地域としてマークが付いた地域を使用して構成されることがあるその他のすべてのリソース・プールに、使用可能な容量がないかどうかのみ考慮されます。地域および地域スキーマの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

注: 配達サービスのリソース・プールを構成する場合、追加する地域は、リソース・プールを使用するために配達サービスに関連付けた地域スキーマに属する必要があります。

注: 提供サービスのリソース・プールを構成する場合、追加する地域は、リソース・プールを使用するために提供サービスに関連付けた地域スキーマに属する必要があります。

注: リソース・プールを使用するための地域スキーマの関連付けについては、72 ページの『リソース・プールの地域使用の定義』を参照してください。

地域をリソース・プールに追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「リソース・プールの詳細」ウィンドウで、特定日のすべてのタイム・スロットに地域を追加する場合は、「地域 (By Regions)」ラジオ・ボタンを選択します。また、特定の地域にサービスする時刻を選ぶ場合は、「地域とスロット」を選択します。地域表から  をクリックします。「地域検索」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力してから、 をクリックします。地域のリストが表示されます。
3. リソース・プールに追加する地域を選択して、 をクリックします。地域が、「リソース・プールの詳細」ウィンドウ内の地域表に追加されます。
 - 子地域を選択する場合、または地域階層を使用して参照する場合、該当する親地域を選択して、 を選択します。「地域の探索」ポップアップ・ウィンドウで、地域ツリーから該当する子地域を選択し、 を選択します。また、このウィンドウ内をナビゲートして、選択する地域が見つかるまで、完全な地域階層内を参照することができます。
4. 地域表で、リソース・プールが地域の基本提供者の場合、「基本」チェック・ボックスを選択します。さらに、リソース・プールが地域へサービスを提供できる場合に該当すれば、各タイム・スロットの曜日のチェック・ボックスを選択します。

リソース・プールからのサービス地域の削除

このタスクについて

リソース・プールからサービス地域を削除するには、「リソース・プールの詳細」ウィンドウで該当する地域を地域テーブルから選択して、 を選択します。

サービス・リソースの作成と変更

このタスクについて

サービス・リソースは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation において、チームとして作業する 1 人以上の人を定義するために使用され、提供サービスや配達サービスを実行できる単一のエンティティとして表されます。それぞれのリソースには、それが属するリソース・プールのノードで定義されたカレンダーから 1 つを

選択するか、ノードの出荷カレンダーを使用することで関連付けられるカレンダーがあります。サービス・リソースは、単一のリソース・プールに関連付けられません。

アプリケーション・コンソールで作業オーダー・タスクを実行するために選択できるサービス・リソースにチームメンバーを関連付けることもできます。

リソース用のリソースを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「リソース・プールの詳細」ウィンドウで、「リソース」の表から  を選択します。「サービス・リソースの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されません。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 27 を参照してください。

表 27. 「サービス・リソースの詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
リソース ID	表示するリソース名。
カレンダー	
ノードのカレンダーを使用	構成するサービス・リソースで、リソース・プールが関連付けられているノードの出荷カレンダーを使用する場合、このオプションを選択します。
カレンダーを使用 (Use Calendar)	構成するサービス・リソースで、ノードの出荷カレンダーではないカレンダーを使用する場合、このオプションを選択します。
カレンダー	サービス・リソースで使用するカレンダーを選択します。ノードのカレンダーに加えてノードの主要エンタープライズのカレンダーがドロップダウン・リストに表示されます。
連絡先住所	サービス・リソースの連絡先住所。 住所を入力する場合は、  を選択します。 追加の連絡先情報を表示するには、「連絡先情報」タブを選択します。
チーム・メンバー	
サービス・リソースにチーム・メンバーを追加するには、この内部パネルを使用します。これらのチーム・メンバーは、このリソースが予定を実行するために選択されたときに、作業オーダー予定に加えられます。	
<ul style="list-style-type: none"> • サービス・リソースにチーム・メンバーを追加するには、 をクリックします。 • 選択したチーム・メンバーをサービス・リソースから削除するには、 を選択します。 	
ユーザー ID	このリソースに関連付けるチーム・メンバーの ID。
ユーザー名	このリソースに関連付けるチーム・メンバーの名前。
メモ	
追加メモがある場合は、ここに追加します。	

3.  を選択します。

サービス・リソースの削除

このタスクについて

サービス・リソースをリソース・プールから削除するには、「リソース・プールの詳細」ウィンドウで、該当するサービス・リソースをリソース・テーブルから選択して、 を選択します。

リソース・プールの削除

このタスクについて

リソース・プールを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「リソースのキャパシティー」>「リソース・プール」を選択します。作業領域に、「リソース・プールの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。リソース・プールのリストが表示されます。
3. 該当するリソース・プールを選択して、 を選択します。

第 9 章 付加価値サービスの構成

付加価値サービス (VAS) は、顧客の需要を満たすために実行されます。さまざまなタイプの VAS アクティビティーには、以下のものが含まれます。

- T シャツのモノグラミング
- バイヤーの指定に合わせたコンピューターの作成
- より大きいボックスから個々のボックスへの分割
- ソファアの染み防止
- 自宅での PC の設置

上記の例が示唆するように、アクティビティーに関連した付加価値サービスは、出荷プロセスの前および後のどちらにも適用されます。

付加価値サービスの供給をサポートするために、ウェアハウスには、付加価値サービスが行われる「付加価値サービス」域が存在する場合があります。これらのアクティビティーには、パッケージ、モノグラミング、およびチケット発行を含めることができます。取り出しとルールについては、このセクションでさらに定義します。

付加価値サービス: アクティビティーの定義

ウェアハウスのアクティビティーは、アクティビティー・グループにグループ化されます。アクティビティー・グループの例としては、受入、VAS、ピッキング、およびパッキングなどがあります。

各アクティビティー・グループは、実行される各アクティビティーを定義するアクティビティー・コードに関連付けられています。例えば、受入アクティビティー・グループには、事前受入、品質管理、および受入の各アクティビティーがあります。

アクティビティー・コードの作成

このタスクについて

アクティビティー・コードを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「輸送」>「アクティビティー」を選択します。「アクティビティーの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、88 ページの表 28 を参照してください。
3.  を選択します。

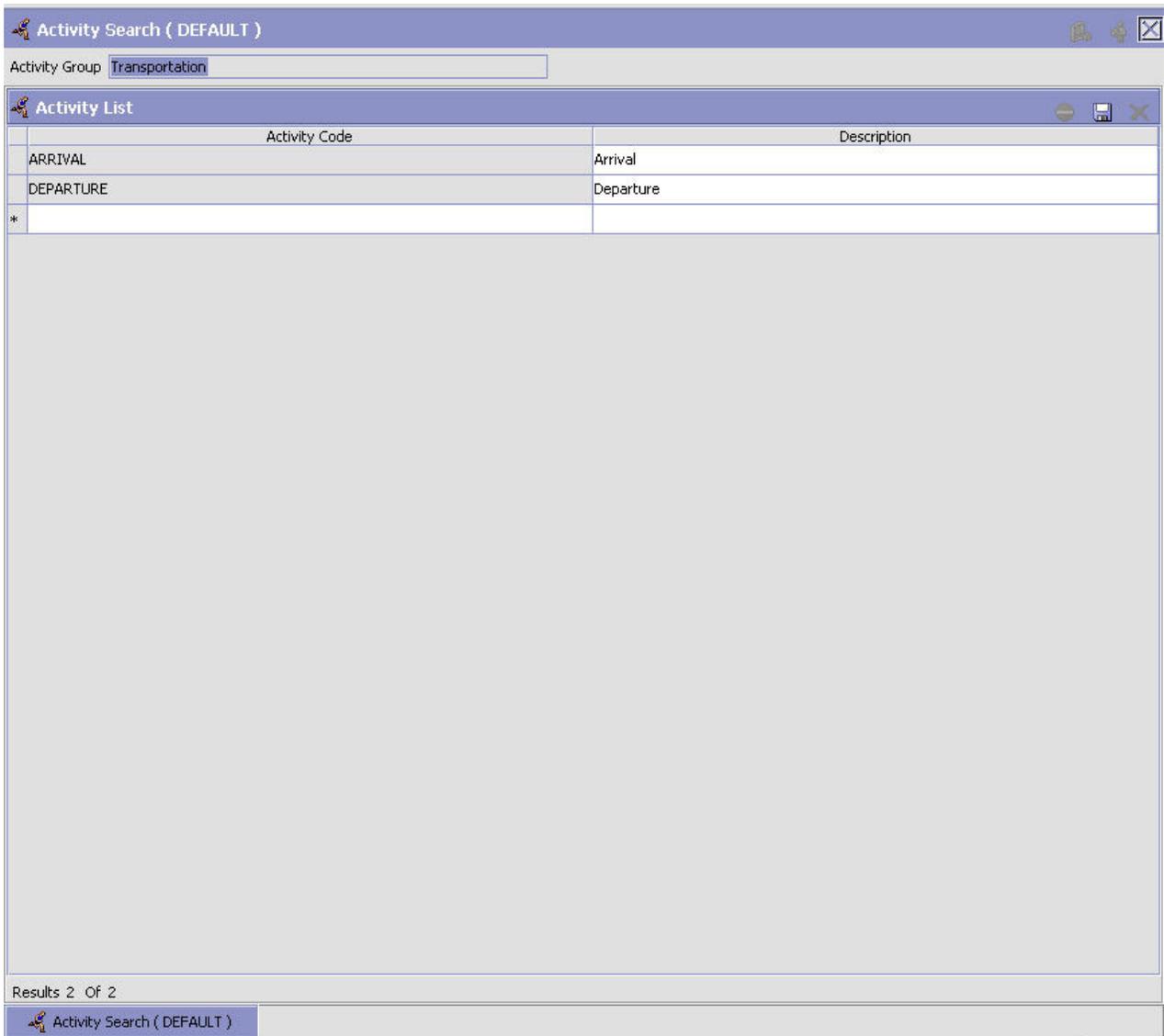


表 28. 「アクティビティの検索」 ウィンドウ

フィールド	説明
アクティビティ・グループ	このフィールドは、システムによって自動的に「Transportation」と入力されます。
アクティビティのリスト	
アクティビティ・コード	アクティビティ・コードの名前を入力します。 このアクティビティ・コードは、アクティビティの固有ID になります。
説明	アクティビティ・コードの短い説明を入力します。

アクティビティ・コードの変更 このタスクについて

アクティビティ・コードを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「輸送」>「アクティビティ」を選択します。「アクティビティの検索」ウィンドウに、アクティビティのリストが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、88ページの表 28 を参照してください。
3.  を選択します。

注: Sterling WMS によって提供されたアクティビティ・コードのリストは変更しないでください。

アクティビティ・コードの削除

このタスクについて

アクティビティ・コードを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「輸送」>「アクティビティ」を選択します。「アクティビティの検索」ウィンドウに、アクティビティのリストが表示されます。
2. 削除するアクティビティ・コードを選択します。
3.  を選択します。

注: Sterling WMS によって提供されたアクティビティ・コードのリストは変更しないでください。

作業オーダーのキャンセル理由の定義

理由コードは、作業オーダー要請の取り消しに関連付けられます。作業オーダーを取り消す場合は、作業オーダー・キャンセル理由を入力する必要があります。したがって、少なくとも作業オーダー・キャンセルのデフォルト値を構成する必要があります。

注: 作業オーダー・キャンセル理由コードの表示は、エンタープライズ・ユーザーおよびノード・ユーザーに対してのみ可能です。

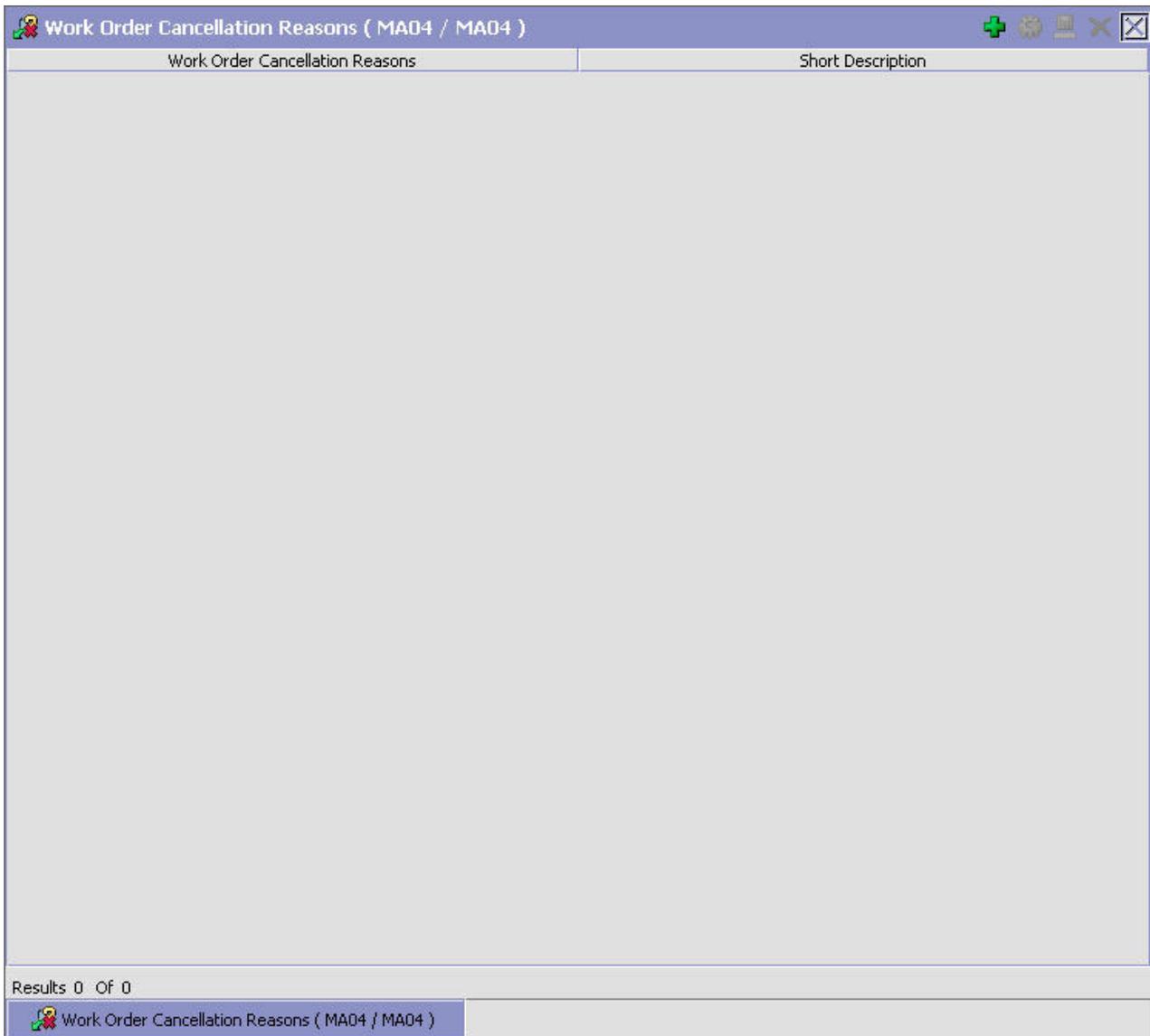
作業オーダーのキャンセル理由の作成

このタスクについて

作業オーダーのキャンセル理由を作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「作業オーダーのキャンセル理由」を選択します。「作業オーダーのキャンセル理由」ウィンドウが表示されます。



2. 「作業オーダーのキャンセル理由」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「キャンセル理由の詳細 (Cancellation Reason Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、91 ページの表 29 を参照してください。
5.  を選択します。



表 29. 「キャンセル理由コードの詳細 (Cancellation Reason Code Details)」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
キャンセル理由	作業オーダーのキャンセル理由コードを入力します。
簡略説明	作業オーダーのキャンセル理由コードの簡単な説明を入力します。
詳細説明	作業オーダーのキャンセル理由コードの詳細な説明を入力します。

既存の作業オーダーのキャンセル理由から新規作業オーダーのキャンセル理由の作成

このタスクについて

既存の作業オーダーのキャンセル理由から新規作業オーダーのキャンセル理由を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「作業オーダーのキャンセル理由」を選択します。「作業オーダーのキャンセル理由」ウィンドウが表示され、作業オーダーのキャンセル理由コードのリストが表示されます。
2. コピーする作業オーダーのキャンセル理由を選択します。
3.  を選択します。「キャンセル理由の詳細 (Cancellation Reasons Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 29 を参照してください。
5.  を選択します。

作業オーダー・キャンセル理由の変更

このタスクについて

作業オーダー・キャンセル理由を作成した後に、これを変更することができます。

作業オーダー・キャンセル理由を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「作業オーダーのキャンセル理由」を選択します。「作業オーダーのキャンセル理由」ウィンドウが表示され、作業オーダーのキャンセル理由コードのリストが表示されます。
2. 変更する作業オーダー・キャンセル理由を選択します。
3.  を選択します。「キャンセル理由の詳細 (Cancellation Reason Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、91 ページの表 29 を参照してください。
5.  を選択します。

作業オーダーのキャンセル理由の削除 このタスクについて

作業オーダーのキャンセル理由コードを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「作業オーダーのキャンセル理由」を選択します。「作業オーダーのキャンセル理由」ウィンドウが表示され、作業オーダーのキャンセル理由コードのリストが表示されます。
2. 削除する作業オーダーのキャンセル理由を選択します。
3.  を選択します。

割り当ての考慮事項の定義

以下のサービス・アイテム・グループ・コードの 1 つに属しているサービス・アイテムの作業オーダーは、確認時に結果として在庫変換となることがあります。

- KIT - キット化
- DKIT - キット化解除
- COMPL - コンプライアンス
- INVC - 在庫の変更

割り当ての考慮事項構成は、このような在庫変換に対する可視性を提供するために、Sterling Selling and Fulfillment Foundation により使用されます。例えば、以下のようになります。

- 作業オーダーの作成時には、元の在庫 (消費された在庫) に対して需要が出され、新規在庫 (作成された在庫) に対する供給が増やされます。

注: 増やされた供給は、手持ちの供給ではありません。これは将来入手可能になる指示的な供給です。

注: 増やされた需要は、約束された需要ではありません。

- 作業オーダーが割り当てられると、出された需要は、約束された需要を示すように変更されます。供給も、着荷の可能性が増えたことを示すように変更されることがあります。

注: これらの需要と供給は、在庫の状況を評価するために使用できます。

- 作業オーダーを確認すると、元の在庫の供給は削除され、新規在庫の供給が作成されます。

作業オーダー割り当ての考慮事項の作成 このタスクについて

作業オーダー割り当ての考慮事項を作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「割り当ての考慮事項」を選択します。「作業オーダー割り当ての考慮事項」ウィンドウが表示されます。

Work Order Allocation Considerations (DEFAULT)		
Service Item Group	Demand Type for Consumed	Supply Type for Created
KIT	OPEN_ORDER	WO_PLACED
DKIT	OPEN_ORDER	WO_PLACED
INVC	OPEN_ORDER	WO_PLACED
COMPL	OPEN_ORDER	WO_PLACED

Results 4 Of 4

Work Order Allocation Considerations (DEFAULT)

- 「作業オーダー割り当ての考慮事項」ウィンドウで、 を選択します。「作業オーダー割り当ての考慮事項」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
- 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 30 を参照してください。
-  を選択します。

表 30. 「作業オーダー割り当ての考慮事項」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
サービス・アイテム・グループ	割り当ての考慮事項を作成する対象となるサービス・アイテム・グループを選択します。
消費のための需要タイプ	選択したサービス・アイテム・グループの作業オーダーに対して消費された在庫を識別するための需要タイプを関連付けます。
作成済み在庫の供給タイプ	選択したサービス・アイテム・グループの作業オーダーによって作成された在庫を識別するための供給タイプを関連付けます。供給タイプの一般的な値は「手持ち在庫」です。
割り当て済み在庫の需要タイプ	選択したサービス・アイテム・グループの作業オーダーに割り当てられた在庫を識別するための需要タイプを関連付けます。
割り当て済み在庫の供給タイプ	選択したサービス・アイテム・グループの作業オーダーによって割り当てられた在庫を識別するための供給タイプを関連付けます。
消費済み用の実際の供給タイプ	選択したサービス・アイテム・グループの作業オーダーに割り当てられた在庫を識別するための実際の需要タイプを関連付けます。
作成済み用の実際の供給タイプ	選択したサービス・アイテム・グループの作業オーダーによって作成された在庫を識別するための実際の供給タイプを関連付けます。

作業オーダー割り当ての考慮事項の変更 このタスクについて

作業オーダー割り当ての考慮事項を作成した後に、これを変更することができます。

作業オーダー割り当ての考慮事項を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「割り当ての考慮事項」を選択します。「作業オーダー割り当ての考慮事項」ウィンドウに、作業オーダー割り当ての考慮事項のリストが表示されます。
2. 変更する作業オーダー割り当ての考慮事項を選択します。
3.  を選択します。「作業オーダー割り当ての考慮事項」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、94 ページの表 30 を参照してください。
5.  を選択します。

作業オーダー割り当ての考慮事項の削除 このタスクについて

作業オーダー割り当ての考慮事項を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「割り当ての考慮事項」を選択します。「作業オーダー割り当ての考慮事項」ウィンドウに、作業オーダー割り当ての考慮事項のリストが表示されます。
2. 削除する作業オーダー割り当ての考慮事項を選択します。
3.  を選択します。

付加価値サービスの変更ルールの定義

大半のオーダー伝票種別は、パイプラインを経て流れ、顧客サービス担当者による介入は必要ありません。ただし、必要な数量またはアクティビティーの変更などの、変更が必須となる場合もあります。Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、アプリケーション・コンソールおよび API による変更をサポートします。各変更タイプ、変更レベル、およびステータスの組み合わせに対してどの変更を許可するかを決定することは重要です。

注: システム・デフォルトの一部として許可されていない変更については、それを許可する前に、ビジネスおよびシステム統合への影響について十分に考慮してください。

変更ルールについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 分散オーダー管理 構成ガイド」を参照してください。

付加価値サービスの変更ルールの設定 このタスクについて

VAS 変更ルールを設定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「VAS 変更ルール」を選択します。「変更ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「変更ルール」ウィンドウで、変更ルールを設定する VAS プロセスを選択します。フィールドの値の説明については、97 ページの表 32 を参照してください。
3. 変更を許可するには、 を選択します。
4. 変更を禁止するには、 を選択します。
5. 変更を無視するには、 を選択します。

タスクの結果

変更ルールの定義について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」を参照してください。

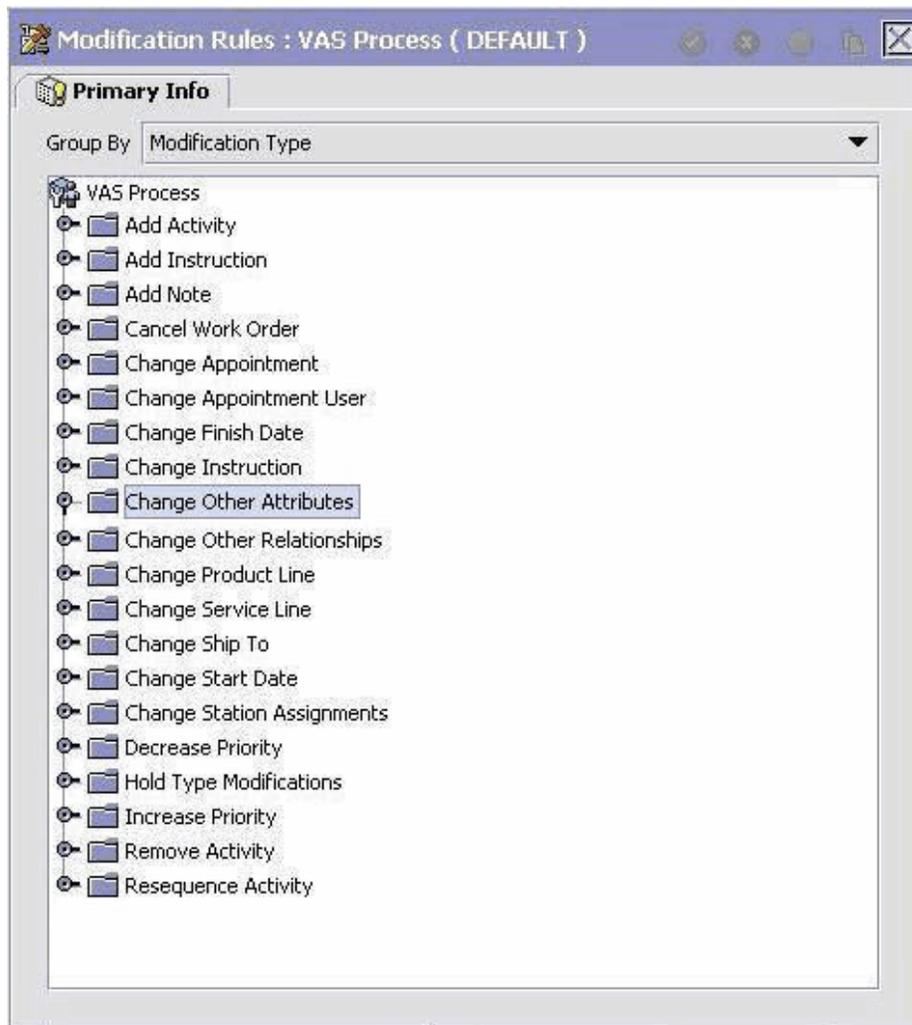


表 31. 「変更ルール」ウィンドウ、分類基準

フィールド	説明
分類基準	VAS 変更ルールを変更タイプ、変更レベル、またはステータスでグループ化して表示します。
変更タイプ	VAS 変更ルールが変更タイプでグループ化されていることを示します。変更タイプごとに、変更レベルでグループ化されたステータスが表示されます。
変更レベル	VAS 変更ルールが変更レベルでグループ化されていることを示します。変更レベルごとに、変更タイプでグループ化されたステータスが表示されます。
ステータス (Status)	VAS 変更ルールがステータスでグループ化されていることを示します。変更タイプごとに、変更レベルでグループ化された変更タイプが表示されます。 ステータスによるグループ化について詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

表 32. 「変更ルール」ウィンドウ、主要情報

フィールド	説明
主要情報	
アクティビティの追加	アクティビティの追加を適切に許可、禁止、または無視します。
指示の追加	指示の追加を適切に許可、禁止、または無視します。
メモの追加	作業オーダーに関連付けられているメモの追加または変更を許可、禁止、または無視します。
作業オーダーのキャンセル	作業オーダーのキャンセルを適切に許可、禁止、または無視します。
予定の変更	作業オーダー予定の追加、削除、または変更を許可、禁止、または無視します。
予定の変更 ユーザー	作業オーダーの予定を完了するために割り当てられたユーザーの追加、削除、または変更を許可、禁止、または無視します。
終了日の変更	タスクが完了しているべき終了日の変更を許可、禁止、または無視します。
指示の変更	指示の変更を適切に許可、禁止、または無視します。
他の属性の変更	他の属性の変更を適切に許可、禁止、または無視します。
他の関係の変更	他の関係の変更を適切に許可、禁止、または無視します。
製品明細の変更	作業オーダーに関連付けられている配達可能な製品明細の追加、削除、または変更を許可、禁止、または無視します。
サービス明細の変更	作業オーダーに関連付けられているサービス明細の追加、削除、または変更を許可、禁止、または無視します。
出荷先の変更	アイテムが提供サービス・アイテムである場合にサービスが行われる、顧客のサービス・ロケーション住所に対する変更を許可、禁止、または無視します。
開始日の変更	開始日の変更を適切に許可、禁止、または無視します。

表 32. 「変更ルール」 ウィンドウ、主要情報 (続き)

フィールド	説明
ステーション割り当ての変更	ステーション割り当ての変更を適切に許可、禁止、または無視します。
優先度の減少	優先度の減少を適切に許可、禁止、または無視します。
保留タイプの変更	作業オーダーが関連付けられている保留タイプの変更を許可、禁止、または無視します。
優先順位を上げる	優先順位の上昇を適切に許可、禁止、または無視します。
アクティビティの削除	アクティビティの削除を適切に許可、禁止、または無視します。
アクティビティの再シーケンス	アクティビティの再シーケンスを適切に許可、禁止、または無視します。
アクティビティ	アクティビティ・レベルにおける変更タイプを適切に許可、禁止、または無視します。
作業オーダー	作業オーダー・レベルにおける変更タイプを適切に許可、禁止、または無視します。

付加価値サービスのプロセス・タイプの詳細の定義

付加価値サービスのプロセス・タイプの詳細は、プロセス・タイプを区別するパラメーターとテンプレートを定義します。

プロセス・タイプ・パイプラインとは、付加価値サービス実行などの伝票種別を、定義済みのプロセスによって手引きする一連のトランザクションとステータスのことです。パイプラインは、フルフィルメント、交渉、出荷、または受入時にドキュメントが経るさまざまなステータスで構成されます。構成するパイプラインに関連するトランザクション (イベント、アクション、および条件から成る) を設定することもできます。

リポジトリ

リポジトリとは、ビジネス・プロセスのワークフローを定義する、エンティティの論理的な集合体です。

リポジトリには、以下のエンティティが含まれています。

- パイプライン
- トランザクション
- ステータス
- 条件
- アクション
- サービス

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、各システム定義プロセス・タイプの基本リポジトリを提供します。リポジトリ内のエンティティの一部は、新規伝票種別の作成時にコピーされます。新規伝票種別の作成について詳しくは、

「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

プロセス・タイプの詳細の定義について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

付加価値サービスのプロセス・タイプの詳細

このタスクについて

付加価値サービスのプロセス・タイプの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「VAS プロセス・タイプの詳細」を選択します。「プロセス・タイプの詳細: 作業オーダー (Process Type Details: Work Order)」ウィンドウが表示されます。
2. プロセス・タイプの主要な情報が該当するフィールドに表示されます。フィールドの値の説明については、100 ページの表 33 を参照してください。

タスクの結果

プロセス・タイプの詳細における主要情報の定義について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

表 33. 「プロセス・タイプの詳細: 作業オーダー (Process Type Details: Work Order)」 ウィンドウ

フィールド	説明
主要情報	
プロセス・タイプ	これは、システムにより自動的に「WO_VAS」に設定されます。
プロセス・タイプ名	これは、プロセス・タイプの名前を示します。
説明	これは、プロセス・タイプの簡単な説明を提供します。

付加価値サービス・プロセス・モデルの定義

付加価値サービス・プロセスは、パイプラインを経てモデル化されます。これはウェアハウスに固有のプロセス構成を表します。ウェアハウスは、各参加エンタープライズに対して固有のプロセスを指定する場合があります。

例えば、あるウェアハウスは、ピックしてカートンへの梱包が完了した後に、出荷用のチケット発行を実行します。

付加価値サービスのプロセス・モデル: パイプラインの決定

パイプラインの決定は、ビジネス・プロセス・ワークフローの開始時に使用されるパイプラインに影響を与える条件のセットアップに使用されます。例えば、組織によっては危険物が含まれる販売オーダーを扱うことがあります。これには 2 つの別個のパイプラインがあり、1 つはオーダー明細に危険物がないオーダーが通過するもので、もう 1 つは、オーダー・プロセスを続ける前に、オーダー明細に危険物が含まれているオーダーが検査のために通過しなければならないものです。組織は、オーダー明細に危険物が含まれているかどうかを判別し、オーダー明細を正しいパイプラインに送信する条件をセットアップするために、パイプラインの決定を使用します。

パイプラインの決定について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

付加価値サービスのプロセス・モデル: ハブ・ルール

「パイプラインの決定」ブランチを展開表示した場合の表示は、ユーザーのログイン時の役割に応じて異なります。「ハブ」の役割としてログインした場合、「ハブ・ルール」が表示されます。「エンタープライズ」の役割でログインしている場合、「ハブ・ルール」とすべてのユーザー作成決定ルール (例えば、「マイ・ルール」) の両方のコンポーネントが表示されます。該当するルールをダブルクリックすると、パイプラインの決定ルールが表示されます。

注: 「エンタープライズ」の役割としてログインした場合、「ハブ・ルール」画面はグレー化されて編集不能になります。

「パイプラインの決定」および「ハブ・ルール」について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

付加価値サービスのプロセス・モデル: パイプライン

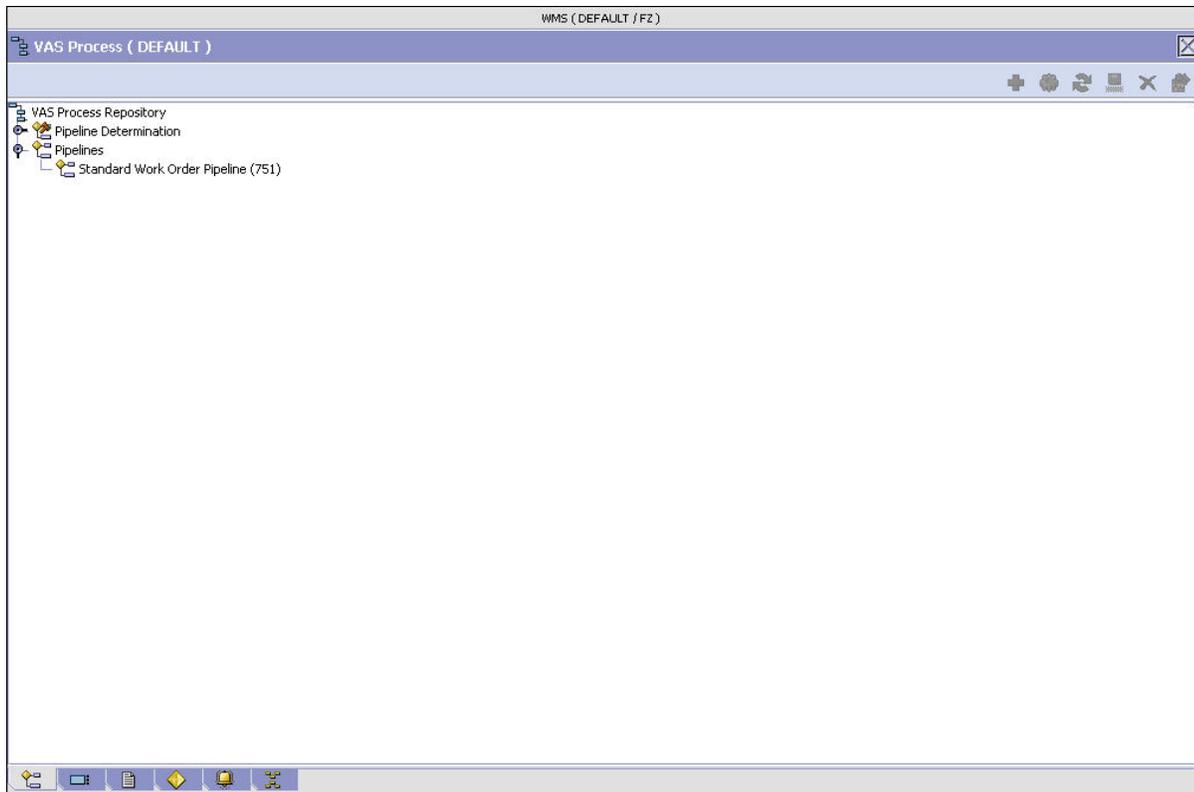
このタスクについて

パイプラインについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

付加価値サービスのパイプラインの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

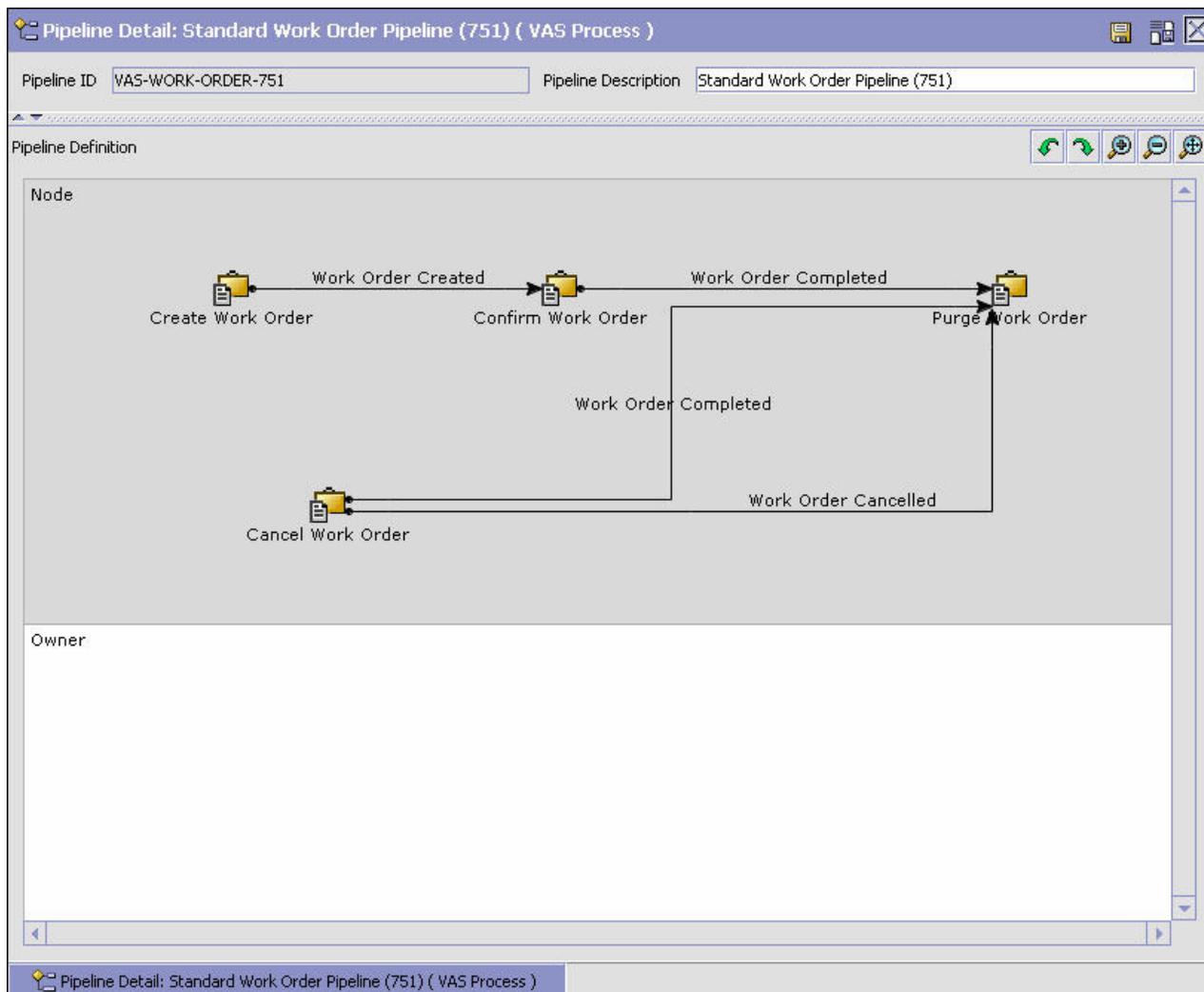
1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「VAS プロセス・モデル」を選択します。「VAS プロセス」ウィンドウが表示されます。



2. 「VAS プロセス」ウィンドウで、「VAS プロセス・リポジトリ (VAS Process Repository)」 > 「パイプライン」 > 「標準作業オーダー・パイプライン」を選択します。
3. 「パイプラインの詳細: 標準作業オーダー・パイプライン (VAS プロセス)」ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

パイプラインの作成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。



付加価値サービスのプロセス・モデル: トランザクション このタスクについて

各プロセス・タイプには、独自に定義された基本トランザクションのセットがあります。トランザクションとは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内でアクティビティを実行するために必要な作業論理単位です。基本トランザクションとは、トランザクションの動作に関する情報（プロセス・タイプにトランザクションのコピーをいくつ保持するか、構成可能な基本ピックアップ/ドロップ・ステータスをプロセス・タイプに含めるかどうかなど）を含む、事前定義されたトランザクションです。基本トランザクションは、新規のトランザクションを作成する場合に使用できます。これらのトランザクションは、基本トランザクションに定義された制限内で変更することができます。

トランザクションについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

付加価値サービスのパイプラインに関するトランザクションの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「VAS プロセス・モデル」を選択します。「VAS プロセス」ウィンドウが表示されます。
2. 「VAS プロセス」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「トランザクション」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

トランザクションの作成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

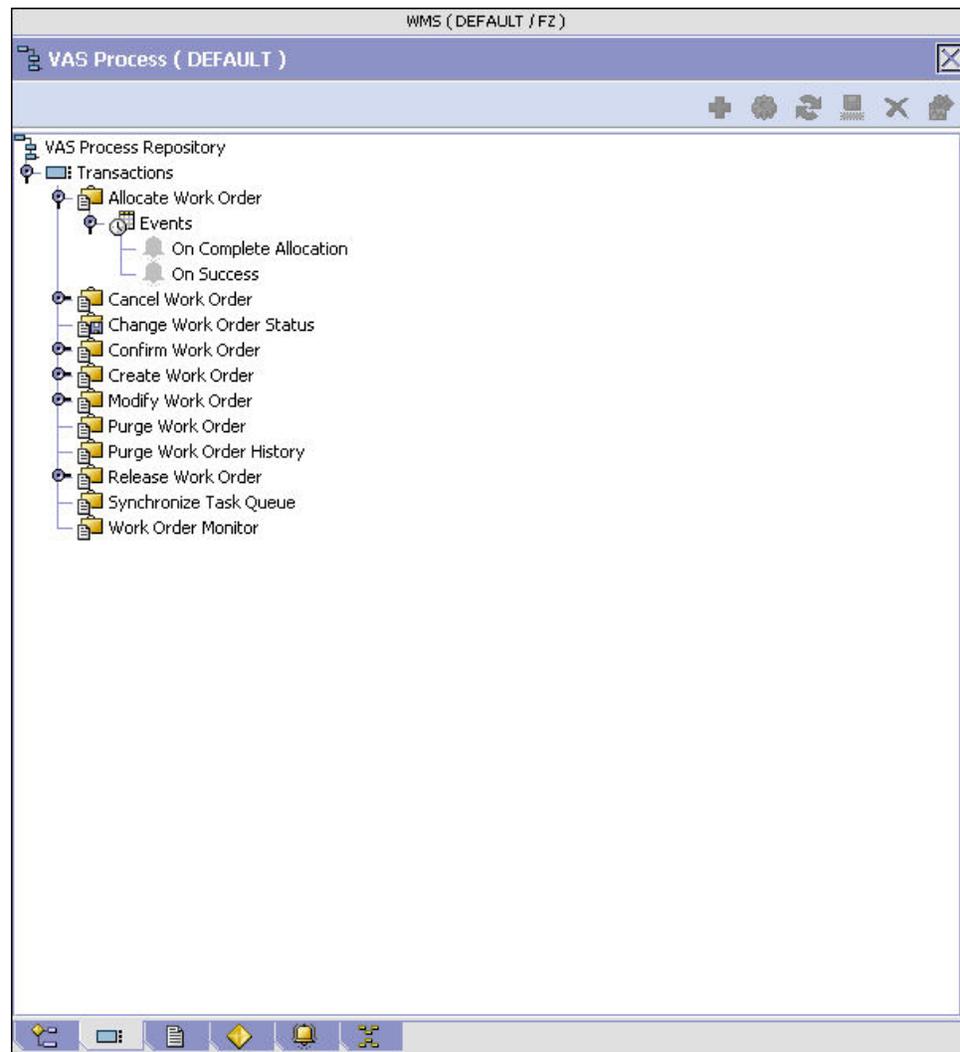


表 34. 作業オーダーの VAS パイプライン - 「トランザクション」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
作業オーダーの割り当て	このトランザクションは、付加価値サービス・プロセスに対する作業オーダーの割り当てを表します。
作業オーダーのキャンセル	このトランザクションは、付加価値サービス用に作成された作業オーダーのキャンセルを表します。
作業オーダーの確認	このトランザクションは、付加価値サービス用に作業オーダーを確認する必要があることを表します。
作業オーダーの作成	このトランザクションは、付加価値サービス用の作業オーダーの作成を表します。
作業オーダーのパージ	このトランザクションは、付加価値サービス用に作成された作業オーダーのパージを表します。
作業オーダーのリリース	このトランザクションは、付加価値サービス用に作成された作業オーダーのリリースを表します。

付加価値サービスのプロセス・モデル: ステータス このタスクについて

ステータスは、ドキュメントがパイプラインを移動する実際の状態です。トランザクションには、「ドロップ・ステータス」と「ピックアップ・ステータス」の 2 つのタイプのステータスを含めることができます。ドキュメントは、トランザクションのイベントと条件が完了すると、**ドロップ・ステータス**に移動します。**ピックアップ・ステータス**は、直前のドロップ・ステータスからドキュメントを取り出し、次のトランザクションへと移動させます。ステータスの例としては、「作成済み」や「スケジュール済み」があります。

ステータスについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

付加価値サービスのパイプラインに関するステータスの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「VAS プロセス・モデル」を選択します。「VAS プロセス」ウィンドウが表示されます。
2. 「VAS プロセス」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「ステータス」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

ステータスの作成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

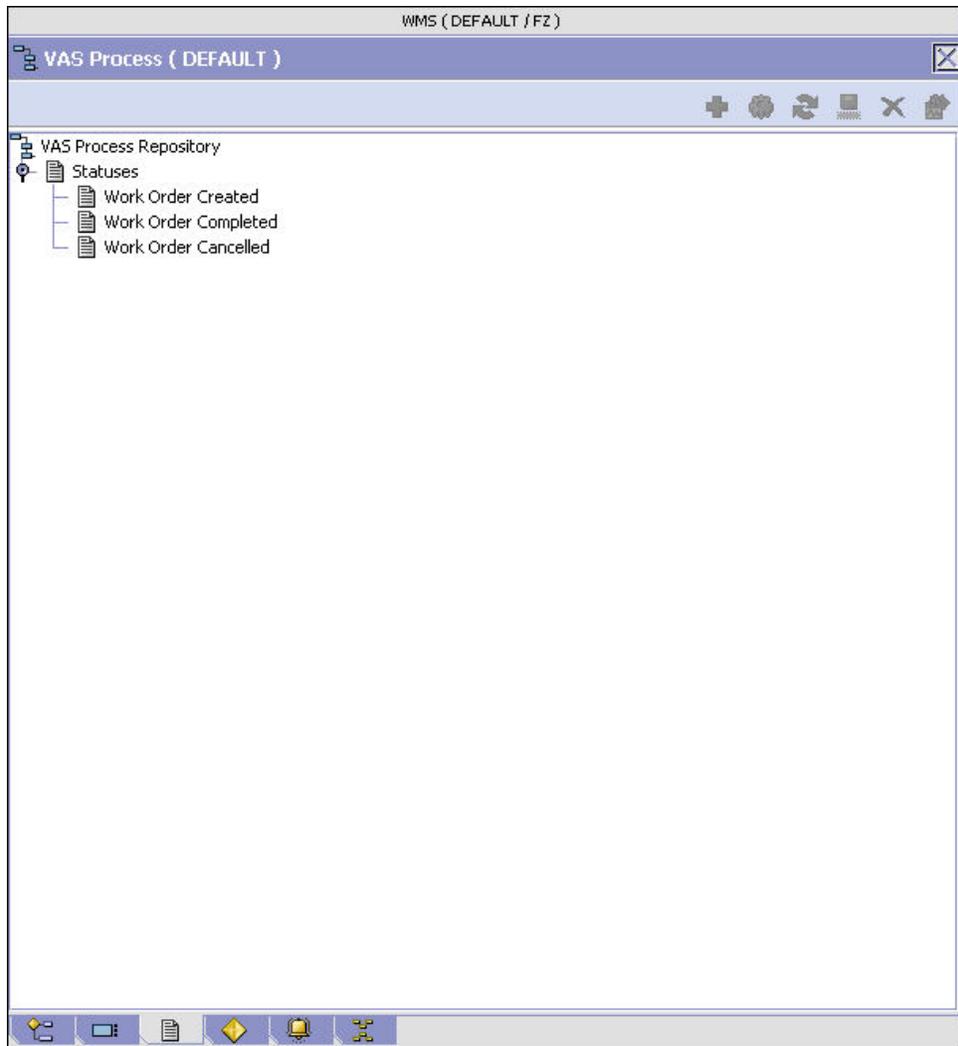


表 35. 作業オーダーの VAS パイプライン - 「ステータス」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
作業オーダー作成済み	これは、作業オーダーが作成されたことを示します。 これは、「作業オーダーの作成」トランザクションの最初のステップに対応します。
コンポーネントを持つ作業オーダー作成済み (Work Order With Components Created)	これは、必要なコンポーネント・アイテムが作業オーダーに追加されたことを示します。 これは、「作業オーダーの作成」トランザクションの完了に対応します。
作業オーダー割り当て済み (Work Order Allocated)	これは、作業オーダーに対する割り当てプロセスが完了したことを示します。 これは、「作業オーダーの割り当て」トランザクションに対応します。

表 35. 作業オーダーの VAS パイプライン - 「ステータス」タブ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
作業オーダー確認済み (Work Order Confirmed)	<p>これは、作業オーダーに必要なアクティビティーがすべて完了したことを示します。</p> <p>これは、「作業オーダーの確認」トランザクションに対応します。</p> <p>このトランザクションは、作業オーダー上の親アイテムの在庫を作成します。完了した在庫の保管、梱包、または出荷ゾーンへの格納プロセスを開始できます。</p>
作業オーダー・キャンセル済み (Work Order Canceled)	<p>これは、出荷の作業オーダーがキャンセルされたことを示します。</p> <p>これは、「作業オーダーのキャンセル」トランザクションに対応します。</p>

付加価値サービスのプロセス・モデル: 条件

このタスクについて

条件は、決定点に照らして伝票種別属性と突き合わせられ、指定された属性と値の組み合わせに基づいて、ドキュメントをさまざまなパスにルーティングします。条件を作成可能な伝票種別属性は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義されます。これらの属性は任意の組み合わせで使用できます。または特定の状況向けに適切なアプリケーション・ロジックを実行する条件を作成できます。

条件について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

付加価値サービスのパイプラインに関する条件の詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「VAS プロセス・モデル」を選択します。「VAS プロセス」ウィンドウが表示されます。
2. 「VAS プロセス」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「条件」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

条件の作成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

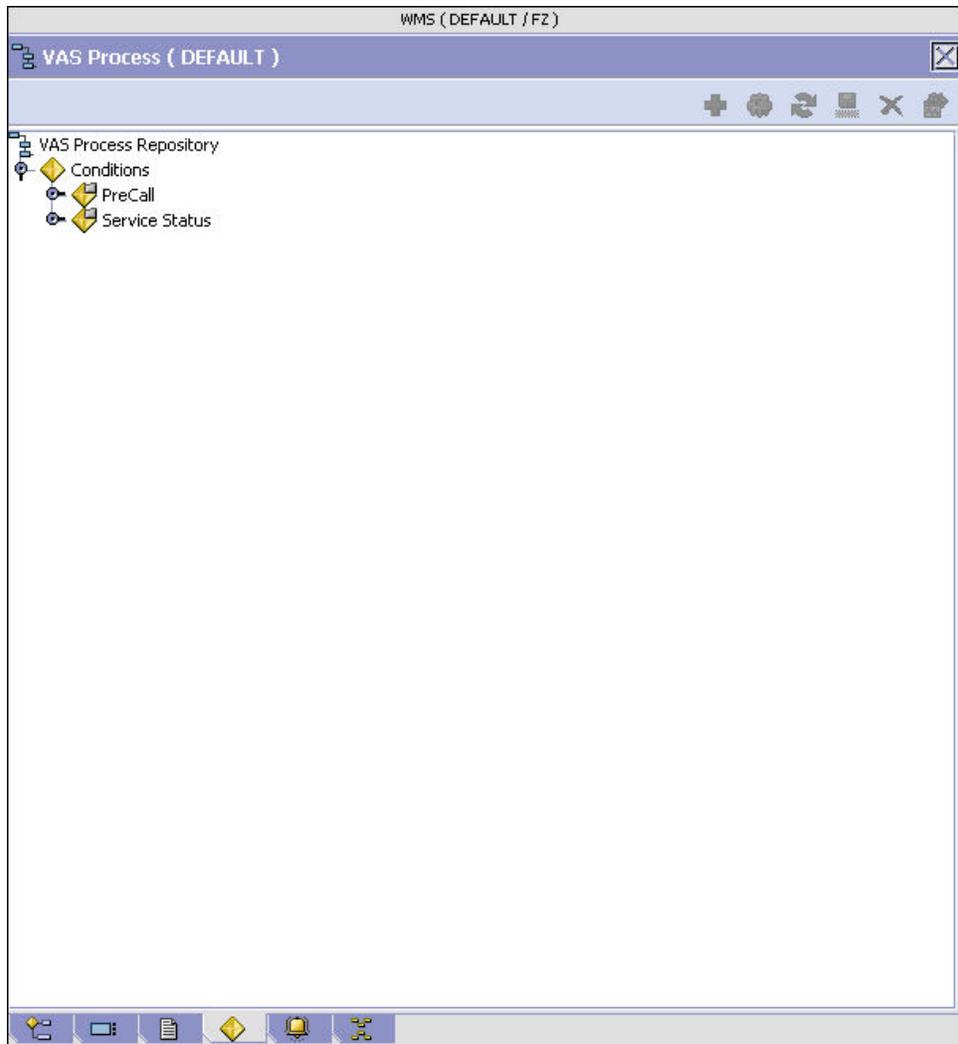


表 36. 作業オーダー VAS パイプライン - 「条件」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
HasComponents	付加価値サービスの作業オーダーに対して、「HasComponents」フィールドが「Y」か評価する条件。

付加価値サービスのプロセス・モデル: アクション

このタスクについて

アクションは、イベントにより起動されるプロセスまたはプログラムです。これらのプロセスやプログラムは、ユーザーに警告通知を送信し、問題を自動的に解決します。

例えば、オーダーがリリースされると (イベント)、顧客に E メールを送信するアクションを設定できます。

アクションについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*」を参照してください。

付加価値サービスのパイプラインに関するアクションの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「VAS プロセス・モデル」を選択します。「VAS プロセス」ウィンドウが表示されます。
2. 「VAS プロセス」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「アクション」タブ・ウィンドウが表示されます。

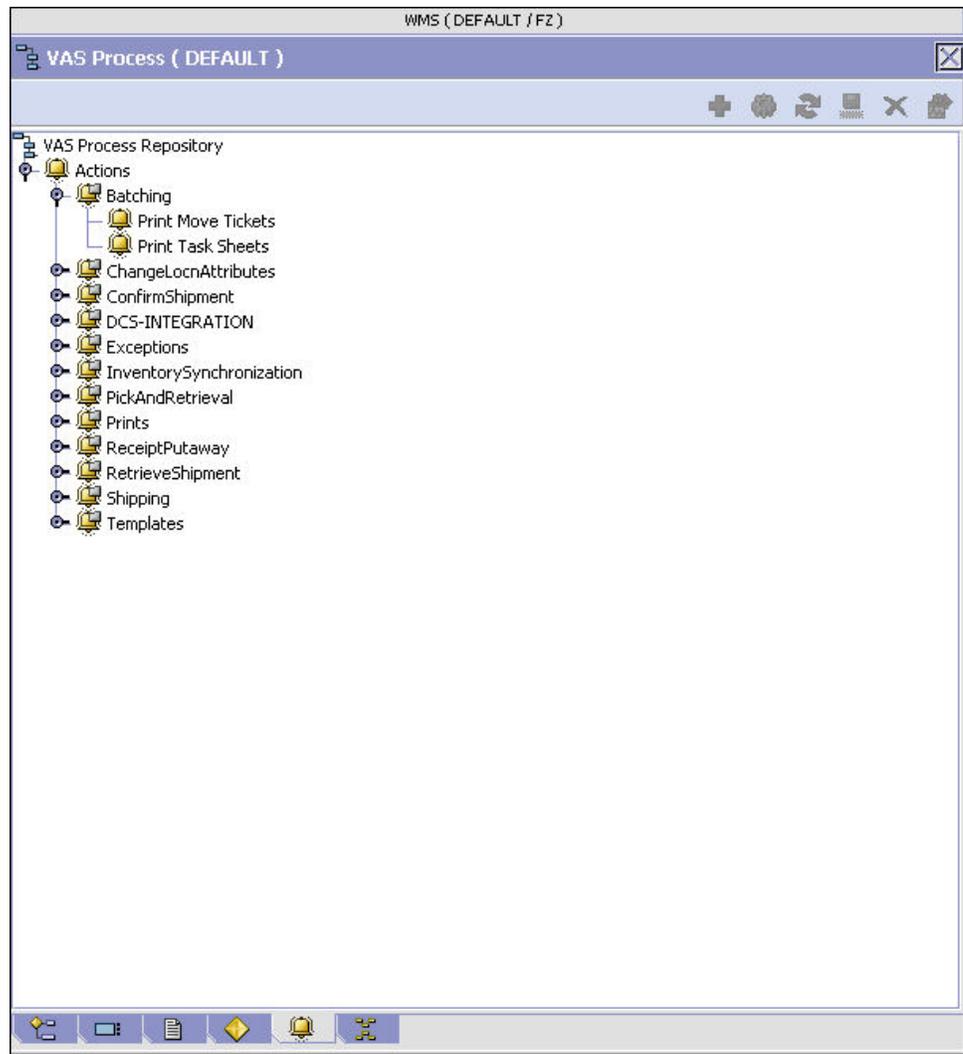


表 37. 作業オーダー VAS パイプライン - 「アクション」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
テンプレート	<p>以下のものについて、デフォルトのテンプレートが提供されています。</p> <p>データの発行 - データを外部キューまたは内部テーブルに送信します。</p> <p>例外の発生 - 公開された情報から、イベント管理を使用して警告を発行します。</p> <p>E メール送信 - 公開された情報から、フォーマットにテンプレートを使用する E メール・アクションを発行します。</p> <p>E メール送信 - HTML フォーマット - 公開された情報から、HTML の E メール・フォーマットを作成する E メール・アクションを発行します。</p>

付加価値サービスのプロセス・モデル: サービス定義

このタスクについて

サービス定義とは、ドキュメント・ワークフロー・サービスを制御するロジックの表現のことです。サービス・ビルダーは、これらサービスのグラフィカル表現を作成できるグラフィカル・インターフェースです。

サービス定義について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

付加価値サービスのパイプラインに関するサービス定義の詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「VAS」>「VAS プロセス」>「VAS プロセス・モデル」を選択します。「作業オーダーの VAS (Work Order VAS)」ウィンドウが表示されます。
2. 「作業オーダーの VAS (Work Order VAS)」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「サービス定義」タブ・ウィンドウが表示されます。

表 38. 作業オーダーの VAS パイプライン - 「サービス定義」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
サービス定義	VAS パイプライン固有のサービス定義があれば、それを表示します。

パージ条件の定義

実行時に Sterling Selling and Fulfillment Foundation によって収集されるトランザクション・データは、「ライブ」トランザクション・テーブルから定期的に削除されます。オーダー関連情報は、期間を延長して保存しておくことが一般的です。日常の「ライブ」テーブルから履歴テーブルにデータを移動させるために、関連トランザクション・テーブルには履歴テーブルが備えられています。

パージは、システム・データベースから古いデータを削除するためのプロセスです。パージは、未使用のデータベース・レコードの数を最小化することで、検索効率を高め、必要な物理ディスクのサイズを削減します。

パージ条件の設定

このタスクについて

パージ条件を設定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「VAS」 > 「VAS プロセス」 > 「パージ条件」を選択します。「パージ条件リスト」ウィンドウが表示されます。

Purge Code	Purge Description	Retention Days
WORK_ORDER_PURGE	Work Order Purge	30
WORK_ORDER_HISTORY_PURGE	Work Order History Purge	30

Results 2

- 「ページ条件リスト」ウィンドウで、 を選択します。「ページ条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
- 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、113ページの表 39 を参照してください。
-  を選択します。

Purge Criteria Details			
Purge Code	WORK_ORDER_PURGE	Description	Work Order Purge
Rollback Segment		Retention Days	30
<input type="checkbox"/> Write To Log File		Log File Name	Work_Order_purge_data.log

表 39. 「パージ条件の詳細」 ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
パージ・コード	パージ・プログラムを示します。これは、システム定義のコードです。
説明	パージの説明。
ロールバック・セグメント	<p>パージ・コードによって承認されたパージ・トランザクションで明示的に使用されるロールバック・セグメントを定義します。</p> <p>これは、大量の論理データ・セットをパージしなくてはならない場合に役立ちます。これはオプションで、オーダー関連のパージで使用します。</p>
保持日数	<p>データベース内にデータを保持する日数を入力します (プログラムの実行時からさかのぼる)。ここで入力する保持日数が、テーブル・サイズで考慮されていることを確認します。</p> <p>在庫パージでは、パージの際に保持日数を考慮しません。</p>
ログ・ファイルに書き込む	パージされたデータをログに書き込む場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。ログはバックアップして、後日ジャーナルとして使用することができます。
ログ・ファイル名	<p>ログ・ファイル名を入力します。これは、「ログ・ファイルに書き込む」にチェックが付けられている場合にのみ適用されます。このファイルは、パージされる特定のテーブルのレコードから構成されています。</p> <p>ログ・ファイルは、<code>yfs.purge.path</code> プロパティーで指定されたディレクトリーに作成されます。これが受け渡されない場合、<code>yfs.properties</code> ファイルに指定された値がデフォルトとなります。変数が導入された場合は、<code>yfs.purge.path</code> は無視されます。このプロパティーをオーバーライドするには、これに関するエントリーを <code><INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties</code> ファイルに追加します。<code>customer_overrides.properties</code> ファイルを使用したプロパティーのオーバーライドについては、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> プロパティー・ガイド』を参照してください。</p> <p>ログ・ファイル・ディレクトリーに対する変数の使用については、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。</p> <p>国際化対応に関するファイル名の制限については、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> ローカライズ・ガイド」を参照してください。</p>

第 10 章 棚卸の構成

棚卸要請は、暫定ベースで、コンソールから開始されます。格納、取り出し、またはピック中に記録される例外、あるいは最小レベルを下回るかまたはゼロまで減少したロケーション数量などのシステム・イベントは、棚卸要請を開始するために使用できます。要請には、タスクに予定される開始時刻および終了時刻を示す日時パラメーターも組み込まれます。

例えばユーザーは、低い優先順位を割り当てることで、低速移動アイテムがあるゾーンの棚卸を翌日に開始するように要請することができます。

棚卸要請は、在庫の精度を一貫して維持するために、定期ベースで生成することもできます。

棚卸要請は、ロケーションの在庫がゼロ数量に達したり、最小または最大の在庫レベルを超えたりした場合に、イベント管理および在庫モニターから作成することもできます。

棚卸プログラムの定義

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、すべてのノード、特定のノード、または地域内のすべてのノードに対して、自動棚卸生成機能を使用して、棚卸要請を自動的に生成することができます。

自動棚卸生成は、棚卸プログラムによりセットアップされます。これはプログラムの有効日付範囲、ウェアハウス内の適切なゾーン、棚卸対象の製品、および棚卸要求の周期を定義します。

棚卸プログラムは、関連ノードがこのプログラムでの棚卸を実行するときに、作業日のリストに関する情報を提供する棚卸カレンダーに関連付けられます。

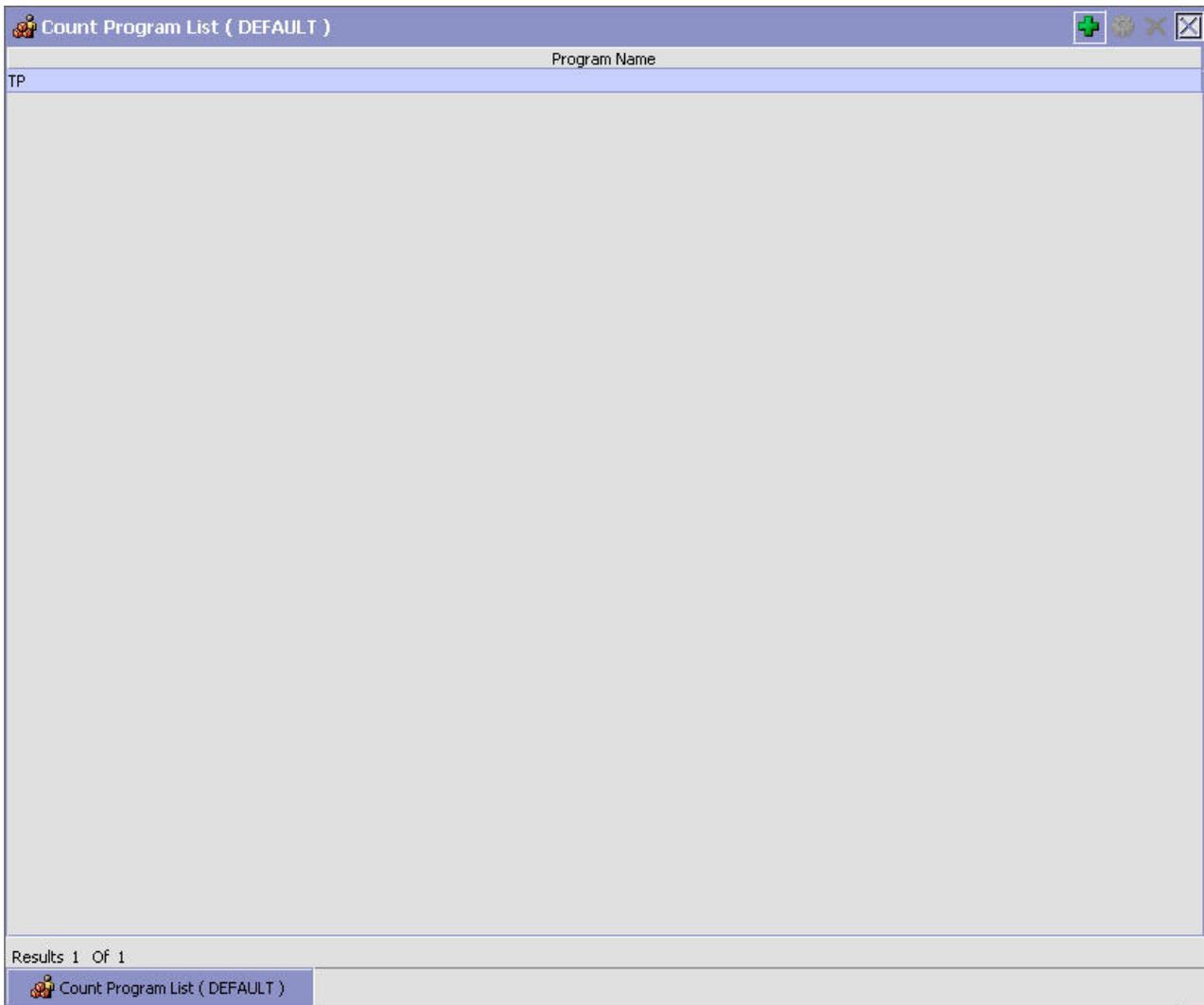
棚卸プログラムの作成

このタスクについて

棚卸プログラムを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

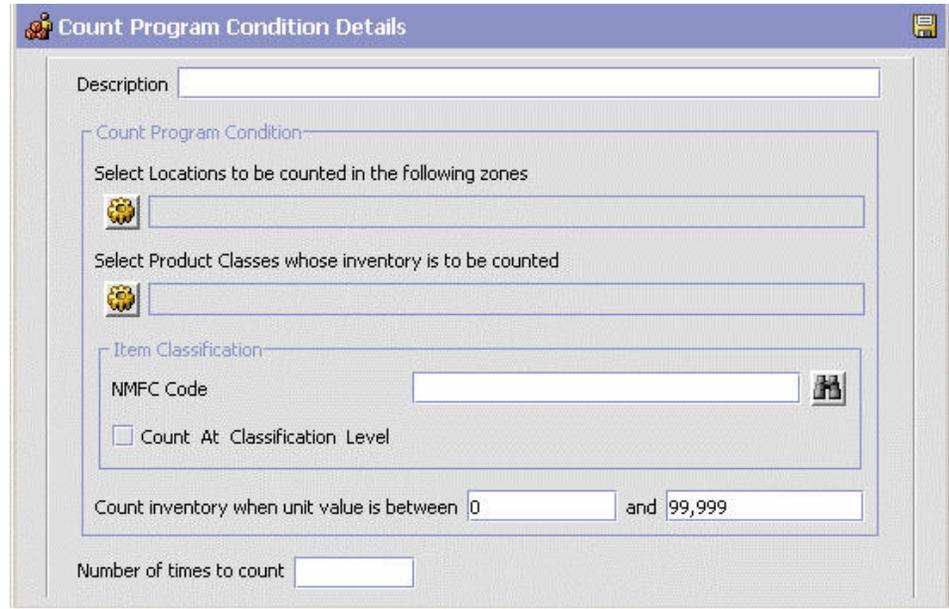
1. アプリケーション・ルール・サイド・パネルのツリーから、「総数」>「棚卸プログラム」を選択します。「棚卸プログラム・リスト」ウィンドウが表示されます。



2. 「棚卸プログラム・リスト」ウィンドウで、 を選択します。「棚卸プログラムの詳細」ウィンドウが表示されます。

3. 作成するプログラムに対する有効なプログラム名を入力します。
4. プログラムに対する適切な棚卸プログラム期間を選択します。
 - プログラムがすべてのノードにわたる場合は、「全ノード」を選択します。
 - プログラムが特定のノードにわたる場合は、「特定のノード」を選択し、ドロップダウン・リストから該当するノードを選択します。
 - プログラムが 1 つの地域のすべてのノードにわたる場合は、「地域内のすべてのノード」を選択し、 を選択して、「地域」ポップアップ・ウィンドウから該当する地域を選択します。地域スキーマの構成について詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド』を参照してください。
5. プログラムで使用するカレンダーをドロップダウン・リストから選択します。ノードのカレンダーに加えてノードの主要エンタープライズのカレンダーがドロップダウン・リストに表示されます。新規カレンダー作成について詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド』を参照してください。

6.  を選択します。「棚卸プログラム条件」パネルが「棚卸プログラムの詳細」ウィンドウに表示されます。
7. 「棚卸プログラム条件」パネルで、 を選択します。「棚卸プログラム条件の詳細」ポップアップが表示されます。



8. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 40 を参照してください。
9.  を選択します。ポップアップ・ウィンドウが閉じ、「棚卸プログラムの詳細」ウィンドウに戻ります。
10. すべての該当する棚卸プログラム条件を設定したら、「棚卸プログラムの詳細」ウィンドウで  を選択します。

表 40. 「棚卸プログラム条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
説明	棚卸プログラム条件の説明を入力します。
棚卸プログラム条件	
次のゾーン内の棚卸するロケーションを選択してください	 を選択します。「値のリスト」ポップアップから、棚卸するゾーンを選択します。
在庫の棚卸対象の製品クラスを選択してください	 を選択します。「値のリスト」ポップアップから、棚卸する製品クラスを選択します。
アイテム分類	棚卸で使用可能なアイテム分類が表示されます。
分類レベルでの棚卸	アイテム分類レベルで棚卸をする場合に選択します。
単価が次の範囲にある場合は、在庫を棚卸する	棚卸する最小の単価を入力します。この値が入力されない場合のデフォルトは 0 です。
から (and)	棚卸する最大の単価を入力します。この値が入力されない場合のデフォルトは 99,999 です。

表 40. 「棚卸プログラム条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
棚卸回数	棚卸する回数を入力します。

棚卸プログラムの変更

このタスクについて

棚卸プログラムを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「総数」>「棚卸プログラム」を選択します。「棚卸プログラム・リスト」ウィンドウに、既存プログラムのリストが表示されます。
2. 変更する棚卸プログラムを選択します。 を選択します。
3. 「棚卸プログラムの詳細」ウィンドウが表示されます。必要に応じてエントリーを変更します。
4.  を選択します。

棚卸プログラムの削除

このタスクについて

棚卸プログラムを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「総数」>「棚卸プログラム」を選択します。「棚卸プログラム・リスト」ウィンドウに、既存プログラムのリストが表示されます。
2. 削除する棚卸プログラムを選択します。
3.  を選択します。

棚卸の地域使用の表示

このタスクについて

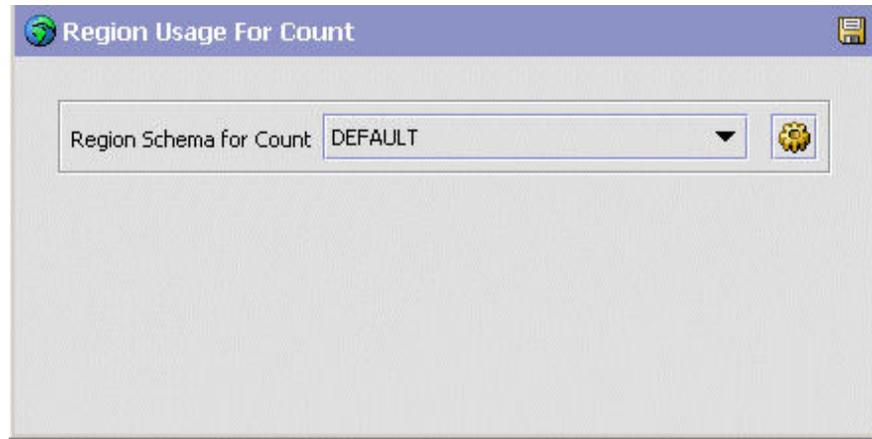
地域スキーマは、特定のジオグラフィーを定義する地域の完全階層セットです。地域は、特定の領域で構成されます。例えば、各都道府県や市区町村全体の地域を作成できます。地域スキーマの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

棚卸プログラムの構成に使用する地域スキーマを表示できます。棚卸プログラムについて詳しくは、115 ページの『棚卸プログラムの定義』を参照してください。

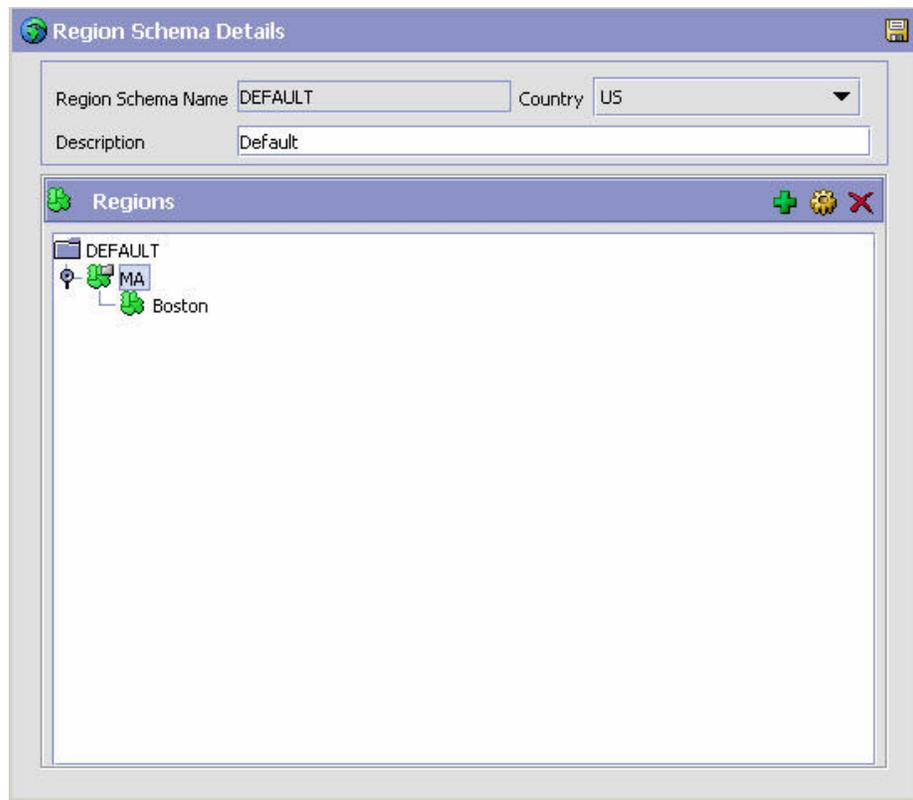
棚卸の地域使用を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「棚卸」>「棚卸の地域使用」を選択します。「棚卸の地域使用」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



2. 「棚卸の地域スキーマ」から、詳細を表示する地域スキーマを選択します。
3.  を選択します。「地域スキーマの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4.  を選択します。



企業棚卸要請のキャンセル理由の定義

理由コードは、企業棚卸要請の取り消しに関連付けられます。

注: 企業棚卸要請のキャンセル理由コードの表示は、エンタープライズ・ユーザーおよびノード・ユーザーに対してのみ可能です。

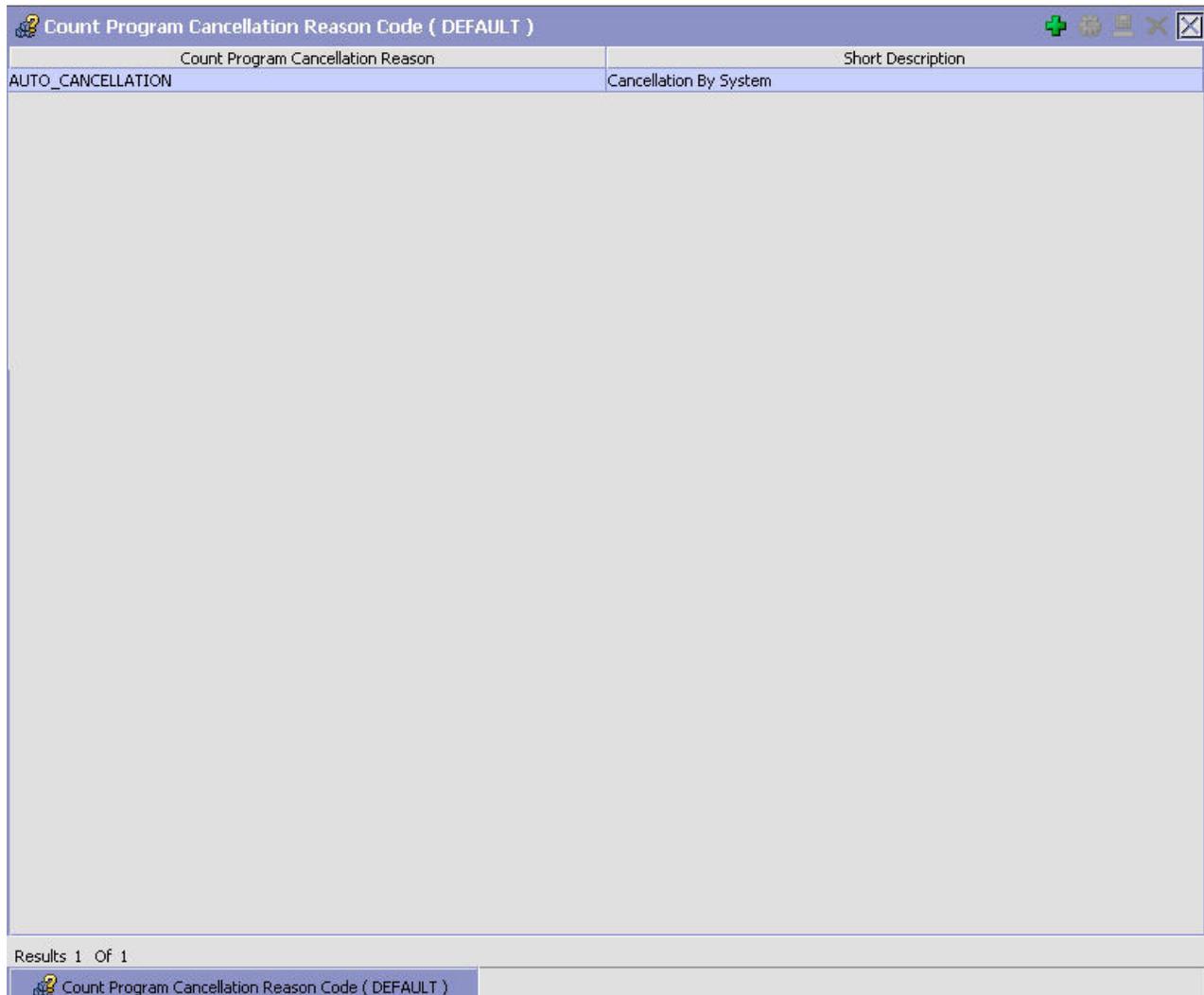
企業棚卸要請のキャンセル理由の作成

このタスクについて

企業棚卸要請のキャンセル理由を作成するには、以下の手順を実行します。

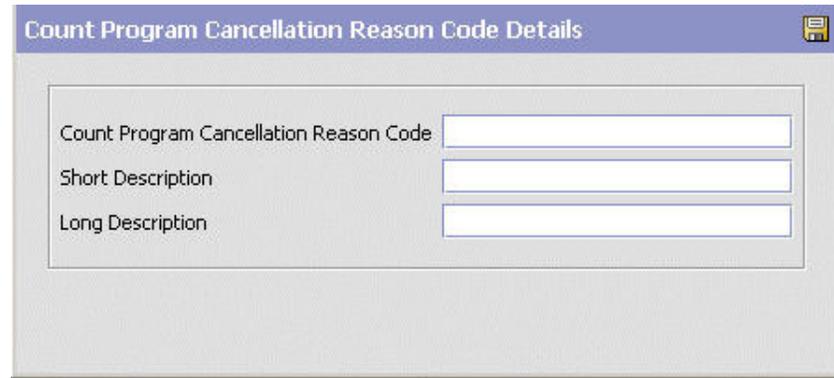
手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「総数」>「企業棚卸要請のキャンセル理由」を選択します。「企業棚卸要請のキャンセル理由コード」ウィンドウが表示されます。



2. 「企業棚卸要請のキャンセル理由コード」ウィンドウで、 を選択します。

3. 「企業棚卸要請のキャンセル理由コードの詳細 (Corporate Count Request Cancellation Reason Code Details)」 ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 41 を参照してください。
5.  を選択します。



The screenshot shows a dialog box titled "Count Program Cancellation Reason Code Details". Inside the dialog, there are three text input fields stacked vertically. The first field is labeled "Count Program Cancellation Reason Code", the second is labeled "Short Description", and the third is labeled "Long Description". A small save icon is visible in the top right corner of the dialog box.

表 41. 「企業棚卸要請のキャンセル理由コードの詳細 (Corporate Count Request Cancellation Reason Code Details)」 ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
企業棚卸要請のキャンセル理由コード	企業棚卸要請のキャンセル理由のコードを入力します。
簡略説明	企業棚卸要請のキャンセル理由コードの短い説明を入力します。
詳細説明	企業棚卸要請のキャンセル理由コードの詳細な説明を入力します。

既存の企業棚卸要請のキャンセル理由から新規企業棚卸要請のキャンセル理由の作成

このタスクについて

既存の企業棚卸要請のキャンセル理由から新規企業棚卸要請のキャンセル理由を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「総数」 > 「企業棚卸要請のキャンセル理由」を選択します。
2. 企業棚卸要請のキャンセル理由がリストされた「企業棚卸要請のキャンセル理由コード」ウィンドウが表示されます。
3. コピーする企業棚卸要請のキャンセル理由を選択します。
4.  を選択します。「企業棚卸要請のキャンセル理由コードの詳細 (Corporate Count Request Cancellation Reason Code Details)」 ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 41 を参照してください。

6.  を選択します。

企業棚卸要請のキャンセル理由の変更

このタスクについて

企業棚卸要請のキャンセル理由は、作成後に変更できます。

企業棚卸要請のキャンセル理由を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「総数」>「企業棚卸要請のキャンセル理由」を選択します。
2. 企業棚卸要請のキャンセル理由がリストされた「企業棚卸要請のキャンセル理由コード」ウィンドウが表示されます。
3. 変更する企業棚卸要請のキャンセル理由を選択します。
4.  を選択します。「企業棚卸要請のキャンセル理由コードの詳細 (Corporate Count Request Cancellation Reason Code Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、122ページの表 41 を参照してください。
6.  を選択します。

企業棚卸要請のキャンセル理由の削除

このタスクについて

企業棚卸要請のキャンセル理由コードを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「総数」>「企業棚卸要請のキャンセル理由」を選択します。
2. 企業棚卸要請のキャンセル理由がリストされた「企業棚卸要請のキャンセル理由コード」ウィンドウが表示されます。
3. 削除する企業棚卸要請のキャンセル理由を選択します。
4.  を選択します。

企業棚卸要請のパーシ条件の定義

実行時に Sterling Selling and Fulfillment Foundation によって収集されるトランザクション・データは、「ライブ」トランザクション・テーブルから定期的に削除されます。オーダー関連情報は、期間を延長して保存しておくことが一般的です。日常の「ライブ」テーブルから履歴テーブルにデータを移動させるために、関連トランザクション・テーブルには履歴テーブルが備えられています。

パージは、システム・データベースから古いデータを削除するためのプロセスです。パージは、未使用のデータベース・レコードの数を最小化することで、検索効率を高め、必要な物理ディスクのサイズを削減します。

企業棚卸要請のパージ条件の設定

このタスクについて

パージ条件を設定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「棚卸」>「企業棚卸要請のパージ条件」を選択します。「パージ条件リスト」ウィンドウが表示されます。

Purge Code	Purge Description	Retention Days
COUNTPROGPRG	Corporate Count Request Purge	30

Results 1

Purge Criteria List : Count (DEFAULT)

2. 「パージ条件リスト」ウィンドウで、 を選択します。「パージ条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 42 を参照してください。
4.  を選択します。

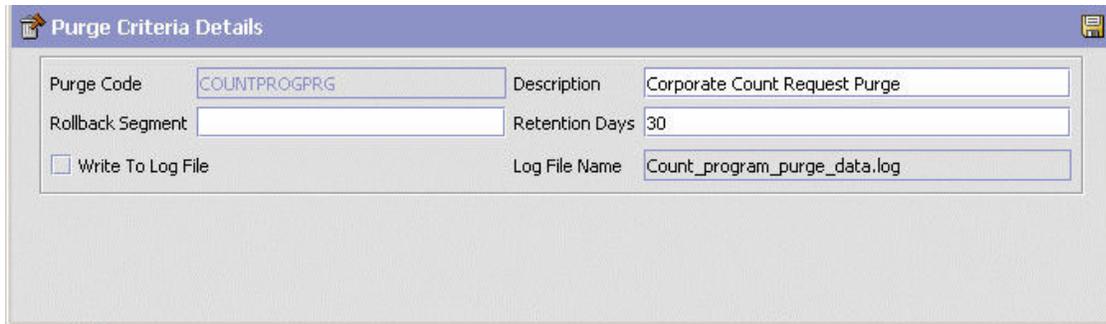


表 42. 「パージ条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
パージ・コード	パージ・プログラムを示します。これは、システム定義のコードです。
説明	パージの説明。
ロールバック・セグメント	パージ・コードによって承認されたパージ・トランザクションで明示的に使用されるロールバック・セグメントを定義します。 これは、大量の論理データ・セットをパージしなくてはならない場合に役立ちます。これはオプションで、オーダー関連のパージで使用します。
保持日数	データベース内にデータを保持する日数を入力します (プログラムの実行時からさかのぼる)。ここで入力する保持日数が、テーブル・サイズで考慮されていることを確認します。
ログ・ファイルに書き込む	パージされたデータをログに書き込む場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。ログはバックアップして、後日ジャーナルとして使用することができます。

表 42. 「ページ条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
ログ・ファイル名	<p>ログ・ファイルは、<code>yfs.purge.path</code> プロパティーで指定されたディレクトリーに作成されます。これが受け渡されない場合、<code>yfs.properties</code> ファイルに指定された値がデフォルトとなります。変数が導入された場合は、<code>yfs.purge.path</code> は無視されます。このプロパティーをオーバーライドするには、これに関するエントリーを <code><INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties</code> ファイルに追加します。<code>customer_overrides.properties</code> ファイルを使用したプロパティーのオーバーライドについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> プロパティー・ガイド』を参照してください。</p> <p>ログ・ファイル・ディレクトリーに対する変数の使用については、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド』を参照してください。</p> <p>国際化対応に関するファイル名の制限については、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> ローカライズ・ガイド』を参照してください。</p>

第 11 章 ノード在庫との同期化

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、その内部在庫ピクチャーと、ノードの実際の在庫ピクチャーとを一致させる機能を提供しています。

ノードからの在庫ピクチャーのロード

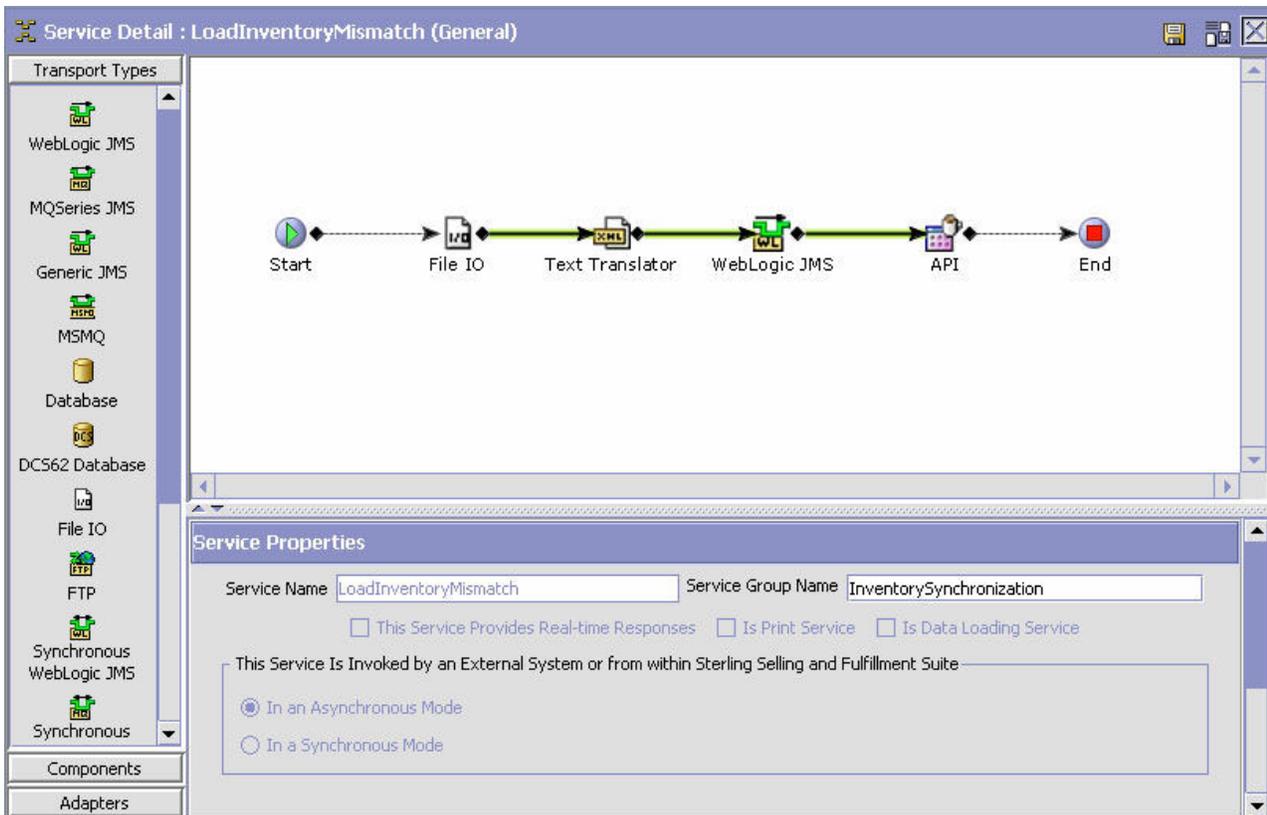
このタスクについて

内部およびノードの在庫ピクチャーを調整するには、まず Sterling Selling and Fulfillment Foundation でノードの在庫ピクチャーを正常にロードする必要があります。

これを達成するには、以下のようにサービス定義フレームワークで LoadInventoryMismatch サービスを使用する必要があります。

手順

1. Applications Manager の「アプリケーション (Applications)」メニューで、「アプリケーション・プラットフォーム」をクリックします。
2. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「プロセス・モデリング」をダブルクリックします。
3. 「一般」タブをクリックします。「プロセス・タイプ」スイムレーンで、「一般」プロセス・タイプを右クリックして、「モデル・プロセス」をクリックします。「一般」プロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
4. 「サービス定義」タブをクリックします。
5. 「在庫の同期」ブランチを展開します。
6. LoadInventoryMismatch を右クリックして、「詳細情報」をクリックします。作業領域に、「サービスの詳細」ウィンドウが表示されます。



LoadInventoryMismatch サービス

LoadInventoryMismatch サービスは、いくつかの異なるステップを経て進行します。

注: WebLogic JMS を例として使用しましたが、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は WebSphere® および JBoss MQ JMS の使用もサポートします。

ファイル入出力からテキスト・トランスレーター

LoadInventoryMismatch サービスは最初に、ノードが以下の形式の XML ファイルの在庫情報をアップロードする、特定のディレクトリーを参照します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<Inventory YantraMessageGroupID="OPTIONAL" ShipNode="REQUIRED" ApplyDifferences=""
CompleteInventoryFlag="" ReasonCode="" ReasonText="">
  <Items>
    <Item InventoryOrganizationCode="REQUIRED" ItemID="REQUIRED" ProductClass=""
UnitOfMeasure="" >
      <Supplies>
        <Supply ETA="" Quantity="" Segment="" SegmentType="" ShipByDate=""
SupplyType="" SupplyReference="" SupplyReferenceType="" SupplyLineReference=""
AvailabilityType="">
          <Tag BatchNo="" LotNumber="" LotAttribute1="" LotAttribute2=""
LotAttribute3="" LotKeyReference="" ManufacturingDate="" RevisionNo="" />
        </Supply>
      </Supplies>
    </Item>
    <Item ...>
      ...
    </Item>
  </Items>
</Items>
<Item ...>
```

```
    ...  
  </Item>  
</Items>  
</Inventory>
```

次いでこの XML は、テキスト・トランスレーターに渡されます。

注: <Item> ノードにあるのと同じ数のメッセージが、JMS キューに送信されます。これらのメッセージの数を制御するには、各 <Item> ノード内の <Items> ノードの数を適切に使用します。IBM は、各 <Item> ノード内に 100 の <Items> ノードを組み込むことを推奨しています。

テキスト・トランスレーターから WebLogic JMS

テキスト・トランスレーターは、一度に 1 つの XML ファイルを構文解析し、<Inventory> ノードの属性をすべての <Items> ノードに組み込みます。

YantraMessageGroupID 属性が渡されない場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation はそれを自動的に生成します。この属性はすべてのファイルに対して固有です。

ファイルが正常に構文解析されると、各 <Items> ノードは JMS キューにメッセージとして追加されます。ファイルが完全に構文解析されると、EOF (ファイルの終わり) ノードが JMS キューに追加されます。

WebLogic JMS から API

次いで JMS キューは、キュー内のすべてのメッセージを読み取ります。loadInventoryMismatch API が、適切な XML を入力として、キュー内の各メッセージに対して呼び出されます。

EOF メッセージが統合サーバーによって受け取られると、サーバーはまず、同じ YantraMessageGroupID を持つ、このサービスに再処理可能なメッセージがあるかどうかを確認します。再処理する保留中のエラー・メッセージがある場合、EOF メッセージは再処理可能エラー・メッセージとしてマークが付けられ、YFS_REPROCESS_ERROR テーブルに挿入されます。このメッセージは、このサービスの他の再処理可能エラーとともに再処理される必要があります。

処理すべき保留中のエラー・メッセージがない場合、これは SyncLoadedInventory サービスを呼び出します。同期集合・混載在庫サービスについて詳しくは、131 ページの『SyncLoadedInventory サービス』を参照してください。

loadInventoryMismatch API は、各 <Item> ... </Item> ノードに YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP を挿入します。

LoadInventoryMismatch サービスの構成

このタスクについて

LoadInventoryMismatch サービスは、ノードからの在庫ピクチャーのロードを担当し、最終的に YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルに適切なデータを入れます。

サービスを適切に構成するには、以下の手順が必要です。

手順

1. 「LoadInventoryMismatch サービスの詳細 (LoadInventoryMismatch Service Detail)」ウィンドウで、「ファイル入出力」と「テキスト・トランスレーター」の間の緑のコネクターをクリックします。「ファイル入出力受信者」プロパティがグラフィック領域の下に表示されます。

Properties: File IO Receiver			
Runtime			
Sub Service Name	LoadInventoryMismatch_0	Includes Pattern	
Encoding Type	UTF-8	File Processing Sequence	Last Modified Time
Maximum Errors Per File	10	Polling Frequency (seconds)	600
<input checked="" type="checkbox"/> Create EOF Message			

- 「実行時」タブをクリックします。
 - 「EOF メッセージの作成」フィールドにチェック・マークを付けるようにします。
 - その他のフィールドの説明については、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*』を参照してください。
 - 「ファイル」タブをクリックします。
 - 「入力ディレクトリー」フィールドに、ノードが在庫 XML をアップロードするディレクトリーを入力します。
 - その他のフィールドの説明については、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*』を参照してください。
2. 「LoadInventoryMismatch サービスの詳細 (LoadInventoryMismatch Service Detail)」ウィンドウで、「テキスト・トランスレーター」と「WebLogic JMS」の間の緑のコネクターをクリックします。「JMS 送信者」プロパティがグラフィック領域の下に表示されます。

Properties: JMS Sender			
Runtime			
Queue Name	LoadInventoryMismatch	Time To Live (seconds)	0
Provider URL	t3://localhost:7001	Initial Context Factory	Weblogic
QCF Lookup	AGENT_QCF	<input checked="" type="radio"/> Persistent <input type="radio"/> Non Persistent	
<input type="checkbox"/> Needs Compression		<input checked="" type="checkbox"/> Commit of this message depends on parent transaction	

- 「実行時」タブをクリックします。
- 既存の JMS キューの名前を「キュー名」に入力するとともに、JMS 受信者のプロパティのキュー名に一致するようにします。

- その他のフィールドの説明については、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*』を参照してください。
3. 「LoadInventoryMismatch サービスの詳細 (LoadInventoryMismatch Service Detail)」ウィンドウで、「WebLogic JMS」と「API」の間の緑のコネクターをクリックします。「JMS 受信者」プロパティがグラフィック領域の下に表示されます。

- 「実行時」タブをクリックします。
- 既存の JMS キューの名前を「キュー名」に入力するとともに、JMS 送信者のプロパティのキュー名に一致するようにします。
- その他のフィールドの説明については、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*』を参照してください。
- 「例外」タブをクリックします。
- 「再処理」フィールドにチェック・マークを付けるようにします。

在庫テーブルの同期化

ノードの在庫ピクチャーを含むファイルを YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルに正常にロードした場合、在庫ピクチャーの相違を調整する必要があります。これは SyncLoadedInventoryService により実行されます。

SyncLoadedInventory サービス

SyncLoadedInventory サービスは、ノードの在庫ピクチャーが YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルに正常にロードされた後に、syncLoadedInventory API を呼び出します。syncLoadedInventory API は、YFS_INVENTORY_SUPPLY テーブルと YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルとを比較し、相違を検出した場合はいつでも、YFS_INVENTORY_SUPPLY テーブルを更新し、ON_INV_MISMATCH イベントを出します。

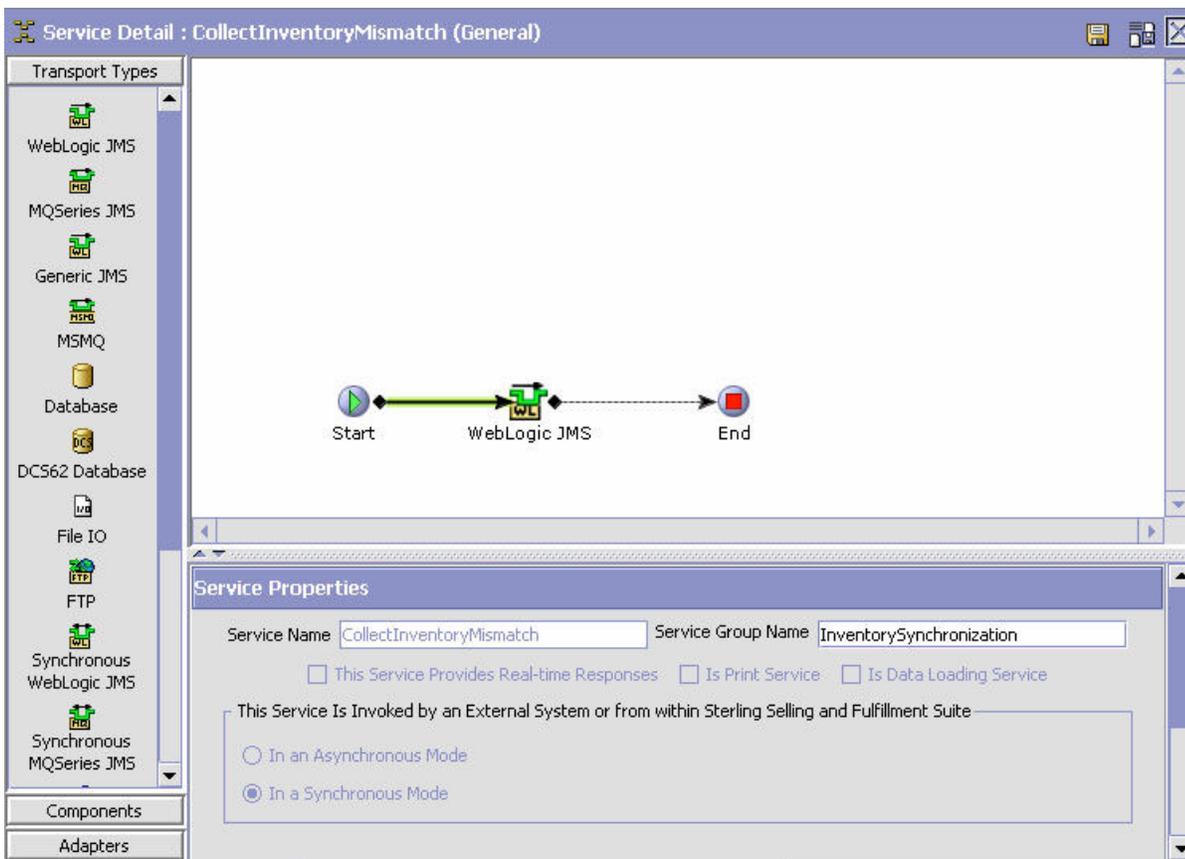
CollectInventoryMismatch サービスの構成

このタスクについて

ON_INV_MISMATCH イベントは、CollectInventoryMismatch サービスを起動し、公開された XML を JMS キューに入れます。

手順

1. Applications Manager の「アプリケーション (Applications)」メニューで、「アプリケーション・プラットフォーム」をクリックします。
2. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「プロセス・モデリング」をダブルクリックします。
3. 「一般」タブをクリックします。「プロセス・タイプ」スイムレーンで、「一般」プロセス・タイプを右クリックして、「モデル・プロセス」をクリックします。「一般」プロセス・タイプの「リポジトリの詳細 (Repository Details)」ウィンドウと作業領域が表示されます。
4. 「サービス定義」タブをクリックします。
5. 「在庫の同期」ブランチを展開します。
6. 「CollectInventoryMismatch」を右クリックして、詳細をクリックします。作業領域に、「サービスの詳細」ウィンドウが表示されます。



7. 「CollectInventoryMismatch サービスの詳細 (CollectInventoryMismatch Service Detail)」ウィンドウで、「開始」と「WebLogic JMS」の間の緑のコネクターをクリックします。「JMS 送信者」プロパティがグラフィック領域の下に表示されます。



Properties: JMS Sender

Runtime Header

Queue Name: CollectInventoryMismatch Time To Live (seconds): 0

Provider URL: t3://localhost:7001 Initial Context Factory: Weblogic

QCF Lookup: AGENT_QCF Persistent Non Persistent

Needs Compression Commit of this message depends on parent transaction

- 「実行時」タブをクリックします。
- 既存の JMS キューの名前を「キュー名」に入力します。
- その他のフィールドの説明については、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド』を参照してください。

同期化処理の実行

ノード在庫との同期化プロセスを開始するには、LoadInventoryMismatch サービスで事前に構成済みの LoadInvMismatchFileServer サーバーおよび LoadInvMismatchJMSServer サーバーを、<INSTALL_DIR>/bin ディレクトリーで提供される agentserver.cmd または agentserver.sh を使用して、以下のように開始する必要があります。

- <INSTALL_DIR>/bin/agentserver.sh LoadInvMismatchFileServer
- <INSTALL_DIR>/bin/agentserver.sh LoadInvMismatchJMSServer

これら 2 つのサーバーが稼働状態になれば、ノードからの在庫情報を含むファイルは、LoadInventoryMismatch サービスのファイル入出力コンポーネントに指定された入力ディレクトリーにアップロードできます。

一時テーブルのパージ

Sterling Selling and Fulfillment Foundation の在庫ピクチャーが正常に更新された場合は、YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP の内容をクリーンアップする必要があります。これは、在庫一時供給のパージの、時間トリガー・パージ・トランザクションを実行することで行えます。

在庫一時供給のパージの、時間トリガー・パージ・トランザクションについて詳しくは、240 ページの『在庫供給一時パージ』を参照してください。

第 12 章 時間トリガー・トランザクション参照

時間トリガー・トランザクション参照

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、一群の時間トリガー・トランザクションを提供します。これは、さまざまな個別機能をそれぞれ自動的にまたは一定の時間間隔で実行するユーティリティです。

時間トリガー・トランザクションは、スケジュール・ベースで反復アクションを実行します。標準的な実行内容としては、データベースの更新、イベントの発行、または API の呼び出しなどがあります。1 タイプのトランザクションであるモニターは、通常の境界を越えているプロセスや状況を監視し、警告を出すように設計されています。モニターは、常時ではないものの頻繁に、タスク・キューからタスクを取り出したり、パイプラインから作業を取り出したりします。

一部のトランザクションでは、アプリケーションの正常性に関する統計データを収集できます。このデータは、`yfs.properties` ファイルの `yantra.statistics.persist.interval` 属性に指定された値を使用して、定期的に収集されます。デフォルトでは、統計収集は `on` に設定されています。このプロパティをオーバーライドするには、項目を `<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties` ファイルに追加します。`customer_overrides.properties` ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

統計の持続性について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* パフォーマンス管理ガイド」を参照してください。使用される特定の統計パラメーターについて詳しくは、該当する時間トリガー・トランザクションを参照してください。

この章で説明されている時間トリガー・トランザクションは、固有のトランザクションであり、これは伝票種別に固有である場合もあれば、そうでない場合もあります。ドキュメント固有トランザクションの場合、命名法はそのベースとなる固有トランザクションを定義するのに役立ちます。トランザクション ID は `Unique_Transaction_ID.Document_Type_Code` という形式です。例えば、返品のパージのトランザクション ID が `PURGE.0003` であれば、それが固有トランザクション `PURGE` をベースとしており、伝票種別は返品オーダーの `0003` であることを示します。したがって、返品のパージを構成できるようにするには、この章で、オーダー・パージである `PURGE` トランザクション ID を探す必要があります。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、以下のタイプの時間トリガー・トランザクションを提供します。

- ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクション - 処理を扱います。
- 時間トリガー・パージ・トランザクション - 処理の完了後に破棄できるデータをクリアします。

- タスク・キュー同期プログラムの時間トリガー・トランザクション - 最新のパイプライン構成に基づいて、各トランザクションにより実行される未完了タスクの最新リストでタスク・キュー・リポジトリを更新します。
- モニター - 処理の遅延および例外について監視し、警告を送信します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、各時間トリガー・トランザクションの以下の統計を追跡します。

- ExecuteMessageCreated - 一定の時間間隔内に JMS キューに追加されたジョブ数。
- ExecuteMessageSuccess - 一定の時間間隔内に正常に実行されたジョブ数。
- ExecuteMessageError - 一定の時間間隔内で実行が失敗したジョブ数。
- GetJobsProcessed - 一定の時間間隔内で処理された GetJob メッセージの数。

注: 時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

時間トリガー・トランザクションの実行

すべての時間トリガー・トランザクションは、スレッド対応です。これはつまり、単一のプロセス内でトランザクションの複数のインスタンスを実行できるということです。時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* インストール・ガイド」を参照してください。システムを同時に実行しながらのシステム・パフォーマンスの微調整については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* パフォーマンス管理ガイド」を参照してください。

時間トリガー・トランザクションをスケジュールする前に完了しておくステップ

このタスクについて

時間トリガー・トランザクションの実行およびスケジューリングの前に、以下の手順を完了していることを確認してください。

手順

1. 時間トリガー・トランザクション用に構成された QCF 名に関連付ける JMS 接続ファクトリーを構成します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation のファクトリーのデフォルトには、JMS 接続ファクトリーとして AGENT_QCF が含まれます。JMS の構成について詳しくは、ご使用のアプリケーション・サーバーの資料を参照してください。
2. 時間トリガー・トランザクションのグループまたは個別の名前に関連付ける JMS サーバーの宛先を構成します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation のファクトリーのデフォルトには、サーバーの宛先として DefaultAgentQueue が含まれます。destination。
JMS サーバーの宛先の名前にドット (.) を入れないでください (例えば、

「A.0001」)。ドットが入っている場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation はそのサーバーと通信できなくなります。

3. Applications Manager を使用して、ビジネス・プロセスで必要な時間トリガー・トランザクションごとに構成します。構成方法については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」の『トランザクションの定義』のセクションで説明されています。時間トリガー・トランザクションの条件パラメーターのセットごとに、JMS エージェント・サーバーとの適切な関連付けがされている必要があります。

エージェントと JMS サーバーの間の通信の構成

このタスクについて

エージェント (時間トリガー・トランザクション) とリモート JMS サーバーの間の通信をセットアップするには、JMS システムで前提条件のセットアップをいくつか行う必要があります。それから、アプリケーション内で構成をいくつか行います。構成は、以下の手順で構成されます。

- ご使用の JMS システムの初期コンテキスト・ファクトリー・コードがアプリケーションに提供されない場合、このコードを作成する必要があります。提供されるコードのリストについては、138 ページの『初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成』を参照してください。
- トランザクションの詳細の定義 - 時間トリガー・トランザクション、またはエージェントは、編集して、JMS システムの接続情報および作成する初期コンテキスト・ファクトリーを含める必要があります。139 ページの『トランザクション情報の定義』を参照してください。

時間トリガー・トランザクションおよびそれがアプリケーション・ビジネス・プロセス・モデリングの全体像にどのように適合するかについて詳しくは、『プロセス・モデルの構成』の章を参照してください。また、キューおよびエージェントの追加情報については、『警告キューの構成』の章を参照してください。

前提条件

このタスクについて

開始する前に、JMS サーバーに対して以下の手順を実行します。これらタスクの実行に関する詳細は、JMS サーバーのドキュメンテーションを参照してください。

手順

1. JMS サーバー上の JMS キュー接続ファクトリー (QCF) とキューの構成を行います。
2. JMS サーバー上のキューの JNDI 表現を構成します。

タスクに関して以下の情報が使用可能であることを確認してください。

- 各キューの JNDI 名
- JNDI QCF ルックアップ
- JMS ロケーション - JMS サーバープロバイダー URL

タスクの結果

前述のタスクを完了した後に、以下の 2 つの手順を表示されている順番どおりに実行してください。これらはいずれもアプリケーション内で実行します。

初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成

このタスクについて

初期コンテキスト・ファクトリー (ICF) クラスを使用すると、リモート Java クライアントがアプリケーションに接続できます。このクラスはアプリケーション・ベンダーによって提供されます。アプリケーションは、エージェントを設定する際に、ICF コードを使用してこれらを識別します。以下の JMS ベンダー用の初期コンテキストのファクトリー・コードは、アプリケーションの中で事前定義されています。

- IBM WebSphere MQ (IBM WebSphere Internet Inter-ORB Protocol URL を介してアクセスされる MQSeries® 用)
- ファイル (Oracle WebLogic などのように、ファイル URL を介してアクセスされる MQSeries 用)
- Oracle WebLogic (WebLogic JMS 用)
- JBoss (JBoss JMS 用)

上記のリストにない JMS サーバー (例えば ActiveMQ) を使用している場合、それに対する初期コンテキストのファクトリー・コードを、以下の手順にしたがってアプリケーションの中で作成する必要があります。

手順

1. アプリケーション・マネージャーを開きます。アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「システム管理」>「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」を選択します。作業領域に、「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」ウィンドウが表示されます。
2. 「+」アイコンを選択して、新しい初期コンテキストのファクトリー・コードを作成します。「初期コンテキスト・ファクトリー」ウィンドウが表示されます。
3. 「初期コンテキスト・ファクトリー」フィールドに、JMS ベンダーによって提供されたクラス名を入力します。例えば、ActiveMQ の場合、クラス名は `org.apache.activemq.jndi.ActiveMQInitialContextFactory` です。
4. 「簡略説明」フィールドに、40 文字以内の記述名を入力します。この名前を次の手順で使うので、書き留めておいてください (139 ページの『トランザクション情報の定義』を参照)。ActiveMQ の場合、**ActiveMQ** と入力します。
5. 「詳細説明」フィールドに、初期コンテキスト・ファクトリーの詳細な説明を 100 文字以内で入力します。
6. 新しい初期コンテキストのファクトリー・コードを保存し、ウィンドウを閉じます。

タスクの結果

ICF について詳しくは、「初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成」を参照してください。

トランザクション情報の定義

このタスクについて

JMS サーバーが当アプリケーションと通信するためには、JMS サーバーと ICF 情報を使用して構成された時間トリガー・トランザクションが存在する必要があります。

手順

1. アプリケーション・マネージャーを開きます。アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「プロセス・モデリング」をダブルクリックします。作業領域に、「プロセス・モデリング」ウィンドウが表示されます。
2. 希望のタブを選択して、「基本伝票種別」を選択してから、「プロセス・タイプ」をダブルクリックします。
3. 実行するエージェントに対応するトランザクションをダブルクリックします。
4. 「時間トリガー」タブを選択します。
5. 新しいエージェント条件の定義を作成するか、編集する既存のエージェント条件の定義を選択します。
6. 「エージェント条件の詳細」画面が表示されます。「実行時プロパティ」タブを選択します。
7. リストから既存のエージェント・サーバーを選択するか、独自のエージェント・サーバーを作成します (後者を推奨)。
8. リストから既存の警告キューを選択するか、独自の警告キューを作成します。
9. 「JMS キュー名」フィールドに、作成したキューの JNDI 名を入力します。137 ページの『前提条件』を参照してください。
10. このエージェントで実行するスレッドの希望数を入力します (5 スレッド以下を推奨。6 スレッド以上が必要な場合は、別のエージェントをそれ独自の JVM 内で開始してください)。
11. 作成した初期コンテキスト・ファクトリー・コードを選択します。138 ページの『初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成』を参照してください。
12. 「QCF ルックアップ」フィールドに、作成したキューの JNDI QCF ルックアップを入力します (これは該当する JMS サーバー用に作成したキュー接続ファクトリーです)。137 ページの『前提条件』を参照してください。
13. 「プロバイダー URL」に入力します。この URL は JMS システムが配置されている場所であり、JMS ベンダー固有のものです。
14. このエージェントに自己トリガーさせるのか (推奨)、外部トリガー (`<install_dir>/install/bin` ディレクトリー内の `triggeragent.sh`) を使用するのを選択します。前者の場合はトリガーの間隔 (分単位) を指定します。
15. JMS セキュリティー・オプションの設定については、『JMS セキュリティー・プロパティの設定』を参照してください。
16. 「条件パラメーター」タブの値はデフォルト値のままにします。
17. 「エージェント条件の詳細」の内容を保存して、このウィンドウを閉じます。
18. `<install_dir>/install/bin` ディレクトリー内の `startagentserver.sh/cmd` スクリプトを実行して、このエージェントをそれ独自の JVM 内で起動します。

タスクの結果

トランザクションの定義およびこの手順について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」で『トランザクションの定義』および『トランザクションを時間トリガーに指定』のセクションを参照してください。

ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクション

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundationの次のリリースで変更される可能性があります。

すべてのビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクションには、CollectPendingJobs 条件パラメーターがあります。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、このモニターに関係する保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

デフォルトでは、CollectPendingJobs は「Y」に設定されます。1 つの特定の時間トリガー・トランザクションがかなりの量の getPendingJobs 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

非同期要求プロセッサ

このトランザクションは、任意の API 要求またはサービス要請をオフライン・モードで作成します。YFS_ASYNC_REQ テーブルから API メッセージまたはサービス・メッセージが選択され、それに対応する API またはサービスが呼び出されます。createAsyncRequest API を使用して、メッセージを YFS_ASYNC_REQ テーブルに挿入することができます。Sterling Warehouse Management System の一部のビジネス・トランザクションも、YFS_ASYNC_REQ テーブルにメッセージを挿入します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 43. 「非同期要求プロセッサ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ASYNC_REQ_PROCESSOR
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 44. 「非同期要求プロセッサー」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
リード日数	エージェントがレコードを消去するまでの日数です。空欄のままにするか、0 (ゼロ) を指定すると、30 がデフォルト設定されます。
最大エラー件数 (Maximum Error Count)	例外がスローされた場合にレコードが処理される最大回数です。失敗した回数がこの値と等しくなると、エージェントはそれ以上レコードを処理しません。空欄のままにするか、0 (ゼロ) を指定すると、20 がデフォルト設定されます。
再処理間隔 (分単位) (Reprocess Interval In Minutes)	トランザクションが処理されて例外がスローされてから、次にトランザクションが処理されるまでの、分単位の時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_ASYNC_REQ テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし (None)

保留中のジョブの数

なし (None)

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 45. 非同期要求プロセッサーによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
HAS_EXCEPTIONS	なし (None)	YCP_ASYNC_REQ_PROCESSOR.HAS_EXCEPTIONS.html	あり

* これらのファイルは、以下のディレクトリーにあります。

<INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML

大/小文字を区別しないデータ・ローダー

「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントは、「大/小文字を区別しない検索 (CaseInsensitiveSearch)」のマークが付けられた列からシャドー列にデータをマイグレーションします。このエージェントは、トランザクション条件を使用して更新が必要なレコードを特定し、次に元の列の値をシャドー列内で小文字に変換します。大/小文字を区別しない検索の使用可能化について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースの拡張*』を参照してください。

「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントは、既存データを更新する場合に必要なです。シャドー列が作成されると、テーブルまたはテーブル・タイプごとに、「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントを一度だけ実行する必要があります。その後、アプリケーションによって、シャドー列がリアルタイムで入力されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 46. 「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DATA_LOADER
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 47. 「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none">これを空欄のままにするか、10000 未満の数を指定した場合、5000 がデフォルト設定されます。10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。

表 47. 「大小文字を区別しないデータ・ローダー」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
テーブル・タイプ (TableType)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性がある場合、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。 有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。 これを CONFIGURATION に設定した場合、エージェントは、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられたレコードに対して実行されます。 これを TRANSACTION に設定した場合、エージェントは、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられたレコードに対して実行されます。
テーブル名	必須。シャドー列にマイグレーションするレコードのテーブル名です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

集合・混載ステータスの変更

このトランザクションは、changeLoadStatus() API と等価です。このトランザクションについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』を参照してください。

集合・混載処理パイプラインの一部として構成するために、集合・混載ステータスの自動変更が必要な場合、常にこのトランザクションを使用することができます。この自動変更では、集合・混載情報の集合・混載計画ソフトウェアへのエクスポートや集合・混載の運送会社への送信を表現できます。

タスク・キューを処理するには、このトランザクションを構成する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 48. 「集合・混載ステータスの変更」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHANGE_LOAD_STATUS
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	changeLoadStatus()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 49. 「集合・混載ステータスの変更」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 50. 「集合・混載ステータスの変更」の統計

統計の名前	説明
変更された集合・混載数 (NumLoadsChanged)	ステータスが変更された集合・混載の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が現在日付の値以下 (\leq) の、トランザクションによって処理可能な YFS_Task_Q テーブル内のレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `changeLoadStatus()` API の項に記載されたイベントが発生します。

出荷ステータスの変更

このトランザクションは、`changeShipmentStatus()` API と等価です。このトランザクションについて詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』を参照してください。

出荷処理パイプラインの一部として構成するために、出荷ステータスの自動変更が必要な場合、常にこのトランザクションを使用することができます。例えば、この自動変更では、倉庫管理システムへの出荷情報のエクスポートやバイヤーへの事前出荷通知の送信を表すことができます。

タスク・キューを処理するには、このトランザクションを構成する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 51. 「出荷ステータスの変更」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHANGE_SHIPMENT_STATUS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 52. 「出荷ステータスの変更」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 53. 「連鎖オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
ステータスに変更された出荷数 (NumShipmentsChanged)	ステータスに変更された出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の changeShipmentStatus() API の項に記載されたイベントが発生します。

配達計画の終了

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「配達計画のページ (Delivery Plan Purge)」が配達計画関連のデータを削除するまで、一時的なページとして機能します (229 ページの『配達計画のページ (Delivery Plan Purge)』を参照してください)。

このトランザクションは、未完了の集合・混載や出荷が存在しない配達計画をすべて選択して、deliveryplan_closed_flag に「Y」のマークを付けます。このフラグは、これ以上実行できる操作がこの計画にないことを示します。

このトランザクションは、集合・混載パイプラインにおける「配達計画の終了」(CLOSE_DELIVERY_PLAN) 基本トランザクションに対応しています。

コンソールを使用するエンタープライズは、ページ・ジョブをスケジュールする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 54. 「配達計画の終了」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_DELIVERY_PLAN
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし

表 54. 「配達計画の終了」の属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 55. 「配達計画の終了」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 56. 「配達計画の終了」の統計

統計の名前	説明
クローズされた配達計画数 (NumDeliveryPlansClosed)	クローズされた配達計画の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 57. 「配達計画の終了」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	delivery_plan_dbd.txt	YDM_CLOSE_DELIVERY_PLAN.ON_SUCCESS.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

集合・混載を閉じる

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「集合・混載ページ」が集合・混載関連のデータを削除するまで、一時的なページとして機能します（245 ページの『集合・混載ページ』を参照してください）。

このトランザクションは、集合・混載パイプラインにおける「集合・混載を閉じる」基本トランザクション (CLOSE_LOAD) に対応しています。

集合・混載処理パイプラインを使用する場合、このトランザクションをスケジュールする必要があります。閉じられた集合・混載のみが、ページ・トランザクションによって選択されます。したがって、このトランザクションをパイプラインの一部に含め、その日の最後に実行されるようにスケジュールする必要があります。

このトランザクションをパイプラインの一部に含める必要があります。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 58. 「集合・混載を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_LOAD
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 59. 「集合・混載を閉じる」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。

表 59. 「集合・混載を閉じる」のパラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 60. 「集合・混載を閉じる」の統計

統計の名前	説明
閉じられた集合・混載数 (NumLoadsClosed)	閉じられた集合・混載の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、どの未完了の集合・混載、未完了の出荷にも関連付けられていない、未完了の配達計画の数です。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 61. 「集合・混載を閉じる」トランザクションによって発生するイベント。

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	YDM_CLOSE_LOAD_PLAN.ON_SUCCESS.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

積荷目録を閉じる (Close Manifest)

この時間トリガー・トランザクションは、積荷目録の MANIFEST_CLOSED_FLAG フラグを「Y」に設定し、積荷目録ステータスを CLOSED に更新します。この時間トリガー・トランザクションは、確認を保留しているすべての出荷を確認し、積荷目録を閉じます。

注: 条件を指定しないで「積荷目録を閉じる」エージェントを起動した場合、出荷ノード全体において対象となるすべての積荷目録が閉じられます。

yfs.properties_ysc_ext.in ファイル内の yfs.closemanifest.online プロパティは、この時間トリガー・トランザクションをオンライン・モードまたはオフライン・モードで動作するように設定するために使用されます。

- ・ **オンライン・モード:** オンライン・モードでは、通常どおり「積荷目録を閉じる」トランザクションが実行され、積荷目録内のすべての出荷が確認されてから、積荷目録が閉じられます。
- ・ **オフライン・モード:** オフライン・モードでは、「積荷目録を閉じる」トランザクションがエージェントを起動し、積荷目録ステータスを「終了要求済み」に変更します。エージェントが実行されると、1 回の呼び出しで、積荷目録の各出荷が確認されるか、積荷目録が閉じられます。

操作モード (オンラインまたはオフライン) は、`yfs.properties_ycs_ext.in` ファイルの `yfs.closemanifest.online` プロパティに指定された値に基づいて決定されます。このプロパティをオーバーライドするには、これに関するエントリを `<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties` ファイルに追加します。 `customer_overrides.properties` ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

デフォルトのすぐに使用可能な出荷済みプロパティを使用すると、「積荷目録を閉じる」トランザクションはオンライン・モードで実行されます。

「積荷目録を閉じる」トランザクションをオフライン・モードで実行する場合は、トランザクションに対して定義されたすべてのエージェント条件が正しく構成されていることを確認してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 62. 「積荷目録を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_MANIFEST
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	積荷目録作成
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	confirmShipment()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 63. 「積荷目録を閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 63. 「積荷目録を閉じる」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
出荷ノード	オプション。「積荷目録を閉じる」の実行が必要な出荷ノードです。これが渡されない場合は、すべての出荷ノードがモニターされます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 64. 「積荷目録を閉じる」の統計

統計の名前	説明
確認された出荷数 (NumShipmentsConfirmed)	確認された出荷の数。
閉じられた積荷目録数 (NumManifestsClosed)	閉じられた積荷目録の数。
エラーが発生した積荷目録数 (NumManifestsErrored)	エラーが発生した積荷目録の数。
エラーが発生した出荷数 (NumShipmentsErrored)	エラーが発生した出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、未完了の積荷目録数と積荷目録 (MANIFEST_STATUS が「1200」) に含まれる出荷数の合計です。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 65. 「積荷目録を閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	manifest_dbd.txt	YDM_CLOSE_MANIFEST .ON_SUCCESS.xml	あり

オーダーを閉じる

この時間トリガー・トランザクションは、オーダーの ORDER_CLOSED フラグを「Y」に設定し、ON_SUCCESS イベントを生成します。これらのアクションは、すべてのオーダー明細の ORDER_QTY が構成済みピックアップ・ステータスに達した場合のみ実行されます。オーダーの ORDER_CLOSED フラグが「Y」に設定された場合、そのオーダーはモニター対象として選択されません。

パイプライン内で、ページ・トランザクションと共に、「オーダーを閉じる」エージェントを構成する必要があります。

このトランザクションの要素および属性の多くは、テンプレート駆動型です。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。

キャンセル済みオーダーに対して警告が発生するのを避けるために、「オーダーを閉じる」エージェントを実行してからモニター・エージェントを実行する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 66. 「オーダーを閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_ORDER
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 67. 「オーダーを閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 68. 「オーダーを閉じる」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
閉じられたオーダー数 (NumOrdersClosed)	閉じられたオーダーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Task_Q テーブル内の AVAILABLE_DATE の値が現在の日付の値以下 (\leq) となる、トランザクションによって処理可能なレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 69. 「オーダーを閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	YFS_CLOSE_ORDER.ON_SUCCESS.xml	あり

受入の完了

この時間トリガー・トランザクションは、指定された受入ルールを使用して受入を完了させます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 70. 「受入の完了」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPT_COMPLETE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	受入 (購入オーダー受入、返品受入、転送オーダー受入、受入)
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 71. 「受入の完了」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	「受入の完了」の実行に必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ノード	必須です。「受入の完了」の実行に必要なノードです。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 72. 「受入の完了」の統計

統計の名前	説明
完了した受入数 (NumReceiptsClosed)	完了した受入の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、完了できる受入 (OPEN_RECEIPT_FLAG が「Y」) の数です。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 73. 「受入の完了」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	receipt_dbd.txt	YFS_RECEIPT_COMPLETE .ON_SUCCESS.xml	あり

複数の入荷が同じロケーションに受け入れられ、受け入れた在庫にライセンス・プレートが付与されていない場合、エラー・メッセージ「格納する在庫がソース・ロケーションにありません (There is no inventory for put away at the SourceLocation)」が表示されます。この問題の解決方法は、以下の手順のいずれかです。

- 既に受け入れている入荷に対する移動要請を手動で作成します。移動要請の作成について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System User Guide*』を参照してください。
- 受け入れる予定である入荷については、在庫にライセンス・プレートが付与されていることを確実にし、入荷と格納用の在庫を同じロケーションに受け入れることがないようにします。

出荷を閉じる (Close Shipment)

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「出荷ページ」が出荷関連のデータをすべて削除するまで、一時的なページとして機能します (289 ページの『出荷ページ』を参照してください)。

このトランザクションは、CLOSE_SHIPMENT トランザクションの抽出についてのパイプライン構成に基づいて、完了の条件を満たすすべての出荷を抽出し、それらの shipment_closed_flag に「Y」のマークを付けます。このフラグは、これ以上実行できる操作がこの出荷にないことを示します。関連するステータスの変更はありません。

せん。出荷済みステータスまたは配達済みステータスを抽出するように、パイプライン内でこのトランザクションを構成できます。

このトランザクションは、出荷パイプライン内の「出荷を閉じる」基本トランザクション (CLOSE_SHIPMENT) に対応しています。

このトランザクションをパイプラインの一部に含める必要があります。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 74. 「出荷を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_SHIPMENT
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 75. 「出荷を閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 76. 「出荷を閉じる」の統計

統計の名前	説明
閉じられた出荷数 (NumShipmentsClosed)	閉じられた出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 77. 「出荷を閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_CLOSE_SHIPMENT. ON_SUCCESS.xml	あり

出荷統計の収集

「出荷統計の収集」は、時間トリガー・トランザクションです。これを起動して出荷を処理し、日次出荷レポートに必要な情報を生成できます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 78. 「出荷統計の収集」の属性

属性	値
トランザクション名	出荷統計の収集
トランザクション ID	COLLECT_STATISTICS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 79. 「出荷統計の収集」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 80. 「出荷統計の収集」の統計

統計の名前	説明
統計収集日数 (NumDaysStatisticsCollected)	出荷統計が収集された日数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、出荷統計を収集する必要のある日数です。この日数は、現在の日付と出荷統計を最後に収集した日付との差 (日単位) によって計算します。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 81. 「出荷統計の収集」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	YDM_COLLECT_STATISTICS.ON_SUCCESS.xml	なし

追加在庫の統合

「追加在庫の統合」時間トリガー・トランザクションは、YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブルおよび YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブルの供給と需要を統合します。統合は、YFS_INVENTORY_SUPPLY テーブル内および YFS_INVENTORY_DEMAND テーブル内の追加の供給と需要の数量を合計することによって行います。

適合する供給または需要がない場合、YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブル内および YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブル内の変更の合計数量を使用して新しい供給または需要が作成されます。変更が適用された後、統合処理で使用された YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブル内および YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブル内のレコードは削除されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 82. 「追加在庫の統合」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CONSOLIDATE_ADDNL_INV
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションのパラメーターは、以下のとおりです。

表 83. 「追加在庫の統合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に検索および処理される、追加の供給と需要が統合された在庫アイテム・レコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブルおよび YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 84. 「追加在庫の統合」の統計

統計の名前	説明
統合で処理される追加の在庫供給レコード数 (NumInventorySupplyAddnlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫供給レコードの数。
統合で処理される追加の在庫需要レコード数 (NumInventoryDemandAddnlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫需要レコードの数。
統合で処理される追加の在庫需要詳細レコード数 (NumInventoryDemandDtlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫需要詳細レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、
YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブル内および
YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブル内の個別の在庫アイテムの数を 2
倍した値です。

発生するイベント

なし。

出荷に統合

これは、オーダー・パイプライン内のタスク・キューに基づくトランザクションであり、CONSOLIDATE_TO_SHIPMENT 基本トランザクションに対応します。このトランザクションは、指定されたオーダー・リリースを含めることができる出荷を検索します。既存の出荷が見つかり、changeShipment() API が呼び出されます。見つからない場合は、createShipment() API が呼び出されます。

トランザクションは、既存の出荷を検索するために、オーダー・リリースの出荷ノード、出荷先住所、セラー組織コード、運送会社、伝票種別などを既存の出荷と突き合わせます。トランザクションが突き合わせる属性のリストは、実際は、オーダーの伝票種別の伝票テンプレートに基づきます。

このトランザクションは、以下のいずれかのステータスの出荷にのみ適用可能です。

- 荷作成済み
- ESP チェックが必要
- ESP 保留時
- ESP 保留解除
- ルーティングのためにリリース済み
- ルーティング待機中
- 出荷ルーティング中 (Shipment Routing)
- ノードに送信

オーダー・リリースを既存の出荷と正常に統合するには、現在のステータスの出荷に対して「明細の追加」および関連する変更タイプが許可されている必要があります。

このトランザクションは、オーダー・フルフィルメント・パイプラインの一部です。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

GIFT_FLAG が Y に設定されたオーダー・リリースは、他のどのリリースとも統合できません。

詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の createShipment() API、changeShipment() API、および releaseOrder() API についての記述を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 85. 「出荷に統合」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CONSOLIDATE_TO_SHIPMENT
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	createShipment() および changeShipment()
ユーザー出口	<ul style="list-style-type: none"> トランザクションは、com.yantra.ydm.japi.ue の beforeConsolidateToShipment を呼び出します。 トランザクションは、処理を開始する前にリリースごとに YDMBeforeConsolidateToShipment を呼び出します。 トランザクションは、出荷を検索した後、com.yantra.ydm.japi.ue の determineShipmentToConsolidateWith を呼び出します。 <p style="text-align: center;">YDMDetermineShipmentToConsolidateWith。</p> <p>詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i>』を参照してください。</p>

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 86. 「出荷に統合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 87. 「出荷に統合」の統計

統計の名前	説明
統合されたオーダー・リリース数 (NumOrderReleasesConsolidated)	統合されたオーダー・リリースの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (\leq) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 88. 「出荷に統合」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_CONSOLIDATE_TO_SHIPMENT.ON_SUCCESS.xml	あり

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の createShipment() API および changeShipment() API の項に記載されたイベントも発生します。

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

カタログ・インデックスの作成 (Create Catalog Index)

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションは、カタログ検索で使用される Apache Lucene インデックス・ファイルを作成します。このインデックス・ファイルは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースまたは外部ソースから抽出された非正規化アイテム・データを格納することによって、検索パフォーマンスを向上させます。

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションを構成して、以下のタスクを実行できます。

- スケジュール済みインデックス作成またはユーザーが開始するインデックス作成の実行
- フル・インデックス・ファイルまたはインクリメンタル・インデックス・ファイルの作成
- インデックス・ファイルのアクティブ化

インデックス作成処理

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションでは、インデックス作成用のエージェントが提供されます。インデックス作成はマルチスレッド処理になっており、各処理では、インデックス作成エージェントが Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベース内のアクティブな販売カタログから、アイテム情報およびアイテム関連情報を抽出します。対応する XML 構成ファイルが拡張されている場合、エージェントはこの情報を外部ソースから抽出することができます。

エージェントはこの情報を、最終的なインデックスに含める必要のあるアイテム・データを識別するための複数のファイルに書き込みます。エージェントは、ファイルへの書き込みを完了した後、各ファイルを最終的なインデックス・ファイルにマージします。

マルチスレッド処理には、並列に処理できるメリットがあります。大量のデータベース・データは、セグメント化されて同時に処理されます。これにより、1 つの大きなファイルを逐次処理する場合に比べて高速化され、拡張が容易になります。

インデックス作成エージェントは、情報を複数のファイルに書きこむときに、アイテムごとに以下のタスクを実行してから次のアイテムにループします。

- アイテムに関するデータについて、Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースまたは外部ソースに照会します。
- XML 構成ファイルおよび拡張ファイルの情報を使用して、照会によって取得するデータを決定します。
- Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースから、関連データを取得します。
- アイテムの Lucene ドキュメントを作成します。

トランザクションは、アイテムごとに Lucene ドキュメントを作成した後、組織および組織のロケールに基づいて、それらのドキュメントをインデックス・ファイルに書き込みます。

カタログ・インデックス・ファイルにアクセスするための構成オプション

ビジネス要件に応じて、以下の 2 つの方法のいずれかで「カタログ・インデックスの作成」を構成できます。

- 共有された集中型ディスク上にインデックスを作成し、すべてのサーバーからアクセスできるようにします。
 - メリット
 - 共有されたインデックスの集中制御
 - インデックスが複数のサーバー間でコピーされないため、ファイル転送問題が発生しません。
 - 制限
 - 共有ディスクが単一障害点になる可能性があります (予備ディスクが起動されない場合)。
 - 設定によっては、共有ディスクからの大量の読み取り/書き込みによって、パフォーマンスが低下する可能性があります。
- インデックスのコピーを作成し、ファイル転送を介してそれを複数のサーバーにプッシュします。インデックス作成の完了時にファイル転送処理は自動的に行われますが、インデックスは自動的にアクティブ化されません。すべてのサーバーからファイル転送完了の応答が返されたときに、`manageSearchIndexTrigger` API を呼び出してインデックスをアクティブ化します。
 - メリット
 - 障害の中心点がない
 - 制限
 - インデックス・ファイルを作成してサーバー間でプッシュするため、オーバーヘッドが生じる可能性があります。

1 つの場所にインデックスを作成して、別の場所からそれを読み取る方法を選択した場合、個々のプロセスで異なるプロパティを使用可能にする方法について、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

カタログ・インデックスの作成と検索について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* カタログ管理概念ガイド』を参照してください。

属性

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの属性を示します。

表 89. 「カタログ・インデックスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	Create_Catalog_Index
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YCMParseAssetUE YCMGetAdditionalCatalogIndexInformationUE

条件パラメーター

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの条件パラメーターを示します。

表 90. 「カタログ・インデックスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
組織コード	必須。検索インデックスを維持するカタログ組織またはサブカタログ組織の組織コード。
メッセージ数 (Number of Messages)	必須。インデックス・ファイルの作成時に使用するメッセージの数。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、スレッドあたり 1 つのメッセージのみを処理します。例えば、メッセージ数が 10、スレッド数が 3 に設定された場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は一度に 3 つのメッセージのみを処理します。システム・パフォーマンスの微調整については、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation パフォーマンス管理ガイド』を参照してください。

表 90. 「カタログ・インデックスの作成」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
インクリメンタル・ビルド	<p>Y または N です。</p> <p>既存のインデックス・ファイルを再作成するには、Y を指定します。Y を指定した場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、最後に作成に成功したインデックスに基づいて、インデックスを再作成します。アイテムの属性が変更されたかどうかは、YFS_ITEM テーブルの MaxModifyTS 列によって判別されます。アイテムの外部属性が変更された場合、アイテムに対して manageItem API を呼び出すことによって MaxModifyTS 列を更新します。</p> <p>フル・インデックス・ファイルを作成するには、N を指定します。</p> <p>ユーザーがインデックス作成を開始した場合は、このパラメーターは無視されます。しかし、スケジュールされたインデックス作成を構成している場合、インデックスのフル・ビルドまたはインクリメンタル・ビルドを指定していることを確認してください。</p>
カテゴリ・ドメイン	<p>オプション。インデックスを作成する元になるカタログです。カタログ組織またはサブカタログ組織のアクティブな販売カタログがデフォルトになります。スケジュールされたインデックス作成を構成している場合、カタログを指定していることを確認してください。</p>
自動的にアクティブ化する (Auto Activate)	<p>Y または N です (オプション)。</p> <p>インデックス・ファイルの作成後にインデックスをアクティブ化するには、Y を指定します。</p> <p>デフォルトは、N です。</p>

表 90. 「カタログ・インデックスの作成」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
検索インデックス・トリガーの自動挿入 (Auto Insert Search Index Trigger)	<p>Y または N です (オプション)。 スケジュールされたカタログ・インデックス・ファイルの作成を有効にするには、Y を指定します。エージェントは、YFS_SEARCH_INDEX_TRIGGER テーブルに格納された情報を参照して、スケジュールされたインデックス作成をいつ実行するかを決定します。インデックスのビルド・タイプ (フルまたはインクリメンタル) をエージェント条件に指定します。</p> <p>カタログ・インデックス・ファイルの作成をユーザーが開始できるようにするには、N を指定します。エージェントは、継続的に YFS_SEARCH_INDEX_TRIGGER テーブルを照会し、インデックス作成が指示されているかどうかを判定します。ユーザーが、IBM Sterling Business Center からインデックス作成を開始した場合、このテーブルのステータス設定が「スケジュール済み」に変わります。これによって、エージェントはインデックス作成を起動します。ユーザーは、Sterling Business Center から、インデックスのビルド・タイプ (フルまたはインクリメンタル) を指定します。</p> <p>スケジュールまたはユーザーによってインデックス作成が実行された後、インデックスを Sterling Business Center からアクティブ化することができます。あるいは、インデックスが自動的にアクティブ化されるようにエージェントを構成することもできます。</p> <p>スケジュールとユーザーの両方がインデックス作成を開始できるようにするには、トランザクションが 2 つのエージェントのインスタンスを含むように構成します。1 つのインスタンスによってユーザーが開始するインデックス作成を起動し、もう 1 つのインスタンスによってスケジュール済みインデックス作成を起動するように構成します。</p>
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの統計を示します。

表 91. 「カタログ・インデックスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成された検索インデックス数 (SearchIndicesBuilt)	作成された検索インデックスの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 92. 「カタログ・インデックスの作成」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	非公開	CATALOG_INDEX_BUILD.ON_SUCCESS.xml	あり

連鎖オーダーの作成 (Create Chained Order)

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上の連鎖オーダーを作成します。連鎖可能なオーダー明細を含む新しい連鎖オーダーを作成する代わりに、それらの明細を既存の連鎖オーダーに追加することもできます。既存の連鎖オーダーは、`determineChainedOrderForConsolidation` 外部プログラムによって特定する必要があります。外部プログラムが実装されていないか、外部プログラムが空白文書を返す場合、1 つ以上の連鎖オーダーが新規作成されます。

連鎖オーダーの作成について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createChainedOrder()` API および `YFSDetermineChainedOrderForConsolidation` 外部プログラムについての記載内容を参照してください。

このトランザクションは、オーダーをスケジュールした後に起動する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 93. 「連鎖オーダーの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHAINED_ORDER_CREATE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createChainedOrder()</code>

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 94. 「連鎖オーダーの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 95. 「連鎖オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	「連鎖オーダーの作成」で処理されたオーダーの数。
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成された連鎖オーダーの数。

処理対象の 2 つのオーダーが存在し、最初のオーダーが連鎖オーダーを作成した場合、DetermineChainedOrderForConsolidation 外部プログラムによって、2 番目のオーダーの明細が最初のオーダーに追加されます。作成された連鎖オーダーの数は、2 つとしてカウントされます。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (\leq) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の createChainedOrder() API の項に記載されたイベントが発生します。

派生オーダーの作成 (Create Derived Order)

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上の派生オーダーを作成します。派生

オーダーが存在する場合、派生可能な明細を追加するか、それらの明細を含む派生オーダーを新規作成することができます。既存の派生オーダーは、`determineDerivedOrderForConsolidation` 外部プログラムによって特定する必要があります。外部プログラムが実装されていないか、ヌル文書を返す場合、派生オーダーが新規作成されます。派生オーダーの作成については、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createDerivedOrder()` API および `YFSDetermineDerivedOrderForConsolidation` 外部プログラムについての記載内容を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 96. 「派生オーダーの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DERIVED_ORDER_CREATE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createDerivedOrder()</code>

タスク・キュー・オブジェクトにポストされるトランザクション・キーは、オーダーに関連付けられたプロセス・タイプの `DERIVED_ORDER_CREATE` 抽象化トランザクションのインスタンスである必要があります。それ以外の場合、例外がスローされます。

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 97. 「派生オーダーの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 98. 「派生オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成された派生オーダーの数。

処理対象の 2 つのオーダーが存在し、最初のオーダーが派生オーダーを作成した場合、DetermineChainedOrderForConsolidation 外部プログラムによって、2 番目のオーダーの明細が最初のオーダーに追加されます。作成された派生オーダーの数は、2 つとしてカウントされます。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の createDerivedOrder() API の項に記載されたイベントが発生します。

オーダー・インボイスの作成

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上のインボイスを作成します。オーダー・ヘッダー・キーのために、createOrderInvoice() API が呼び出されます。

数量または価格に影響する可能性のある処理がすべて完了している場合にのみ、このトランザクションをパイプライン内で構成します。インボイスの作成後に、明細の数量を請求済み数量よりも減らすことはできません。

「オーダー・インボイスの作成」トランザクションと「出荷インボイスの作成」トランザクションのどちらも、オーダーのインボイスを作成することができます。パイプラインを構成する場合、これら 2 つのトランザクションのうちの 1 つのみが、特定のオーダー明細のインボイスを作成するように構成されていることを確認してください。詳しくは、173 ページの『出荷インボイスの作成』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 99. 「オーダー・インボイスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CREATE_ORDER_INVOICE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	createOrderInvoice()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 100. 「オーダー・インボイスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 101. 「オーダー・インボイスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成されたオーダー・インボイス数 (NumOrderInvoicesCreated)	作成されたオーダー・インボイスの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createOrderInvoice()` API の項に記載されたイベントが発生します。

出荷インボイスの作成

オーダーが決済処理を必要とする場合、インボイス作成は必須です。以下の条件が満たされる場合、インボイスが作成されます。

- ドキュメント・パラメーター・レベルでインボイス作成が可能。
- セラーが決済処理を必要とする。

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納された出荷キーを持つ出荷に対して、1 つ以上のインボイスを作成します。出荷ヘッダー・キーに対して、`createShipmentInvoice()` API が呼び出されます。

このトランザクションは、出荷が出荷済みステータスに達した場合にのみ、出荷パイプライン内で構成する必要があります。

「オーダー・インボイスの作成」と「出荷インボイスの作成」のどちらも、オーダーのインボイスを作成できます。パイプラインを構成する場合、これら 2 つのトランザクションのうちの 1 つのみが、特定のオーダー明細のインボイスを作成するように構成されていることを確認してください。171 ページの『オーダー・インボイスの作成』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 102. 「出荷インボイスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CREATE_SHIPMENT_INVOICE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createShipmentInvoice()</code>

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 103. 「出荷インボイスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 103. 「出荷インボイスの作成」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 104. 「出荷インボイスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成された出荷インボイス数 (NumShipmentInvoicesCreated)	作成された出荷インボイスの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の createShipmentInvoice() API の項に記載されたイベントが発生します。

ESP 評価者

「ESP 評価者」時間トリガー・トランザクションは、出荷が特定のエコノミック出荷パラメーターに適合するかどうかを検証します。出荷に対してどの運賃を適用するかを決定する運賃条件を使用して、バイヤーまたはエンタープライズについて ESP を構成することができます。

ESP のために出荷を保留するように構成を定義している場合、出荷は作成時に ESP のために保留されます (ステータスは「ESP 保留時」)。このタスク・キューに基づく時間トリガー・トランザクションは、ESP に対して出荷を評価し、その条件 (重量と容積の制限、および保留の最大日数) に適合する場合、出荷パイプライン内の次のステップに出荷を渡します。これで出荷ステータスは「ESP 保留解除」に設定され、ルーティング処理が開始されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 105. 「ESP 評価者」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ESP_EVALUATOR.0001
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	出荷
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	getNodeMinimumNotificationTime

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 106. 「ESP 評価者」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「ESP 評価者」の実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 107. 「ESP 評価者」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	ESP_EVALUATOR.ON_SUCCESS.xml	あり

アイテム・ベースの割り当て

「アイテム・ベースの割り当て」トランザクションは、YFS_IBA_TRIGGER テーブルで「アイテム・ベースの割り当て」プロセス用にトリガーされている在庫アイテムおよび在庫ノードに基づいて、既存オーダーの約束していない需要と約束した需要をより適切な供給に割り当てます。

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、YFS_IBA_TRIGGER テーブルから、以下の条件に合致するすべての「アイテム・ベースの割り当て」トリガーを取得し、処理します。

- IBA_RUN_REQUIRED = "Y"
- LAST_IBA_PROCESSED_TS が現在時刻よりも「x」時間前である。ここで「x」は、インストール・ルール内の「アイテム・ベースの割り当てエージェントの実行間隔 (時間数)」のルールに定義されている時間です。インストール・ルールについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*」を参照してください。このルールは、「アイテム・ベースの割り当て」エージェントが、前に処理した YFS_IBA_TRIGGER テーブル内のトリガーを、再処理してはならない間隔を示すために使用されます。これによって、IBA エージェントは指定された時間間隔内にアイテムとノードの組み合わせを処理しすぎることがなくなるため、システムに対する高負荷を避けることができます。
- PROCESSING_BY_AGENT="N" または PROCESS_OVER_BY_TS が現在のタイム・スタンプより前である。PROCESSING_BY_AGENT フィールドを使用して、他のエージェントのインスタンスによって処理中の IBA トリガーがピックアップされないようにします。

「在庫組織コード」がエージェント条件に指定されている場合は、その在庫組織の在庫アイテムを持つ IBA トリガーのみが取り出されます。

トリガーされたアイテムとノードの組み合わせごとに、エージェントは、そのアイテムおよびノードを含むすべての該当するオーダー明細またはオーダー明細予約を見つけて、ユーザー構成の IBA 選択ルールまたは FIFO (先入れ先出し) IBA 選択ルールに基づいて、それらの約束していない需要と約束した需要を、より適切な入手可能な供給に移動しようとします。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、一致した供給の最初の出荷日で新規の正のオーダー明細予約を作成し、既存の需要の出荷日には負のオーダー明細予約を作成します。すべてのオーダーは、処理が完了すると保留状態になり、オーダー明細予約で変更が検出された場合に、再スケジュールされます。

「アイテム・ベースの割り当て」プロセスには、以下の構成が必要です。

- 「アイテム・ベースの割り当てを使用する」ルールを有効にする必要があります。
- アイテムおよびノードで「アイテム・ベースの割り当て許可」が有効でなければなりません。
- 再スケジュールのためオーダーを保留状態にできるように、保留タイプをオーダー明細予約変更の変更タイプ用にセットアップする必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

バックオーダーされた需要を再割り当てするために、「1 つの明細がバックオーダーされた場合は、優先度が最も高い出荷ノードに対してバックオーダーする」のルールにチェック・マークを付ける必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」の『フルフィルメント・ルール (Fulfillment Rules)』セクションを参照してください。

「アイテム・ベースの割り当て」ロジックを処理する前に、「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、「アイテム・ベースの割り当て」トリガー上の以下のフィールドを更新します。

- PROCESSING_BY_AGENT = “Y”。これは、エージェントのインスタンスが、現在このトリガーを処理中であることを示します。
- PROCESS_OVER_BY_TS = 現在時刻 + 1 時間。これは、エージェントがこの IBA トリガーの処理を終了する予定時間を示します。1 時間は固定ウィンドウで、変更できません。Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、現在のタイム・スタンプがこのタイム・スタンプより後の場合は、実際の値に関係なく、PROCESSING_BY_AGENT フラグを「N」として扱います。
- IBA_RUN_REQUIRED = “N”。これは、IBA_RUN_REQUIRED フラグを「N」にリセットします。

該当するオーダー・リリース・ステータスおよび割り当て済みのオーダー明細予約に基づいて需要のリストを取得する

需要のリストは、該当するオーダー・リリース・ステータスおよびオーダー明細予約から派生し、これらには IBA トリガーにおけるアイテムおよびノードが含まれません。以下のタイプの需要が取り出されます。

- 連鎖オーダーの需要
- 作成済みの連鎖オーダーのあるオーダーの需要
- 調達ノードはあるが、連鎖オーダーがまだ作成されていないオーダーの需要

- 調達ノードがないオーダーの需要
- オーダー明細予約からの需要

需要数量は、需要タイプを保有する「ステータス在庫のタイプ」構成のステータスを持つオーダー・リリース・ステータスの量に基づいて派生します。ここでは、「アイテム・ベースの割り当てに、考慮された需要タイプを使用する」が有効である場合に供給タイプが考慮されます。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

割り当てる使用可能な供給のリストを取得する

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、約束していない需要および約束した需要を無視して、ノード上のアイテムの在庫状況に基づいて、使用可能な供給を取得します。在庫組織が在庫を外部で管理している場合、外部の在庫状況は、YFSGetExternalInventoryUE 外部プログラムによって読み取ることができます。「アイテム・ベース割り当て時に在庫を検索する需要タイプ」を考慮する供給の在庫状況のみが、割り当てロジックで使用されます。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

割り当てられた需要は、「リリース時に検索する需要」と同じ供給と一致しなければなりません。

需要を FIFO (先入れ先出し) 順序と突き合わせる

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、使用可能な供給のリストを最初の出荷日 (ETA) 順にソートして、トップダウン・ロジックを使用して、取得した需要のリストと突き合わせます (最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われる、在庫状況取得における通常の突き合わせロジックとは異なります)。需要は、以下の順序で割り当てられます。

- 連鎖オーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の昇順になります。(これらのタイプの需要は、連鎖オーダーにおける変更を避けるために、最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われます)。
- 作成済みの連鎖オーダーがあるオーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次に製品利用可能日の昇順になります。(これらのタイプの需要は、オーダーにおける変更を避けるために、最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われます)。
- 調達ノードおよび連鎖オーダーの作成が迫っている (事前通知時刻ウィンドウ内にある) オーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- 調達ノードがなくリリース・ウィンドウ (事前通知時刻ウィンドウ) 内にあるオーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- オーダー明細でのオーダー明細予約からの需要は、要求された予約日の順序になり、調達ノードあり、または調達ノードなしのオーダーの余剰需要 (事前通知時刻ウィンドウ外) は、最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- 在庫予約からの需要は、出荷日の順序になります。

需要のタイプが異なると、その重要度に基づいて、優先順位が異なる点に注意してください。連鎖オーダーまたは連鎖オーダーに関連したオーダーの需要は、通常のオーダーの需要よりも高い優先順位で処理されます。また、出荷日が事前通知時刻ウィンドウ内にある需要も、事前通知時刻ウィンドウ外にある需要よりも優先順位が高くなります。

一致した需要のオーダー予約を更新する

ユーザー構成の順序付け、次に FIFO 順序で入手可能な供給と需要を突き合わせた後、システムはオーダー明細予約変更および在庫需要変更 (オーダー明細予約変更に対応) のリストを構築し、それらを要約して、オーダー予約更新と在庫更新の数を最適化します。一致した需要について、負のオーダー明細予約が追加されます。一致した需要について、正のオーダー明細予約が追加され、製品利用可能日が一致した供給の最初の出荷日に設定されます。

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、「アイテム・ベースの割り当て」トリガーに関するタスクの完了後、トリガーのフィールドを以下の値で更新します。

- IBA_REQUIRED = "N"
- LAST_IBA_PROCESSED_TS = 現在のタイム・スタンプ
- PROCESS_OVER_BY_TS = 現在のタイム・スタンプ
- PROCESSING_BY_AGENT = "N"

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、再スケジュール・プロセスと合わせて使用する必要があります。再スケジュール・プロセスは、「アイテム・ベースの割り当て」プロセスで作成されたオーダー明細予約の使用によって影響を受けたオーダーを再スケジュールするためです。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 108. 「アイテム・ベースの割り当て」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ITEM_BASED_ALLOCATION
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	changeOrder - 「アイテム・ベースの割り当て」プロセスの一部として作成されたオーダー明細予約を更新します。
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 109. 「アイテム・ベースの割り当て」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	「アイテム・ベースの割り当て」エージェントによって処理される在庫アイテムの在庫組織コード。指定された場合、この在庫組織に属する在庫アイテムを持つ IBA トリガーのみが処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_IBA_TRIGGER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 110. 「アイテム・ベースの割り当て」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	「アイテム・ベースの割り当て」エージェントによって処理されたオーダーの数。
再スケジュールを必要とするオーダー数	「アイテム・ベースの割り当て」プロセスの結果、再スケジュールを必要とするオーダーの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `changeOrder` API で指定されたイベントを引き起こします。

集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク

これは、「集合・混載パイプライン」上で動作する時間トリガー・トランザクションです。

この時間トリガー・トランザクションは、タスク・キューからレコードを取得します。このトランザクションは、集合・混載のすべての容器がトレーラー上にある場合に、その集合・混載を集合・混載済みトレーラーとしてマークするために使用されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 111. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	MARK_AS_TRAILER_LOADED
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 112. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
再処理間隔	オプション。「再処理間隔」は、集合・混載の再処理に使用する時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 113. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」の統計

統計の名前	説明
変更された集合・混載数 (NumLoadsChanged)	変更されたトレーラー集合・混載の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

在庫の照合

「在庫の照合」は、YFS_INVENTORY_SHIPMENT テーブルにあるすべての保留レコードを処理します。保留レコードは、POSTED_QUANTITY の数字が QUANTITY の数字よりも小さくなります。

各保留レコードは、在庫コスト決定ロジックを適用することによって、YFS_INVENTORY_RECEIPT テーブル内の受入レコードと照合されます。販売と受入のデータが照合されたユニット・コストは、YFS_INVENTORY_MATCH テーブルにも計上されます。

構成された出荷ノードが在庫コストを管理している場合、このトランザクションを使用します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 114. 「在庫の照合」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORY_MATCH
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 115. 「在庫の照合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 115. 「在庫の照合」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
供給停止日 (CutOffDate)	オプション。渡された場合、レコードは最大でこの日付まで照合されます。デフォルトでは、データベース内のすべての照合未済のレコードが対象になります。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SHIPMENT、YFS_INVENTORY_RECEIPT、および YFS_INVENTORY_MATCH テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 116. 「在庫の照合」の統計

統計の名前	説明
処理された在庫出荷数 (NumInventoryShipmentsProcessed)	処理された在庫出荷の数。
挿入された在庫一致数	挿入された在庫一致の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、QUANTITY の値が POSTED_QUANTITY の値と等しくない、YFS_INVENTORY_SHIPMENT テーブルに存在する個別の在庫アイテムの数になります。

発生するイベント

なし。

支払集金

このトランザクションは、承認または請求を保留中のオーダーについて、クレジットの検証を要求します。

承認要請および請求要請作成にこのトランザクションを使用します。

このトランザクションは、「支払実行」トランザクションと組み合わせて動作します。このトランザクションは「支払実行」トランザクションとは独立して実行可能ですが、承認と集金は支払実行の依存関係が満たされた後にのみ、発生します。詳しくは、186 ページの『支払実行』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 117. 「販売オーダーの支払集金」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_COLLECTION
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	requestCollection()

表 118. 返品オーダーの支払集金属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_COLLECTION.0003
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	requestCollection()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 119. 「支払集金」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。このトランザクションを実行する必要があるエンタープライズ。空欄のままにした場合、すべてのエンタープライズのオーダーが処理されます。指定した場合、そのエンタープライズのオーダーのみ処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

表 119. 「支払集金」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)	<p>「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」条件が入力され、requestCollection エージェントが例外をスローする場合 (getFundsAvailable 外部プログラムからなど)、「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」が使用されて、オーダーは保留状態に置かれます。古いオーダー保留機能を使用している場合、保留の理由として使用されます。保留タイプが存在しない場合、例外がスローされます。</p> <p>「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」条件が入力されていない場合、例外がスローされてもオーダーは保留されません。</p>

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 120. 「支払集金」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成された請求要請数 (NumChargeReqsCreated)	作成された請求要請の数。
作成された承認要請数 (NumAuthorizationReqsCreated)	作成された承認要請の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AUTHORIZATION_EXPIRATION_DATE の値が現在の日付の値以下 (<=) の、該当する支払ステータスにあるオーダーの数になります。オーダーの該当する支払ステータスは以下のとおりです。

- AWAIT_PAY_INFO
- AWAIT_AUTH
- REQUESTED_AUTH
- REQUEST_CHARGE
- AUTHORIZED、INVOICED
- PAID
- RELEASE_HOLD
- FAILED_AUTH
- FAILED_CHARGE
- VERIFY
- FAILED

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 121. 「支払集金」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
INCOMPLETE_PAYMENT	modifyOrder	YFS_PAYMENT_ _PAYMENT _INFORMATION.xml	あり
PAYMENT_STATUS	YFS_PAYMENT _COLLECTION .PAYMENT _STATUS_ dtd.txt	YFS_PAYMENT_ COLLECTION. PAYMENT_STATUS.xml	あり
REQUEST_PAYMENT_ STATUS		YFS_PAYMENT_ COLLECTION.REQUEST _PAYMENT_STATUS. xml	あり
ON_LIABILITY_ TRANSFER	modifyOrder _dbd.txt	YFS_PAYMENT_ COLLECTION.ON_ LIABILITY_TRANSFER.xml	あり
ON_INVOICE_ COLLECTION	order_dbd/txt	YFS_CREATE_ORDER_ INVOICE.ON_ INVOICE_ COLLECTION.xml	あり

支払実行

このトランザクションは、承認および請求を保留するすべての要請を処理します。

すべての承認要請および請求要請処理にこの時間トリガー・トランザクションを使用します。

このトランザクションには、会計サービスを提供する製品とのインターフェースが必要です。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 122. 「販売オーダーの支払実行」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_EXECUTION
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント

表 122. 「販売オーダーの支払実行」属性 (続き)

属性	値
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	executeCollection()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	collectionCreditCard、collectionOthers、collectionCustomerAcct

表 123. 返品オーダーの支払実行属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_EXECUTION.0003
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	executeCollection()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	collectionCreditCard、collectionOthers、collectionCustomerAcct

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 124. 「支払実行」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
料金タイプ	クレジット・カード・プロセスのタイプ。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • AUTHORIZATION - クレジット・カード・アカウントを検証 • CHARGE - クレジット・カードに請求を適用
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 125. 「支払実行」の統計

統計の名前	説明
処理された承認トランザクション数 (NumAuthTransProcessed)	処理された承認トランザクションの数。
処理が完了した承認トランザクション数 (NumAuthTransSuccessfullyProcessed)	処理された承認トランザクションについて外部プログラムからの正常な戻りの数。
処理された請求トランザクション数 (NumChargeTransProcessed)	処理された請求トランザクションの数。
処理が完了した請求トランザクション数 (NumChargeTransSuccessfullyProcessed)	処理された請求トランザクションについて外部プログラムからの正常な戻りの数。
集金検証数 (NumCollectionValidations)	起動された集金検証外部プログラムからの正常な戻りの数。
クレジット・カード集金数 (NumCreditCardCollections)	クレジット・カード集金の数。
顧客アカウント集金数 (NumCustomerAccountCollections)	顧客アカウント集金外部プログラムからの正常な戻りの数。
その他の集金数 (NumOtherCollections)	その他の集金外部プログラムからの正常な戻りの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、オープンな請求および承認トランザクションの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 126. 「支払実行」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
CHARGE_FAILED	modifyOrder dbd.txt	PAYMENT_EXECUTION_ CHARGE_FAILED_dbd.txt	なし

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `executeCollection()` API で指定されたイベントを引き起こします。

在庫一致の公示

このトランザクションは、`YFS_INVENTORY_MATCH` テーブル内のすべてのオープンなレコードを処理し、そのレコードを会計システムに公示します。

`YFS_INVENTORY_MATCH` テーブル内のオープンなレコードのステータスは、01 です。公示後、ステータスは 02 に変更されます。

構成された出荷ノードが在庫コストを管理している場合、このトランザクションを使用します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 127. 「在庫一致の公示」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	POST_INVENTORY_MATCH
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 128. 「在庫一致の公示」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_MATCH テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 129. 「在庫一致の公示」の統計

統計の名前	説明
公示された在庫一致数 (NumInventoryMatchPosted)	公示された在庫一致レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、オープンなステータスを持つ在庫一致の数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 130. 「在庫一致の公示」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
POST_INVENTORY_MATCH	POST_ INVENTORY_ MATCH_dbd.txt	YFS_postInventory Match_output.xml	なし

オーダー保留タイプの処理

PROCESS_ORDER_HOLD_TYPE 抽象化トランザクションから派生した、時間トリガー・トランザクションを作成できます。これは、1 つ以上の保留タイプの処理トランザクションとして構成できます。オーダーが、処理トランザクションとして構成されたトランザクションを持つ保留タイプに関連付けられている場合、そのトランザクションを処理するために、レコードが YFS_TASK_Q テーブルに作成されます。

処理トランザクションがトリガーされると、保留タイプ構成に基づいて、処理できる保留タイプをチェックします。処理できる保留タイプがない場合、YFS_TASK_Q レコードは削除されます。処理できる保留タイプがある場合、処理対象の保留タイプのリストと共に、processOrderHoldType 外部プログラムが起動されます。processOrderHoldType 外部プログラムは、オーダーから削除可能な保留タイプのリストを戻します。

次に、このトランザクションは、processOrderHoldType 外部プログラムによって戻される出力に基づいて、オーダーを変更し、オーダー保留タイプ・リストを更新します。これで処理できる保留タイプがなくなった場合、YFS_TASK_Q レコードは削除されます。処理可能な保留タイプがまだ存在する場合、YFS_TASK_Q は次の利用可能日で更新されます。

また、processOrderHoldType 外部プログラムを呼び出して、新規の保留タイプを追加するか、またはオーダーに既に適用されている保留タイプのステータスを変更することもできます。processOrderHoldType 外部プログラムについて詳しくは、*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs* を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 131. 「オーダー保留タイプの処理」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PROCESS_ORDER_HOLD_TYPE
基本伝票種別	オーダー

表 131. 「オーダー保留タイプの処理」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	changeOrder

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 132. 「オーダー保留タイプの処理」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_TASK_Q テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし (None)

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 133. 「オーダー保留タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/ イベント	発生するタイミン グ	キー・データ	公開されるデー タ	テンプレート がサポートさ れるか
ON_SUCCESS	成功時	modifyOrder_ dbd.txt	YFS_ORDER_ CHANGE.ON_ SUCCESS.xml	あり *
ON_HOLD_TYPE _STATUS_ CHANGE	保留タイプのステ ータスが変更され ます。	modifyOrder_ dbd.txt	YFS_ON_ HOLD_TYPE_ STATUS_ CHANGE.xml	あり

表 133. 「オーダー保留タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント (続き)

トランザクション/イベント	発生するタイミング	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_ORDER_LINE_HOLD_TYPE_STATUS_CHANGE	保留タイプのステータスが変更されます。	modifyOrder_dbd.txt	YFS_ON_ORDER_LINE_HOLD_TYPE_STATUS_CHANGE.xml	あり
* 注: 要素および属性には、テンプレート駆動型でないものがあります。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。				

保留作業オーダー・タイプの処理

この時間トリガー・トランザクションは、「オーダー保留タイプの処理」トランザクションと同じですが、このトランザクションは作業オーダーに使用されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 134. 「保留作業オーダー・タイプの処理」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PROCESS_WO_ORDER_HOLD_TYPE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS プロセス
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	modifyWorkOrder

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 135. 「保留作業オーダー・タイプの処理」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。

表 135. 「保留作業オーダー・タイプの処理」のパラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし (None)

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 136. 「保留作業オーダー・タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/ イベント	発生するタイミン グ	キー・データ	公開されるデー タ	テンプレート がサポートさ れるか
ON_SUCCESS	成功時	workOrder_ dbd.txt	VAS_MODIFY_ WORK_ORDER .ON_SUCCESS. xml	あり *
ON_HOLD_TYPE_ STATUS_ CHANGE	保留タイプのステ ータスが変更され ます。	workOrder_ ldbd.txt	VAS_ON_HOLD _TYPE_STATUS _CHANGE.xml	あり
* 注: 要素および属性には、テンプレート駆動型でないものがあります。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。				

交渉の発行結果

このトランザクションは、交渉条件をオーダーに発行します。

オーダーで交渉フェーズを使用する必要がある環境で、このトランザクションを使用します。

このトランザクションは、交渉が完了した後に実行する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 137. 「交渉の発行結果」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PUBLISH_ORD_NEGOTIATION
基本伝票種別	オーダー

表 137. 「交渉の発行結果」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 138. 「交渉の発行結果」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 139. 「交渉の発行結果」の統計

統計の名前	説明
処理された交渉数 (NumNegotiationsProcessed)	処理された交渉の数。
発行された交渉数 (NumNegotiationsPublished)	発行された交渉の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 140. 「交渉の発行結果」トランザクションによって発生するイベント

基本トランザクション	発生するタイミング	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
PUBLISH_ORD _NEGOTIATION/ ON_SUCCESS	成功時	Negotiation_dbd.txt	YCP_get 交渉 Details_output.xml	あり *
RECEIVE_ORD _NEGOTIATION/ ON_SUCCESS	成功時 (伝票種別が 0001 で、エンティティ・タイプが ORDER の場合)。	同時に実行中の時間トリガー・トランザクションの数。	receiveOrder Negotiation_dbd.txt	なし
* 注: このイベントで使用されるテンプレートは、出力 XML を形成するために getNegotiationDetails() API が使用するテンプレートと同じです。				

リリース

このトランザクションは、オーダーを特定の出荷ノードに対してリリースし、スケジュール済み出荷ノードでオーダーを処理するための十分な在庫があるようにします。

このトランザクションは、プロセスのスケジューリング後に起動する必要があります。

詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `releaseOrder()` API で提供される情報を参照してください。

組み合わせられた「スケジュールおよびリリース」エージェントを実行する場合、個別のスケジュール・エージェントおよび個別のリリース・エージェントを実行しないでください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 141. リリース属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RELEASE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
呼び出される API (APIs Called)	releaseOrder()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 142. リリースの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
リリース日付を無視 (IgnoreReleaseDate)	オプション。スケジュール・プロセスが明細のリリース日付条件を無視するかどうかを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - リリース日付条件にかかわらず明細数量をリリースします。 • N - デフォルト値。リリース日付条件が満たされた後でのみ、明細数量をリリースします。
在庫の確認 (CheckInventory)	オプション。在庫のチェックが必要かどうかを判断します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。在庫のチェックが必要です。 • N - 在庫のチェックは不要です。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 143. リリース条件の統計

統計の名前	説明
将来の日付エラー数 (NumFutureDateFailures)	将来の日付エラーが原因でリリースを試行しなかったオーダーの数。
試行されたオーダー数 (NumOrdersAttempted)	リリースを試行されたオーダーの数。
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	処理をできないエラーが原因でリリースを試行しなかったオーダーの数。
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
リリースされたオーダー数 (NumOrdersReleased)	リリースされたオーダーの数。
バックオーダーされたオーダー数 (NumOrdersBackordered)	バックオーダーされたオーダーの数。

表 143. リリース条件の統計 (続き)

統計の名前	説明
リリースされたオーダー明細数 (NumOrderLinesReleased)	リリースされたオーダー明細の数。
バックオーダーされたオーダー明細数 (NumOrderLinesBackordered)	バックオーダーされたオーダー明細の数。
作成されたオーダー・リリース数 (NumReleasesCreated)	作成されたオーダー・リリースの数。
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	処理エラーが原因でリリースされなかったオーダーの数。

リリース・プロセスの結果、オーダー明細が分割される場合、NumOrderLinesReleased、NumOrderLinesBackordered、および NumOfReleasesCreated の結果は、1 より大きくなることがあります。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Task_Q テーブル内の AVAILABLE_DATE の値が現在の日付の値以下 (<=) となる、トランザクションによって処理可能なレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

発生するイベント

このトランザクションは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs」の releaseOrder() API で指定されるイベントを発生させます。

出荷のルーティング

この時間トリガー・トランザクションは、出荷のルーティングに使用され、出荷パイプラインに属しています。構成されたルーティング・ガイドに基づき、出荷用の運送会社コードおよび運送会社サービス・コードを割り当てます。

出荷のルーティング・トランザクションは、既存の集合・混載に出荷を含めるか、新規の集合・混載を作成し、そこに出荷を含めます。

出荷は、以下の条件を満たす場合のみ、1 つの集合・混載にまとめることができます。

- 予定出荷日 - 出荷の予定出荷日が集合・混載の出荷期限日以前であること。
- 集合・混載出発予定日 - 集合・混載出発予定日が集合・混載内の出荷品の出荷期限日以前であること。

出荷期限日は、集合・混載に含まれるすべての出荷に基づき、集合・混載用に計算される日付です。例えば、1 つの集合・混載に 3 つの出荷があり、それぞれの出荷期限日が 2005/12/22、2005/12/12、および 2005/12/19 の場合、2005/12/12 が 3 つの日付の中で最も早いいため、集合・混載の出荷期限日は 2005/12/12 と計算されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 144. 出荷のルーティング

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ROUTE_SHIPMENT.0001
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	ORDER_DELIVERY
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	com.yantra.ydm.japi.ue.YDMOverrideDetermineRoutingUE com.yantra.ydm.japi.ue.YDMBeforeDetermineRoutingUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 145. 出荷のルーティングの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_SHIPMENT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 146. 出荷のルーティングの統計

統計の名前	説明
ルーティング数 (NumRouted)	ルーティングされる出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能な、保留以外のオーダーを表すレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 147. 出荷のルーティング・トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_ROUTE_SHIPMENT.ON_SUCCESS.xml	あり
ON_FAILURE	shipment_dbd.txt	YDM_ROUTE_SHIPMENT.ON_FAILURE.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

スケジュール

このトランザクションは、オーダーを特定の出荷ノードに対してスケジュールし、スケジュール済み出荷ノードでオーダーを処理するための十分な在庫があるようにします。

オーダー作成後にこのトランザクションを実行します。

個別のスケジュール・エージェントまたはリリース・エージェントは、組み合わされた「スケジュールおよびリリース」エージェントの実行中は実行しないでください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 148. スケジュールの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SCHEDULE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
呼び出される API (APIs Called)	scheduleOrder()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 149. スケジュールの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
最大レコード数 (MaximumRecords)	スケジュール・エージェントが検出可能で、考えられるソリューションの最大数を判別します。このパラメーターにより、検出される最適なソリューションが改善される可能性があります。このエージェントのパフォーマンスにも影響を及ぼします。 これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5 に設定されます。
最適化タイプ (OptimizationType)	オプション。スケジューリング処理に適用する最適化ルールを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 01 - 日付で最適化 (デフォルト) • 02 - 出荷ノードの優先順位で最適化 • 03 - 出荷数で最適化
フィルターするオーダー (OrderFilter)	オプション。フィルターするオーダー・タイプを決定します。指定できる値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • A - 全オーダー (デフォルト) • B - バックオーダーのみ • N - 新規オーダーのみ
スケジュールおよびリリース (ScheduleAndRelease)	オプション。スケジュール・プロセスに対してリリース可能なすべての明細数量をリリースするように通知します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - スケジュール済み明細数量を正常にリリースします。 • N - デフォルト値。明細数量のスケジュールのみ行います。 <p>このパラメーターを使用可能にすると、リリース・トランザクションに構成される保留タイプは妥当性検査されません。</p>
リリース日付を無視 (IgnoreReleaseDate)	オプション。スケジュール・プロセスが明細のリリース日付条件を無視するかどうかを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - リリース日付条件にかかわらず明細数量をリリースします。 • N - リリース日付条件が満たされた後でのみ、明細数量をリリースします。これがデフォルトです。
次のタスク・キュー間隔	未使用。このエージェントは、失敗したタスクを更新し、適切にスケジュールされたルール内のバック・オーダー再試行間隔セットアップに対して保留になるようにします。

表 149. スケジュールの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 150. スケジュールの統計

統計の名前	説明
将来の日付エラー数 (NumFutureDateFailures)	<p>将来の日付エラーが原因で、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がスケジュールを試行しなかったオーダーの数。</p> <p>エラーは、以下のいずれかが原因である可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> OrderFilter が「B」(バックオーダーのみ) でバックオーダー済み明細およびスケジュール解除明細がない場合。 OrderFilter が「N」(新規オーダーのみ) でバックオーダー済み明細またはスケジュール解除明細がいくつかある場合。 オーダーに、バックオーダー済みステータスまたはスケジュール解除ステータスのみのオーダー明細があり、ステータス変更タイム・スタンプが現在時刻からスケジューリング・ルールに指定されるバック・オーダー待機期間を減算した日時よりも後の場合。
試行されたオーダー数 (NumOrdersAttempted)	スケジュールを試行したオーダーの数。この統計には、NumFutureDateFailures 統計および NumOrdersCannotBeProcessedFailures 統計の値は含まれません。
リリースされたオーダー明細数 (NumOrderLinesReleased)	リリースされたオーダー明細の数。

表 150. スケジュールの統計 (続き)

統計の名前	説明
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	<p>処理をできないエラーが原因で、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がスケジュールを試行しなかったオーダーの数。</p> <p>エラーは、以下のいずれかが原因である可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YFSCheckOrderBeforeProcessingUE 外部プログラムの結果が false として戻される。 • オーダーの HoldFlag 属性に「Y」が設定される。 • オーダーの SaleVoided 属性に「Y」が設定される。 • オーダーの PaymentStatus が、「承認済み」、「請求済み」、「支払済み」、および「該当せず」のいずれでもない。
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成されたオーダーの数。これには、作成された調達オーダーの数も含まれます。
作成されたオーダー明細数 (NumOrderLinesCreated)	作成されたオーダー明細の数。
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
スケジュールされた明細数 (NumOrdersScheduled)	<p>スケジュールされた明細が少なくとも 1 つはあるオーダーの数。</p> <p>これには、「バック・オーダー」を除くあらゆるステータスのスケジュール済み明細が含まれます。</p>
作成された調達オーダー数 (NumOrdersProcOrdersCreated)	作成された調達オーダーの数。
作成された作業オーダー数 (NumWorkOrdersCreated)	作成された作業オーダーの数。
バックオーダーされたオーダー数 (NumOrdersBackordered)	バックオーダーされたオーダーの数。
スケジュールされたオーダー明細数 (NumOrderLinesScheduled)	スケジュールされたオーダー明細の数。
バックオーダーされたオーダー明細数 (NumOrderLinesBackordered)	バックオーダーされたオーダー明細の数。
作成されたオーダー・リリース数 (NumReleasesCreated)	作成されたオーダー・リリースの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能な、保留以外のオーダーを表すレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

発生するイベント

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `scheduleOrder()` API で指定されるイベントを発生させます。

Oracle ヒントの指定

Oracle ヒントを指定して、`scheduleOrder` エージェントのパフォーマンスを向上させることができます。`scheduleOrder` エージェントのそれぞれの条件 ID に指定できるヒントは、外部ヒントおよび内部ヒントの 2 つです。外部ヒントは、`YFS_TASK_Q` テーブルで必ず使用されます。内部ヒントは、初期の保留機能が使用される場合のみ、`YFS_ORDER_HEADER` テーブルで使用されます。それ以外の場合、内部ヒントは、`YFS_ORDER_RELEASE_STATUS` テーブルで使用されます。

Oracle ヒントを使用可能にするには、以下のエントリを `yfs.properties` ファイルに挿入します。

1. `<INSTALL_DIR>/properties/yfs.properties` ファイルを編集します。
2. `yfs.<agent_criteria_id>.getjobs.hint.outer=/** parallel(YFS_TASK_Q 8) full(yfs_task_q) */` を挿入します。

`yfs.<agent_criteria_id>.getjobs.hint.inner=/** NL_SJ */` を挿入します。

インボイスの送付

このトランザクションは、外部の売掛システムに送信できるインボイス・データを公開します。

売掛システムとのインターフェースを必要とする環境では、このトランザクションをスケジュールに入れる必要があります。このトランザクションは、インボイス向けのイベントの発生を、以下の構成に基づきオーダー・ライフサイクルの次のタイミングで行います。

- 出荷作成時にインボイス発行 - これは、ご使用の買掛システムが支払集金を行うことを示します。インボイスは、作成されると即時に発行できます。
- 支払集金後にインボイス発行 - これは、コンソールで支払集金を行うことを示します。支払いが `AT_COLLECT` ステータスにあり、支払いが外部システムからは行われない場合、すべての支払い金額が集金済みのときのみインボイスが発行されます。支払いが `AT_CREATE` ステータス、または支払いが外部システムから行われる場合、インボイスは無条件に発行されます。

このトランザクションの要素および属性の多くは、テンプレート駆動型です。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 151. インボイスの送付の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_INVOICE

表 151. インボイスの送付の属性 (続き)

属性	値
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	getOrderInvoiceDetails()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 152. インボイスの送付の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 153. インボイスの送付の統計

統計の名前	説明
送信されたインボイス数 (NumInvoicesSent)	送信されたインボイスの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、作成済み (「00」) ステータスのオーダー・インボイスの数です。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 154. インボイスの送付トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
PUBLISH_INVOICE_DETAIL	modifyOrder_dbd.txt および sendInvoice_dbd.txt	YFS_getOrderInvoice Details_output.xml	あり

追加のイベントが `getOrderInvoiceDetails()` API により発生することがあります。イベントについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」のこの API で提供される詳細情報を参照してください。

アイテム変更の送信

統合環境においてこのトランザクションは、外部システムに送信されるアイテム・データの変更を公開します。

アイテム変更が *Sterling Selling and Fulfillment Foundation* で発生すると、アイテム変更を外部システムに送信する必要があります。

ビジネス・プロセスでは、すべてのアイテムの同期をバッチにより一度に行うことが必要な場合があります。例えば、`sendItemChanges` エージェントを構成して、アイテムを、各営業日の終わりに同期ロジックに基づき同期化するようにできます。このトランザクションは、論理キット・アイテムでも動的物理キット・アイテムでもないすべてのアイテムを抽出します。また、`SyncTS` が `NULL` か `MaxModifyTS` が `SyncTS` より大きいすべてのアイテムを抽出します。

アイテムの `MaxModifyTS` は、アイテムが変更されるたびに現在のタイム・スタンプを使用して更新されます。次に、トランザクションはそれらのアイテムに関する詳細情報を取得し、`ON_SUCCESS` イベントを発生させます。このイベントは、「アイテム変更を送信」アクションの起動のために構成する必要があります。

この統合の実装方法について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合ガイド*」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 155. アイテム変更の送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_ITEM_CHANGES
基本伝票種別	なし (None)

表 155. アイテム変更の送信の属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 156. アイテム変更の送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
組織コード	オプション。アイテムの同期の基になる組織。このフィールドは空欄がデフォルトです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、同期を必要とするアイテムの数です。これは、論理キット・アイテムでも動的物理キット・アイテムでもないすべてのアイテムを算出します。また、SyncTS が NULL か MaxModifyTS が SyncTS より大きいアイテムを算出します。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 157. アイテム変更の送信トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	なし (None)	YCM_SEND_ITEM_CHANGES_ON_SUCCESS.XML	あり

顧客変更の送信

統合環境においてこのトランザクションは、外部システムに送信される顧客変更データを公開します。

顧客変更が Sterling Selling and Fulfillment Foundation で発生すると、顧客変更を外部システムに送信する必要があります。

ビジネス・プロセスでは、顧客の同期をバッチにより一度に行うことが必要な場合があります。例えば、sendItemChanges エージェントを構成して、アイテムを、各営業日の終わりに同期ロジックに基づき同期化するようにできます。このトランザクションは、ユーザー ID を現在有するコンシューマーであり、同期化を必要とするすべての顧客を抽出します。また、このトランザクションは、2 つのシステム間でユーザーの初期の同期を実行するのにも使用できます。例えば、外部システムが既に存在しており、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が追加される場合、SendCustomerChanges エージェントは外部システムのユーザーを同期化します。

sendCustomerChanges エージェントは、バックアップ手段としても機能します。顧客の同期イベントが失敗した場合、エージェントは、指定された時間の経過後に自動的に同期を再試行します。

顧客の MaxModifyTS の更新は、顧客が変更される場合と syncTS が MaxModifyTS より小さい場合には常に、現在のタイム・スタンプを使用して行われ、また syncTS が NULL の場合にも現在のタイム・スタンプを使用して行われます。次に、トランザクションはそれらの顧客に関する詳細情報を取得し、ON_SUCCESS イベントを発生させます。このイベントは、顧客変更の送信アクションを起動するために構成する必要があります。

この統合の実装方法について詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合ガイド」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 158. 顧客変更の送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_CUSTOMER_CHANGES
基本伝票種別	なし (None)
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 159. 顧客変更の送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
組織コード	オプション。顧客の同期の基になる組織。このフィールドは空欄がデフォルトです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、同期を必要とする顧客の数です。これは、コンシューマーであり、ユーザー ID を現在有し、さらに同期化を必要とする、顧客について算出されます。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 160. 顧客変更の送信トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
SEND_CUSTOMER_CHANGES.ON_SUCCESS	なし (None)	YSC_SEND_CUSTOMER_CHANGES.ON_SUCCESS.XML	あり

オーダーの送信

このトランザクションは、OrderHeaderKey がタスク・キュー・オブジェクトに格納されるオーダーに関して、ON_SUCCESS イベントを発生するように試行します。イベントが発生するのは、オーダーのすべてのオーダー明細が特定のステータス (複数の場合あり) に完全に達するときのみです。つまり、明細ごとの ORDERED_QTY 全体が特定のステータス (複数の場合あり) になる必要があります。イベントの発生に加え、明細のステータスもドロップ・ステータスに変更されて、ピックアップ・ステータスに対応します。抽象化トランザクション SEND_ORDER から派生する

SendOrder トランザクションでは、イベント、ピックアップ、およびドロップの各ステータスを構成する必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `sendOrder()` API で提供される詳細情報を参照してください。

オーダーでサード・パーティーとの通信が必要な場合は、このトランザクションを使用します。

タスク・オブジェクトにポストされる `TransactionKey` は、オーダーに関連付けられる `ProcessType` の抽象化トランザクション `SEND_ORDER` のインスタンスであることが必要です。それ以外の場合、例外がスローされます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 161. オーダーの送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_ORDER
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>sendOrder()</code>

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 162. オーダーの送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs」の sendOrder() API で指定されるイベントを発生させます。

リリースの送信

リリースの送信エージェントは、リリースを出荷ノードにディスパッチします。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 163. リリースの送信の属性

属性	値
トランザクション名	リリースの送信
トランザクション ID	SHIP_ADVICE
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	com.yantra.yfs.agent.YFSWMSShipAdviceAgent

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 164. リリースの送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 165. リリースの送信の統計

統計の名前	説明
処理されたりリース数 (NumReleasesProcessed)	処理されたオーダー・リリースの数。
送信されたりリース数 (NumReleasesSent)	送信されたオーダー・リリースの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 166. リリースの送信トランザクションで発生するイベント

トランザクションイベント	公開されるデータ
PUBLISH_SHIP_ADVICE	YFS_publishShipAdvice_output.xml

オーダー開始交渉

このトランザクションは、交渉プロセスを経るよう構成される、オーダーの交渉を作成します。

このトランザクションは、オーダーが、リリース前に交渉フェーズを経る必要のある環境で使用します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 167. オーダー開始交渉の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	START_ORD_NEGOTIATION
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	createNegotiation()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YCPBeforeCreateNegotiationUE、YCPGetNegotiationNoUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 168. オーダー開始交渉の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 169. オーダー開始交渉の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成された交渉数 (NumNegotiationsCreated)	作成された交渉の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の createNegotiation() API で指定されるイベントを発生させます。

コロニー・マップの同期化

コロニー・マップ・シンクロナイザー・エージェントは、PLT_COLONY_MAP テーブル内の組織およびユーザーのコロニー・マップの挿入または更新を行います。エージェントを最初に実行する場合、エージェントはこのテーブルにデータを入れま

す。これは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のインストール後および更新後、マルチ・スキーマ・モードにアップグレードする際に必要なステップです。

マルチ・スキーマ・モードへのアップグレードについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Multi-Tenant Enterprise Guide*」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 170. コロニー・マップ・シンクロナイザーの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	COLONY_MAP_SYNC
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 171. コロニー・マップ・シンクロナイザーの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	同期されるコロニー。 エージェントが PLT_COLONY_MAP テーブルにデータを設定するように、Sterling Selling and Fulfillment Foundation インストール済み環境に備わっているデフォルトのコロニーで、最初にエージェントを実行する必要があります。この後に、別の ColonyID でエージェントを実行できます。
InsertDefaultMappings	「Y」が設定されている場合、コロニーが特定できないユーザーは、コロニー・マップ・シンクロナイザー・エージェント実行対象のコロニーにマッピングされます。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

なし。

ベスト・マッチ地域の更新

ベスト・マッチ地域の更新トランザクションは、YFS_REGION_BEST_MATCH テーブルを管理し、このテーブルは、ベスト・マッチ地域データをレポートするデータウェアハウス分析で使用されます。ベスト・マッチ地域は、個人情報レコード内の以下の 5 つの住所属性により定義されます。

- ADDRESS_LINE6
- CITY
- 都道府県 (STATE)
- SHORT_ZIP_CODE
- COUNTRY

ベスト・マッチ地域の更新トランザクション用のエージェントは、2 つのモードで稼働します。このモードを使用して、YFS_REGION_BEST_MATCH テーブルのセットアップおよび更新を行うことができます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 172. ベスト・マッチ地域の更新の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	UPDATE_BEST_MATCH_REGION
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YSCGetShortZipCode UE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 173. ベスト・マッチ地域の更新の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 UpdateOnly = N の場合、エージェントを呼び出すごとに特定のレコードのみ戻されます。空欄のままにすると、デフォルトは 1000 です。
テーブル・タイプ (TableType)	YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。 有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。 CONFIGURATION が設定される場合、エージェントは、TableType が CONFIGURATION のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Organization、YFS_Ship_Node などです。 TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が TRANSACTION のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Order_Header、YFS_Shipment などです。 エージェントは、渡されるスキーマと同じスキーマ内に存在するすべての TableType に対して実行される点に注意してください。例えば、TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が同じスキーマ内にあるため、TableType が MASTER のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対しても実行されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PERSON_INFO テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。
UpdateOnly	実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • N - デフォルト値。レコードを YFS_PERSON_INFO テーブルから YFS_REGION_BEST_MATCH テーブルに追加し、地域キーを YFS_BEST_MATCH テーブルに入れます。分析用にベスト・マッチ地域の初期セットアップを実行するには、UpdateOnly に N を設定します。 • Y - 更新モード。地域キーを YFS_REGION_BEST_MATCH 内の住所に基づき更新します。分析用にベスト・マッチ地域の初期セットアップを実行後、この値に Y を設定して更新モードを指定します。
LastPersonInfoKey	オプション。UpdateOnly に N が設定される場合、LastPersonInfoKey は、最初に入れる個人情報レコードを決定します。キーが指定されない場合、デフォルト値は Null です。

表 173. ベスト・マッチ地域の更新の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
LastRegionBest MatchKey	オプション。UpdateOnly に Y が設定される場合、LastRegionBestMatchKey は、更新する最初の地域ベスト・マッチ・キーを決定します。キーが指定されない場合、デフォルト値は Null です。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

なし。

所有権転送サマリーの読み込み

このメソッドは、YFS_OWNERSHIP_TRANSFER_SUMMARY テーブルを更新します。

このトランザクションは、YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブル内のレコードをチェックすることによって、YFS_OWNERSHIP_TRANSFER_SUMMARY テーブルを更新します。

また、このトランザクションによってレコードが使用された後、YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブル内の IS_STATISTICS_UPDATED を「Y」に更新します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 174. 「YFS 所有権転送の読み込み (YFSPopulateOwnershipTransfer)」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	POPULATE_OWN_TRANS_SUMM
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 175. 「YFS 所有権転送の読み込み (YFSPopulateOwnershipTransfer)」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_OWNERSHIP_TRANSFER_SUMMARY テーブルおよび YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし (None)

保留中のジョブの数

なし (None)

発生するイベント

なし (None)

時間トリガー・ページ・トランザクション

一定の時間間隔でデータベース表をページするために使用できる、いくつかのトランザクションがあります。

ページ・トランザクションは、現在日付を判別し、ページに指定された保持日数を差し引くことで、表をページする時を決定します。表のタイム・スタンプが「現在日付から保持日数を差し引いた日付」を経過していれば、表はページされます。

場合によっては、ページが表のタイム・スタンプ以外の別のフィールドを参照することもあります。これらは資料内で示されています。

エンティティーがページされる場合、他の表に存在する関連情報または従属情報を一緒にページするかを考慮する必要があります。例えば、ライブ出荷があるオーダーがページされると、オーダー出荷コンソール内のそのオーダーの相互参照は不正確になります。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

すべての時間トリガー・ページ・トランザクションには、CollectPendingJobs 条件パラメーターがあります。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、その時間トリガー・トランザクションの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

デフォルトでは、CollectPendingJobs は「Y」に設定されます。1 つの特定の時間トリガー・トランザクションがかなりの量の getPendingJobs 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

ページ方法

各ページ・トランザクションに対してページ方法を計画するには、以下の推奨事項を考慮に入れる必要があります。

- 「ライブ」を「N」に設定して、ページをテストします。
- ページ内容をテストするためにロギングをオンにします。
- System Management Console でページ・トレースをセットアップし、情報を分析します。

ページ・トランザクション・ログ・ファイルの構成

このタスクについて

ページを構成して、指定するディレクトリーにログ・ファイルを書き込むことができます。特定のページを実行するたびに、新規データがこのファイルに追加されます。ファイルが存在しない場合、作成されます。

ページ・ログ・ファイル・ディレクトリーを指定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. yfs.purge.path プロパティーを <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに構成します。例えば、UNIX では、ログ・ファイルが /app/yfs/logs/purges ディレクトリーに書き込まれるように指定できます。

customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティーのオーバーライドについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティー・ガイド』を参照してください。
2. UNIX で <INSTALL_DIR>/bin/setupfiles.sh スクリプトを実行するか、Windows で <INSTALL_DIR>/bin/setupfiles.cmd スクリプトを実行します。

使用可能なページ

このセクションでは、すべてのページ・トランザクションの詳細を英字順に記載しています。

アクセス・トークン・ページ

このページは、アクセス・トークンをシステムから削除します。以下の条件がすべて満たされる場合、PLT_ACCESS_TOKEN テーブルからページ対象が選択されます。

- アクセス・トークンが期限切れか、非アクティブ状態にある。
- 最終変更日時が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付以前である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 176. 「アクセス・トークン・ページ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ACCESSTOKPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 177. 「アクセス・トークン・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。

表 177. 「アクセス・トークン・ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 178. 「アクセス・トークン・ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたアクセス・トークン数 (NumAccessTokenPurged)	ページされたアクセス・トークンのレコード数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT_ACCESS_TOKEN テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

PLT_ACCESS_TOKEN

キャパシティー・ページ

このページは、システムからキャパシティー・データを削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、ページ対象のキャパシティー・データが選択されます。

- すべてのリソース・プールの標準キャパシティー期間の有効終了日が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのオーバーライド済みキャパシティーの日付が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の日付が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の詳細情報において、予定日が、システム日付からページ条件の保持日数 (手動で作成された予約の場合は「手動予約のページ・リード日数 (ManualReservationPurgeLeadDays)」) を引いた日付よりも古い。

- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の詳細情報において、有効期限が過ぎており、予約 ID が空欄ではない。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 179. 「キャパシティー・パージ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CAPACITYPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 180. 「キャパシティー・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 181. 「キャパシティー・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた標準キャパシティー期間数 (NumStdCapacityPeriodsPurged)	パージされた標準キャパシティー期間の数。
パージされたキャパシティー・オーバーライド数 (NumCapacityOverridesPurged)	パージされたキャパシティー・オーバーライドの数。
パージされたキャパシティー消費数 (NumCapacityConsumptionsPurged)	パージされたキャパシティー消費の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_RES_POOL_STD_CAPCTY_PERD、YFS_RES_POOL_CAPCTY_OVERRIDE、YFS_RES_POOL_CONSMPTN_DTLS、およびYFS_RES_POOL_CAPCTY_CONSMPTN の各テーブルからパージできるレコードの総数です。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_RES_POOL_STD_CAPCTY_PERD テーブルは、EFFECTIVE_TO_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

YFS_RES_POOL_CAPCTY_OVERRIDE テーブルは、CAPACITY_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

YFS_RES_POOL_CAPCTY_CONSMPTN テーブルは、CONSUMPTION_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合、または手動で予約された場合は、CONSUMPTION_DATE <= (現在日付 - 手動予約の保持日数) の場合にパージされます。このテーブルがパージされると、YFS_RES_POOL_CONSMPTN_DTLS もパージされます。

YFS_RES_POOL_CONSMPTN_DTLS テーブルは、RESERVATION_EXPIRATION_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

ドラフト・オーダー履歴パージ

このパージは、指定された時間間隔の後に、履歴テーブルからデータを削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルへの負荷が低減します。

ページ・コードの疑似論理を使用して、ページを分析することができます。以下の条件が満たされる場合、履歴をページするためにドラフト・オーダーが選択されま

- 最後に変更されたドラフト・オーダーの日付が、保持日数の期間を過ぎている。

コンソールを使用しているすべてのエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

明細タイプに基づいた追加ページ条件については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 分散オーダー管理 構成ガイド」を参照してください。

注: ドラフト・オーダーをページして履歴テーブルに移動してから、ドラフト・オーダー履歴テーブルをページする必要があります。225 ページの『ドラフト・オーダー・ページ』を参照してください。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、ドラフト・オーダー履歴をページするトランザクションは提供されていません。ドラフト・オーダー履歴テーブルをページするトランザクションを定義する場合、トランザクション条件に関する以下の条件パラメーターのセクションを参照してください。

ドラフト・オーダー履歴テーブルをページする独自のトランザクションを定義しない場合、「オーダー・ページ」トランザクションを使用してページ・コード `DRAFTORDERHISTPRG` を指定することができます。ドラフト・オーダー履歴テーブルをページするための「オーダー・ページ」トランザクションを構成するには、259 ページの『オーダー・ページ』で詳細を参照してください。

条件パラメーター

ドラフト・オーダー履歴トランザクションを定義するための条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 182. 「ドラフト・オーダー履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	必須。「ドラフト・オーダー履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。資格を満たすレコードを、「ページされるテーブル」に記載された履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。

表 182. 「ドラフト・オーダー履歴パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。DRAFTORDERHISTPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_ANSWER_SET_TRAN_H

YFS_ANSWER_TRAN_H

YFS_CHARGE_TRAN_DIST_H

YFS_CHARGE_TRANSACTION_H

YFS_CREDIT_CARD_TRANSACTION_H

YFS_ENTITY_ADDRESS_H

YFS_HEADER_CHARGES_H

YFS_INSTRUCTION_DETAIL_H

YFS_INVOICE_COLLECTION_H

YFS_LINE_CHARGES_H

YFS_NOTES_H

YFS_ORDER_AUDIT_DETAIL_H

YFS_ORDER_AUDIT_H

YFS_ORDER_AUDIT_LEVEL_H

YFS_ORDER_DATE_H

YFS_ORDER_HEADER_H

YFS_ORDER_HOLD_TYPE_H

YFS_ORDER_HOLD_TYPE_LOG_H
YFS_ORDER_INVOICE_DETAIL_H
YFS_ORDER_INVOICE_H
YFS_ORDER_KIT_LINE_H
YFS_ORDER_KIT_LINE_SCHEDULE_H
YFS_ORDER_LINE_H
YFS_ORDER_LINE_OPTION_H
YFS_ORDER_LINE_REQ_TAG_H
YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE_H
YFS_ORDER_PROD_SER_ASSOC_H
YFS_ORDER_RELEASE_H
YFS_ORDER_RELEASE_STATUS_H
YFS_ORDER_SER_PROD_ITEM_H
YFS_PAYMENT_H
YFS_PROMOTION_AWARD_H
YFS_PROMOTION_H
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_DTL_H
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_H
YFS_REFERENCE_TABLE_H
YFS_TAX_BREAKUP_H

ドラフト・オーダー・ページ

このページは、指定された時間間隔の後に、履歴テーブルにデータを保存します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルへの負荷が低減します。履歴テーブルからのドラフト・オーダーのページについて詳しくは、222 ページの『ドラフト・オーダー履歴ページ』を参照してください。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、ドラフト・オーダー・ページ用のトランザクションは提供されていません。ドラフト・オーダーをページするトランザクションを定義する場合、トランザクション条件に関する以下の条件パラメーターのセクションを参照してください。

ドラフト・オーダーをページする独自のトランザクションを定義しない場合、「オーダー・ページ」トランザクションを使用してページ・コード DRAFTORDERPRG

を指定することができます。ドラフト・オーダー・ページ用の「オーダー・ページ」トランザクションを構成するには、259 ページの『オーダー・ページ』で詳細を参照してください。

コンソールを使用しているすべてのエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

ドラフト・オーダーは、以下の条件が満たされる場合に、検証用のエージェントによって選択されます。

- ドラフト・オーダー・フラグが、Y に設定されている。
- 変更時のタイム・スタンプが、保存日付に対して設定されている。

ドラフト・オーダーの選択後、以下の条件に基づいて、各ドラフト・オーダーのページについて妥当性が検証されます。

- オーダーに、資格を満たすオーダー・リリース・ステータス・レコード (ゼロより大きなステータスを持つレコード) が存在しない。
- オーダーの未完了の子オーダー (派生、連鎖、返品、交換、または返金フルフィルメント) が既にすべてページされている。

ドラフト・オーダーが上記の一連の検証条件を満たす場合、エージェントは以下の条件について引き続きドラフト・オーダーを検証します。

- 「ドラフト作成済み」ステータス (1000) およびすべての拡張「ドラフト作成済み」ステータスが含まれる。
- 保持日数に適合しないオーダー・リリース・ステータス・レコードが含まれない。
- オーダーの最後の変更が、リード・タイム (日単位) 設定よりも前である。
- 交換オーダーが返品オーダーの一部である場合、返品オーダーをページする前に交換オーダーが履歴テーブルからページされている。
- オーダー明細予約の場合、ドラフト・オーダーのページは不可。
- 「ドラフト・オーダー支払処理 (Draft Order Payment Processing)」フラグが N に設定されている場合、ドラフト・オーダーはページされる。
- 「ドラフト・オーダー支払処理 (Draft Order Payment Processing)」フラグが Y に設定され、ドラフト・オーダーに料金が存在する場合、ドラフト・オーダーはページされない。ただし、ドラフト・オーダーのページを検証する場合、承認は考慮されない。
- オーダー明細の場合、以下のサービス・オーダー明細は除外されます。
 - セラーの在庫更新が必要で、「ステータス在庫のタイプ」の「セラーの供給を更新する」オプションがオンに設定され、「セラー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄の場合。(「セラー供給タイプ」は、「手持ちの供給」チェック・ボックスが使用可能なカスタム・セラー供給タイプでも可。)
 - 「セラー需要タイプ」が空欄の場合。
 - バイヤーの在庫更新が必要で、「バイヤー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄の場合。

条件パラメーター

「ドラフト・オーダー・ページ」トランザクションを定義するための条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 183. 「ドラフト・オーダー・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次回のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクの再処理を検討するまでの中断期間を、時間単位で指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	必須。「ドラフト・オーダー・ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 エンタープライズ・コードが空欄の場合、デフォルト・エンタープライズに対して構成されたページ条件が使用され、ドラフト・オーダーのエンタープライズに対して構成されたページ条件は使用されません。
タイプ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。DRAFTORDERPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_ACTIVITY_DEMAND

YFS_ANSWER_SET_TRAN

YFS_ANSWER_TRAN
YFS_CHARGE_TRANSACTION
YFS_CHARGE_TRAN_DIST
YFS_CREDIT_CARD_TRANSACTION
YFS_ENTITY_ADDRESS
YFS_HEADER_CHARGES
YFS_INSTRUCTION_DETAIL
YFS_INVOICE_COLLECTION
YFS_LINE_CHARGES
YFS_MONITOR_ALERT
YFS_NOTES
YFS_ORDER_AUDIT
YFS_ORDER_AUDIT_DETAIL
YFS_ORDER_AUDIT_LEVEL
YFS_ORDER_HEADER
YFS_ORDER_HOLD_TYPE
YFS_ORDER_HOLD_TYPE_LOG
YFS_ORDER_INVOICE
YFS_ORDER_INVOICE_DETAIL
YFS_ORDER_KIT_LINE
YFS_ORDER_KIT_LINE_SCHEDULE
YFS_ORDER_LINE
YFS_ORDER_LINE_OPTION
YFS_ORDER_LINE_REQ_TAG
YFS_ORDER_LINE_RESERVATION
YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE
YFS_ORDER_LINE_SRC_CNTRL
YFS_ORDER_PROD_SER_ASSOC

YFS_ORDER_RELEASE

YFS_ORDER_RELEASE_STATUS

YFS_ORDER_SER_PROD_ITEM

YFS_ORDER_DATE

YFS_PAYMENT

YFS_PMNT_TRANS_ERROR

YFS_PROMOTION

YFS_PROMOTION_AWARD

YFS_RECEIVING_DISCREPANCY

YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_DTL

YFS_REFERENCE_TABLE

YFS_TAX_BREAKUP

配達計画のパージ (Delivery Plan Purge)

配達計画が通常のライフサイクルを完了した場合、このパージによって配達計画を削除します。配達計画に関連付けられたすべての集合・混載と出荷をパージしてから、このパージ・エージェントを実行する必要があります。

条件パラメーターで指定された保持日数を超える期間「完了」のマークが付けられていた配達計画、および、どの出荷、集合・混載も含まない配達計画が、すべてパージされます。設定されたリード・タイム (日単位) より前に、オーダーを履歴に移動しておく必要があります。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、配達計画がパージ対象として選択されます。

- 配達計画が「完了」ステータスにある。
- 配達計画が、どの集合・混載、出荷にも関連付けられていない。
- 配達計画に関連付けられたすべてのオーダーが、パージされている。
- 配達計画に対して最後に行われた変更が、設定されたリード・タイム (日単位) より前である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 184. 「配達計画のバージ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DELIVERYPLANPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 185. 「配達計画のバージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「配達計画のバージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、バージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・バージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「バージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - レコードは 1 件ずつ削除されます。

表 185. 「配達計画のパージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_DELIVERY_PLAN テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 186. 「配達計画のパージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた配達計画数 (NumDeliveryPlansPurged)	パージされた配達計画の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_DELIVERY_PLAN テーブルからパージできるレコードの数です。

7 発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_DELIVERY_PLAN

エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)

このパージは、システムからエクスポート・テーブルのデータを削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、パージ対象として YFS_EXPORT テーブルから選択されます。

- YFS_EXPORT レコードに、処理済み (ステータス = 10) のマークが付けられている。
- 最後に変更された時刻が、リード・タイム (日単位) 設定よりも前である。
このパージは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。このパージは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されません。

アプリケーション・コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 187. 「エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	EXPORTTBLPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 188. 「エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - デフォルト値。レコードは 1 件ずつ削除されます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 188. 「エクスポート・テーブルのページ (Export Table Purge)」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_EXPORT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 189. 「エクスポート・テーブルのページ (Export Table Purge)」の統計

統計の名前	説明
ページされたエクスポート数 (NumExportsPurged)	ページされたエクスポートの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Export テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_EXPORT

インポート・テーブル・ページ

このページは、インポート・テーブル・データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、YFS_IMPORT テーブルがページ対象としてピックアップされます。

- YFS_IMPORT レコードが「処理済み」としてマークされている (Status = "10")。
- 「最終変更時刻」がリード・タイム設定 (日単位) より前である。
このページは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。このページは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 190. 「インポート・テーブル・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	IMPORTTBLPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 191. 「インポート・テーブル・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - デフォルト値。レコードは 1 件ずつ削除されます。
パージ・コード	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 191. 「インポート・テーブル・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID	YFS_IMPORT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 192. 「インポート・テーブル・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたインポート数 (NumImportsPurged)	パージされたインポート・テーブルの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Import テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_IMPORT

在庫監査パージ

このパージは、在庫監査データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

現在日付からパージ条件の保持日数を引いた日付より前の変更時のタイム・スタンプを持つ、指定された組織のすべての在庫監査を、「在庫監査パージ」でピックアップされるように構成できます。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、在庫監査レコードはパージ対象としてピックアップされます。

- 在庫監査レコードの最終変更日時が、現在のタイム・スタンプから保持日数を引いた日時よりも前である。

このパージのエージェント条件の詳細のスレッド数が 1 に設定されている必要があります。エージェント条件について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

「在庫監査パージ」は、そうするように構成されていた場合でも、過去 60 日以内のレコードはパージしません。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 193. 「在庫監査ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORYAUDITPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 194. 「在庫監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「在庫監査ページ」を実行する対象の在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 195. 「在庫監査」の統計

統計の名前	説明
ページされた在庫監査数 (NumInventoryAuditsPurged)	ページされた在庫監査の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Inventory_Audit テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_INVENTORY_AUDIT

在庫ページ

このページは、在庫データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このページは、ページの際に保持日数を考慮しません。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

YFS_INVENTORY_SUPPLY では、以下の条件を満たす場合、在庫供給はページ対象としてピックアップされます。

- 供給レコードとノードの在庫状況タイプが同じである。例えば、「追跡」または「無限」である。
- 供給レコードの量が 0 である。
- 供給レコードに、「情報」の供給タイプが含まれていない。

YFS_INVENTORY_DEMAND では、以下の条件を満たす場合、在庫需要はページ対象としてピックアップされます。

- 需要レコードの量が 0 以下である。
- YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブル内に需要の詳細および一致する需要レコードがない。

YFS_INVENTORY_TAG の場合、INVENTORY_TAG_KEY を使用する既存の供給および需要がない場合に、ページされます。

YFS_INVENTORY_RESERVATION では、以下の条件を満たす場合、在庫予約はページ対象としてピックアップされます。

- 在庫予約レコードの量が 0、または出荷日が、システム日付からページ条件の保持日数を引いた日付より前である。

YFS_INVENTORY_NODE_CONTROL では、INV_PIC_INCORRECT_TILL_DATE が現在のタイム・スタンプからパージ条件の保持日数を引いた日時より前の場合に、パージされます。

YFS_IBA_TRIGGER では、IBA_REQUIRED = 'N'、IBA_RUN_REQUIRED = 'N'、および LAST_IBA_PROCESSED_TS が現在のタイム・スタンプからパージ条件の保持日数を引いた日時より前の場合に、パージされます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 196. 「在庫パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORYPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 197. 「在庫パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	「在庫パージ」を実行する対象の在庫組織。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。

表 197. 「在庫パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 198. 「在庫パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた在庫需要数 (NumInventoryDemandsPurged)	パージされた在庫需要の数。
パージされた在庫ノード管理数 (NumInventoryNodeControlsPurged)	パージされた在庫ノード管理の数。
パージされた在庫予約数 (NumInventoryReservationsPurged)	パージされた在庫予約の数。
パージされた在庫タグ数 (NumInventoryTagsPurged)	パージされた在庫タグの数。
パージされたアイテム・ベースの割り当てトリガー数 (NumItemBasedAllocationTriggersPurged)	パージされたアイテム・ベースの割り当てトリガーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Inventory_Supply、YFS_Inventory_Demand、YFS_Inventory_Tag、YFS_Inventory_Reservation、YFS_IBA_Trigger、および YFS_Inventory_Node_Control テーブルからパージできるレコードの総数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_IBA_TRIGGER

YFS_INVENTORY_DEMAND

YFS_INVENTORY_TAG

YFS_INVENTORY_RESERVATION

YFS_INVENTORY_SUPPLY

YFS_INVENTORY_NODE_CONTROL

在庫供給一時パージ

「在庫供給一時パージ」エージェントは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の在庫ピクチャーとノード上の実際の在庫ピクチャーの同期プロセスによって生成された、一時在庫テーブルのコンテンツをクリーンアップします。

ノード在庫ピクチャーは、ロードのプロセス時に、YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルに保管されます。同期フェーズが完了し、YFS_INVENTORY_SUPPLY テーブルの更新が終了したら、YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルをパージする必要があるため、このエージェントがそのパージを実行します。

ノード在庫との同期の構成については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

「在庫供給一時パージ」エージェントを使用して、YantraMessageGroupID のグループについて、現在日時からパージ条件の保持日数を引いた日時より前の変更時のタイム・スタンプを持つ YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP 内のすべてのレコードがパージされます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 199. 「在庫供給一時パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SUPPLYTEMPPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 200. 「在庫供給一時パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 200. 「在庫供給一時パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「在庫供給一時パージ」を実行する対象の在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 201. 「在庫供給一時パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた在庫一時供給数 (NumInventorySupplyTempsPurged)	パージされた YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブル内のエントリーの数。

保留中のジョブの数

最大の変更時のタイム・スタンプが現在のタイム・スタンプからパージ条件のリード日数を引いた日時より前である、YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルの固有の YantraMessageGroupID の数。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP

アイテム監査パージ

このパージは、YFS_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このパージ

は、以下の条件を満たした場合、YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブル内のレコードをパージします。

- 指定された保持日数よりも大きい「変更時のタイム・スタンプ」を持つ YFS_AUDIT レコード、および「YFS_ITEM」というテーブル名のレコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

エンタープライズが Applications Manager によって YFS_ITEM テーブル内のレコードを変更したときに、YFS_ITEM が監査され、監査レコードが YFS_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このパージ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションを適宜スケジュールする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 202. 「アイテム監査パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_ITEM_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 203. 「アイテム監査パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、値はデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。 • N - テスト・モード。

表 203. 「アイテム監査パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 204. 「アイテム監査パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたアイテム監査レコード数 (NumItemAuditRecords Purged)	パージされたアイテム監査レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS_AUDIT テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_AUDIT、YFS_AUDIT_HEADER

集合・混載履歴パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、集合・混載データを履歴テーブルから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。集合・混載に行われた最終変更が、リード・タイム (日単位) が満たされるより前の場合、パージ対象として集合・混載がピックアップされます。

このトランザクションを実行する前に、必ず集合・混載をパージして、履歴テーブルに移動してください。集合・混載のパージに関する詳細は、245 ページの『集合・混載パージ』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 205. 「集合・混載履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	LOADHISTPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 206. 「集合・混載履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「集合・混載ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 207. 「集合・混載履歴パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた集合・混載履歴数 (NumLoadHistoriesPurged)	パージされた集合・混載履歴の数。
パージされた集合・混載の出荷履歴数 (NumLoadShipmentHistoriesPurged)	パージされた集合・混載の出荷履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Load_H テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_LOAD_H

YFS_LOAD_STOP_H

YFS_LOAD_SHIPMENT_CHARGE_H

YFS_LOAD_STATUS_AUDIT_H

YFS_SHIPMENT_CONTAINER_H

YFS_CONTAINER_ACTIVITY_H

YFS_LOADED_CONTAINER_H

YFS_LOAD_SHIPMENT_H

YFS_ADDITIONAL_DATE_H

YFS_LOAD_HOLD_TYPE_H

YFS_LOAD_HOLD_TYPE_LOG_H

集合・混載パージ

このパージは、集合・混載データをシステムから削除します。「クローズ」としてマークされているすべての集合・混載をピックアップしてパージします。空の集合・混載 (出荷のない集合・混載など) は、パージ対象と見なされません。このパージの一部として、関連した子テーブルもパージされます。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、集合・混載はページ対象としてピックアップされます。

- 集合・混載の最終変更が、リード・タイム設定 (日単位) より前である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 208. 「集合・混載ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	LOADPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 209. 「集合・混載ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get) (唯一の有効値)」に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「集合・混載ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。

表 209. 「集合・混載パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 210. 「集合・混載パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた集合・混載の出荷数 (NumLoadShipmentsPurged)	パージされた集合・混載の出荷の数。
パージされた集合・混載数 (NumLoadsPurged)	パージされた集合・混載の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Load テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_ADDITIONAL_DATE

YFS_LOAD

YFS_LOAD_HOLD_TYPE

YFS_LOAD_HOLD_TYPE_LOG

YFS_LOAD_STOP

YFS_LOAD_SHIPMENT

YFS_LOAD_SHIPMENT_CHARGES (この集合・混載に関する料金)

YFS_LOAD_STATUS_AUDIT

YFS_LOADED_CONTAINER

YFS_SHIPMENT_CONTAINER

交渉履歴ページ

このページは、交渉履歴データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これによって、オーダー交渉履歴テーブルからデータがページされます。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、交渉は履歴ページ対象としてピックアップされます。

- 交渉の最終変更日時が保持日数期間を超えている。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 211. 「交渉履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	NEGOTIATIONHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 212. 「交渉履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 212. 「交渉履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 213. 「交渉履歴ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた交渉履歴数 (NumNegotiationHistoriesPurged)	ページされた交渉履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Negotiation_Hdr_H テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_NEGOTIATION_HDR_H

YFS_NEGOTIATION_LINE_H

YFS_RESPONSE_H

YFS_RESPONSE_HDR_H

YFS_RESPONSE_LINE_H

YFS_RESPONSE_LINE_DTL_H

交渉ページ

このページは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルにアーカイブします。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これは、タスク・キュー (YFS_TASK_Q) テーブルから動作します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、交渉はページ対象としてピックアップされます。

- 交渉に対して行われた最終変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。
- 交渉がピックアップ可能なステータスにある。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 214. 「交渉ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORD_NEGOTIATION_PURGE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 215. 「交渉ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 215. 「交渉ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
次回のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 216. 「交渉ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたオーダー交渉数 (NumOrderNegotiationsPurged)	ページされたオーダー交渉の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし (None)

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_NEGOTIATION_HDR

YFS_NEGOTIATION_LINE

YFS_RESPONSE

YFS_RESPONSE_HDR

YFS_RESPONSE_LINE

案件履歴パージ

このトランザクションは、案件パージによって前にアーカイブされたタスクを削除します。253 ページの『案件パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、案件パージ・エージェントによって前にパージされた案件が、履歴パージ対象としてピックアップされます。

- 案件の最終変更日時が保持日数期間を超えている。
- 見積履歴がパージされている。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 217. 「案件履歴パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	OPPORTUNITYHISTPRG
基本伝票種別	案件
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	案件フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 218. 「案件履歴パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは N です。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。

表 218. 「案件履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「案件履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたページ条件が使用され、案件のエンタープライズに構成されたページ条件は使用されません。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 219. 「案件履歴ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた案件履歴数 (NumOpportunityHistoryPurged)	ページされた案件履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_OPPORTUNITY_H テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_OPPORTUNITY_H

案件ページ

この時間トリガー・トランザクションは、「案件ページ」条件で指定された保持日数より長い期間のすべての案件、および「キャンセル済み」または「完了済み」のいずれかのステータスにあるすべての案件をページします。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、案件はページ対象としてピックアップされます。

- 案件の最終変更日時が保持日数期間を超えている。
- 案件に関連付けられた見積がパージされている。
- 案件が、パージ・トランザクションによってピック可能なステータスにある。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 220. 「案件パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	OPPORTUNITYPRG
基本伝票種別	案件
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	案件フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 221. 「案件パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは Y です。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 221. 「案件パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「案件パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、案件のエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 222. 「案件パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた案件数 (NumOpportunityPurged)	パージされた案件の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_OPPORTUNITY テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_OPPORTUNITY

オーダー履歴パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

このトランザクションを実行するには、オーダーがパージされ、履歴テーブルに移動されている必要があります。これについて詳しくは、259 ページの『オーダー・パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダーは履歴パージ対象としてピックアップされます。

- オーダーの最終変更日時が保持日数期間を超えている。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

明細タイプに基づいた追加ページ条件については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 分散オーダー管理 構成ガイド」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 223. 「オーダー履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORDERHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 224. 「オーダー履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 224. 「オーダー履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 225. 「オーダー履歴ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたオーダー履歴数 (NumOrderHistoriesPurged)	ページされたオーダー履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Order_HEADER_H テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_ANSWER_SET_TRAN_H

YFS_ANSWER_TRAN_H

YFS_CHARGE_TRAN_DIST_H

YFS_CHARGE_TRAN_REQUEST_H

YFS_CHARGE_TRAN_RQ_MAP_H

YFS_CHARGE_TRANSACTION_H

YFS_CREDIT_CARD_TRANSACTION_H

YFS_ENTITY_ADDRESS_H

YFS_HEADER_CHARGES_H

YFS_INSTRUCTION_DETAIL_H

YFS_INVOICE_COLLECTION_H

YFS_LINE_CHARGES_H

YFS_NOTES_H

YFS_ORDER_AUDIT_DETAIL_H

YFS_ORDER_AUDIT_H
YFS_ORDER_AUDIT_LEVEL_H
YFS_ORDER_DATE_H
YFS_ORDER_HEADER_H
YFS_ORDER_HOLD_TYPE_H
YFS_ORDER_HOLD_TYPE_LOG_H
YFS_ORDER_INVOICE_DETAIL_H
YFS_ORDER_INVOICE_H
YFS_ORDER_KIT_LINE_H
YFS_ORDER_KIT_LINE_SCHEDULE_H
YFS_ORDER_LINE_H
YFS_ORDER_LINE_OPTION_H
YFS_ORDER_LINE_REQ_TAG_H
YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE_H
YFS_ORDER_PROD_SER_ASSOC_H
YFS_ORDER_RELEASE_H
YFS_ORDER_RELEASE_STATUS_H
YFS_ORDER_SER_PROD_ITEM_H
YFS_PAYMENT_H
YFS_PROMOTION_AWARD_H
YFS_PROMOTION_H
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_DTL_H
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_H
YFS_REFERENCE_TABLE_H
YFS_TAX_BREAKUP_H
YIC_BOM_HEADER_H
YIC_BOM_LINE_H
YIC_BOM_MESSAGE_H

オーダー・パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルにアーカイブします。オーダーを履歴テーブルからパージするには、255 ページの『オーダー履歴パージ』を参照してください。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これは、タスク・キューで動作します。トランザクション PURGE で使用可能なオーダーを、YFS_TASK_Q テーブルからピックアップします。

パージ条件が一致しない場合、AVAILABLE_DATE が YFS_ORDER_HEADER テーブルおよび YFS_TASK_Q テーブル内のオーダーの変更タイム・スタンプで、どちらか最大の方に基づいて計算されます。この値については、保持日数が新規の AVAILABLE_DATE に追加されます。

このトランザクションは、「パージ」トランザクションによってピックアップ可能なステータスにあるオーダーの、すべての明細に依存します。

以下のステータスが、オーダー・パージでピックアップされる構成で使用可能です。

- 「ドラフト作成済み (1000)」、およびすべての拡張された「ドラフト作成済み」ステータス。
- 「作成済み (1100)」およびすべての拡張された「作成済み」ステータス。これらのステータスが使用可能な伝票種別は、「販売オーダー」、「購入オーダー」および「転送オーダー」のみです。
- 「リリース済み (3200)」およびすべての拡張された「リリース済み」ステータス。
- 「出荷済み (3700)」およびすべての拡張された「出荷済み」ステータス。
- 「完了済み (3700)」およびすべての拡張された「完了済み」ステータス。これらのステータスが使用可能な伝票種別は、「マスター・オーダー」のみです。
- 「受入済み (3900)」およびすべての拡張された「受入済み」ステータス。
- 「キャンセル (9000)」およびすべての拡張された「キャンセル」ステータス。
- 「不足 (9020)」およびすべての拡張された「不足」ステータス。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダーはパージ対象としてピックアップされます。

- オーダーのすべてのオープンな子オーダー (派生、チェーン、返品、交換、調達または返金のフルフィルメント) がパージ済み。
- 転入を超える他のオーダーへの保留中の転出料金が無い。
- 保留中の調整インボイスが無い。

前述の 3 つの条件に一致した場合、オーダーは即時にパージされ、支払集金が完了すると完全にキャンセルされます。

パージ・エージェントがキャンセルされたオーダーをピックアップするには、オーダーの支払ステータスが以下のいずれかでなければなりません。

- 支払済み

- 該当せず

オーダーが前述の条件のいずれにも一致しない場合、以下に示す条件についてチェックが続行されます。

- 保持日数に一致しないオーダー・リリース・ステータス・レコードがないこと。
- パージ対象となる正しいステータスにある。例:
 - オーダーのすべてのサービス要請のステータスが「出荷済み」または拡張された「出荷済み」である。
 - オーダーの支払ステータスが「支払済み」または「該当せず」である。
 - パージ未済の交渉がない。
- サービス要請の明細以外のすべてのオーダー明細について、以下が該当する。
 - セラー在庫更新が必要な場合、「ステータス在庫のタイプ」の「セラーの供給を更新する」オプションがオンになっており、「セラー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄である。（「セラー供給タイプ」は、「手持ちの供給」チェック・ボックスが有効になっているカスタム・セラー供給タイプでも構いません。）
 - 「セラー需要タイプ」が空欄の場合。
 - バイヤー在庫更新が必要で、「バイヤー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄である。
- オーダーの最終変更は、リード・タイム設定（日単位）より前でなければなりません。
- コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。
- オーダーは、配達未済のサービス明細を保有してはいけません。
- 返品オーダー処理のための交換オーダーの場合、返品オーダーをパージするには、その前に交換オーダーを履歴からパージする必要があります。

ステータス在庫のタイプに変更がない場合、バイヤーが渡されないと、「出荷済み (3700)」ステータスまたはその拡張ステータスにあるオーダーがパージされます。

デフォルト・パイプラインで「出荷済み」ステータスまたは拡張された「出荷済み」ステータスにあるオーダーは、渡されたバイヤーが在庫を追跡している場合、パージされません。これによって、在庫を追跡しているバイヤーの保留中の供給に関連したオーダーがパージされることを防ぎます。

そのようなオーダーをパージするには、「出荷済み」ステータスまたは拡張された「出荷済み」ステータスのステータス在庫のタイプを構成して、「バイヤー供給タイプ」がステータス在庫タイプで ONHAND になるようにします。

パージ・エージェントが実行されている場合、明細のないドラフト・オーダーが、オーダー履歴テーブルにパージされます。パージ履歴エージェントが実行されると、明細のないドラフト・オーダーは永久に削除されるようになります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 226. 「オーダー・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PURGE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 227. 「オーダー・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、オーダーのエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。

表 227. 「オーダー・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	<p>必須。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。このパラメーターを、以下の値に設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DRAFTORDERHISTPRG。ドラフト・オーダー情報をオーダー履歴テーブルからパージします。 • DRAFTORDERNOLINEHISTPRG。オーダー明細のないドラフト・オーダーをオーダー履歴テーブルからパージします。 • DRAFTORDERNOLINEPRG。オーダー明細のないドラフト・オーダーをパージします。 • DRAFTORDERPRG。ドラフト・オーダー情報をパージし、オーダー履歴テーブルにアーカイブします。 <p>「パージ・コード」の値は ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定できません。</p>
追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)	<p>オプション。オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、このパラメーターを ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定します。</p> <p>詳しくは、264 ページの『オーダー・リリース・ステータスのパージ』を参照してください。</p>
コロニー ID (ColonyID)	<p>1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 228. 「オーダー・パージ」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
パージされたオーダー数 (NumOrdersPurged)	パージされたオーダーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_ACTIVITY_DEMAND
YFS_ANSWER_SET_TRAN
YFS_ANSWER_TRAN
YFS_CHARGE_TRANSACTION
YFS_CHARGE_TRAN_DIST
YFS_CHARGE_TRAN_REQUEST
YFS_CHARGE_TRAN_RQ_MAP
YFS_CREDIT_CARD_TRANSACTION
YFS_ENTITY_ADDRESS
YFS_HEADER_CHARGES
YFS_INSTRUCTION_DETAIL
YFS_INVOICE_COLLECTION
YFS_LINE_CHARGES
YFS_MONITOR_ALERT
YFS_NOTES
YFS_ORDER_AUDIT
YFS_ORDER_AUDIT_DETAIL
YFS_ORDER_AUDIT_LEVEL
YFS_ORDER_HEADER
YFS_ORDER_HOLD_TYPE
YFS_ORDER_HOLD_TYPE_LOG
YFS_ORDER_INVOICE
YFS_ORDER_INVOICE_DETAIL
YFS_ORDER_KIT_LINE
YFS_ORDER_KIT_LINE_SCHEDULE
YFS_ORDER_LINE
YFS_ORDER_LINE_OPTION

YFS_ORDER_LINE_REQ_TAG
YFS_ORDER_LINE_RESERVATION
YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE
YFS_ORDER_LINE_SRC_CNTRL
YFS_ORDER_PROD_SER_ASSOC
YFS_ORDER_RELEASE
YFS_ORDER_RELEASE_STATUS
YFS_ORDER_SER_PROD_ITEM
YFS_ORDER_DATE
YFS_PAYMENT
YFS_PMNT_TRANS_ERROR
YFS_PROMOTION
YFS_PROMOTION_AWARD
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_DTL
YFS_REFERENCE_TABLE
YFS_TAX_BREAKUP
YIC_BOM_HEADER
YIC_BOM_LINE
YIC_BOM_MESSAGE
YIC_BOM_PROP

オーダー・リリース・ステータスのパージ

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」エージェントは、「オーダー・パージ」エージェントがデータを履歴テーブルに完全にパージする前に、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージすることによって、「オーダー・パージ」エージェントの機能を拡張します。

オーダーがパージ対象の条件を満たした場合、数量 0 のオーダー・リリース・ステータス・レコードは YFS_ORDER_RELEASE_STATUS テーブルから削除され、履歴テーブルに入れられません。

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」エージェントが完了すると、タスク・キューの AVAILABLE_DATE は、「オーダー・パージ」のパージ条件で指定

された日付にリセットされます。これによって、「オーダー・パージ」エージェントは、必要に応じてオーダーをピックアップし、処理することができます。「オーダー・パージ」は、通常どおりオーダー・リリース・ステータス・レコードのページを続行します。

以下の条件を満たす場合、「オーダー・パージ」エージェントは、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージします。

- 「オーダー・パージ」のすべての条件が一致。「オーダー・パージ」の条件については、259 ページの『オーダー・パージ』を参照してください。
- オーダー・リリース・レコードの数量が 0 である。
- 「オーダー・パージ」条件の「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」が ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定されている。
- 「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」の「オーダー・パージ」リード日数内にオーダーが変更されている。

条件パラメーター

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 229. 「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、オーダーのエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。「オーダー・パージ」エージェントを拡張して、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、ORDERPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。また、「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」も設定する必要があります。

表 229. 「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)	必須。オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、このパラメーターを ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定します。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) の「オーダー・パージ」によって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_ORDER_RELEASE_STATUS

オーダー・ステータス監査パージ

このパージは、オーダー・ステータス監査データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダー・ステータス監査は履歴パージ対象としてピックアップされます。

- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

このトランザクションは、交渉が完了した後に実行する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 230. 「オーダー・ステータス監査パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	STATUSAUDITPRG
基本伝票種別	オーダー

表 230. 「オーダー・ステータス監査ページ」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 231. 「オーダー・ステータス監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・ステータス監査ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_STATUS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 232. 「オーダー・ステータス監査ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたステータス監査数 (NumStatusAuditsPurged)	ページされたステータス監査の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Status_Audit テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_STATUS_AUDIT

組織監査ページ

このページは、YFS_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このページは、以下の条件を満たした場合、YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブル内のレコードをページします。

- 指定された保持日数よりも大きい「変更時のタイム・スタンプ」を持つ YFS_AUDIT レコード、および「YFS_ORGANIZATION」というテーブル名のレコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

エンタープライズが Applications Manager によって YFS_ORGANIZATION テーブル内のレコードを変更したときに、YFS_ORGANIZATION が監査され、監査レコードが YFS_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このページ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 233. 「組織監査ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_ORGANIZATION_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 234. 「組織監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、値はデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。• N - テスト・モード。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 235. 「組織監査ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた組織監査レコード数 (NumOrganizationAuditRecordsPurged)	ページされた組織監査レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS_AUDIT テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_AUDIT_HEADER

個人情報のページ

このページは、個人情報レコード・カウントを持つ日付のリストを取得し、日付の昇順にソートします。次に、バッファーに入れる指定済みのレコード数および変更タイム・スタンプに基づいて、該当するレコードをページし、YFS_PERSON_INFO_H テーブルに配置します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 236. 「個人情報ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PERSONINFOPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 237. 「個人情報ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none">空欄のままにするか、または 10000 より小さい数字を指定した場合、デフォルトで 10000 に設定されます。10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 237. 「個人情報ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「個人情報ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION に設定された場合、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Organization、YFS_Ship_Node など) についてページが実行されます。</p> <p>TRANSACTION に設定された場合、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Order_Header、YFS_Shipment など) についてページが実行されます。</p> <p>ページは、渡されたものと同じスキーマに存在するすべてのテーブル・タイプについて実行されることに注意してください。例えば、TRANSACTION に設定された場合、同じスキーマに存在するため、MASTER のテーブル・タイプを持つテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコードについても、ページは実行されます。</p>
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PERSON_INFO テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

空欄のままにするか、10000 よりも小さい数字が指定された場合、デフォルトの 10000 に設定されます。しかし、10000 より大きい数字が指定された場合、その値が使用されます。

表 238. 「個人情報ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた個人情報数 (NumPersonInfoPurged)	ページされた個人情報レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_PERSON_INFO テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_PERSON_INFO

個人情報履歴のページ

これは、ページ基準に基づいて、YFS_PERSON_INFO_H テーブルからレコードを削除します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 239. 「個人情報履歴のページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PERSONINFOHISTPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 240. 「個人情報履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none">空欄のままにするか、または 10000 より小さい数字を指定した場合、デフォルトで 10000 に設定されます。10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。

表 240. 「個人情報履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	<p>オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	<p>必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。</p>
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	<p>このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。</p>
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	<p>オプション。「個人情報ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。</p>
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION に設定された場合、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Organization、YFS_Ship_Node など) についてページが実行されます。</p> <p>TRANSACTION に設定された場合、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Order_Header、YFS_Shipment など) についてページが実行されます。</p> <p>ページは、渡されたものと同じスキーマに存在するすべてのテーブル・タイプについて実行されることに注意してください。例えば、TRANSACTION に設定された場合、同じスキーマに存在するため、MASTER のテーブル・タイプを持つテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコードについても、ページは実行されます。</p>
コロニー ID (ColonyID)	<p>YFS_PERSON_INFO_H テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 241. 「個人情報履歴パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた個人情報履歴レコード数 (NumPersonInfoHlstoryRecordsPurged)	パージされた個人情報履歴レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_PERSON_INFO_H テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_PERSON_INFO_H

ピック・リスト・パージ

このパージは、条件パラメーターで指定された保持日数より長い期間存在し、出荷を保有していない、すべてのピック・リストをピックアップします。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、ピック・リストはパージ対象としてピックアップされます。

- ピック・リストが指定された保持日数よりも長い期間存在する。
- ピック・リストが出荷に関連付けられていない。

ピック・リストに関連付けられたすべての出荷は、このパージ・エージェントを実行する前に、パージ済みでなければなりません。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 242. 「ピック・リスト・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PICKLISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし

表 242. 「ピック・リスト・パージ」属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 243. 「ピック・リスト・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PICK_LIST テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 244. 「ピック・リスト・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたピック・リスト数 (NumPickListsPurged)	パージされたピック・リストの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_PICK_LIST テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_PICK_LIST

価格リスト・ページ

このページは、価格リスト・データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、価格リストはページ対象としてピックアップされます。

- 価格リストが、現在日付からページ条件の保持日数を引いた日付より前の有効な日付である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 245. 「価格リスト・ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PRICELISTPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 246. 「価格リスト・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 246. 「価格リスト・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 247. 「価格リスト・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた価格セット数 (NumPriceSetsPurged)	パージされた価格セットの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Price_Set テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

現在日付からリード日数を引いた日付以前の VALID_TILL_DATE を持つ YFS_PRICE_SET テーブル

YFS_PRICE_PROGRAM_DEFN

YFS_ITEM_PRICE_SET

YFS_ITEM_PRICE_SET_DTL

カタログ一括監査のパージ

このパージでは、YFS_CATALOG_MASS_AUDIT テーブルから古い監査レコードを削除します。このテーブルには、属性および属性値をカテゴリーおよびアイテムに対して割り当てたことに起因する、カタログに対する変更についてのデータが含ま

れています。また、継承される属性および属性値に関する情報が含まれます。ページ・トランザクションは、指定された日数の間に変更されなかった一括監査レコードを検出し、このレコードをデータベースから削除します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 248. カタログ一括監査のページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CATALOG_MASS_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 249. カタログ一括監査のページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_CATALOG_MASS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 250. カタログ一括監査のページの統計

統計の名前	説明
ページされる一括監査レコード数 (NumCatalogMassAuditsPurged)	ページされる一括監査レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、
YFS_CATALOG_MASS_AUDIT テーブルからページできるレコードの合計数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_CATALOG_MASS_AUDIT テーブルは、MODIFYTS < (CurrentDate -
LeadDays) の条件を満たす場合にページされます。

受入履歴ページ

このトランザクションは、以前、受入ページでアーカイブされた受入を削除しま
す。281 ページの『受入ページ』を参照してください。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケ
ジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の
条件を満たす場合、受入ページ・エージェントで以前にページされた受入は、履歴
をページするためにピックアップされます。

- 受入の最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 受入に関連付けられる出荷が履歴テーブルからページされること。

受入履歴をページするには、受入を閉じて、出荷をページするようにします。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 251. 受入履歴ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPTHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし

表 251. 受入履歴ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 252. 受入履歴ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。受入履歴ページの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 253. 受入履歴ページの統計

統計の名前	説明
ページされた受入明細履歴数 (NumReceiptLineHistoriesPurged)	ページされた受入明細履歴の数。
ページされた受入履歴数 (NumReceiptHistoriesPurged)	ページされた受入履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Receipt_Header_H テーブルからバージできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

バージされるテーブル

YFS_RECEIPT_HEADER_H

YFS_RECEIPT_LINE_H

YFS_RECEIPT_STATUS_AUDIT_H

YFS_INSTRUCTION_DETAIL_H

受入バージ

このバージは、受入データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このトランザクションは、開かれておらず検査が保留されていない受入をすべてピックアップし、履歴テーブルにアーカイブします。279 ページの『受入履歴バージ』を参照してください。また、受入の子テーブルのアーカイブおよびバージを行います。

これはパイプライン・トランザクションで、タスク・キューから動作します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、バージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

バージは、バージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、受入はバージするためにピックアップされます。

- 受入の最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 受入に関連付けられる出荷がバージされること。
- 受入がバージ・トランザクションに対してピックアップ可能ステータスであること。
- OpenReceiptFlag フィールドの値に「N」が設定されていること。
- 受入に保留中の検査がないこと。
- 受入のウェアハウスに在庫がないこと。

受入をバージするには、受入を閉じて、出荷をバージするようにします。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 254. 受入ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 255. 受入ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。受入ページの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 256. 受入パージの統計

統計の名前	説明
パージされた受入明細数 (NumReceiptLinesPurged)	パージされた受入明細の数。
パージされた受入数 (NumReceiptsPurged)	パージされた受入の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_RECEIPT_HEADER

YFS_RECEIPT_LINE

YFS_RECEIPT_STATUS_AUDIT

YFS_INSTRUCTION_DETAIL

再処理エラー・パージ

このパージは、再処理エラーをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、YFS_REPROCESS_ERROR テーブルはパージするためにピックアップされます。

- 状態 (State) = 固定 (Fixed) または状態 (State) = 無視 (Ignored) の YFS_REPROCESS_ERROR レコードが処理されること。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

このパージは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。

ConsoleConsole を使用するあらゆるエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジュールに入れる必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 257. Reprocess Error Purge Attributes

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	REPROCESSPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 258. 再処理エラー・ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_REPROCESS_ERROR テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 259. 再処理エラー・ページの統計

統計の名前	説明
ページされた再処理エラー数 (NumReprocessErrorsPurged)	ページされた再処理エラーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_REPROCESS_ERROR テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_REPROCESS_ERROR

予約ページ

このページは、有効期限が切れた在庫予約をシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減するとともに、有効期限切れの予約で使用される需要を解放します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、YFS_INVENTORY_RESERVATION テーブル内のすべてのレコードはページするためにピックアップされます。

- EXPIRATION_DATE が現在日付よりも早いか、数量が 0 以下である

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 260. 予約ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RESERVATIONPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

表 260. 予約ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 261. 予約ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_RESERVATION テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 262. Reservation Purge Statistics

統計の名前	説明
NumReservationsPurged	ページされた予約の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_INVENTORY_RESERVATION テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_INVENTORY_RESERVATION

出荷履歴ページ

このトランザクションは、以前、出荷ページでアーカイブされた出荷を削除します。289 ページの『出荷ページ』を参照してください。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、履歴テーブルにアーカイブされたすべてのレコードはページするためにピックアップされます。

- 出荷で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

出荷に関連するオーダーは、オーダー・ページによりページされている必要があります。出荷は、出荷のクローズ・トランザクションによりクローズされている必要があります。155 ページの『出荷を閉じる (Close Shipment)』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 263. 出荷履歴ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENTHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 264. 出荷履歴ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 264. 出荷履歴パージの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷履歴パージの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 265. 出荷履歴パージの統計

統計の名前	説明
パージされた出荷履歴数 (NumShipmentHistoriesPurged)	パージされた出荷履歴の数。
パージされた出荷明細履歴数 (NumShipmentLineHistoriesPurged)	パージされた出荷明細履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Shipment_H テーブルからパージできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_ADDITIONAL_ATTRIBUTE_H

YFS_ADDITIONAL_DATE_H

YFS_AUDIT

YFS_CONTAINER_DETA_ILS_H

YFS_CONTAINER_STS_AUDIT_H

YFS_INSTRUCTION_DETAIL_H

YFS_SHIPMENT_CONTAINER_H

YFS_SHIPMENT_H

YFS_SHIPMENT_LINE_H

YFS_SHIPMENT_LINE_REQ_TAG_H

YFS_SHIPMENT_STATUS_AUDIT_H

YFS_SHIPMENT_TAG_SERIAL_H

YFS_CONTAINER_ACTIVITY_H

出荷ページ

このページは、出荷データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このトランザクションは、「クローズ」とマークが付いた出荷をすべてピックアップし、履歴テーブルにアーカイブします。287 ページの『出荷履歴ページ』を参照してください。また、出荷の子テーブルのアーカイブおよびページを行います。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

出荷に関連するオーダーは、オーダー・ページによりページされている必要があります。出荷は、出荷のクローズ・トランザクションによりクローズされている必要があります。詳しくは、155 ページの『出荷を閉じる (Close Shipment)』を参照してください。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、出荷はページするためにピックアップされます。

- 出荷で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。
- ShipmentClosedFlag フィールドの値に「Y」が設定されていること。
- オーダー・レコードがすべての出荷明細に関して既にページ済みであること。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 266. 出荷ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENTPRG
基本伝票種別	オーダー

表 266. 出荷バージの属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 267. 出荷バージの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
実行する日数	オプション。バージする出荷レコードをエージェントが探すリード日数より前の最大日数。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷バージの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、バージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・バージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「バージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 268. 出荷バージの統計

統計の名前	説明
NumShipmentsPurged	バージされる出荷の数。
NumShipmentLinesPurged	バージされる出荷明細の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Shipment テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_ADDITIONAL_ATTRIBUTES

YFS_ADDITIONAL_DATE

YFS_AUDIT

YFS_CONTAINER_DETAILS

YFS_LOAD_SHIPMENT_CHARGE

YFS_MONITOR_ALERT

YFS_SHIPMENT_CONTAINER

YFS_SHIPMENT_STATUS_AUDIT

YFS_SHIPMENT

YFS_INSTRUCTION_DETAIL

YFS_SHIPMENT_MONITOR_ALERT

YFS_HEADER_CHARGES

YFS_LINE_CHARGES

YFS_TAX_BREAKUP

YFS_SHIPMENT_HOLD_TYPE

YFS_SHIPMENT_HOLD_TYPE_LOG

YFS_SHIPMENT_TAG_SERIALS

YFS_SHIPMENT_LINE

YFS_SHIPMENT_LINE_REQ_TAG

YFS_ACTIVITY_DEMAND

YFS_CONTAINER_STS_AUDIT

YFS_CONTAINER_ACTIVITY

出荷統計ページ

このトランザクションは、指定される保持日数を経過したテーブルから出荷統計を削除します。

このエージェントは、出荷統計レコードの削除が必要な場合 (アプリケーション・サーバーの再始動後など) は常に使用する必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、出荷統計はページするためにピックアップされます。

- 出荷統計で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 269. 出荷統計ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PRG_SHIP_STATS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 270. 出荷統計ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷統計ページの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 270. 出荷統計ページの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_SHIPMENT_STATISTICS テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

統計パラメーター

このトランザクションの統計パラメーターは、以下のとおりです。

表 271. 出荷統計ページの統計

パラメーター	説明
ページされた出荷統計数 (NumShipmentStatisticsPurged)	ページされた出荷統計の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_SHIPMENT_STATISTICS テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_SHIPMENT_STATISTICS

ユーザー・アクティビティー・ページ

このページは、ユーザー・アクティビティー・データをシステムから削除します。指定される保持日数より古いすべてのレコード、およびログアウトのステータスにあるレコードをページします。このページは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

レコードをページする際は、以下の制限が想定されます。

このページは、アプリケーション・サーバーが突然停止した場合は、いかなるレコードもページしません。これは、サーバー停止時にアプリケーション・サーバーに接続されていたユーザーの監査レコードは、更新できないためです。この結果、最

後のアクティビティー時刻またはログアウト時刻には値が入りません。ページでは、ユーザーがログアウトしているのか、それとも引き続きログインしているかどうかを分かりません。したがって、これらのレコードを手動で削除する必要があります。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 272. ユーザー・アクティビティー・ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	USERACTIVITYPRG
基本伝票種別	なし (None)
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	なし (None)
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 273. ユーザー・アクティビティー・ページのパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、の下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	必須。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 100 に設定されます。

表 273. ユーザー・アクティビティ・ページのパラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッチ削除 (BatchDelete)	<p>必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - レコードは 1 件ずつ削除されます。
コロニー ID (ColonyID)	<p>YFS_USER_ACTIVITY テーブルが複数のスキーマに存在する可能性がある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 274. 統計ページの統計

統計の名前	説明
ページされた統計数 (NumStatisticsPurged)	ページされた統計の数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_USER_ACTIVITY

ユーザー・アクティビティ・監査ページ

このページは、ユーザー・アクティビティ・監査データをシステムから削除します。指定される保持日数より古いすべてのレコードをページします。ページするのは、ログアウトのステータス (ログイン・タイプが「T」または「N」のレコード) にあるレコードのみです。このページは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

レコードをページする際は、以下の制限が想定されます。

- このページは、アプリケーション・サーバーが突然停止した場合は、いかなるレコードもページしません。これは、サーバー停止時にアプリケーション・サーバーに接続されていたユーザーの監査レコードは、更新できないためです。この結果、最後のアクティビティ時刻またはログアウト時刻には値が入らず、ページでは、ユーザーがログアウトしているのか、それとも引き続きログインしているかどうかを分かりません。したがって、このレコードは手動で削除する必要があります。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 275. ユーザー・アクティビティ監査ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	USERACTAUDPURGE
基本伝票種別	なし (None)
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	なし (None)
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 276. ユーザー・アクティビティ監査ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、の下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	必須。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 100 に設定されます。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - レコードは 1 件ずつ削除されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_USER_ACT_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 277. 統計パージの統計

統計の名前	説明
パージされた統計数 (NumStatisticsPurged)	パージされた統計の数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_USR_ACT_AUDIT

作業オーダー履歴パージ

このトランザクションは、以前、作業オーダー・パージでアーカイブされたタスクを削除します。299 ページの『作業オーダー・パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。作業オーダーの最終変更日時が保持日数期間を超えている場合、作業オーダー・パージ・エージェントで以前にパージされた作業オーダーは、履歴をパージするためにピックアップされます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 278. 作業オーダー履歴パージの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_HISTORY_PURGE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 279. 作業オーダー履歴ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは N です。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	オプション。作業オーダー履歴ページの実行が必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされます。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 280. 作業オーダー履歴ページの統計

統計の名前	説明
ページされた作業オーダー履歴数 (NumWorkOrderHistoriesPurged)	ページされた作業オーダー履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_WORK_ORDER_H テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_WO_APPT_USER_H

YFS_WORK_ORDER_H

YFS_WORK_ORDER_APPT_H

YFS_WORK_ORDER_ACTIVITY_H

YFS_WORK_ORDER_ACTY_DTL_H

YFS_WORK_ORDER_AUDT_DTL_H

YFS_WORK_ORDER_COMPONENT_H

YFS_WORK_ORDER_COMP_TAG_H

YFS_WORK_ORDER_HOLD_TYPE_H

YFS_WORK_ORDER_HOLD_TYPE_LOG_H

YFS_WORK_ORDER_PROD_DEL_H

YFS_WORK_ORDER_SERVICE_LINE_H

YFS_WORK_ORDER_STS_AUDIT_H

YFS_WORK_ORDER_TAG_H

作業オーダー・ページ

この時間トリガー・トランザクションは、作業オーダー・ページ条件に指定される保持日数を超えている作業オーダー、および「キャンセル」ステータスまたは「完了」ステータスの作業オーダーをすべてページします。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、作業オーダーはページするためにピックアップされます。

- 作業オーダーの最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 作業オーダーに関連付けられるオーダーがページされること。
- 作業オーダーがページ・トランザクションによりピックアップ可能なステータスであること。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 281. 作業オーダー・ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_PURGE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 282. 作業オーダー・ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは Y です。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	オプション。作業オーダー・ページの実行が必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされます。

表 282. 作業オーダー・ページの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 283. 作業オーダー・ページの統計

統計の名前	説明
ページされた作業オーダー数 (NumWorkOrdersPurged)	ページされた作業オーダーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_WORK_ORDER テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_WO_APPT_USER

YFS_WORK_ORDER

YFS_WORK_ORDER_ACTIVITY

YFS_WORK_ORDER_ACTY_DTL

YFS_WORK_ORDER_HOLD_TYPE

YFS_WORK_ORDER_HOLD_TYPE_LOG

YFS_WORK_ORDER_APPT

YFS_WORK_ORDER_AUDT_DTL

YFS_WORK_ORDER_COMPONENT

YFS_WORK_ORDER_COMP_TAG

YFS_WORK_ORDER_PROD_DEL

YFS_WORK_ORDER_SERVICE_LINE

YFS_WORK_ORDER_STS_AUDIT

YFS_WORK_ORDER_TAG

YFS 監査ページ

このページは、YFS_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このページは、以下の条件を満たした場合、YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブル内のレコードをページします。

- 指定される保持日数より大きい modifyts を有し、かつ YFS_AUDIT テーブル内に一致するテーブル名の値を有する YFS_AUDIT レコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

YFS 監査ページの構成方法によっては、構成データ・バージョン管理ツールの機能に何らかの影響を及ぼすおそれがあります。データ・バージョン管理ツールの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 構成・デプロイ・ツール・ガイド*」を参照してください。

エンタープライズがエンティティを拡張し、拡張エンティティ属性 AuditTable="Y" を設定する場合、拡張されたテーブルは監査されて、監査レコードは YFS_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このページ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 284. YFS 監査ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

表 284. YFS 監査ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 285. YFS 監査ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、この値にデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) が設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。 • N - テスト・モード。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
テーブル名	必須。監査レコードのページが必要なテーブル名。
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性がある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION が設定される場合、エージェントは、TableType が CONFIGURATION のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Organization、YFS_Ship_Node などです。</p> <p>TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が TRANSACTION のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Order_Header、YFS_Shipment などです。</p> <p>エージェントは、渡されるスキーマと同じスキーマ内に存在するすべての TableType に対して実行される点に注意してください。例えば、TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が同じスキーマ内にあるため、TableType が MASTER のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対しても実行されます。</p>

表 285. YFS 監査ページの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 286. YFS 監査ページの統計

統計の名前	説明
ページされる監査レコード数 (NumAuditRecordsPurged)	ページされる監査レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS_AUDIT テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT、YFS_AUDIT_HEADER

YFSInventoryOwnershipAudit ページ

このトランザクションは、条件パラメーターに指定されるリード日数より前の YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD からすべてのレコードをページします。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 287. YFSInventoryOwnership ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PURGE_INV_TRANSFR_RECORD
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

表 287. YFSInventoryOwnership ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 288. YFSInventoryOwnership ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、この値にデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) が設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。YFSInventoryOwnership 監査ページの実行が必要な在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。 • N - テスト・モード。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
リード日数	エージェントがレコードをページする、現在日付より前の日数。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

ページされるテーブル

YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD

パスワードのリセット要求ページ

このページは、パスワードのリセット要求データをシステムから削除します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 289. 「パスワードのリセット要求ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	なし (None)
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 290. 「パスワードのリセット要求ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 290. 「パスワードのリセット要求ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	PLT_PWD_REQ テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 291. 「パスワードのリセット要求ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたパスワード要求数 (NumPasswordRequestPurged)	ページされたパスワード要求の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT_PWD_REQ テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

PLT_PWD_REQ

ユーザー・ログイン失敗ページ

このページは、ユーザーのログイン試行失敗数に関するデータをシステムから削除します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 292. ユーザー・ログイン失敗ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	なし (None)
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

表 292. ユーザー・ログイン失敗ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 293. ユーザー・ログイン失敗ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	PLT_USER_LOGIN_FAILED テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 294. ユーザー・ログイン失敗ページの統計

統計の名前	説明
ページされたログイン失敗数 (NumUserLoginFailPurged)	ページされたログイン試行失敗の数

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT_USER_LOGIN_FAILED テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

PLT_USER_LOGIN_FAILED

タスク・キューの同期プログラムの時間トリガー・トランザクション

多くのトランザクションは、タスク・キューをその作業リポジトリとして使用します。パイプラインで構成済みの次の処理ステップを取り扱うために、ワークフロー・マネージャーはトランザクションのタスクを自動的に作成します。

状況によっては、タスク・キュー・リポジトリは期限切れになる場合もあります。例えば、パイプラインがアクティブであるときに処理パイプラインを再構成すると、キューが新規パイプライン構成と同期しなくなることがあります。

ビジネス・ドキュメントのライフサイクル内の一時停止を示す警告は、期限切れのタスク・キュー・リポジトリを示す場合があります。

タスク・キュー同期プログラム・トランザクションは、最新のパイプライン構成に基づいて、各トランザクションにより実行される未完了タスクの最新リストでタスク・キュー・リポジトリを更新するように設計されています。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、次のリリースで変更される可能性があります。

集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、集合・混載実行プロセス・タイプのタスク・キューを同期化します。

以下の疑似論理を使用して、この時間トリガー・トランザクションを分析できます。以下の条件を満たす場合、その集合・混載実行プロセス・タイプのタスク・キューは同期化されます。

- 集合・混載の `LOAD_CLOSED_FLAG` が「Y」でない。
- 集合・混載が、パイプラインのトランザクションでピック可能なステータスにある。
- タスク・キュー・テーブルに集合・混載のタスク・キュー・レコード、トランザクションの組み合わせがない。この場合、システムは、この集合・混載のとトランザクションの組み合わせについて、利用可能日として現在のデータベース時刻を設定したタスク・キュー・レコードを 1 つ挿入します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 295. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_L_D
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 296. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 297. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

オーダー配達タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー配達プロセス・タイプを同期化します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 298. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_D
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 299. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 300. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー・フルフィルメント・プロセス・タイプを同期化します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 301. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_F
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 302. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 303. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー交渉プロセス・タイプを同期化します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 304. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_N
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 305. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 306. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、見積フルフィルメント・プロセス・タイプを同期化します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 307. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_Q_F
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	見積フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 308. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 308. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 309. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

モニター

モニターとは、通常の境界を越えているプロセスや状況を監視し、警告を出すトランザクションのことです。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

すべてのモニターは、CollectPendingJobs 条件パラメーターを持ちます。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、そのモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。デフォルトでは、CollectPendingJobs は「Y」に設定されます。これは、1 つのモニターがかなりの量の getPendingJobs 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

在庫状況モニター

この時間トリガー・トランザクションは、在庫状況をモニターします。在庫量が、当日、今後の ATP 時間フレーム内の日数、および今後の ATP 時間フレーム外の日数に対して構成されている数量を下回った場合、在庫状況モニターはグローバル警告を発します。ATP 時間フレーム外の日数に対する数量は、最大モニター日数によ

って決定されます。在庫状況モニターは、スケジュールやリリースのトランザクションとは異なり、無限在庫を想定するのではなく、ATP 水準を上回る実際の在庫量を計算します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 310. 「在庫状況モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ATP_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 311. 「在庫状況モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
MonitorOption	オプション。在庫のモニター方法を指定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 - 現在の在庫 • 0 - ATP 時間フレームの範囲内と範囲外の在庫。これはデフォルト値です。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
ステータス (Status)	モニターしている交渉ステータスです。

表 311. 「在庫状況モニター」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

アクションに対して公開されるデータは、AVAILABILITY_MONITOR_dbd.txt です。

例外モニター

この時間トリガー・トランザクションは、以下に示すようにシステムの例外をモニターします。このトランザクションは、システムのログに記録された例外をモニターし、以下の場合にそれらの例外を上申します。

- 特定の時刻までに例外がユーザーに割り当てられなかった場合。
- 特定の時刻までに例外が解決されなかった場合。
- キューのアクティブ・サイズが、特定の最大サイズを超えた場合。

例外モニターを実行するたびに例外に対して再警告するのを防ぐために、Applications Manager の警告管理を使用して再警告時間間隔を指定します。この属性はキューに関連付けられており、キューごとに構成できます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 312. 「例外モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	EXCEPTION_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 313. 「例外モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
キュー ID	オプション。このモニターの例外を格納する警告キューを定義します。
組織コード	オプション。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
キュー・グループ	オプション。例外のモニター対象となるキューのセットを定義します。キュー ID とキュー・グループの両方が指定された場合、キュー ID は無視されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 314. 「例外モニター」の統計

統計の名前	説明
処理された警告数 (NumInboxProcessed)	処理された警告の数。
キュー・サイズ超過警告数 (NumExceededQueueSizeAlerts)	未解決の警告数がキューの最大アクティブ・サイズを超えた場合に発生するアクションの数。
未解決警告数 (NumUnResolvedAlerts)	警告の未解決警告時間がキューの解決時間を超えた場合に発生するアクションの数。
未割り当て警告数 (NumUnAssignedAlerts)	警告の未割り当て警告時間がキューの割り当て時間を超えた場合に発生するアクションの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

在庫モニター

この時間トリガー・トランザクションは、出荷ノードのレベルで在庫状況をモニターします。使用可能な在庫が構成済みの量を超えたとき、または下回ったときに、出荷ノード・レベルで警告を発行します。

このモニターは、OPEN_ORDER 需要タイプを使用して、指定されたノードで使用可能な在庫を計算します。OPEN_ORDER 需要タイプによって考慮される供給タイプに割り当て済みの、すべての供給が考慮されます。在庫供給と需要の考慮の構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 315. 「在庫モニター」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORY_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	checkAvailability()

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 316. 「在庫モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 316. 「在庫モニター」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
条件のオーバーライドを許可 (AllowedOverriddenCriteria)	このパラメーターが「Y」に設定された場合、エージェント条件パラメーターのオーバーライドの値を、エージェントのトリガー時に以下の形式でコマンド・ラインで指定できます。 <AgentCriteriaAttribute> <OverriddenValue> これらの属性を渡す場合の詳細については、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> インストール・ガイド」を参照してください。
出荷ノード	オプション。この実行で処理する必要のある有効な出荷ノードのコンマ区切りリスト。これが渡されない場合は、すべての出荷ノードが処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

アクションに公開されるデータは、<INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/dbd/INVENTORY_MONITOR_dbd.txt です。

交渉モニター

この時間トリガー・トランザクションは、交渉が一定時間特定のステータスのままの場合に、エンタープライズに警告します。また、交渉の有効期限をモニターします。この時間トリガー・トランザクションは、交渉ステータスに対して構成されたアクションを起動します。交渉の有効期限をモニターするには、ステータス「期限切れ (2000)」を構成します。

オーダーまたはオーダー・リリースに交渉フェーズが必要な環境で、その交渉をモニターしたい場合に、このモニターを使用します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 317. 「交渉モニター」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORD_NEGOTIATION_MONITOR
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 318. 「交渉モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉モニター」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
ステータス (Status)	モニターしている交渉ステータスです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 319. 「交渉モニター」の統計

統計の名前	説明
処理された交渉数 (NumNegotiationsProcessed)	処理された交渉の数。

表 319. 「交渉モニター」の統計 (続き)

統計の名前	説明
警告を要する交渉数 (NumNegotiationsRequiringAlert)	少なくとも 1 つの警告が発行されている交渉の数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

これは、交渉ステータスに対して構成されたアクションを起動します。

キー・データ - 該当せず。

公開されるデータ - YCP_getNegotiationDetails_output.xml

強化したオーダー・モニター

「強化したオーダー・モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。
- オーダーが y 時間の間、保留タイプ x の状態にあった。
- オーダーが日付タイプ z の前の y 時間の間、保留タイプ x の状態にあった。

オーダー・モニターを構成して、以下のシステム日付タイプと購入オーダー・ドキュメント・タイプをモニターすることができます。

- 実際のオーダー日 - YFS_ORDER_HEADER テーブルの ORDER_DATE 列から読み取られます。
- 実際の次の反復日 - YFS_ORDER_HEADER テーブルの NEXT_ITER_DATE 列から読み取られます。
- 出荷指定日 - オーダー・リリースが存在する場合、YFS_ORDER_RELEASE テーブルの REQ_SHIP_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS_ORDER_LINE テーブルの REQ_SHIP_DATE から読み取られます。
- 出荷予定日 - YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_SHIPMENT_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、出荷指定日と同じロジックが使用されます。

- 実際の出荷日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_SHIPMENT_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
- 指定配達日 - リリースが存在する場合、YFS_ORDER_RELEASE テーブルの REQ_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。
- 予定配達日 - YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、指定配達日と同じロジックが使用されます。
- 実際の配達日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
 オーダー・フルフィルメント、計画済みオーダー実行、返品物流、および購入オーダー実行の各パイプラインの場合、出荷や配達などのシステム定義日付は、時刻コンポーネントを伴わずに格納されます。したがって、これらの日付を使用してルールを構成する場合、すべての時刻計算は、常に 12:00:00 AM を仮定して実行されます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide』、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide』、および『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide』を参照してください。

「強化したオーダー・モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについては、152 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 320. 「強化したオーダー・モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORDER_MONITOR_EX
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 321. 「強化したオーダー・モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・モニター」の実行が必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 322. 「強化したオーダー・モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT_ALERT_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

発生するイベント

「強化したオーダー・モニター」トランザクションは、ON_AUTO_CANCEL イベントを生成しますが、オーダーのキャンセルは行いません。オーダーをキャンセルするには、このイベントに対するサービスを構成する必要があります。

表 323. 「強化したオーダー・モニター」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
ON_AUTO_CANCEL	ORDER_MONITOR_dbd.txt	YFS_ORDER_MONITOR_EX.ON_AUTO_CANCEL.html	あり
* これらのファイルは、以下のディレクトリにあります。 <INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML			

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

強化した見積モニター

「強化した見積モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。

見積モニターを構成して、以下のシステム日付タイプをモニターすることができます。

- 実際の有効期限 - YFS_ORDER_HEADER テーブルの EXPIRATION_DATE 列から読み取られます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについて詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide*』を参照してください。

「強化した見積モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、152 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されま
す。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 324. 「強化した見積モニター」の属性

属性	値
トランザクション ID	ORDER_MONITOR_EX.0015
ドキュメント・タイプ	見積
プロセス・タイプ	見積フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 325. 「強化した見積モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「見積モニター」の実行が必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 326. 「強化した見積モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理された見積の数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT_ALERT_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

公開されるデータは、ORDER_MONITOR_EX.0015.xml です。

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

```
<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/  
ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、  
<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/  
ORDER_MONITOR_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの  
MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。
```

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

強化した返品モニター

「強化した返品モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。

強化した返品モニターを構成して、以下のシステム日付タイプをモニターすることができます。

- 実際のオーダー日 - YFS_ORDER_HEADER テーブルの ORDER_DATE 列から読み取られます。

- 出荷指定日 - オーダー・リリースが存在する場合、YFS_ORDER_RELEASE テーブルの REQ_SHIP_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS_ORDER_LINE テーブルの REQ_SHIP_DATE から読み取られます。
- 出荷予定日 - YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_SHIPMENT_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、出荷指定日と同じロジックが使用されます。
- 実際の出荷日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_SHIPMENT_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
- 指定配達日 - リリースが存在する場合、YFS_ORDER_RELEASE テーブルの REQ_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS_ORDER_LINE テーブルの REQ_DELIVERY_DATE から読み取られます。
- 予定配達日 - YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、指定配達日と同じロジックが使用されます。
- 実際の配達日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
 オーダー・フルフィルメント、計画済みオーダー実行、返品物流、および購入オーダー実行の各パイプラインの場合、出荷や配達などのシステム定義日付は、時刻コンポーネントを伴わずに格納されます。したがって、これらの日付を使用してルールを構成する場合、すべての時刻計算は、常に 12:00:00 AM を仮定して実行されます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide』、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide』、および『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide』を参照してください。

「強化した返品モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、152 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されません。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 327. 「強化したオーダー・モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RETURN_MONITOR_EX

表 327. 「強化したオーダー・モニター」の属性 (続き)

属性	値
基本伝票種別	返品オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 328. 「強化したオーダー・モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・モニター」の実行が必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ステータス最小値 (FromStatus)	オプション。渡されたステータス以上のステータスがモニターされます。
ステータス最大値 (ToStatus)	オプション。渡されたステータス以下のステータスがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 329. 「強化したオーダー・モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT_ALERT_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

公開されるデータは、RETURN_MONITOR_EX.xml です。

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

リアルタイム在庫状況モニター

リアルタイム在庫状況モニターの時間トリガー・トランザクションは、在庫アイテムの在庫状況をモニターします。このトランザクションは、Global Inventory Visibility モジュール内の Applications Manager で定義されるしきい値の間で、特定のアイテムの在庫レベルが変わった場合に REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントが発生するように構成できます。

このトランザクションは、以下の 3 つのモードで実行できます。

- アクティビティー・ベース: アイテムがしきい値のいずれかを上回るか下回るたびにリアルタイムにイベントを発生させます。
- クイック同期: 最も近くに公開された在庫状況情報を再送します。
- 完全同期: アクティビティーにかかわらずすべてのアイテムをモニターし、すべてのアイテムの在庫情報を公開します。

すべての場合、将来の在庫状況のパーセンテージは検索時に在庫状況を検討する際に使用されます。将来の在庫状況について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

在庫状況ピクチャーを把握するには、OPEN_ORDER タイプの要求を使用します。供給が維持されていれば、リアルタイム在庫状況モニターは、ノード全体の総合在庫状況または個々のノードの在庫状況をモニターできます。在庫状況モニター・ルールのない在庫アイテム、または使用できないルールがある在庫アイテムは、この時間トリガー・トランザクションで処理することはできません。

ノード全体の総合在庫状況をモニターする場合、リアルタイム在庫状況モニターは、在庫組織のデフォルトの分配グループ内のすべてのノードをモニターします。

個別のノードの在庫状況をモニターする場合、リアルタイム在庫状況モニターは、指定された分配グループ内のすべてのノードをモニターします。分配グループの構成およびノード・レベルの在庫モニターについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

構成する場合、リアルタイム在庫状況モニターでは、モニターする際の、手持ちおよび将来の在庫状況のセーフティー要因も考慮します。在庫状況のセーフティー要因および findInventory() API については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」および「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

手持ち数量が、構成される下限しきい値より大きい場合、REALTIME_ONHAND 警告タイプが発生し、警告レベルは手持ち数量がベースになります。

手持ち数量が、構成される下限しきい値より小さくなった場合、REALTIME_FUTURE_MAX 警告タイプが発生します。その場合、警告レベルのベースになるのは将来の供給合計 (FutureAvailableQuantity) で、FirstFutureAvailableDate に最も早く供給される日付が設定され、FutureAvailableDate に最も遅く供給される日付が設定されます。

リアルタイム在庫状況モニターがアクティビティー・ベース・モードで稼働する場合、在庫アイテムのしきい値のいずれかを変更しても、アクティビティーで変更がない限りエージェントはその在庫アイテムをモニターしません。例えば、在庫数量が 700 のアイテム I が 600 の下限しきい値でモニターされており、下限しきい値が 1000 に変更される場合、I のアクティビティーに変更がない限りイベントは公開されません。このようなシナリオで I がモニター対象外のままにされないようにするには、アイテムのモニター・ルールを変更する場合に createInventoryActivity API を呼び出します。

在庫数量の最大出荷日の計算および公開

使用可能な場合、リアルタイム在庫状況モニターは、在庫数量の最大出荷日のマトリックスを計算し、公開します。マトリックスには、以下の情報が含まれます。

- 在庫数量 - 最大出荷日に出荷できるアイテムの数を表します。
- 最大出荷日 - 在庫数量が出荷される日時を表します。
- 有効期限日 - オーダーが最大出荷日に出荷される場合に、オーダーを起票できる最後の日時を表します。

マトリックスは、REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントに対して公開され、YFS_INVENTORY_ALERTS 表の AVAILABILITY_INFO フィールドに XML 形式で保管されます。マトリックスの更新には monitorItemAvailability() API が使用

できます。monitorItemAvailability() API について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

在庫数量の最大出荷日のマトリックスの計算および公開を行うためのリアルタイム在庫状況モニターの使用について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」の在庫ルールの構成に関する章を参照してください。

最大出荷日の計算

最大出荷日は、考慮対象のノード全体での最大予定出荷日と同じです。予定出荷日の計算について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き*」を参照してください。さらに、以下のオプションを最大出荷日の一部として構成できます。

- 最大出荷日時
- 最大出荷日時を相殺する日数

最大出荷日時 - 最大出荷日の時刻を指定する場合、リアルタイム在庫状況モニターは、先に説明したように、最大出荷日を計算してから、以下のロジックを適用します。

- 最大出荷日に指定される時刻が、計算された出荷日の時刻より遅い場合、リアルタイム在庫状況モニターは、指定される時刻で最大出荷日をリセットします。例えば、リアルタイム在庫状況モニターが、最大出荷日を 7 月 21 日の午前 10 時と計算し、最大出荷日時に午前 11 時が設定される場合、最大出荷日は 7 月 21 日の午前 11 時と再計算されます。
- 最大出荷日に指定される時刻が、計算された出荷日の時刻より早い場合、最大出荷日に 1 日加算されて、指定される時刻でリセットされます。例えば、最大出荷日が 7 月 21 日の午前 11 時と計算され、最大出荷日時に午前 10 時が設定される場合、リアルタイム在庫状況モニターは、最大出荷日を 7 月 22 日の午前 10 時と再計算します。

最大出荷日時を相殺する日数 - 最大出荷日を相殺する日数を指定できます。リアルタイム在庫状況モニターは、最大出荷日時を含む最大出荷日を計算してから、相殺日数で指定される日数を最大出荷日に加算します。例えば、リアルタイム在庫状況モニターが、最大出荷日を 7 月 19 日の午前 11 時と計算し、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定される場合、最大出荷日は 7 月 20 日の午前 11 時と再計算されます。

有効期限日の計算

リアルタイム在庫状況モニターは、有効期限日を、最大出荷日からノードの最小通知時間を減算することで計算してから、ノードの通知スケジュール上の先行する通知時間に調整します。有効期限日は、供給がノードで提供される間のみ有効です。

例えば、在庫数量の最大出荷日が 7 月 19 日の午後 4 時で、出荷ノードの通知スケジュールが以下のような場合、有効期限日は 7 月 18 日の午後 3 時と計算されます。

- 24 時間の最小通知時間
- 午後 3 時と午後 5 時の通知時刻

この例で有効期限日は、最初に 24 時間の最小通知時間を 7 月 19 日の午後 4 時の最大出荷日から減算し、次に午後 3 時の通知時刻に調整します。オーダーが 7 月 18 日の午後 3 時より前に起票されない場合、7 月 19 日の午後 4 時まででアイテムを出荷する前に少なくとも 24 時間前の通知がノードには必要なため、7 月 19 日の最大出荷日はもはや使用できません。また、該当のオーダーが 7 月 19 日の午後 3 時に起票される前に、別のオーダーによりノードの在庫数量が減少する場合、最大出荷日の条件に合わないため、有効期限日は無効になります。

さらに、有効期限日を計算する場合、調整日数は考慮されません。このため、先の例の最大出荷日が、最大出荷日時を相殺する日数に 1 を指定して 7 月 20 日の午後 4 時に更新される場合、有効期限日は 7 月 19 日の午後 3 時と更新されます。

例 1: 在庫数量の最大出荷日の計算

ノード 1 の供給ピクチャーは以下のとおりです。

- 24 時間の最小通知時間
- 通知時刻は毎日午後 3 時および午後 5 時
- 作業日は週 7 日、1 日 24 時間

ノード 2 の供給ピクチャーは以下のとおりです。

- 48 時間の最小通知時間
- 通知時刻は毎日午後 2 時および午後 5 時
- 作業日は週 7 日、1 日 24 時間

以下の表は、次の条件が真の場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。

- 現在日付は 7 月 19 日
- 到着予定時刻 (ETA) は数量がノードで使用可能になると推定される日時と同一
- 最大出荷日時に午後 4 時を設定
- 最大出荷日時を相殺する日数に 0 を設定

表 330. 例: 在庫数量の最大出荷日の在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 20 日、午後 4 時	7 月 19 日、午後 3 時
7/22/2010	10	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 3 時
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 21 日、午後 4 時	7 月 19 日、午後 2 時
7/22/2010	20	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 20 日、午後 2 時

この例で、7 月 19 日は、ノード 1 の 80 アイテムおよびノード 2 の 100 アイテムの数量の ETA です。表で、ノード 1 の使用可能な 80 アイテムの最大出荷日は 7 月 20 日の午後 4 時、ノード 2 の使用可能な 100 アイテムの最大出荷日は 7

月 21 日の午後 4 時と示されます。ノード 1 の場合、最大出荷日は、7 月 19 日午後 3 時の通知時刻に 24 時間の最小通知時間を加算し、さらに午後 4 時の最大出荷日時に調整することで計算します。有効期限日は、24 時間の最小通知時間を最大出荷日から減算してから、午後 3 時の通知時刻に調整することで計算します。ノード 2 の場合、最大出荷日および有効期限日は、ノード 2 の最小通知時間が 48 時間で通知時刻が午後 2 時であることを除いて同様に計算されます。

さらに、例では、ノード 1 の 10 アイテムおよびノード 2 の 20 アイテムの数量の ETA として 7 月 22 日を表示しています。ノード 1 の 10 アイテムの最大出荷日は 7 月 22 日の午後 4 時、ノード 2 の 20 アイテムの最大出荷日は 7 月 22 日の午後 4 時です。現在日付と ETA の間の差が、ノードの最小通知時間よりも大きい場合、ETA 日付は最大出荷日に使用されます。この例で、現在日付 (7 月 19 日) および ETA 日付 (7 月 22 日) の間の差は、両方のノードで最小通知時間よりも大きくなっています。したがって、最大出荷日には、ETA 日付の最大出荷日時 (ノード 1 およびノード 2 とともに 7 月 22 日の午後 4 時) が設定されます。

例 2: 作業日でないノードでの最大出荷日の計算

以下の表は、例 1 の供給ピクチャーおよび条件が適用される場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。ただし、このシナリオでは、7 月 19 日および 7 月 20 日は作業日ではありません。

表 331. 例: 作業日ではないノードの在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 3 時
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 23 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 2 時

この例で、ノード 1 には 7 月 19 日時点で 80 の在庫数量があり、最小通知時間は 24 時間です。7 月 19 日および 20 日はノード 1 の作業日ではないため、80 アイテムは 7 月 21 日までは使用可能と見なされません。この場合、最大出荷日は 24 時間の最小通知時間を 7 月 21 日に加算し、午後 4 時の最大出荷日時に調整します。ノード 2 の場合、最大出荷日は、最小通知時間が 48 時間であることを除いて同様に計算されます。

例 3: 最大出荷日の相殺

以下の表は、例 2 の供給ピクチャーおよび条件が適用される場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。ただし、このシナリオでは、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定されます。

表 332. 例: 最大出荷日を相殺する場合の在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 23 日、午後 4 時	7 月 22 日、午後 3 時

表 332. 例: 最大出荷日を相殺する場合の在庫状況マトリックス (続き)

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 24 日、午後 4 時	7 月 22 日、午後 2 時

この例で、ノード 1 およびノード 2 の最大出荷日は、例 2 と同様に計算されます。ただし、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定されるため、最大出荷日に 1 加算されます。この例で、ノード 1 の有効期限日には 7 月 22 日の午後 3 時が設定され、ノード 2 の有効期限日には 7 月 22 日の午後 2 時が設定されます。相殺日数は有効期限日を計算する際に考慮されないためです。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 333. リアルタイム在庫状況モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	REALTIME_ATP_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	FindInventory

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 334. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	MonitorOption に 3 が渡される場合に使用される在庫組織コード。在庫組織はエンタープライズであることが必要です。 このコードが渡されない場合、モニターはすべての在庫組織に対して実行されます。

表 334. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
MonitorOption	<p>1 - アクティビティー・ベース (YFS_INVENTORY_ACTIVITY テーブルの別個の在庫アイテムをベースにモニター)。</p> <p>2 - クイック同期 (YFS_INVENTORY_ALERTS テーブルから情報を公開するためにイベントを再発生)。</p> <p>3 - 完全同期 (指定された在庫組織で管理される全在庫をベースにモニター。在庫組織コードが入力されない場合、全在庫アイテムがモニター対象。)</p> <p>指定されない場合、デフォルト値は 1 です。</p>
アイテムのステータス (ItemStatuses)	<p>処理されるアイテムの有効なステータスのリスト。ステータスは、で区切られる必要があります (例: 3000,2000)。これは、MonitorOption が 2 または 3 として渡される場合のみに使用されます。指定されれば、ステータスに一致するアイテムのみモニターされます。</p>
警告開始タイム・スタンプ (FromAlertTimestamp)	<p>これは、MonitorOption が 2 として渡される場合のみ使用されます。指定される場合、エージェントは REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントを発生させ、エージェントが開始された時刻と FromAlertTimestamp の間に公開された在庫状況情報を再公開します。</p> <p>指定されない場合、全在庫状況情報が公開されてから、エージェントが開始された時刻が再公開されます。</p>
条件のオーバーライドを許可 (AllowedOverriddenCriteria)	<p>Y が設定される場合、エージェント条件パラメーターのオーバーライド値は、エージェントをトリガーする際に以下の形式でコマンド・ラインから指定できます。</p> <p><AgentCriteriaAttribute> <OverriddenValue></p> <p>これらの属性を渡す場合の詳細については、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation インストール・ガイド」を参照してください。</p>
開始経過時間 (FromLastNumberOfHours)	<p>これは、MonitorOption が 2 として渡されて FromAlertTimestamp パラメーターを計算する場合のみに使用されます (必要な場合)。</p> <p>FromAlertTimestamp パラメーターは、指定されない場合、現在のタイム・スタンプから FromLastNumberOfHours を減じた時刻として計算されます。</p>

表 334. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
すべての在庫変更についてイベントを発生 (RaiseEventsOnAllAvailability Changes)	「Y」が設定される場合、すべての在庫状況の変更について REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントが発生します。発生条件については、在庫状況が、指定されるしきい値を上回ったのか下回ったのかを問いません。これは、MonitorOption が 1 として渡される場合のみに使用されます。有効値は「Y」か「N」で、デフォルト値は「N」です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 335. リアルタイム在庫状況モニター・トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE	なし (None)	YFS_REALTIME_ATP_MONITOR、 REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE.html	あり
* これらのファイルは、以下のディレクトリーにあります。 <INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML			

「リアルタイム」と説明されていますが、処理するメッセージのバックログがエージェントにある場合、在庫の変更が発生する際にも在庫状況の変更は即時にはトリガーされない可能性があります。さらに、このモニターは、時間トリガー・トランザクションとして存在するため、在庫アイテムの在庫状況のモニターを、構成される実行時プロパティーをベースにモニターがトリガーされる場合のみ行います。

出荷モニター

この時間トリガー・トランザクションは、YFS_MONITOR_RULE テーブル内のルールに基づき、出荷の状態をレポートします。このトランザクションを使用して、以下の状態をモニターできます。

- 出荷のステータスが指定される合計時間を超えている場合。
- 出荷に関連付けられて、指定される日付が以下の場合。
 - 指定される別の日付の n 時間前
 - 指定される別の日付の n 時間後
 - 指定される別の日付の n 時間前ではない
 - 指定される別の日付の n 時間後ではない
- 出荷が、指定される時間数に対して保留タイプである場合。
- 出荷が、指定される日付の n 時間前の保留タイプである場合。

モニター・ルールは、出荷品の出荷元ポイントおよび宛先ポイントについて構成できます。

モニター・ルールは、出荷の中間ピックアップ・ポイントおよびドロップオフ・ポイントについては構成できません。出荷は、複数のピックアップ・ポイントまたはドロップオフ・ポイントがある場合のみ、中間のピックアップまたはドロップオフを設けることができます。例えば、出荷には出荷品を運ぶ複数の集合・混載があります。集合・混載の最初の荷降ろし、2 番目の荷降ろし、さらにその次の荷降ろしと、出荷ステータスをモニターすることはできません。最後の集合・混載で出荷品が宛先に荷降ろしされると、その時点で出荷ステータスにマークが付けられてモニターすることができます。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

マイルストーン、日付タイプ、およびモニター・ルールについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide*」、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide*」、および「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide*」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 336. 出荷モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENT_MONITOR
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし

表 336. 出荷モニターの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 337. 出荷モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷モニターの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 338. 出荷モニターの統計

統計の名前	説明
モニターされる出荷数 (NumShipmentsMonitored)	モニターされる出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、NEXT_ALERT_TS の値が現在日付以下 (<=) のオープン状態の出荷の数になります。

発生するイベント

これは、出荷ステータスに対して構成されたアクションを起動します。

キー・データ - 該当せず

公開済みデータ - SHIPMENT_MONITOR.xml

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT_MONITOR_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されて、出荷の詳細および評価モニター・ルールの詳細が取得されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT_MONITOR_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT_MONITOR_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが存在しない場合、デフォルトのモニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Shipment エlement、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT_MONITOR.xml ファイルが使用されます。

デフォルトのモニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Shipment-> MonitorRule Elementは無視されて、条件に渡されません。

作業オーダー・モニター

この時間トリガー・トランザクションは、作業オーダーが一定の長さの時間にわたり特定状態または保留タイプのままである場合、エンタープライズに警告します。

このモニターを使用して、作業オーダーがどれくらいの間、特定状態または保留タイプのままであるかを追跡します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 339. 作業オーダー・モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_MONITOR
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS プロセス
抽象化トランザクション	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 340. 作業オーダー・モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値)に設定されます。

表 340. 作業オーダー・モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。作業オーダー・モニターの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ノード	オプション。作業オーダー・モニターの実行が必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 341. 作業オーダー・モニターの統計

統計の名前	説明
モニターされる作業オーダー数 (NumWorkOrdersMonitored)	モニターされる作業オーダーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、NEXT_ALERT_TS が現在の日付の値以下 (<=) の条件でモニターされる作業オーダーの数になります。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。アクションに対して公開されるデータは、workOrder_dbd.txt です。

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/monitor/WORK_ORDER_MONITOR_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されて、作業オーダーの詳細および評価モニター・ルールの詳細が取得されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/WORK_ORDER_MONITOR_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/
WORK_ORDER_MONITOR_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが存在しない場合、デ
フォルトのモニター・テンプレートの MonitorConsolidation->WorkOrder エlemen
ト、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/
WORK_ORDER_MONITOR.xml ファイルが使用されます。

デフォルトのモニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->
WorkOrder-> MonitorRule エレメントは無視されて、条件に渡されません。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation

J46A/G4

555 Bailey Avenue

San Jose, CA 95141-1003

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、**IBM** 所定のプログラム契約の契約条項、**IBM** プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、**IBM** より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。**IBM** は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。**IBM** 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている **IBM** の価格は **IBM** が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© IBM 2011. このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムの派生物です。© Copyright IBM Corp. 2011.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

IT Infrastructure Library は、英国 Office of Government Commerce の一部である the Central Computer and Telecommunications Agency の登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ITIL は英国 Office of Government Commerce の登録商標および共同体登録商標であって、米国特許商標庁にて登録されています。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Cell Broadband Engine, Cell/B.E は、米国およびその他の国における Sony Computer Entertainment, Inc. の商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Linear Tape-Open, LTO, LTO ロゴ、Ultrium および Ultrium ロゴは、米国およびその他の国における HP、IBM Corp. および Quantum の商標です。

Connect Control Center[®]、Connect:Direct[®]、Connect:Enterprise[™]、Gentran[®]、Gentran[®]:Basic[®]、Gentran:Control[®]、Gentran:Director[®]、Gentran:Plus[®]、Gentran:Realtime[®]、Gentran:Server[®]、Gentran:Viewpoint[®]、Sterling Commerce[™]、Sterling Information Broker[®]、および Sterling Integrator[®] は、Sterling Commerce[™]、Inc.、IBM Company の商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アイテムの在庫状況 25
「アイテム・グループ」フィールド 80
「アイテム・ベースの割り当てを使用する」フィールド 43
アウトバウンド処理 27
アクション 98
付加価値サービス
表示 109
アクション・ベースの ATP モニター・ルール
作成 35
「アクティビティの再シーケンス」ルール 98
「アクティビティの削除」ルール 98
「アクティビティの追加」ルール 97
アクティビティ・コード
輸送
削除 89
作成 87
変更 88
アプリケーション・ルールのサイド・パネ
ル 7
移動元組織フィールド 64
インデックス
カタログ検索 163
インバウンド処理 27
エンタープライズ 2
エンタープライズ管理者 1

[カ行]

「開始日の変更」ルール 97
価格設定組織 8, 10
カタログ
インデックス作成 163
「カレンダー」フィールド 81
「カレンダーの選択」フィールド 81
「管理者 ID」フィールド 81
企業棚卸要請のキャンセル理由コード
既存からの新規作成 122
削除 123
作成 121
定義 121

企業棚卸要請のキャンセル理由コード (続
き)
変更 123
期限切れ順先出し (First Expiration First
Out)。FEFO を参照。 27
「期日経過供給日数」フィールド 28
「期日経過需要日数」フィールド 28
キャパシティー
複数スロットにわたるリソース 71
リソース予約 71
「キャパシティー組織」フィールド 79,
80
「キャパシティーの情報がある」フィール
ド 79, 81
「キャパシティーの単位」フィールド
79, 80
キャパシティー・ルール
定義 71
デフォルトのキャパシティー予約有効
期限
サービス・スロットにわたるキャパ
シティーの許可 71
定義 71
「キャンセル理由」フィールド 91
供給タイプ 52
削除 54
作成 52
変更 54
「供給タイプ」フィールド 53
金額フィールド 61
継承
決定 8
構成画面
アクセス 8
「後方消費 (日数)」フィールド 29
「コスト算定が必要」フィールド 53
コスト要因値フィールド 61
コスト要因グループ
関連付け、コスト要因 60
定義 59
コスト要因単位フィールド 61
コスト要因の説明フィールド 61
コスト要因名フィールド 61
「コミットされていない」フィールド 55
「コンポーネントを持つ作業オーダー作成
済み (Work Order With Components
Created)」ステータス 106

[サ行]

サード・パーティー物流管理会社 1
サード・パーティー物流管理モデル 2
サービス 98
サービス定義
付加価値サービス
表示 110
「サービス明細の変更」ルール 97
サービス・スキル
削除 83
追加 83
サービス・スロット 73
サービス・スロットにわたるキャパシテ
ー 71
「サービス・スロット・グループ」フィー
ルド 79, 80
サービス・ノード 78
サービス・リソース
削除 86
作成 84
チーム・メンバー 85
定義 84
変更 84
在庫供給タイプ 52
在庫需要タイプ 54
在庫状況 31, 71
在庫状況のセーフティー要因 56
変更 57
在庫タイプ
設定 51
「在庫調整中にアイテムを検証する」フラ
グ 48
在庫テーブル
同期化 131
在庫の検討事項
設定 51
定義 51
在庫の取り扱い 25
在庫の理由 26, 41
削除 42
作成 41
変更 42
在庫ピクチャー
ロード 127
在庫ルール 3
設定 25
最短 ETA での提供を最適化 48
「作業オーダー確認済み (Work Order
Confirmed)」ステータス 107

「作業オーダー作成済み」ステータス 106
「作業オーダーの確認」トランザクション 105
「作業オーダーのキャンセル」トランザクション 97, 105
作業オーダーのキャンセル理由コード
既存からの新規作成 91
削除 92
作成 89
定義 89
変更 91
「作業オーダーの作成」トランザクション 105
「作業オーダーのページ」トランザクション 105
「作業オーダーのリリース」トランザクション 105
「作業オーダーの割り当て」トランザクション 105
「作業オーダー割り当て済み (Work Order Allocated)」ステータス 106
作業オーダー割り当ての考慮事項
削除 95
作成 93
変更 94
「作業オーダー・キャンセル済み (Work Order Canceled)」ステータス 107
作成
カタログ・インデックス 163
「参照保持」フィールド 53
「指示の追加」ルール 97
「指示の変更」ルール 97
システム統合 95
「事前通知時間 (日数)」フィールド 30
「終了日の変更」ルール 97
重量フィールド 61
「出荷期限が設定されていない場合は、FEFO (期限切れ順先出し) 方式を採用」フィールド 49
「出荷先の変更」ルール 97
出荷ノードの判別 3
「需要詳細の作成」フィールド 49
需要タイプ
削除 56
作成 54
変更 56
「需要タイプ」フィールド 55
「需要は外部システムに伝達される」フラグ 55
条件 98
作成 107
付加価値サービス
表示 107
「使用不可」フィールド 33, 36
「処理時間 (日単位)」フィールド 29

「数量」フィールド 61
「ステーション割り当ての変更」ルール 98
ステータス 98
作成 105
付加価値サービス
表示 105
スロット・グループ 73
削除 77
作成 74
変更 76
「スロット・グループ ID」フィールド 75
製品クラス 26, 40
削除 41
作成 40
変更 40
「製品明細の変更」ルール 97
「説明」フィールド 100
セラー 2
ソース出荷ノード・フィールド 64
組織のルール 10
オーバーライド 11
別の組織のルールをロード 13
組織レベル 8
ルール 10

【夕行】

棚卸
定義 115
棚卸プログラム
削除 119
作成 115
変更 119
棚卸要請のキャンセル理由コード 122
他の関係の変更 97
他の属性の変更 97
チーム・メンバー 85
地域 72, 119
追加、リソースへの 83
リソース・プールからの削除 84
地域スキーマ
リソース・プールに対する定義 72, 119
「提供サービス」フィールド 79
デフォルトのキャパシティ予約有効期限
定義 71
「手持ちの供給」フィールド 53
同期化処理
実行 133
トランザクション 98
作成 104
付加価値サービス
表示 104

【ナ行】

ノード
在庫ピクチャー
ロード 127
「ノード」フィールド 80
ノード在庫
同期化 127
ノード同期
一時テーブル
ページ 133
同期化処理
実行 133
「ノードのカレンダーを使用」フィールド 81
「ノードのカレンダーを使用」フラグ 85

【ハ行】

ページ条件
企業棚卸要請 124
付加価値サービス
設定 111
「ページ・コード」フィールド 113, 125
パーセンテージ・フィールド 61
「配達サービス」フィールド 79
パイプライン 95, 98
作成 102
付加価値サービス
表示 101
バイヤー 2
ハブ管理者 1
ビジネス・アナリスト 1
ビジネス・モデル 1
「フォワードの消費 (日数)」フィールド 29
付加価値サービス
設定 87
定義 87
変更ルール 96
複数事業部制コーポレーション 1, 2
「プロセス・タイプ」フィールド 100
プロセス・タイプの詳細
付加価値サービス
表示 99
「プロセス・タイプ名」フィールド 100
分配グループ
外部組織の削除 65
外部組織の変更 65
拡張分配の詳細の削除 67
削除 67
作成 63
追加、外部組織 64
追加、ノード 64
ノードの削除 65
ノードの変更 65

変更ルール 95
 定義 96
 付加価値サービス
 設定 95
 「保持日数」フィールド 113, 125
 「保留タイプの変更」ルール 98

[マ行]

マーケットプレイス 1, 2
 「メモの追加」ルール 97
 モニター・ルール 26, 31
 イベント・ベース 32
 作成 32

[ヤ行]

「約束」フィールド 55
 「優先順位」フィールド 64
 「優先順位を上げる」ルール 98
 「優先度の減少」ルール 98

輸送

アクティビティ・コード 87, 88, 89
 「要請した日を過ぎてオーダーを出荷/配達できる最大日数」フィールド 29
 容積フィールド 61
 「予定の変更」ルール 97
 「予定ユーザーの変更」ルール 97
 「予約 ID に基づいて在庫予約全体で有効期限を同期」フィールド 49

[ラ行]

「リード・タイム・オーバーライド (日数)」フィールド 33, 36
 リソースのキャパシティー 71
 スロット間 71
 予約 71
 リソース・プール 78
 サービス・スキル
 削除 83
 追加 83
 サービス・リソース
 削除 86
 作成 84
 変更 84
 削除 86
 作成 78
 地域の削除 84
 追加、地域 83
 変更 78
 「リソース・プール ID」フィールド 79, 80
 「リソース・プールの説明」フィールド 79, 80

理由コード 89, 121
 「リリース済み」フィールド 55
 「累積時間 (日数)」フィールド 30
 「ロールバック・セグメント」フィールド 113, 125
 「ログ・ファイルに書き込む」フィールド 113, 125
 「ログ・ファイル名」フィールド 113, 126
 納期回答ルール。「ATP ルール」を参照。 27

A

Applications Manager

アクション 18
 コンテキスト・ヘルプ 23
 伝票種別 19
 特殊文字 23
 トラブルシューティング 23
 日時の入力 22
 ユーザー 21
 リスト 21
 ルックアップ 機能 19
 開始 5
 作業領域 14
 レイアウト 5
 ATP モニター・ルール
 削除 34, 37
 変更 34, 37
 「ATP モニター・ルール」フィールド 33, 36
 「ATP モニター・ルール名」フィールド 33, 36
 ATP ルール 26, 27
 削除 31
 作成 27
 定義 27
 デフォルトの ATP ルール 31
 デフォルトのリード・タイム 31
 変更 30
 「ATP ルール」フィールド 28
 「ATP ルール名」フィールド 28

C

CollectInventoryMismatch サービス
 設定 131

F

FEFO (期限切れ順先出し) 27

H

HasComponents 条件 108

L

LoadInventoryMismatch サービス 128, 129
 設定 129

S

SyncLoadedInventory サービス 131



Printed in Japan